

仙台市文化財調査報告書第245集

鍛冶屋敷 A 遺跡 鍛冶屋敷前遺跡

— 市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書 —

2000年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第245集

鍛冶屋敷 A 遺跡 鍛冶屋敷前遺跡

— 市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書 —

2000年3月

仙台市教育委員会

序

日頃より仙台市の文化財保護行政に対しまして、ご理解とご協力を賜り、仙台市教育委員会といたしまして、誠に感謝にたえません。

仙台市の南部に位置する富田・富沢地区は市内でも遺跡が数多く分布する地域です。北に隣接する長町・富沢地区においては土地区画整理事業によって都市としての基盤整備が進められ、地域環境が大きく変わりつつあるところではあります。こうした動きの中で開発に伴う発掘調査が頻繁に行われ、年毎に先人の生活文化の様相が解明されつつあることは喜ばしいところでもあります。現在まで継承されてきた先人たちの貴重な遺産を新しい「まちづくり」の中でどのように活用していくのか、地域の方々と共に考えてまいりたいと存じます。

さて、この度の鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷前遺跡の発掘調査では、縄文時代から奈良・平安時代の人々の生活の一端が明らかにされ、この地域の歴史を解明するための一助となる成果が得られております。本報告書はその成果をまとめたものであります。

文化財保護行政に対しまして、今後とも市民の皆様のご支援とご助言を賜りますようお願い申し上げます、刊行のご挨拶といたします。

平成12年3月

仙台市教育委員会
教育長 小松 弥生

本文目次

序文	
例言	
I. 調査に至る経過	1
II. 調査要項	1
III. 遺跡の位置と環境	2
(1) 遺跡の位置	2
(2) 地理的環境	2
(3) 歴史的環境	2
IV. 調査の方法と経過	6
(1) 確認調査	6
(2) 本調査	6
V. 鍛冶屋敷A遺跡	8
〔1〕基本層序	8
〔2〕検出遺構と出土遺物	8
(1) 古代以降の遺構と出土遺物	12
(2) 縄文時代の遺構と出土遺物	37
〔3〕まとめ	72
VI. 鍛冶屋敷前遺跡	73
〔1〕基本層序	73
〔2〕検出遺構と出土遺物	74
(1) 古代以降の遺構と出土遺物	74
(2) 縄文時代の遺構と出土遺物	108
〔3〕まとめ	135
写真図版	137

例言

1. 本書は仙台市市道「富田富沢線」建設に先立って行った鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷前遺跡の発掘調査報告書である。
3. 報告書作成にあたって次の方々の参加を得た。
青山涼子、伊藤幸子、小泉幸子、菅谷裕子
4. 本調査における出土遺物、図面、写真等の資料は仙台市教育委員会で一括保管しているので活用されたい。
5. 発掘調査、報告書作成にあたって次の方々のご指導、ご協力を賜った。
遠藤昭一、早川五兵衛

I. 調査に至る経過

平成8年1月24日付で、仙台市長より市道「富田富沢線」の拡幅工事に係る発掘届が提出された。予定地区は鍛冶屋敷A遺跡の中央部と南ノ東遺跡の北辺部を東西方向に横断している。仙台市教育委員会では事業主体者と協議し、遺構の密度を調査するための確認調査を平成8年度に実施することとしていた。確認調査実施に先立つ平成8年3月に鍛冶屋敷A遺跡の東側の水路以东の水田で道路予定地の耕作土が掬取られていた部分約600㎡に、土師器等の遺物の散布と、遺構と思われるプランが認められた。この中には竪穴住居跡と思われる方形のものや、焼土等も確認されたため、直ちに工事主体者にその旨を連絡し、工事の中止を指示した。周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の範囲外であったため、所在地の地名から「鍛冶屋敷前遺跡」として新規登録し、当初予定していた鍛冶屋敷A遺跡と南ノ東遺跡の確認調査の結果を待つて、約4,000㎡を調査対象面積として、発掘調査に取りかかることとした。

平成8年6月26日から7月8日まで実施した確認調査では、鍛冶屋敷A遺跡から南ノ東遺跡にかけて13区画の調査区を設定し、鍛冶屋敷A遺跡の東端から順に1区から13区とした。調査の結果、鍛冶屋敷A遺跡では昭和55年～59年にかけて行われた圃場整備の際に削平や攪乱を受けている部分があったものの、古代のものと思われる竪穴住居跡、土坑、溝跡等の遺構、水田耕作土と思われる土層が確認された。鍛冶屋敷A遺跡の西側から南ノ東遺跡にかけては削平や攪乱が東側より著しく、時期不明の溝跡1条のほかには遺構は確認されなかった。以上のことから鍛冶屋敷A遺跡の東側の約3,000㎡を本調査の対象範囲とし、鍛冶屋敷前遺跡と同時に発掘調査に着手することとした。平成9年5月2日付で提出された鍛冶屋敷前遺跡に係る発掘届けを受けて、平成9年7月1日より両遺跡の発掘調査を実施した。



第1図 調査地 位置図

II. 調査要項

遺跡名	鍛冶屋敷A遺跡（宮城県遺跡番号 01085、仙台市文化財登録番号C-152） 鍛冶屋敷前遺跡（宮城県遺跡番号 01511）
所在地	鍛冶屋敷A遺跡 仙台市太白区富田字京ノ北地内他 鍛冶屋敷前遺跡 仙台市太白区富沢字鍛冶屋敷前、熊ノ前他
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育委員会文化財課調査第2係 担当職員 確認調査 工藤哲司、竹田幸司 本調査 主浜光朗、平間亮輔、工藤信一郎
調査期間	確認調査 平成8年6月26日～同7月8日 本調査 平成9年7月1日～同10年2月6日

調査対象面積 鍛冶屋敷A遺跡 約3,100㎡（発掘面積：約1,550㎡）

鍛冶屋敷前遺跡 約4,000㎡（発掘面積：約2,700㎡）

調査参加者 （野外調査・室内整理） 阿部あき子、板橋 栄子、伊藤 幸子、遠藤 福子、加藤けい子、
神崎 是夢、菊地 恵子、菊地 紘二、小松千代子、小山つるよ、斎藤喜恵子、佐藤 洋子、
佐藤 優子、関谷 栄子、富永美輪子、渡辺 節子、渡辺 芳裕、
（野外調査） 阿部 敬子、阿部みはる、阿部八重子、石井千代子、内田 節子、小川 良子、
金沢沙知子、狩野 吉則、菊地 富子、熊谷きぬ子、熊沢 とも、小林 斎美、佐藤よし子、
佐野たみえ、島崎なつ子、庄子かつえ、菅原 弘、高橋たづよ、三浦たか子、三浦つよの、
森 ミヨノ、吉田 公治、那須 孝夫、
（室内整理） 嘱託 森 剛男、相沢美佐子、石川カツ子、井上里映子、及川のり子、小形 尚子
小林 由美、佐藤 悦子、高橋 弘子、千葉 朱美、橋本 孝、若生 洋子、渡辺まき子
申請者 仙台市長 藤井 黎
調査協力 遠藤 昭一（町内会長）、早川五兵衛、

Ⅲ. 遺跡の位置と環境

(1) 遺跡の位置

鍛冶屋敷A遺跡、鍛冶屋敷前遺跡は、JR東北本線長町駅より南西およそ3kmの地点、仙台市太白区富田字京の北、富沢字鍛冶屋敷前地内に所在する。遺跡の南方約0.5kmには名取川が、東方約4.5kmには名取川と広瀬川の合流点が望める所である。遺跡の範囲は鍛冶屋敷A遺跡が東西約300m、南北約150mで面積は約39,000㎡、鍛冶屋敷前遺跡が東西約250m、南北約350mで面積は約58,000㎡に及ぶものと推定される。

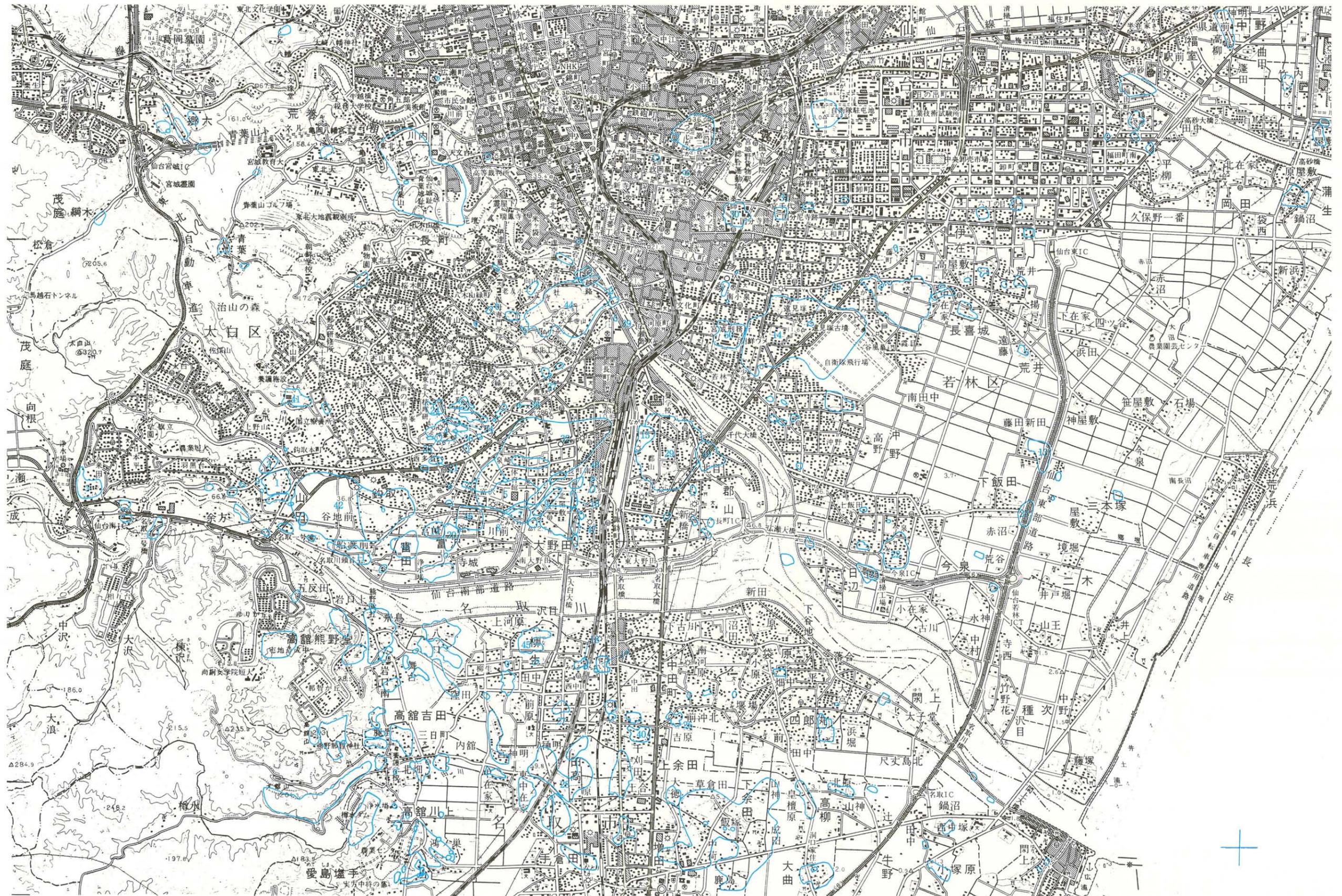
(2) 地理的環境

遺跡周辺の地形を概観すると、西側に南北に連なる奥羽山脈と、その東麓から派生する陸前丘陵、さらに東方に宮城野海岸平野が広がっている。仙台市南部付近では、陸前丘陵を広瀬川と名取川が東流しており、その河間段丘を青葉山丘陵（最高標高212m）、広瀬川以北を七北田丘陵（標高500m前後）、名取川以南を高館丘陵（標高200m前後）と呼称されている。広瀬、名取両河川は中流域に下刻作用により、4～5段の段丘地形を発達させている。それらは古期より青葉山段丘、台原段丘、上町段丘、中町段丘、下町段丘と呼称されている。また、両河川は丘陵を貫流した後、沖積作用により宮城野海岸平野を形成している。宮城野海岸平野は地理的条件や成因、地質などからいくつか地形区分されており、仙台市南部の広瀬川と名取川の合流点付近では河間低地を郡山低地、広瀬川以北を霞ノ目低地、名取川以南を名取低地と呼称している。

遺跡の所在する富田富沢地区は宮城野海岸平野の中でも郡山低地に所属する。郡山低地は、北東縁と南縁を広瀬川と名取川によって画され、北西縁は長町－利府構造線で画された扇状地性の沖積面である。標高はおよそ7～20mである。また、広瀬川と名取川両河川沿いに自然堤防が良好に発達している他、その中央部を南北に走る自然堤防も見られる。自然堤防の背後には後背湿地が広がっている。

富田富沢地区は郡山低地南西端部に位置し、北側に名取川の支流である笹川が曲流している。笹川は青葉山丘陵中の太白山付近に源を発する河川で、改修以前には流路を変じつつ頻繁に氾濫を繰り返していたことが知られている。遺跡の周辺は標高が15m～20mで、名取川と笹川によって旧河道、自然堤防、後背湿地が形成されており、現在は水田地帯となっている。

(3) 歴史的環境



第2図 周辺の遺跡

郡山低地南西端部及びその周辺には数多くの遺跡が分布しており、近年の開発の進展に伴い仙台市内でも発掘調査が比較的多く行われている地域である。これまでの調査で各時代の様相が次第に解明されてきている。

旧石器時代では、青葉山丘陵から南に張り出した小支丘端部に山田上ノ台遺跡、北前遺跡がある。中期及び後期旧石器時代の文化層が確認され各種の石器が出土している。また、沖積面に位置する富沢遺跡では後期旧石器時代の森林が検出され、樹木や石器の他に焼き火跡や、動物の糞などが検出されており、すでにこの時期には沖積地まで生活の場が広がっていたことが明らかになっている。

縄文時代では、丘陵地から沖積地まで広範囲な地域に遺跡の分布が見られる。前述の小支丘端部や低位の段丘上に、人來田遺跡、山田上ノ台遺跡、北前遺跡、三神峯遺跡、上野遺跡等の遺跡がある。早期から後期にかけての遺構や遺物が検出されている。低地には自然堤防上や自然堤防から後背湿地にかけて下ノ内浦遺跡、山口遺跡、下ノ内遺跡、六反田遺跡、大野田遺跡、伊古田遺跡、王ノ壇遺跡等がある。早期から晩期にかけての遺構や遺物が検出されている。特に下ノ内浦遺跡では早期末葉の竪穴住居跡や後期前葉の配石墓群が検出され、大野田遺跡でも後期前葉の配石墓群を伴う配石、集石、列石等の祭祀遺構群が検出されている。更に郡山低地東部の郡山遺跡、北目城跡では後期後葉から晩期にかけての遺構や遺物が検出されている。これらの自然堤防上の地域は居住域として後世に連続している。

弥生時代では、遺跡数は減少するが、丘陵部から低湿地まで、広範囲な遺跡の分布が見られる。丘陵上には土手内遺跡、段丘部には船渡前遺跡等があり、竪穴住居跡や遺物包含層が検出されている。低地の自然堤防上から後背湿地にかけては西台畑遺跡、下ノ内浦遺跡、富沢遺跡、山口遺跡等の遺跡があり、前2者からは甕棺墓や墓壙、竪穴遺構等が検出され、後2者からは水田跡が検出されている。これらに伴う集落跡は明らかではないが、後背湿地周辺の自然堤防上や段丘縁辺部に存在すると考えられている。

古墳時代では、更に遺跡の分布範囲が海岸近くの浜堤上にまで広がっている。高塚古墳をみると、丘陵頂部から麓にかけて三神峯古墳群、裏町古墳、一塚古墳、二塚古墳等があり、さらに原遺跡では11基の古墳が検出されている。低地の自然堤防上には筑川を挟んで北側には兜塚古墳、教塚古墳、金岡古墳等があり、南側には春日社古墳、王ノ壇古墳を含む大野田古墳群がある。その他に丘陵斜面には横穴墓群が多数みられ、埴輪窯跡や須恵器窯跡がある。集落跡は丘陵上の土手内遺跡の他、自然堤防上に六反田遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡等がある。富沢遺跡からは水田跡が検出されている。また、王ノ壇遺跡から山口遺跡にかけての地域では古墳時代後半から奈良時代にかけての畑耕作に関係すると考えられる小溝状遺構群が広範囲に検出されている。一方、名取川と広瀬川の合流点の

No.	遺跡名	立地	種別	年	代	No.	遺跡名	立地	種別	年	代
1	山田上ノ台遺跡	段丘	集落跡	旧石器(前・後)・縄文(早・中・後)・平安・近世	26	後河原遺跡	自然堤防・後背湿地	水田跡	弥生・奈良・平安・中世・近世		
2	北前遺跡	段丘	集落跡	旧石器(前・後)・縄文(早・中)・平安・近世	27	柴道跡	自然堤防	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安		
3	人來田遺跡	段丘	集落跡	縄文(中)・弥生	28	清水遺跡	自然堤防	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世		
4	三神峯遺跡	丘陵	集落跡	縄文(前・中)・平安	29	郡山遺跡	自然堤防	官衙跡・寺院跡	縄文(後・晩)・弥生(中)・古墳・奈良・平安		
5	山口遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・水田跡	縄文(早・晩)・弥生	30	陸奥国分寺跡	段丘	寺院跡	奈良・平安		
6	上野遺跡	段丘	集落跡	縄文(中)・奈良・平安	31	陸奥国分尼寺跡	段丘	寺院跡	奈良・平安		
7	下ノ内遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(中・晩)・弥生・古墳・奈良・平安・中世	32	富沢遺跡	自然堤防・後背湿地	包含地・水田跡	旧石器(後)・縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世		
8	下ノ内浦遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(早・前・後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世	33	三神峯古墳群	丘陵	円墳	古墳		
9	六反田遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(中・晩)・弥生・古墳・奈良・平安・中世	34	土手内横穴墓群	丘陵斜面	横穴墓群	古墳(末)		
10	金剛寺貝塚	段丘	貝塚	縄文(前・後・晩)	35	遠見塚古墳	自然堤防	前方後円墳	古墳(中)		
11	船渡前遺跡	段丘	包含地	縄文・弥生・奈良・平安	36	裏町古墳	丘陵麓	前方後円墳	古墳		
12	高田B遺跡	自然堤防・後背湿地	集落跡・包含地	縄文・弥生・古墳・平安・中世・近世	37	一塚古墳	丘陵麓	円墳	古墳(中)		
13	藤田新田遺跡	浜堤	集落跡	弥生・古墳・平安	38	二塚古墳	丘陵麓	前方後円墳	古墳		
14	南小泉遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	39	兜塚古墳	段丘	前方後円墳	古墳(中)		
15	西台畑遺跡	自然堤防	集落跡・包含地	縄文・弥生(中)・古墳・奈良・平安・中世	40	中田南遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	縄文(晩)・弥生(中)・古墳・奈良・平安・中世		
16	大野田遺跡	自然堤防	祭祀跡・集落跡	縄文(晩)・弥生(中)・古墳・奈良・平安	41	御堂平遺跡	谷底平野	集落跡	縄文・平安・中世		
17	安久東遺跡	自然堤防	集落跡	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	42	山田奈良遺跡	沖積平野	水田跡・屋敷跡	縄文・平安・近世・近代		
18	安久遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(晩)・弥生・奈良・平安・中世	43	南ノ東遺跡	沖積平野・自然堤防	散布地	弥生・平安		
19	鍛冶屋敷A遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(後・晩)・奈良・平安	44	茂ケ崎城跡	丘陵	城館跡	中世		
20	鍛冶屋敷前遺跡	自然堤防	集落跡	縄文(後・晩)・奈良・平安	45	柳生台畑遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	古墳・奈良・平安・中世		
21	原遺跡	段丘	円墳	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	46	富沢館跡	自然堤防	城館跡	中世		
22	今泉遺跡	自然堤防	集落跡・城館跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	47	王ノ壇遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	縄文(後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世		
23	土手内遺跡	丘陵	集落跡	縄文・弥生・古墳	48	元袋遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	弥生・奈良・平安・中世・近世		
24	芦ノ内遺跡	丘陵	集落跡	縄文(早)・弥生・古墳	49	北目城跡	自然堤防	城館跡・集落跡	縄文(後)・弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世		
25	下飯田遺跡	自然堤防	集落跡・屋敷跡	古墳・奈良・中世・平安	50	若林城跡	自然堤防	城館跡・集落跡	古墳・平安・中世・近世		

表1 周辺の遺跡地名表

西側には、多賀城以前の官衙跡である郡山遺跡とその付属寺院である郡山廃寺がある。

奈良・平安時代では、自然堤防上に山口遺跡、下ノ内浦遺跡、下ノ内遺跡、大野田遺跡、元袋遺跡等があり、山口遺跡では水田跡と集落跡が、その他の遺跡では集落跡が検出されている。富沢遺跡、山田条里遺跡では水田跡が検出されている。

中世から近世にかけては、丘陵上に茂ヶ崎城跡、熊野堂大館等があり、平野部でも鍛冶屋敷前遺跡の北側に隣接した富沢館跡や北目城跡等数多くの城館が建てられ、富沢遺跡や山口遺跡では水田跡が検出されている。中世では王ノ壇遺跡や柳生台畑遺跡、中田南遺跡で屋敷跡、大野田古墳群では道路跡、近世では元袋遺跡で御仮屋と考えられる屋敷跡、山田条里遺跡で屋敷跡の一部と考えられる堀跡が検出されている。

以上のように富田、富沢地区周辺地域には、旧石器時代から現代まで各時代に亘って連綿と人間生活の痕跡が見られ、仙台市南部の遺跡群を形成している。

IV. 調査の方法と経過

(1) 確認調査（第3図）

平成8年度に実施した鍛冶屋敷A遺跡から南ノ東遺跡にかけての確認調査は、道路建設予定地全域を対象範囲とし、鍛冶屋敷A遺跡に7区、鍛冶屋敷A遺跡と南ノ東遺跡の間に4区、南ノ東遺跡に2区の調査区を設定し、鍛冶屋敷A遺跡の東端から順に1区から13区とした。確認調査の結果、鍛冶屋敷A遺跡に設定した1区、2区では昭和55年～59年にかけて実施された圃場整備の際に大規模な削平や攪乱を受けており、遺構は残存しなかった。3区から5区にかけては古代のものと思われる竪穴住居跡ないし掘り方7基、土坑5基、溝跡2条、ピット等の遺構が確認され、土器、石器などが出土した。6区、7区では時期は不明であるものの水田作土と思われる土壌が灰白色火山灰を含む層の上部に確認された。7区の西側から南ノ東遺跡にかけては削平や攪乱が東側より著しく、時期不明の溝跡1条が確認されたのみで他に遺構は確認されず、若干量の遺物が出土したのみであった。これらのことを受けて、鍛冶屋敷A遺跡に設定した3区から5区にかけての範囲は全域に本調査区を設定し、6区、7区については水田作土の時期決定のために水田作土と思われる土壌が確認された6区及び7区の東半部に本調査区を設定することとし、1区、2区及び7区の西半部より西側は本調査の必要は無いものと判断された。

(2) 本調査

本調査は確認調査によって遺構の状況が把握されている鍛冶屋敷A遺跡から実施し、その後、鍛冶屋敷前遺跡の調査に着手することとした。鍛冶屋敷前遺跡の遺構の検出状況によって調査期間を検討し、次年度まで延長するかどうか判断する予定で開始したが、遺構の検出状況は希薄であり、遺物の出土量についても特に多量に出土することが予想されなかったことから鍛冶屋敷前遺跡についても平



第3図 調査区位置図・確認調査区配置図

成9年度中に調査を終了することとした。

野外調査は平成9年7月1日より開始し、平成10年2月6日に終了した。

鍛冶屋敷A遺跡（第3図、4図）

鍛冶屋敷A遺跡では、発掘調査以前に道路予定地を横断する水田作業のための乗り入れ用通路が6か所敷設されていたため、調査区はそれらの間に設定し、調査区の名称について確認調査時の調査区名を変更して、西側から順に1区から5区とした。調査にあたっては、予定道路のセンター杭のNo.34杭を原点として、No.24とNo.34を結ぶ線を東西の基準線とし、これに直交して南北の基準線を設定した。この基準線を基にして10m×10mのグリッドを設定した。調査は東側の5区から西側の1区へ向かって重機を用いて表土を除去し、その後人力によって遺構検出、精査を行った。遺構精査は西側の1区から東へ向かって進めた。1区、2区で現代の水田作土の下層に確認調査の際に認められた水田作土は検出されず、確認調査で確認された水田作土の時期は明らかにできなかった。3区から5区にかけての3層面で、古代の竪穴住居跡4軒、土坑21基、溝跡6条、河川跡等の遺構と土師器、須恵器、鉄製品、鉄滓等の遺物が出土した。4区及び5区の北壁際で排水と下層の観察を兼ねた側溝を掘り下げた際、下層から縄文土器が出土したため、他の調査区の壁際にも側溝を掘り下げたところ4区の東側から5区全域に縄文時代後期の土器が包含される土層が認められた。更に東側へ拡がるのが想定されたため当初は確認調査時に遺構、遺物共に検出されていないことから本調査区から除いていた確認調査時の2区を本調査の6区として設定し、包含層上面まで重機で上層の土層を除去し、トレンチを設定して調査し、遺物の包含状況によって全面の掘り下げを行うか判断することとしたが、遺物の密度が極めて低かったことから全面の調査は行わなかった。

古代の遺構面の調査が終了した部分から下層の調査に移行したが、4区の縄文後期の遺物包含層の上層で配石遺構と列石、石組み炉等の遺構が検出された。

縄文後期の遺物包含層の調査は4区及び5区の全域と6区に設定したトレンチで行った。遺物包含層上面まで重機で土層を除去した後、人力で精査した。遺物包含層の上面で竪穴住居跡2軒の他、倒木痕が検出された。遺物包含層の下層の上面では、竪穴遺構1基、土坑12基、ピット、倒木痕等が検出され、多数の縄文土器、石器等が出土した。

鍛冶屋敷前遺跡（第3図、58図）

鍛冶屋敷前遺跡の遺跡発見時には遺跡内の道路予定地内を横断する水路の東側の大部分の範囲で水田耕作土の掬取り工事が行われ、遺構面以下まで掘り下げられた部分も認められていた。工事の中断後、発掘調査開始までの間遺構面保護の処置がとられなかったため遺構面はかなり荒れた状態になっていた。発掘調査開始時には道路予定地を横断する水田作業のための乗り入れ用通路が2か所、埋設管が2か所敷設されていたため、調査区はそれらの間に6か所設定した。西から2番目の調査区は面積が狭かったため、3番目の調査区と合わせて1つの調査区とし、西側から順に1区から5区とした。調査にあたっては、鍛冶屋敷A遺跡と同様にセンター杭のNo.12とNo.21を結んだ線を東西の基準線とし、これに直交して南北の基準線とした。この基準線を基にNo.21杭から西へ60m延長して10m×10mのグリッドを設定した。調査は東側の5区から西側の1区に向かって重機を用いて表土を除去したが、4区から2区の東半部までは水田耕作土の掬取りの残りの部分のみであったため、人力で表土を除去した部分もある。その後、人力によって遺構確認、精査を行った。精査は東側の5区から西へ向かって進めた。3層面で古代の竪穴住居跡2軒、土坑35基、溝跡5条、河川跡等の遺構と土師器、須恵器等の遺物が出土した。5区の南、北壁際で排水と下層の観察を兼ねた側溝を掘り下げた際、下層から縄文土器が出土したため、他の調査区の南壁際の側溝を掘り下げたところ1区の西端と2区の東半から4区の東寄りまでの範囲で縄文土器が包含される土層が認められた。

古代の遺構面の調査が終了した部分から下層の調査に移行したが、側溝での遺物の出土量から5区は遺物包含層として土層の分布する範囲全域を掘り下げ、他の調査区では調査区の中央に2m幅、南壁際に2m幅のトレンチを

設定し、遺構の検出など必要に応じてトレンチを拡張して掘り下げることとした。その結果、石組炉2基、地床炉2基、土坑9基、倒木痕等が検出され、多数の縄文土器、石器等が出土した。

遺物包含層からの遺物の取り上げについては、鍛冶屋敷A遺跡4区、5区、鍛冶屋敷前遺跡5区の10m×10mのグリットを更に2m×2mの小グリットに分割し、北西を1として東へ5まで、2段目を6～10までとし、順に25まで番号を付して小グリット毎に取り上げた。

実測図は、調査区全体に設定したグリットを基準とした簡易遣り方を設け、調査区全体を1/40の平面図、1/20の土層断面図を作成し、各遺構は1/20の平面図、土層断面図、必要に応じて1/10の図面を作成した。記録写真は、35mm版及び6×7版の白黒及びカラーリバーサルを用い、調査の進行状況を随時35mmカラープリントで撮影した。

V. 鍛冶屋敷A遺跡

〔1〕基本層序（第5図）

調査区が細長い範囲にわたるため、土性、土色などに若干の違いは見られるがI～VI層まで大別6枚、細別16枚の層が確認された。

I層は、2層に細分される。暗褐色～灰黄褐色で、シルト質土壌である。現代の水田作土であると考えられる。

II層は、2層に細分される。黒褐色の粘土層である。調査区の西寄りでは顕著にみられるが、3区以東では島状に分布する部分がみられる程度である。

III層は、3層に細分される。にぶい黄褐色～灰黄褐色の砂質シルト層である。本層上面で検出された河川の削平により、4区以東でのみ分布が確認されており、西側にはみられない。本層の上面及び本層上面検出の河川跡上面が古代以降の遺構検出面であるが、下層のIIIb層上面でも古代の竪穴住居跡が検出されている。層中には古代以前の遺物が含まれている。また、6区では攪拌された状態で検出され、二次堆積の層であると考えられる。

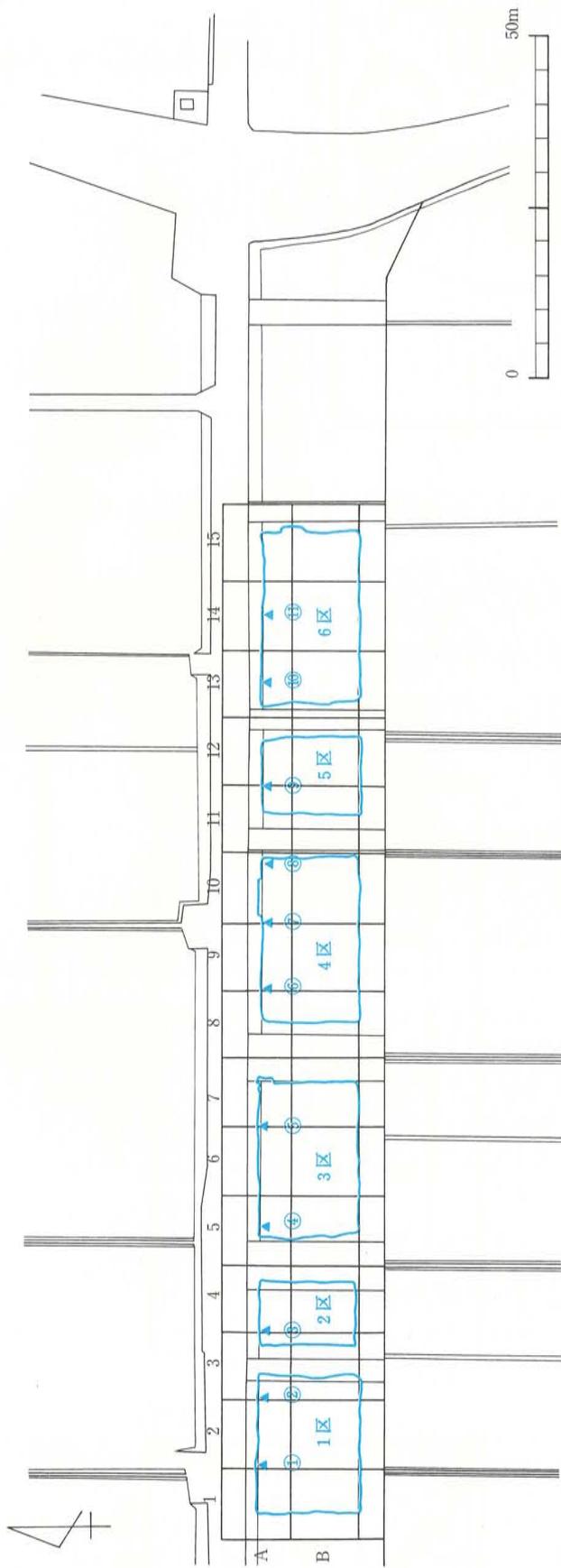
IV層は、4層に細分される。灰黄褐色～黒褐色で、砂質シルト～粘土層である。III層同様4区以東に分布している。IVa層は4区西半部のみにもみられ、上面で詳細な時期は不明であるが、縄文時代の後期以降の集石遺構、配石遺構等が検出されており、4区以東のIVb層の上面が縄文時代後期の遺構検出面である。4区～5区にかけて縄文時代後期の遺物包含層を形成している。また、6区では2層に細分されるが、攪拌された状態で検出され二次堆積の層であると考えられる。

V層は、にぶい黄褐色の粘土層である。IV層と同様の分布状況を示している。本層上面が縄文時代後期以前と考えられる遺構の検出面である。本層以下は無遺物層となっている。

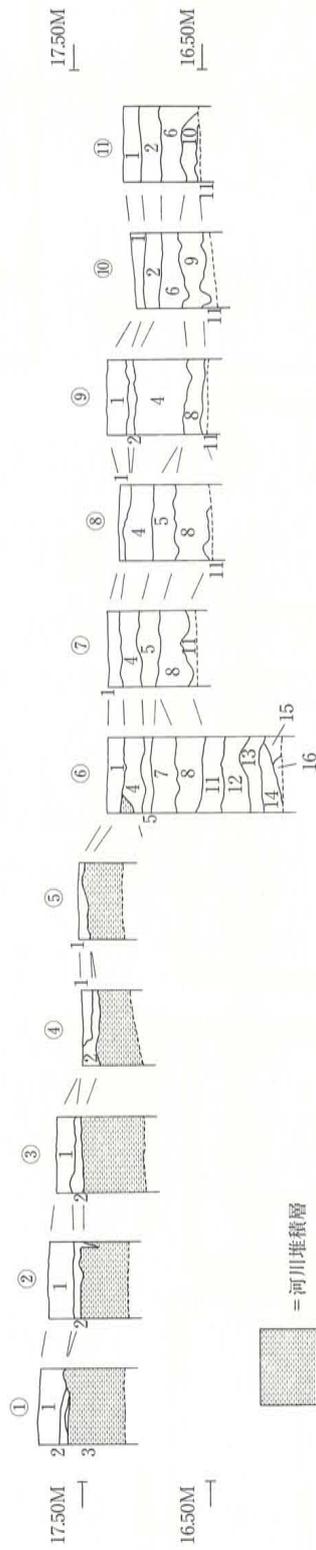
VI層は、4区の中央部の深掘区でのみ確認したもので、調査区全域での状況は不明である。このため、一括してVI層とした。層No.12～層No.15はにぶい黄褐色～オリーブ色で、粘土質シルト～シルト質粘土層、層No.16は褐色の粗砂層で、下部につれて砂粒が大きくなる。

〔2〕検出遺構と出土遺物

今回の調査では、古代以降の遺構がIII層上面で竪穴住居跡3軒、土坑21基、溝跡6条の他、性格不明遺構1基、河川跡、ピットが検出され、IIIb層上面で竪穴住居跡1軒が検出された。縄文時代の遺構として、IVa層上面で、集石遺構1基、配石遺構2基、石組み炉1基、更に下層のIVb層上面で竪穴住居跡2軒の他、倒木痕、V層上面で竪穴遺構1基、土坑9基、倒木痕、ピットが検出された。遺物は整理用平箱（テンバコ32）にして30箱程度の出土量である縄文土器、土師器、須恵器、土製品、石器、石製品、金属製品等がある。



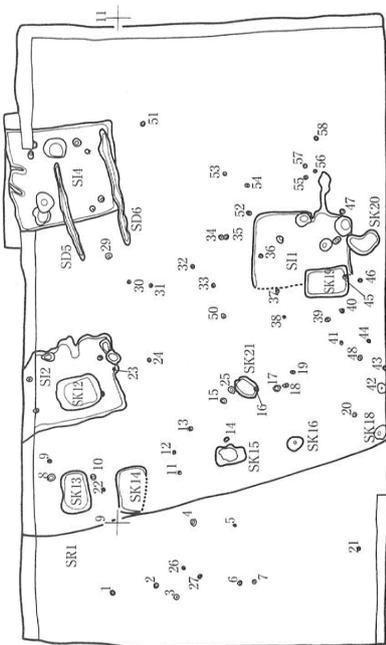
第4図 鍛冶屋敷A遺跡調査区配置図



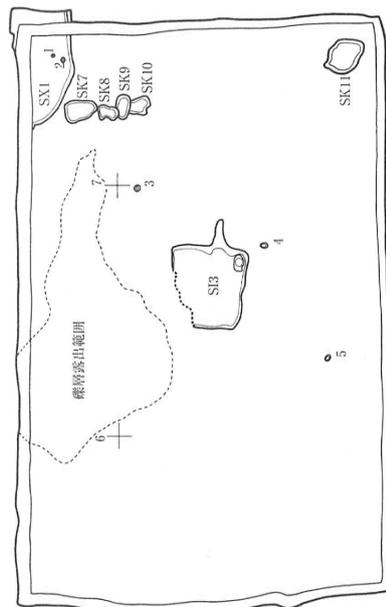
層位NO.	土色	土性	備考
V	11 10YR4/3	にぶい黄褐粘土	
	12 10YR4/4	褐土質シルト	層下部に2.5YR4/4シルト質粘土含む
	13 7.5YR4/3	褐土質シルト	上部に酸化鉄・マンガンの炭素質土、西層は5YR5.3に近づいていく
VI	14 7.5YR4/4	褐土質シルト	マンガン・酸化鉄含む
	15 5Y5/4	オリーブシカト質粘土	マンガン・酸化鉄・粗砂プロック含む
	16 10YR4/4	褐土質シルト	酸化鉄

層位NO.	土色	土性	備考
I	1 2.5Y4/2	暗灰黄シルト	酸化鉄・炭素質土・多量に含む
	2 2.5Y4/2	暗灰黄シルト	10YR2.2黒褐色土質シルトプロック多量に含む、酸化鉄・炭素質土多量に含む
II	3 10YR2/2	黒褐粘土	西層では色調が5Y3.2暗オリーブ色となる。酸化鉄・炭素質土多量に含む
IIIa	4 10YR4/4	褐土質シルト	10YR4/1黒褐色土質シルトプロック多量・木炭屑少量含む
IIIb	5 10YR4/3	にぶい黄褐土質シルト	粗土質を含む、10YR4.3砂質シルト質を含む、マンガンの炭素質土を含む
III'	6 10YR4/3	にぶい黄褐土質シルト	炭素質土・所々に焼土・10YR4.6シルト質砂プロック含む
IVa	7 10YR3/3	暗褐土質シルト	木炭屑少量
IV'	8 10YR3/2	黒褐粘土	10YR4.3砂質シルトプロック多量に含む、粗粒されている
IV''	9 10YR3/1	黒褐粘土	10YR4.3砂質シルトプロック多量に含む、粗粒されている
IV'''	10 10YR3/2	黒褐粘土	

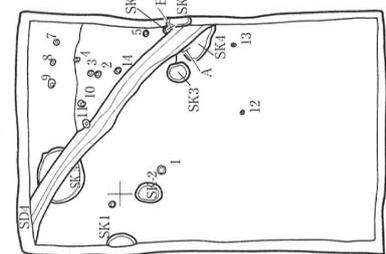
第5図 鍛冶屋敷A遺跡基本層模式図



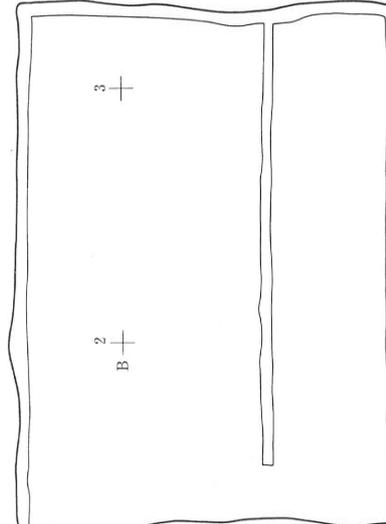
4区 IIIa・IIIb層



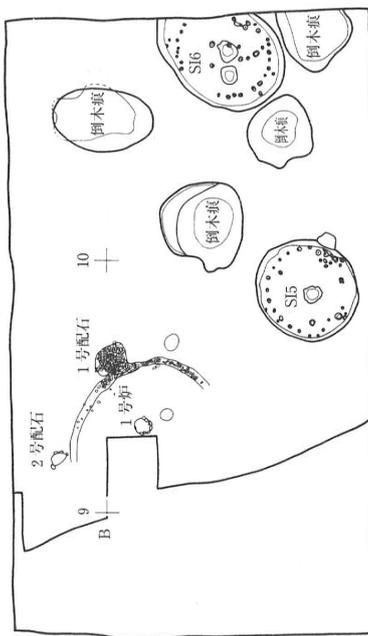
3区 III層 (SRI上面)



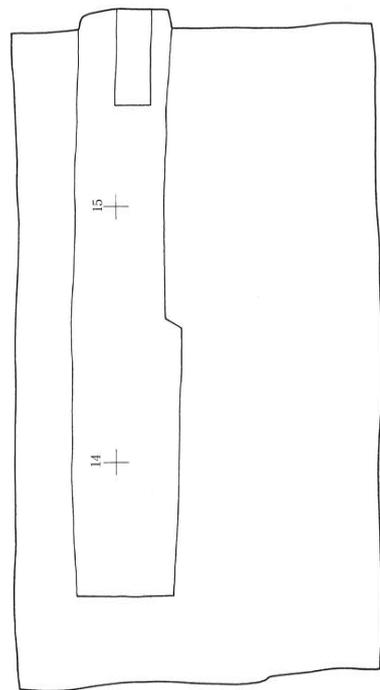
2区 III層 (SRI上面)



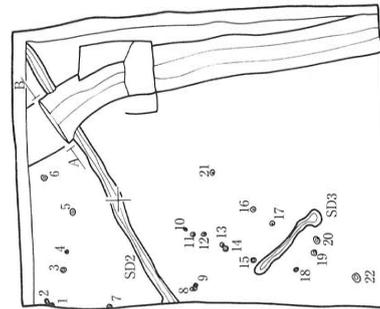
1区 III層 (SRI上面)



4区 IVa・IVb層

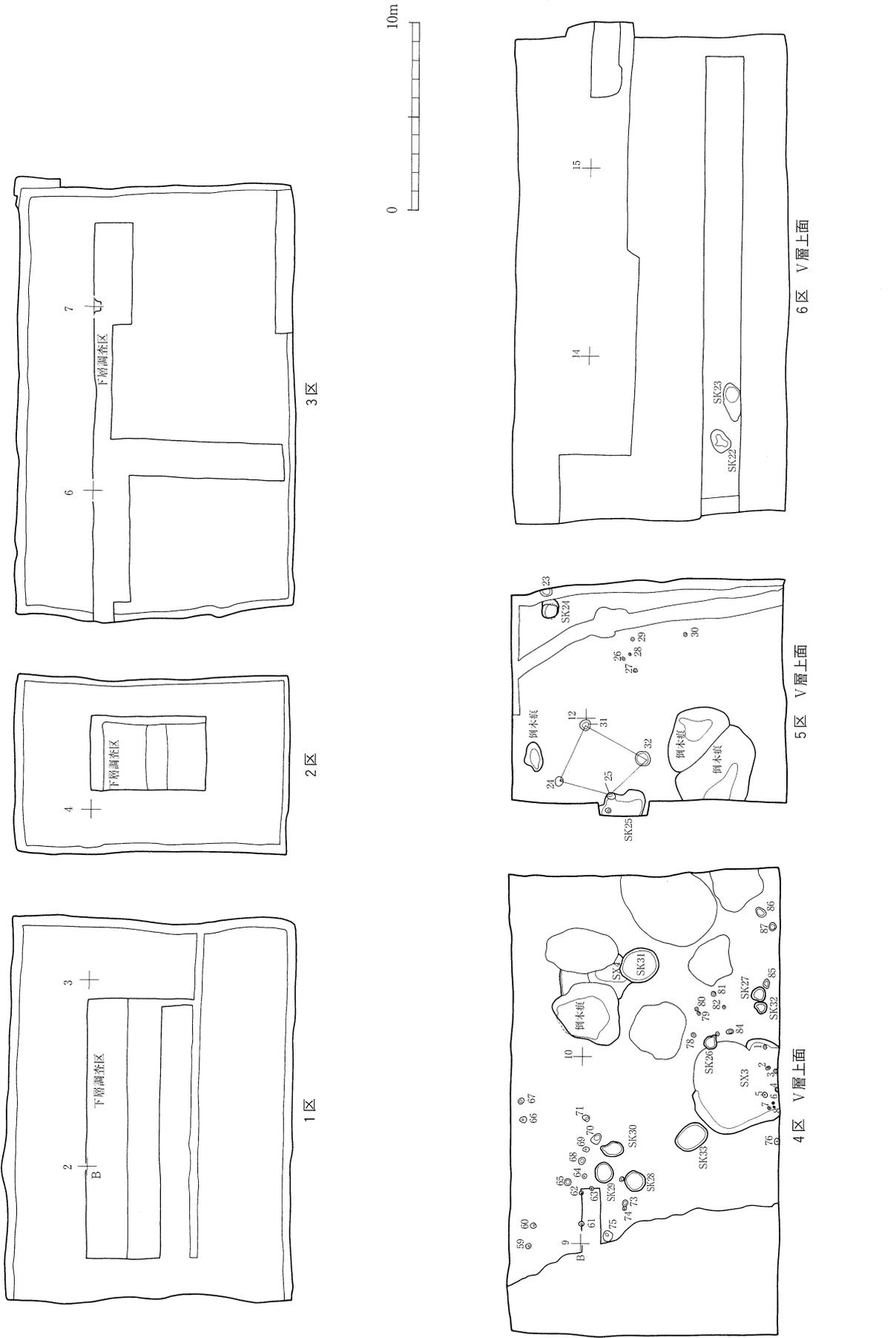


6区 III層



5区 III層

第6図 鍛冶屋敷A遺跡III・IIIb・IVa層遺構配置図



第7図 鍛冶屋敷A遺跡V層上面遺構配置・深掘区平面図

(1) 古代以降の遺構と出土遺物

竪穴住居跡

S1-1 竪穴住居跡 (第8図)

〔遺構の確認〕本住居跡は確認調査時に確認されていたものである。4区中央南東寄りのB-9・10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。確認調査時には、住居跡の全体が確認されていたが、本調査時には住居跡東半部の東壁及び南壁、北壁の一部が検出されたのみで西半部は削平のためか検出されなかった。本住居跡はSK-19、20、ピットと重複関係にあり、それぞれが本住居跡を切っていることから、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕平面形は南北4.0m、東西3.0m以上の方形を基調としたものであると考えられるが、南東隅がやや凹んでいる。東壁を基準とした方向はN-0°-E・Wである。

〔堆積土〕3層に大別される。全体的に炭化物、焼土が混入している。

〔壁面〕最も保存の良い南壁で9cmと残存状況は良くない。床面から急角度で立ち上がるが、緩やかに立ち上がる部分も見られる。

〔床面〕掘り方底面を直接床面としている。南壁際に床面下の土坑上面を床面としている部分がある。凸凹はなく平坦である。

〔柱穴〕床面で10個のピットが検出された。規模、配置から住居東側のP2・7が柱穴であると考えられるが西側の柱穴についてはピットが検出されず不明である。

〔カマド〕住居跡東壁南寄りに付設され、燃焼部、煙道部、煙出しピットが検出された。燃焼部は幅75cm、奥行き85cmでやや煙道に食い込んでおり、中央部が幅50cm、深さ20cmの凹みになっている。左側壁は崩れており、壁面は残存していないが、中央の凹み及び右側壁、奥壁は火熱により赤変している。煙道部は煙出しピットを含めた長さ155cm、幅15~25cm、深さは先端部分で4cmと残存状況は良くない。底面は先端部分に向かって徐々に高くなっている。煙出しピットは長さ50cm、幅40cmの楕円形で、確認面からの深さは24cmである。煙道途中にピットが掘られており煙出しピットから煙道部先端までは25cmある。その他に支脚等の施設は検出されなかった。

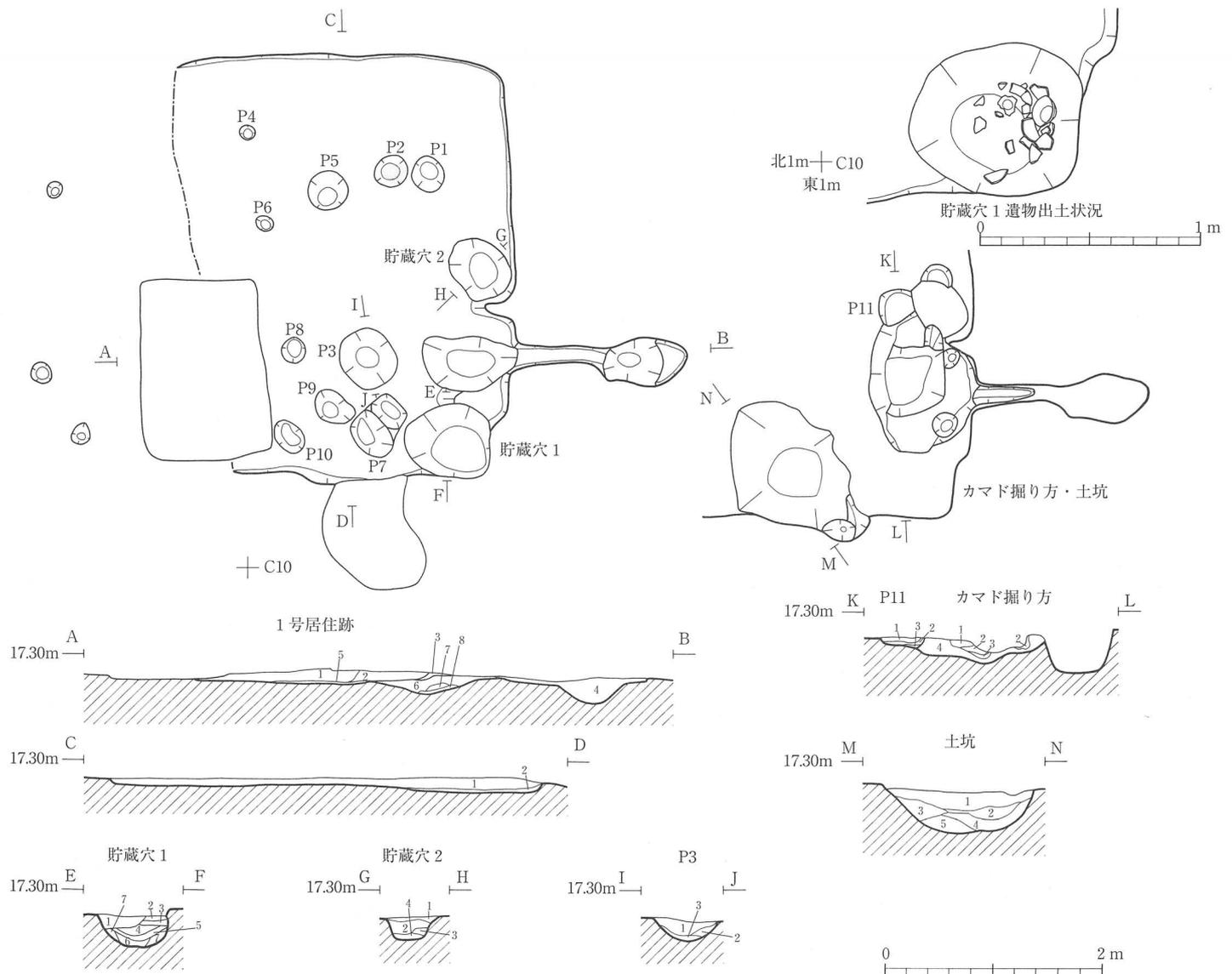
カマドの掘り方は、南側を貯蔵穴1、北側を貯蔵穴2とピット11によって切られており、正確な規模は不明であるが、幅130cm以上、奥行き95cmで、深さは10cm前後、中央手前に幅65cm、奥行き70cm、深さ13cmの方形に一段深く掘り凹められている部分がある。また、奥壁の左右に直径18cm~23cm、深さ10cm~15cmのピットが検出された。支脚を据えるための掘り方である可能性もある。煙道部にもカマド奥壁から55cmの位置まで、先端に向かって浅くなるが、幅14cm、深さ5cmの掘り方が認められた。

〔周溝〕検出されなかった。

〔貯蔵穴〕2個検出された。貯蔵穴1は住居跡南東隅のカマド南脇に、貯蔵穴2は東壁際中央部のカマド北脇にカマドを挟むように位置している。貯蔵穴1の平面形は長軸80cm、短軸68cmの楕円形である。床面からの深さは34cmで、内部から土師器坏、須恵器坏がまとまって出土した。貯蔵穴2の平面形は長軸63cm、短軸45cmの不整な楕円形である。床面からの深さは23cmである。

〔その他の施設〕その他の施設として、住居跡南壁際の床面上に土坑が検出された。平面形は長軸160cm、短軸110cmの不整な楕円形で、床面からの深さは42cmである。多量の焼土の粒や塊、炭化物が混入している。

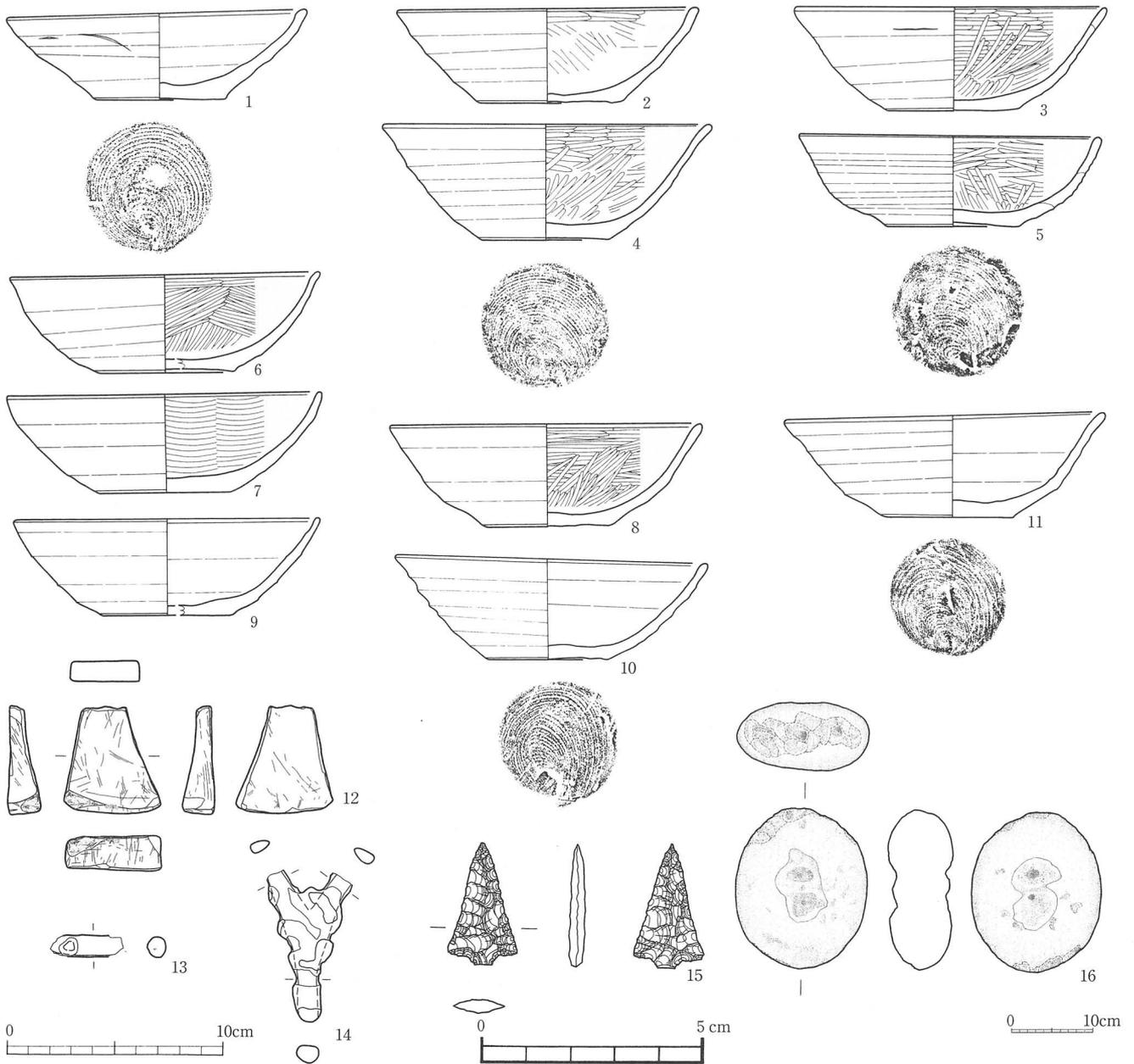
〔出土遺物〕遺物は床面近くの堆積土中及び、貯蔵穴1の底面近くから比較的まとまって出土している。遺物には土師器坏、甕、鉢、赤焼土器坏、須恵器坏、甕、鉢、鉄製品、石器類等がある。そのうち土師器坏8点、赤焼土器坏1点、須恵器坏2点、鉄製品2点、石器3点を図示した。



竪穴住居			
No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	10YR4/3 (にぶい黄褐) の砂質シルトブロックを少量含む。
2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	焼土ブロック・木炭粒を多量含む。
3	10YR3/2 黒褐	粘土質シルト	焼土ブロック・木炭粒を多量含む。
4	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	木炭粒を多量・焼土粒を微量含む。
5	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	2.5Y4/3 (オリーブ褐) の砂質シルトをブロック状に、焼土・炭化物を多量に含む。
6	7.5YR3/3 暗褐	シルト	焼土・カマドの焼壁・炭化物・灰を含む。
7	5YR4/8 赤褐	シルト	焼土・灰層、10YR4/3 (にぶい黄褐) のシルト・灰を含む。
8	5YR3/2 暗赤褐	砂質シルト	灰・焼土塊を含む。
貯蔵穴 1			
No.	土色	土性	備考
1	10YR3/4 暗褐	シルト	焼土塊を粒・炭化物、10YR4/4 (褐) のシルトを斑状に含む。
2	10YR4/4 褐	シルト	焼土粒・炭化物を若干含む。
3	10YR3/2 黒褐	シルト	炭化物、10YR4/2 (灰黄褐) の砂質シルトを斑状に含む。
4	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	マンガン・炭化物を若干、10YR4/3 (にぶい黄褐) のシルトを霏降り状に含む。
5	2.5Y4/2 暗灰黄	粘土質シルト	焼土粒・炭化物を含む。
6	10YR4/4 褐	シルト	
7	2.5Y3/2 黒褐	粘土質シルト	炭化物を含む。
8	2.5Y4/3 オリーブ褐	シルト	焼土・炭化物を若干含む。
貯蔵穴 2			
No.	土色	土性	備考
1	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	焼土・炭化物を含む。
2	10YR3/3 暗褐	シルト	炭化物を多量・焼土粒を若干含む。
3	10YR4/4 褐	砂質シルト	炭化物を若干含む。
4	2.5Y4/4 オリーブ褐	粘土質シルト	炭化物を若干含む。

P11										
No.	土色	土性	備考							
1	10YR4/4 褐	シルト	焼土含む。							
2	5YR3/6 暗赤褐	シルト	焼土・焼壁・炭化物を含む。							
3	10YR2/3 黒褐	シルト	焼壁・炭化物を含む。							
カマド掘り方										
No.	土色	土性	備考							
1	5YR3/3 暗赤褐	シルト	焼土・焼壁・炭化物、10YR4/4 (褐) のシルトブロックを含む。							
2	5YR3/6 暗赤褐	シルト	上面が焼面・焼土・炭化物を含む。							
3	7.5YR3/4 暗褐	シルト	焼土塊を含む。							
4	7.5YR4/4 褐	シルト	焼土塊・炭化物を含む。							
土坑										
No.	土色	土性	備考							
1	10YR3/4 暗褐	シルト	10YR4/4 (褐) のシルト霏降り状に含む。炭化物・焼土塊を含む。							
2	10YR3/3 暗褐	シルト	炭化物粒若干あり。							
3	10YR4/4 褐	シルト	炭化物粒若干含む。							
4	2.5YR3/2 黒褐	シルト	炭化焼土粒を少量含む。							
5	10YR3/2 黒褐	シルト	炭化物粒若干含む。							
P3										
No.	土色	土性	備考							
1	7.5YR4/4 褐	シルト	10YR3/4 (暗褐) の砂質シルトブロック、焼土・炭化物を斑状に含む。							
2	7.5YR3/4 暗褐	シルト	焼土・炭化物を少量含む。							
3	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	焼土・炭化物を若干含む。							
ピット計測表 (cm)										
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
深さ	13	17	26	9	19	11	25	17	30	26

第8図 SI1 竪穴住居跡

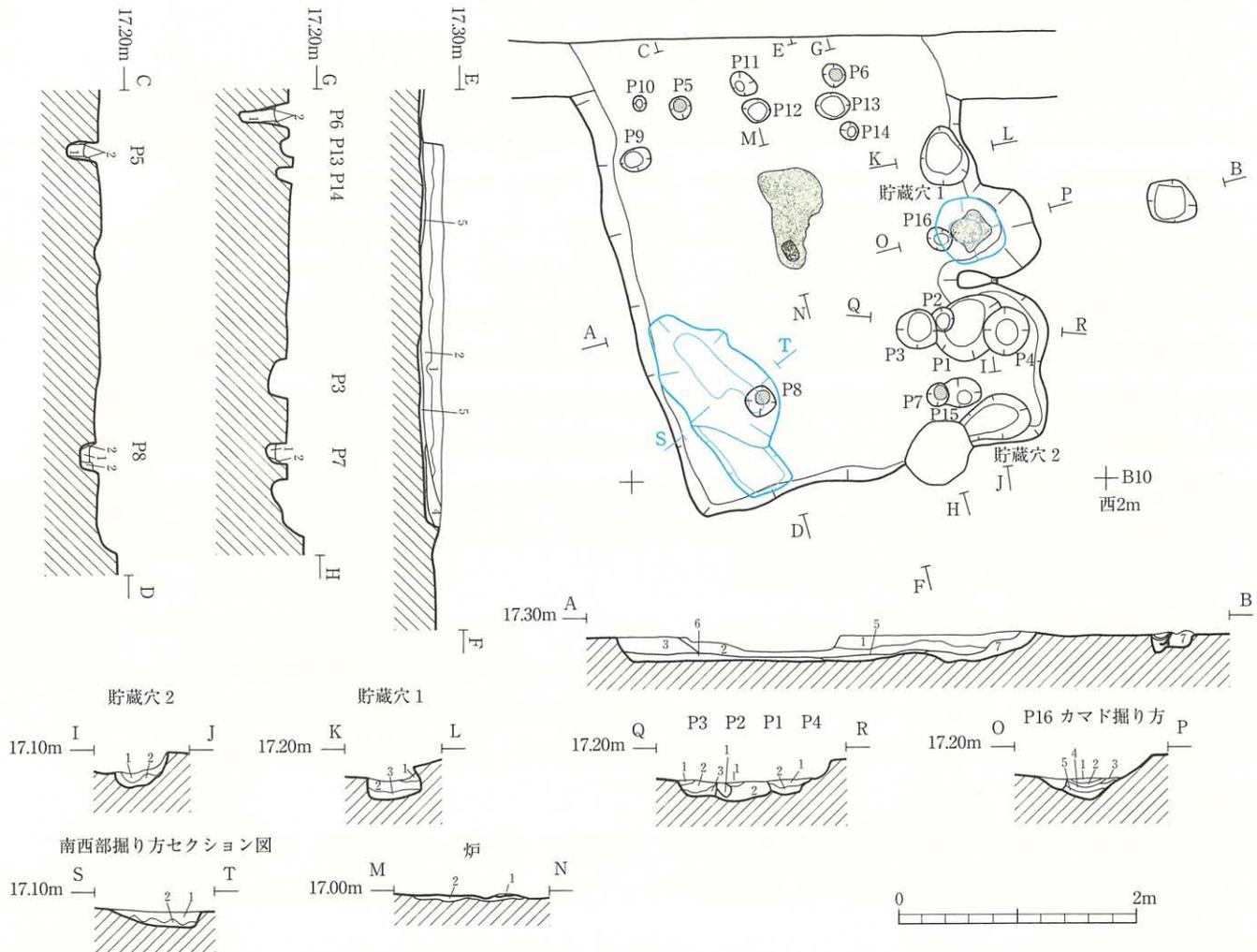


No.	登録番号	種別	器種	層位	外 面				内 面				底 部	備 考	写真図版	
1	4D-11	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ロクロ				回転系切り	赤焼		53-25
2	4D-12	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ロクロ・ヘラミガキ・黒色処理				回転系切り			53-20
3	4D-13	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ミガキ・黒色処理				回転系切り			53-21
4	4D-14	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ミガキ・黒色処理				回転系切り			53-22
5	4D-15	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ミガキ・黒色処理				回転系切り			53-23
6	4D-16	土師器	坏	堆積土	ロクロナデ				ロクロナデ→ヘラミガキ・黒色処理				回転系切り			53-24
7	4D-17	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ロクロ・ミガキ・黒色処理				回転系切り			
8	4D-18	土師器	坏	堆積土	ロクロナデ				ヘラミガキ・黒色処理				回転系切り			
9	4D-19	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ロクロ				回転系切り	赤焼		
10	4E-1	須恵器	坏	堆積土	ロクロ				ロクロ				回転系切り			53-46
11	4E-2	須恵器	坏	堆積土	ロクロ				ロクロ				回転系切り			53-47
No.	登録番号	層位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考				写真図版				
12	349		堆積土 砥石	50.0	45.0	15.0	35.8					56-44				
15	336		堆積土 石鏃	28.5	16.0	3.5	1.0	アスファルト付着面あり				55-61				
16	352	P7	礫石器	101.0	80.0	43.0	361.0	蔽・凹				56-17				
No.	登録番号	種 別	層 位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考				写真図版				
13	4N-12	不明	堆積土	34.0	11.0	9.0	3.4	鉄製品				57-7				
14	4N-11	雁股鏃	堆積土	72.0	40.0	8.0	29.0					57-9				

第9図 SI1 竪穴住居跡出土遺物

S I - 2 竪穴住居跡 (第10図)

[遺構の確認] 4区中央北側のA・B-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構は北側の調査区外に延びており、遺構全体を検出することはできなかった。本住居跡とSK-12、17が重複関係にあり、それぞれが本住居



SI 2 竪穴住居跡

層位	No.	土色	土性	備考
1	1	10YR4/2 灰黄褐	シルト	木炭粒を微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐	砂質シルト	木炭粒を多量・焼土粒を少量含む。
2	3	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	木炭粒を少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐	シルト質粘土	
3	1	10YR4/2 灰黄褐	シルト	互層
	2	10YR4/2 灰黄褐	細砂	
	3	10YR3/2 黒褐	シルト	木炭粒多量に含む。
4	5	10YR3/2 黒褐	シルト	木炭粒多量に含む。
	6	10YR3/4 暗褐	シルト	
カマド内埋土	7	10YR3/2 暗褐	シルト	焼土ブロック、木炭粒多量に含む。

層位	No.	土色	土性	備考
SI 2 貯蔵穴1	1	7.5YR3/3 暗褐	シルト	焼土粒を若干含む。
	2	10YR3/4 暗褐	シルト	2.5Y4/1 (黄灰) のシルトブロック、焼土・炭化物を若干含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	

層位	No.	土色	土性	備考
SI 2 貯蔵穴2	1	10YR3/4 暗褐	シルト	10YR5.6 (楕圓) のシルトを塊状に含み、焼土・炭化物を含む。
	2	2.5Y4/4 オリーブ褐	砂質シルト	炭化物・酸化鉄を含む。

層位	No.	土色	土性	備考
炉	1	5YR7/6 橙	シルト	焼土を含む。
	2	10R3/3 暗赤褐	シルト	熱で変色した範囲。

ピット計測表 (cm)																
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
深さ	21	14	16	22	20	52	17	24	15	18	23	11	12	14	20	20

南西部掘り方セクション図

層位	No.	土色	土性	備考
南西部掘り方セクション図	1	10YR2/3 黒褐	シルト	焼土粒・炭化物を含む。
	1	10YR3/4 暗褐		人為的堆積層
2	1	10YR3/3 暗褐	シルト	炭化物・焼壁・マンガンを含む。

層位	No.	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐	シルト	焼土粒・木炭物を多量に含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土質シルト	木炭粒を少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土質シルト	木炭物・焼土粒を少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	木炭粒を微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	木炭粒・焼土粒を多量に含む、下部に焼土ブロックを含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	10YR3.2 (黒褐) の粘土質シルトブロックを少量焼土粒を微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	木炭粒を微量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土質シルト	焼土ブロックを多量、木炭粒を少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土質シルト	焼土ブロックを少量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐	粘土	柱痕
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	掘り方
P6	1	10YR3/2 黒褐	粘土	柱痕
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	掘り方
P7	1	10YR3/2 黒褐	粘土	柱痕
	2	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	掘り方

層位	No.	土色	土性	備考
カマド掘り方	1	7.5YR3/3 暗褐	シルト	焼土・炭化物を多量含む。
	1	5YR4/6 赤褐	シルト	焼土層
	2	7.5YR3/4 暗褐	シルト	炭化物を含む。
	3	10YR3/4 暗褐	シルト	焼土・炭化物を含む。
	4	10YR4/4 褐	シルト	
5	2.5Y4/3 オリーブ褐	砂質シルト	炭化物を若干含む。	

第10図 SI 2 竪穴住居跡

跡を切っており、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕平面形は南北4.2m以上、東西3.1mの南東コーナーがやや丸みを帯びる長方形を基調としたものであると考えられるが、東壁のカマド部分がやや膨らんでいる。西壁を基準とした方向はN-16°-Wである。

〔堆積土〕5層に大別される。炭化物、焼土が混入している層がみられる。

〔壁 面〕最も保存の良い西壁で17cmの高さで残存している。床面から急角度で立ち上がる。

〔床 面〕掘り方底面を直接床面としている。南東隅付近に土坑状の掘り方上面を床面としている部分がある。細かい凸凹がみられる。南壁際では、床面がやや低くなっており、礫の上面が見える部分がある。この礫は下層の集石及び配石遺構の一部であり、礫に当たる深さで掘り方の掘り下げを止めたものであると考えられる。

〔柱 穴〕床面で16個のピットが検出された。規模、配置からP5・6・7・8が柱穴であると考えられる。これらには柱痕跡が認められた。

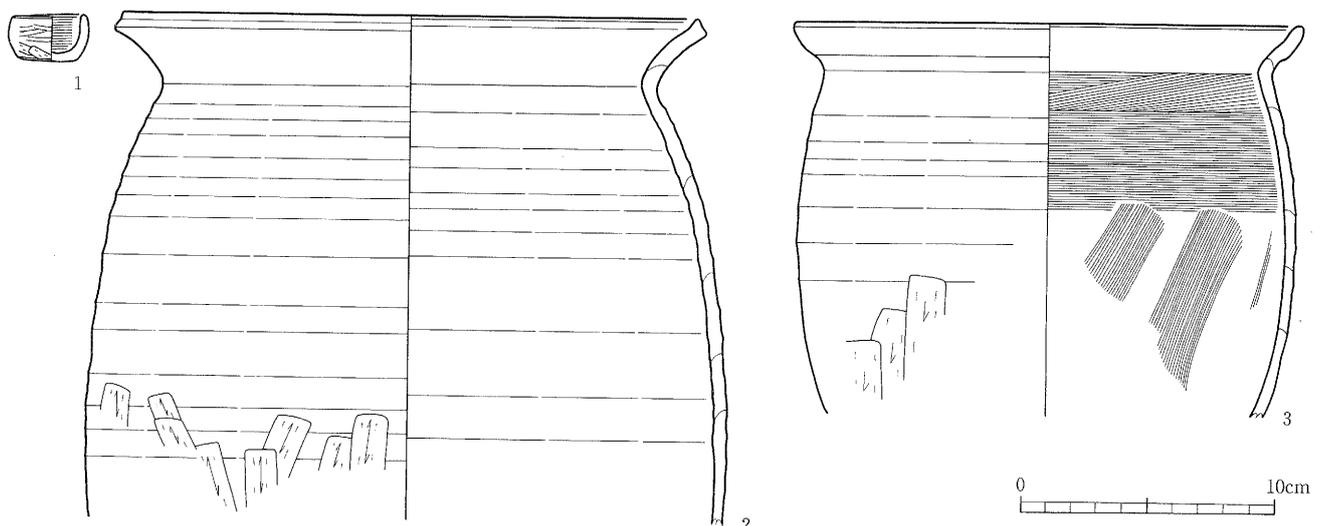
〔カマド〕住居跡東壁中央よりやや南寄りに付設されており、煙道部は削平のために検出されなかったものの、燃焼部、煙出しピットが検出された。燃焼部は幅80cm、奥行き90cmで奥側の40cmは住居跡東壁から外側へ張り出している。左側壁は崩れており、住居跡東壁から外側へ張り出した部分しか残存しないが、その残存部分と右側壁、奥壁、燃焼部中央は火熱により赤変している。煙出しピットは燃焼部奥壁から1mの位置にあり、長軸40cm、短軸35cm、深さ19cmの楕円形のもので、焼土ブロック、炭化物が多量に混入している。燃焼部の焼け面下の手前側に長軸30cm、短軸18cm、深さ20cmの焼土が詰まったピットが検出された。また、燃焼部には直径60cm、深さ20cmの掘り方が検出され、多量の焼土、炭化物が混入していた。

〔周 溝〕検出されなかった。

〔貯蔵穴〕2個検出された。貯蔵穴1は住居跡東壁中央部のカマド北脇に、貯蔵穴2は住居跡南東コーナーのやや西寄りに位置している。貯蔵穴1の平面形は長軸50cm、短軸40cmの楕円形で、床面からの深さは23cmである。貯蔵穴2はSK-17によって一部削平されているが、平面形は長軸55cm以上、短軸40cmの楕円形で、床面からの深さは15cmである。

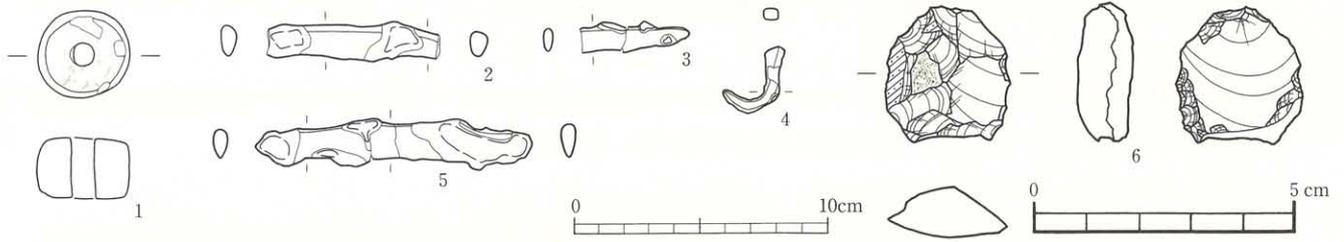
〔その他の施設〕住居跡中央付近に焼け面が検出された。長軸85cm、短軸50cmの不整形で、暗褐色に焼け締まっており、南側の一部が橙色に特に焼け締まり、還元状態になっている。非常に高い温度で使用された炉であると考えられる。

〔出土遺物〕堆積土中及び床面、貯蔵穴、ピット、カマドの煙出しピット内部から出土している。遺物には土師器環、甕、須恵器環、甕、台付甕が出土している。その他に多量の金属製品や鋳滓類、石器類が出土している。そのうち、土師器甕2点、ミニチュア土器1点、土製品1点、鉄製品4点、石器1点を図示した。



No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4C-1	土師器	ミニチュア	確認面	ケズリ・ミガキ・黒色処理	ナデ・黒色処理	ミガキ		53-4
2	4D-9	土師器	甕		ロクロ・ケズリ	ロクロ			53-40
3	4D-10	土師器	甕		ロクロ・ケズリ	ロクロ・ヘラナデ・ナデ			53-41

第11図 SI2 竪穴住居跡出土遺物 (1)



No.	登録番号	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	350	P4	紡錘車	37.0	34.5	24.0	43.5		56-43
6	347		スクレイパー	27.0	24.5	11.0	6.1	炉の下	55-130
No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
2	4N-7	刀子		68.0	15.0	9.0	13.1		57-4
3	4N-10	刀子		43.0	11.0	4.0	3.3		57-8
4	4N-8	釘		27.0	8.0	5.0	2.6		57-6
5	4N-9	刀子		109.0	21.0	6.0	25.7		57-5

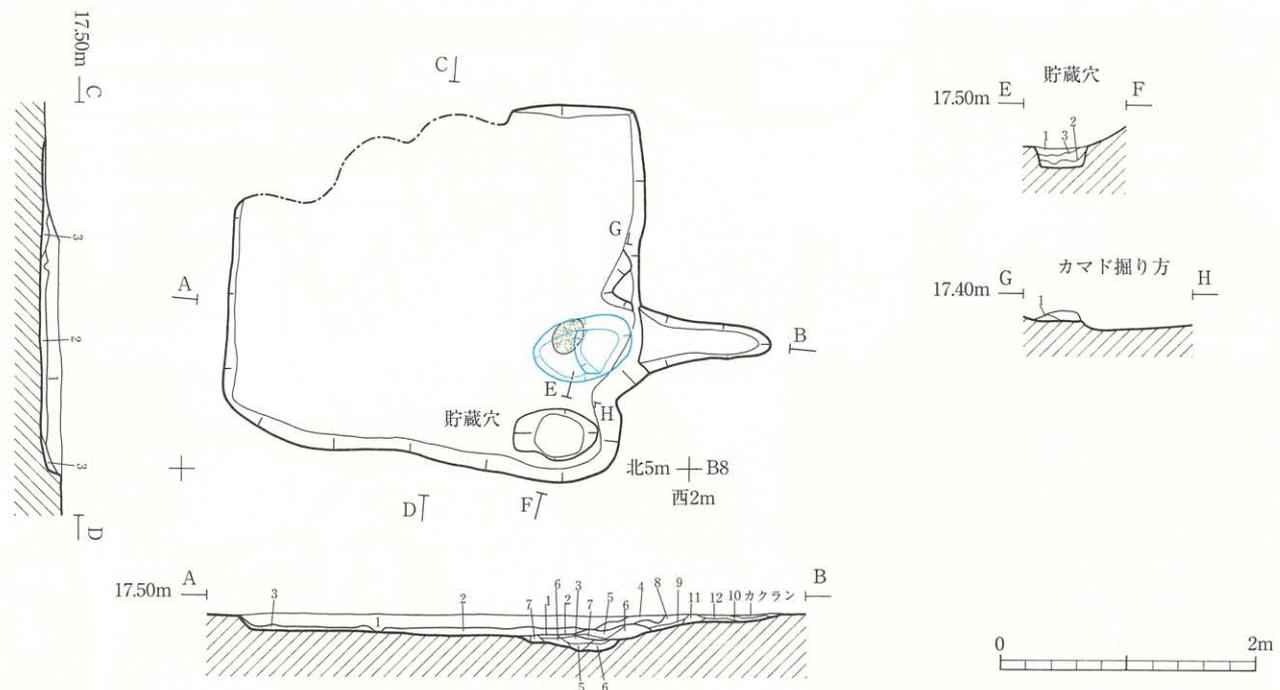
第12図 SI2 竪穴住居跡出土遺物 (2)

SI-3 竪穴住居跡 (第13図)

〔遺構の確認〕 3区中央部のB-7グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1上面で確認された。住居跡北西部が削平を受けており検出されなかった。

〔平面形・規模〕 平面形は南北3.0m、東西3.2mの方形を基調としたもので、南東、南西コーナーが丸みを持ち、西辺がやや狭くなっている。東壁を基準とした方向はN-0° - E・W である。

〔堆積土〕 2層に大別される。床面近くには焼土、炭化物が混入している。



層位	No.	土色	土性	備考
1	1	10YR3/3	暗褐	シルト質砂
	2	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト質砂
	3	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト質砂
カマド	4	7.5YR3/3	暗褐	シルト
	5	7.5YR3/2	黒褐	粘土質シルト
	6	5YR3/1	黒褐	砂質シルト
	7	7.5YR4/1	褐灰	シルト質砂
燻道	8	10YR3/4	暗褐	シルト質砂
	9	10YR3/3	暗褐	砂質シルト
	10	7.5YR3/4	暗褐	シルト質砂
	11	7.5YR4/4	褐	シルト質砂
	12	10YR2/3	黒褐	砂質シルト

No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2	黒褐	シルト
2	7.5YR3/3	暗褐	シルト
3	5Y3/6	暗赤褐	砂質シルト
4	7.5YR3/3	暗褐	シルト
5	7.5YR3/4	暗褐	シルト質砂
6	7.5YR3/2	黒褐	シルト
7	2.5Y3/1	黒褐	シルト質砂
8	10YR3/4	暗褐	砂質シルト

No.	土色	土性	備考
1	2.5Y3/2	黒褐	シルト質砂
2	10YR3/4	暗褐	シルト質砂
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	シルト質砂

No.	土色	土性	備考
1	7.5YR3/4	暗褐	砂質シルト

第13図 SI3 竪穴住居跡

〔壁 面〕最も保存の良い東壁の南東コーナー付近で19cmの高さで残存している。床面から急角度で立ち上がっている。

〔床 面〕掘り方底面を直接床面としている。ほぼ平坦である。削平されている北西コーナー付近では下層の河川跡の砂礫がみられる部分もあり、一部砂礫層上面が床面であった可能性もある。

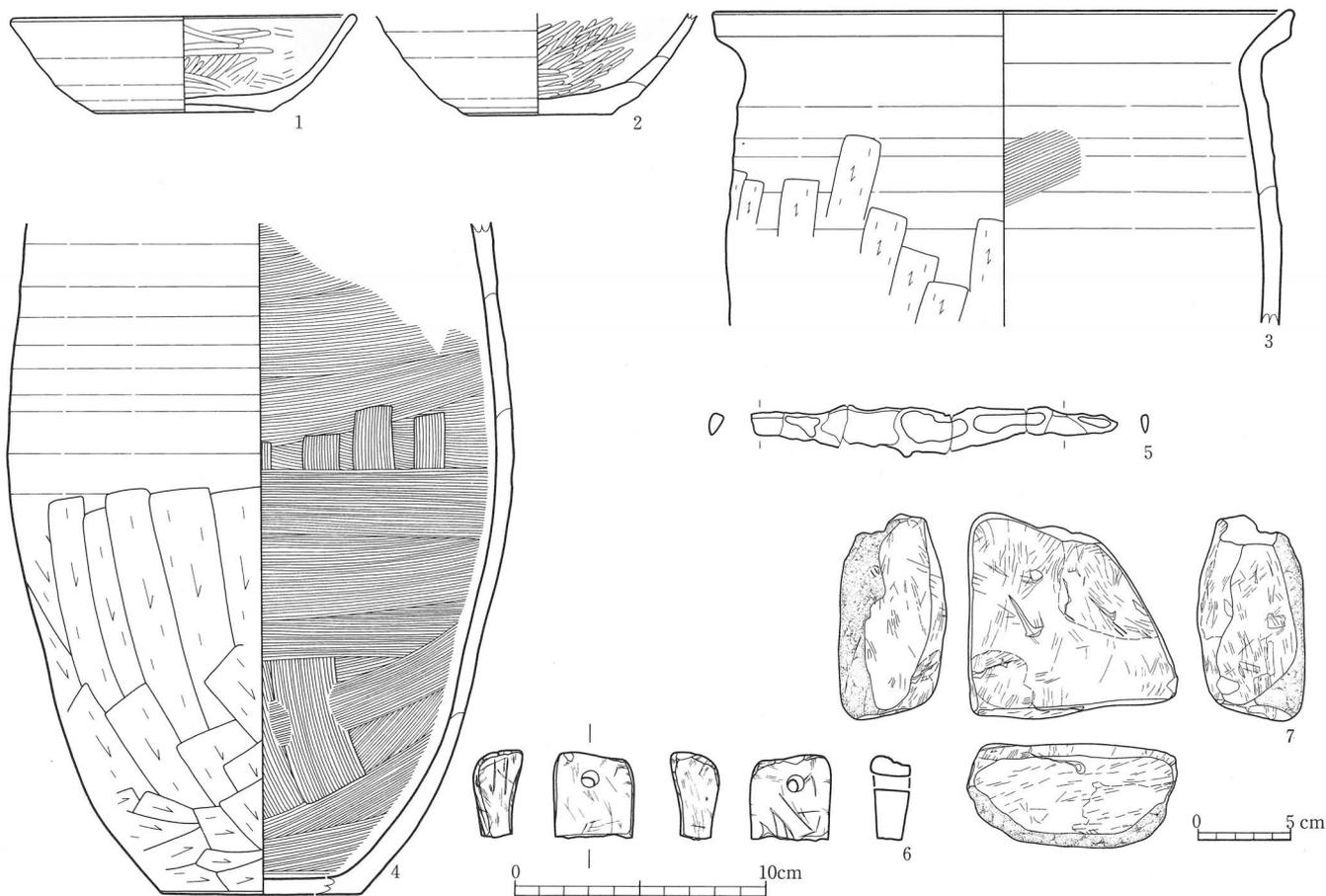
〔柱 穴〕床面でピットは検出されなかった。

〔カマド〕住居跡東壁の南寄りに付設されており、燃烧部、煙道部が検出された。側壁は崩れて残っていないが、住居跡の東壁際に側壁の残存部が検出されており、カマド中央部の床面の焼土が検出された部分までをカマドの範囲とすると、燃烧部の規模は、幅75cm、奥行き70cmである。焼土下には長軸35cm、短軸20cmの楕円形に暗赤褐色に焼け締まった部分がみられる。煙道部は長さ100cm、幅50～20cm、深さは燃烧部との境で12cmあり、底面は先端に向かって徐々に高くなる。燃烧部下の掘り方は長軸80cm、短軸50cm、深さ13cmの楕円形で、中央に段が付いており奥壁側が一段低くなっている。また、左右の側壁下部で礫が検出されている。

〔周 溝〕検出されなかった。

〔貯蔵穴〕1個検出された。貯蔵穴はカマド南脇の住居跡南東隅に位置し、平面形は長軸65cm、短軸40cm、の楕円形で床面からの深さは17cmである。

〔出土遺物〕堆積土中及び床面、カマド内部及び底面から出土している。遺物には土師器坏、高台付坏、甕、赤焼土器坏、須恵器坏、甕、壺、金属製品、石器等がある。そのうち土師器坏2点、甕2点、金属製品1点、石製品2点を図示した。



No.	登録番号	種別	器種	層位	外 面				内 面				底 部	備 考	写真図版
1	3D-9	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ミガキ・黒色処理			回転糸切り			
2	3D-2	土師器	坏	堆積土	ロクロ				ミガキ・黒色処理			ナデ			
3	3D-7	土師器	甕	堆積土	ロクロ・ケズリ				ロクロ・ナデ						
4	3D-6	土師器	甕	堆積土	ロクロ・ケズリ				ヘラナデ			ケズリ			
No.	登録番号	種別	層位	種	類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考				写真図版	
5	3N-4	刀子	堆積土			145.0	20.0	5.0	26.8					57-1	
No.	登録番号	層位	種	類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考				写真図版		
6	11	堆積土	砥石		(34.5)	32.0	17.0	24.31					56-46		
7	27	堆積土	砥石		(110.0)	111.1	57.5	445.4	焼け						

第14図 SI3 竪穴住居跡出土遺物

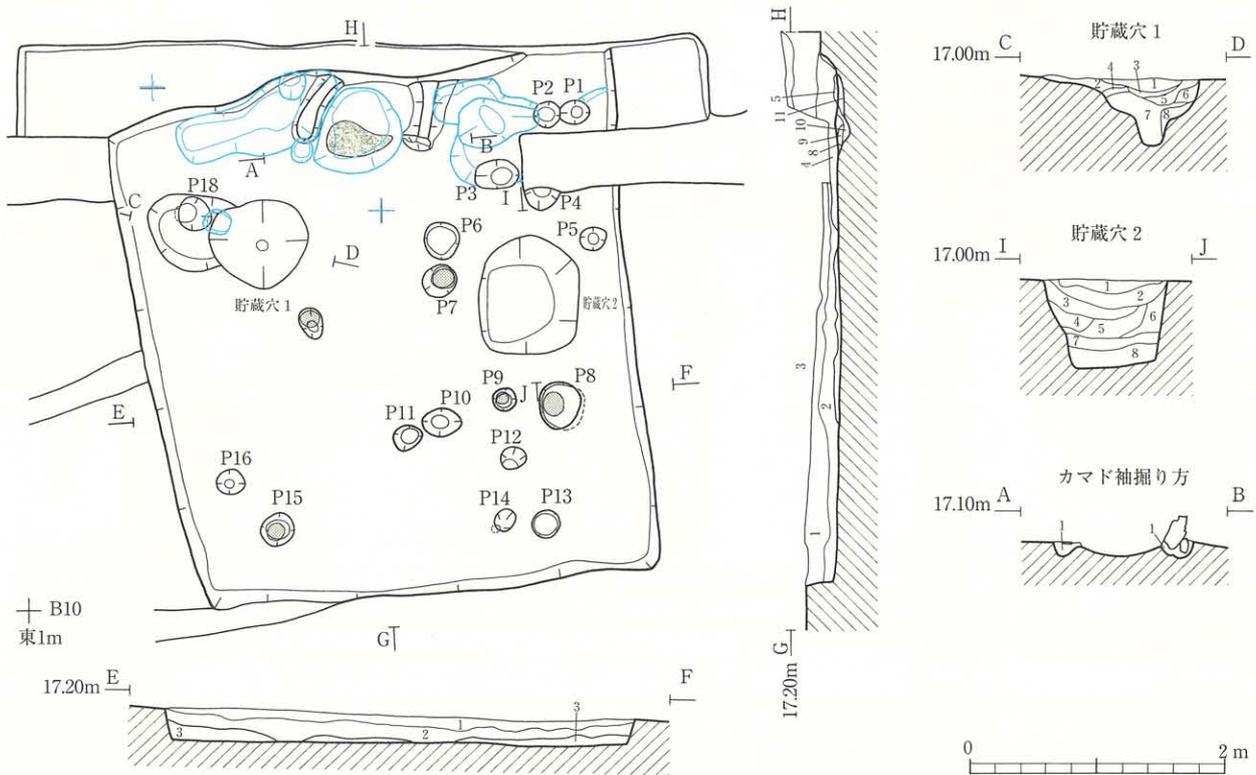
SI-4 竪穴住居跡 (第15図)

〔遺構の確認〕 4区北東部A-10グリットに位置し、Ⅲb層上面で確認された。4区北壁際に側溝を掘り下げた際に焼土及び土器がまとまって出土し、遺構の存在が明らかになったものである。Ⅲb層上面で確認された遺構は本住居跡のみである。調査区を拡張して遺構全体の検出に努めたが、北東コーナーと煙道部、煙だしピットは調査区外にあり、確認できなかった。

〔平面形・規模〕 平面形は南北4.2m、東西4.05mの方形を基調としたものであるが、南辺がやや狭くなっている。西壁を基準とした方向はN-10°-Wである。

〔堆積土〕 2層に大別される。全体に焼土粒、炭化物粒が混入している。

〔壁 面〕 最も保存の良い東壁の南西コーナー付近で30cmの高さで残存している。床面から急角度で立ち上がって



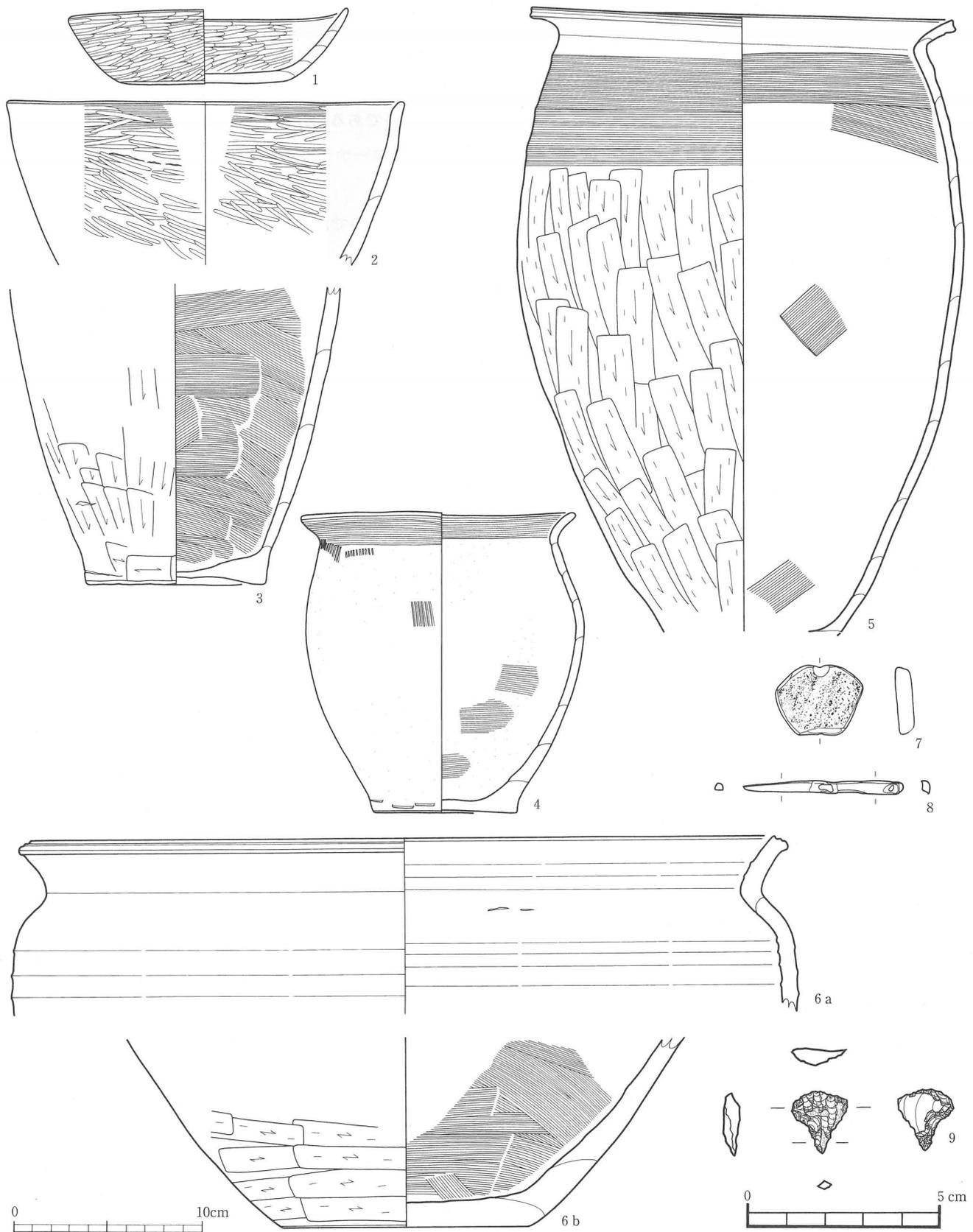
SI4 竪穴住居跡		層位	No.	土色	土性	備考			
1	1	10YR3/4	暗褐	砂質シルト	炭化物・焼土粒若干、2.5Y4/2(暗灰黄)のシルトを斑状に含む。				
	2	7.5YR3/3	暗褐	砂質シルト	炭化物多量・焼土粒若干、一部細砂の部分有り。				
	3	10YR4/4	褐	シルト	炭化物・焼土粒若干含む。				
カマド	4	7.5YR3/4	暗褐	シルト	炭化物・焼土・灰・焼土塊多量に含む、カマド堆積土。				
	5	5YR2/2	黒褐	粘土質シルト	炭化物を多量に含む。				
カマド 掘り方	6	10YR4/3	にぶい黄褐	シルト質砂	炭化物を若干含む。				
	7	5YR4/6	褐	シルト	焼土層、上面に灰がのる。				
	8	7.5YR3/4	暗褐	シルト	焼土層				
	9	7.5YR3/4	暗褐	シルト	炭化物・焼土塊を少量含む。				
	10	10YR4/4	褐	シルト	炭化物を若干含む。				
ピット計測表 (cm)									
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
深さ	13	14	32	31	12	17	28	35	37
No.	10	11	12	13	14	15	16	17	18
深さ	57	30	47	42	63	16	34	55	8

SI4 貯蔵穴1		層位	No.	土色	土性	備考
1	1	10YR4/4	褐	シルト	炭化物・焼土を若干含む。	
	2	10YR3/3	暗褐	シルト	炭化物・焼土を含む、カメがつぶれていた。	
	3	5YR3/4	暗赤褐	シルト	炭化物・焼土を含む。2層より大粒。	
	4	10YR4/3	にぶい黄褐	砂質シルト	2.5Y4/2(暗灰黄)のシルト質砂ブロックを含む。	
	5	7.5YR3/4	暗褐	砂質シルト	炭化物・焼土を多量、10YR4/6(褐)のシルトブロックを含む。	
	6	7.5YR3/3	暗褐	シルト	炭化物・焼土を多量、10YR4/6(褐)のシルトを霜降り状に含む。	
	7	5YR3/3	暗赤褐	シルト	炭化物・焼土を多量、10YR3/4(暗褐)のシルトを霜降り状に含む。	
	8	10YR3/4	暗褐	シルト	炭化物を若干含む。	

SI4 貯蔵穴2		層位	No.	土色	土性	備考
1	1	10YR3/4	暗褐	シルト	炭化物、2.5Y4/4(オリブ褐)の砂質シルトを霜降り状に含む。	
	2	10YR4/4	褐	シルト	炭化物を若干、10YR4/6(褐)のシルト質粘土を斑状に含む。	
	3	10YR3/3	暗褐	粘土質シルト	10YR4/6(褐)の粘土を上部に層状に含む。炭化物を若干含む。	
	4	7.5YR3/3	暗褐	粘土質シルト	10YR4/6(褐)の粘土ブロックを含む。	
	5	7.5YR4/4	褐	シルト	10YR4/6(褐)の粘土ブロック炭化物を若干含む。	
	6	7.5YR4/4	褐	粘土質シルト	10YR6/6(明黄褐)の粘土を斑状に含む。	
	7	10YR3/4	暗褐	シルト質粘土	炭化物を若干含む。	
	8	10YR4/6	褐	シルト質粘土	10YR6/6(明黄褐)のシルトブロックを含む。	

SI4 カマド掘り方		層位	No.	土色	土性	備考
1	1	7.5YR3/3	暗褐	シルト	炭・焼土を含む。	

第15図 SI4 竪穴住居跡



No.	登録番号	種別	器種	層位	外 面				内 面				底 部	備 考	写真図版
1	4C-6	土師器	环	掘り方	ミガキ				ミガキ				ミガキ		53-1
2	4C-3	土師器	鉢	埋藏穴	ミガキ				ミガキ				-		
3	4C-5	土師器	鉢		ケズリ				ナデ				剥落		
4	4C-4	土師器	甕	P6	ヨコナデ・ハケメ				ヨコナデ・ナデ				ナデ		53-3
5	4D-20	土師器	甕	貯藏穴	ロクロ・ナデ・ケズリ				ヘラナデ				-		53-39
6	4E-3	須恵器	甕		ケズリ・ロクロ				ナデ・ロクロ				ケズリ		53-50
No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考				写真図版			
7	4P-2	土製円盤		38.0	46.0	9.0	18.0					55-29			
8	4N-13	刀子		85.0	7.0	5.0	5.2					57-2			
No.	登録番号	層位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考				写真図版			
9	473	P13	石錐	16.5	15.0	4.5	0.8					55-100			

第16図 SI4 豎穴住居跡出土遺物

いる。

〔床 面〕床面の大部分は掘り方底面を直接床面としているが、北壁際の一部に掘り方埋土上面を床面としている部分がある。ほぼ平坦である。

〔柱 穴〕床面及び床面下で23個のピットが検出された。規模、配置からP3・4・8・12・15・16・18・19が柱穴であると考えられるが、P3・4とP8・12、P15・16、P18・19が若干ずれて配置されており、特にP18・19は重複していることから、造り替えの可能性も考えられ、組み合わせは不明である。

〔カマド〕住居跡北壁中央に付設されている。前述のとおり燃焼部のみが検出された。幅79cm、奥行き65cmで、燃焼部の手前側の幅55cm、奥行き30cmの焼け面を中心に側壁、奥壁が火熱を受けて赤変している。側壁は遺存状況が悪く、左右とも高さ2～3cmしか残存しなかった。右側壁の幅25cmの掘り方の先端部に礫が検出されており、焼けていることからカマド袖部の補強に用いられたものであると考えられる。燃焼部の下部には幅70cm、奥行き70cmの不整な円形で、深さ10cmの掘り方が検出された。

〔周 溝〕検出されなかった。

〔貯蔵穴〕2個検出された。貯蔵穴1は住居跡中央やや北西寄りのカマド西手前に、貯蔵穴2は住居跡中央東寄りに位置している。貯蔵穴1の平面形は長軸130cm、短軸70cmの瓢箪形に近い楕円形で、床面からの深さは50cmである。もっとも深いところはピット状になっている。貯蔵穴2の平面形は長軸95cm、短軸80cmの楕円形に近い長方形で床面からの深さは70cmである。

〔出土遺物〕堆積土中及び床面、貯蔵穴、カマド、ピットから出土している。遺物には土師器坏、甕、鉢、須恵器坏、甕が出土している。その他に鉄製品、縄文土器、土製品、石器が出土している。そのうち、土師器坏1点、甕2点、鉢1点、須恵器甕1点、鉄製品1点、土製品1点を図示した。

性格不明遺構

SX-1 性格不明遺構（第17図）

〔遺構の確認〕3区北東端A-7グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1上面で確認された。3区北東部の北壁及び、東壁際に側溝を掘り下げた際に焼土及び、土師器がまとまって出土し、遺構の存在が明らかになったものである。遺構の南西部が検出されたため、調査区を拡張して遺構全体の検出に努めたが、カマドの一部が検出されたのみで遺構の全体は確認出来なかった。

〔平面形・規模〕遺構の全体は調査区外の東～北側に広がっており、検出されたのはその一部であるため全体の平面形、規模は不明であるが、調査区内では南北2.4m以上、東西5.3m以上の規模で、不整形である。円形あるいは楕円形を基調とした平面形である可能性がある。

〔堆積土〕3層に大別される。焼土粒、炭化物を多量に混入している。

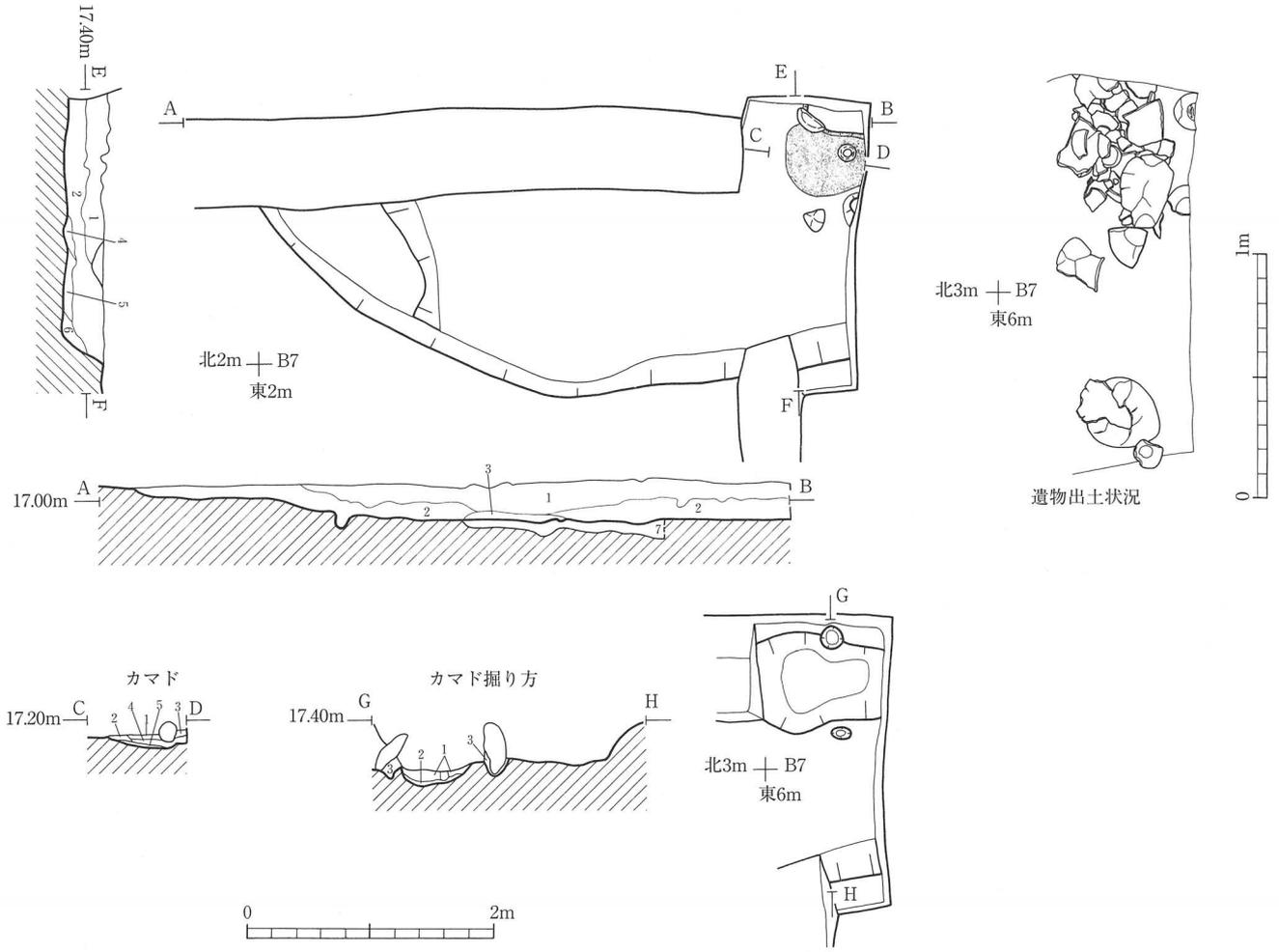
〔壁 面〕最も保存の良い南壁の調査区東端寄りで30cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がっている。

〔底 面〕掘り方底面を直接底面としているが、カマド前に掘り方埋土上面を底面としている部分がある。側溝によって削平された部分と調査区外に広がる部分が認められ、範囲は不明である。ほぼ平坦で大きな凸凹はない。また、底面の西側に段があり、約10cm高くなっている。

〔底面上の施設〕底面上でピットや溝は検出されなかったが、調査区内の北東隅でカマドが検出された。燃焼部の一部が検出されたのみで、燃焼部の奥壁、煙道部、煙出しピット等は調査区外の東側へ延びていると思われ、検出されなかった。左側壁は底面から15cmの高さで残存し、先端に礫が立てられている。右側壁は先端に立てられている礫のみが存在している。燃焼部は幅70cm、奥行きは検出された部分のみで65cmである。燃焼部内部の幅50cmの範

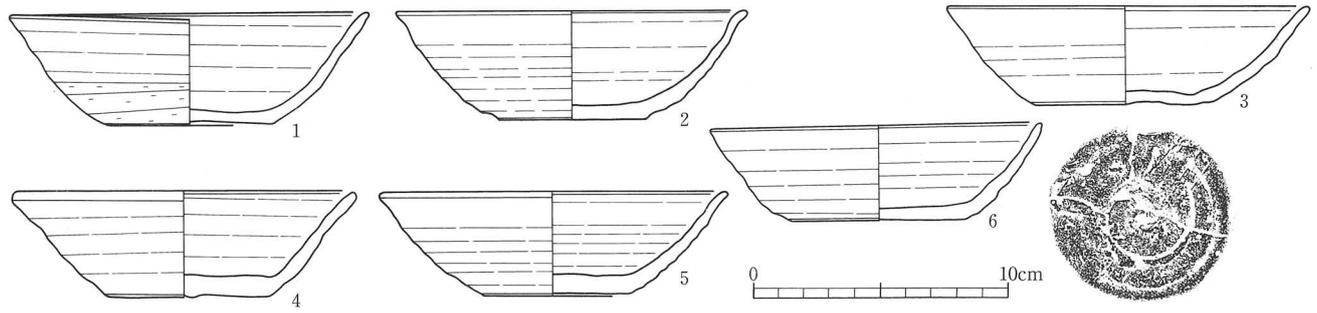
囲に焼土粒、炭化物、灰が詰まっており、側壁及び側壁先端の礫が火熱を受けて赤変している。燃烧部中央に土師器の小型甕が倒立状態で据えられており、支脚であると考えられる。カマドの下部には深さ10cmの掘り方が認められ、側壁の礫も掘り方内に据えられていた。

〔出土遺物〕カマド上部及びカマド周辺に集中して土師器、須恵器が多量に出土した。土師器には坏、高台付坏付坏、甕があり、須恵器には坏、甕、鉢がある。その他に石器が出土している。そのうち土師器坏1点、甕4点、須恵器坏5点、甕1点、鉢1点を図示した。



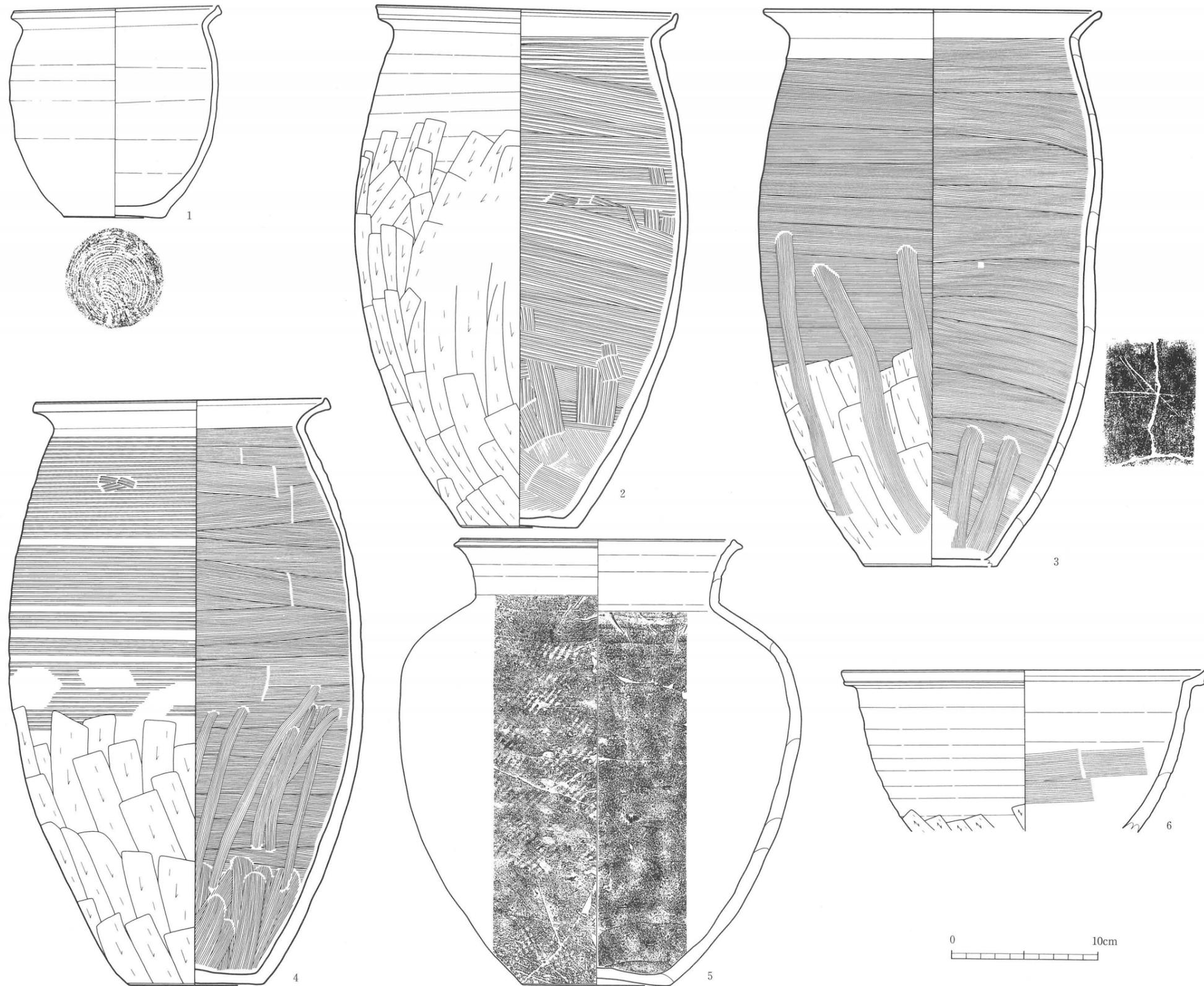
SX 1						
層位	No	土色	土性	備考		
1	1	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト質砂	7.5YR4/2 (灰褐) の粘土質シルト、木炭粒を少量含む。		
	2	7.5YR3/3 暗褐	シルト質砂	マンガン・焼土粒を含む。		
	3	7.5YR2/3 極暗褐	砂質シルト	マンガン・焼土塊(あまり赤くない)を含む。		
3	4	10YR4/4 褐	細砂	10YR4/3 (にぶい黄褐) の砂質シルトブロックを少量含む。		
	5	10YR3/1 黒褐	粘土質シルト	10YR4/3 (にぶい黄褐) の砂質シルトブロックを少量含む。		
	6	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	10YR3/1 (黒褐) の粘土ブロックを少量、木炭粒を多量含む。		
掘方土	7	10YR3/4 暗褐	細砂	マンガン・炭化物を含む。		

カマド				
遺構	No	土色	土性	備考
カマド	1	2.5Y6/2 灰黄褐	粘土	炭化物、焼土を含む。
	2	7.5YR3/2 黒褐	砂質シルト	多量の炭化物、焼土を含む。
	3	2.5Y3/2 黒褐	砂質シルト	多量の炭化物、焼土を含む。
	4	5YR3/4 暗赤褐	シルト	上面が焼けている。焼土塊を含む。
	5	10YR3/4 暗褐	砂質シルト	炭化物を含む。
カマド掘り方	1	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	炭化物、焼土を含む。
	2	2.5Y4/4 オリーブ褐	シルト質砂	
	3	7.5YR3/4 暗褐	シルト質砂	カマド袖石掘り方埋土



No	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	3D-10	土師器	坏		ロクロナデ・回転ヘラケズリ	ロクロナデ	回転ヘラケズリ	赤焼	53-17
2	3E-1	須恵器	坏	3層中	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		
3	3E-2	須恵器	坏		ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ切り		53-42
4	3E-4	須恵器	坏		ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		53-44
5	3E-6	須恵器	坏		ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ		53-45
6	3E-3	須恵器	坏		ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	墨書あり	53-43

第17図 SX1 性格不明遺構・出土遺物(1)



No	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	3D-11	土師器	甕	カマド底面	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り		53-35
2	3D-13	土師器	甕	底面	ロクロヘラケズリ	ハケメ・下部ナデ	ナデ		53-37
3	3D-14	土師器	甕	底面	ロクロナデ・ナデ・ケズリ	ヘラナデ・ナデ	—	体部の中心に凹がありその下にヘラ掻きがある。	53-38
4	3D-12	土師器	甕	底面	体上部ロクロナデ・体下部ヘラケズリ	ヘラナデ・ナデ	回転ヘラ切り		53-36
5	3E-5	須恵器	甕	底面	轍の後ロクロケズリ	ナデ	ナデ		53-49
6	3E-7	須恵器	鉢	底面	ロクロケズリ	ロクロナデ	—		

第18図 SX1 性格不明遺構出土遺物 (2)

土坑

SK-1 土坑 (第19図)

2区の西壁際A・B-3グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。調査区西壁際の側溝によって削平され、東半部のみを確認するにとどまった。平面形は長軸1.15m以上、短軸0.45m以上の円形あるいは楕円形を基調としたものであると考えられる。検出部分での長軸方向はN-3°-Eである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で17cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に細かい凸凹がある。底面レベルは中央部分が最も低く、壁際が高い。遺物は出土しなかった。

SK-2 土坑 (第19図)

2区の中央部やや西寄りB-3・4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。平面形は長軸1.0m、短軸0.68mの楕円形で、長軸方向はN-4°-Eである。堆積土は単層で、灰白色火山灰が混入している。壁面は最も保存の良い北壁で10cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面の中央部が直径35cmの歪んだ円形に9cmの深さで凹んでいる。土師器、須恵器が出土した。

SK-3 土坑 (第19図)

2区の中央部やや東寄りB-4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。平面形は長軸0.9m、短軸0.7mの楕円形で、長軸方向はN-30°-Eである。堆積土は4層に分けられ、焼土、炭化物、灰を多量に混入している。壁面は最も保存の良い南壁で10cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹はない。底面レベルは北壁際が最も高く、南壁が低くなっている。また、南西壁際が底面から10cmの深さで一段下がっており、南西壁はオーバーハングしている。土師器、須恵器が出土し、土師器坏1点を図示した。

SK-4 土坑 (第19図)

2区の中央部東寄りB-4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。調査区東壁際の側溝によって削平され、西半部を確認したのみである。SD-4溝跡、SK-6土坑と重複関係にあり、SD-4溝跡に切られ、SK-6土坑を切っていることから、本遺構はSD-4溝跡より古く、SK-6土坑より新しい。平面形は削平のため不明であるが、規模は南北2.1m以上、東西1.4m以上である。南壁を基準とした方向はW-23°-Nである。堆積土は4層に分けられ、焼土粒、炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い西壁で15cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹はない。底面レベルは北壁際が最も高く、南壁際が低くなっている。土師器、須恵器が出土した。

SK-5 土坑 (第19図)

2区の北西寄りA-3・4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。SD-4溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸2.0m、短軸1.75mの不整な長方形に近い楕円形で、長軸方向はW-0°-N・Sである。堆積土は単層で、炭化物、灰白色火山灰を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はない。底面レベルは中央部分が最も低く、壁際が高くなる。土師器、須恵器、石器が出土し、石器1点を図示した。

SK-6 土坑 (第19図)

2区の東壁際B-4グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。東側の調査区外に延びており、全体は確認できなかった。SK-4土坑、SD-4溝跡と重複関係にあり、それぞれに切られていることから、本遺構がそれぞれより古い。平面形は長軸1.05m、短軸0.37m以上の隅丸の長方形を基調にしたもので、長軸方向はN-0°-E・Wである。堆積土は2層に大別される。上層はシルト層、下層は細砂層である。焼土塊、焼土粒、炭化物を多量に混入している。壁面は調査区の側溝と重複する遺構による削平で残存状況は良くないが、

調査区の壁面では北壁で45cmの高さが確認できる。底面からおよそ30cmの部分まで火熱を受けて赤変しており、急角度で立ち上がる。底面に細かい凸凹はなく、平坦である。遺物は出土しなかった。

SK-7土坑（第19図）

3区の北東部A-7グリット、SK-8土坑の北に並んで位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。平面形は長軸1.25m、短軸0.80mの不整な楕円形で、長軸方向はN-11°-Wである。堆積土は単層で微量の炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹はない。底面レベルは北壁際が最も高く、南壁際が低い。土師器、須恵器、鉄滓、石製品が出土し、土師器坏2点、石製品1点を図示した。

SK-8土坑（第19図）

3区の北東部A-7グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。SK-9土坑と重複関係にあり、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸0.82m以上、短軸0.60mの不整形で、長軸方向はN-27°-Eである。堆積土は5層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で19cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており、底面レベルは中央部が最も高く盛り上がっており、壁際が低くなる。土師器が出土し、高台付坏1点を図示した。

SK-9土坑（第19図）

3区の北東部A・B-7グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。SK-8土坑、10土坑と重複関係にあり、それぞれを切っていることから、本遺構が最も新しい。平面形は長軸1.0m、短軸0.67mの不整な楕円形で、長軸方向はW-5°-Nである。堆積土は3層に分けられ、炭化物を混入している。3層上面に焼け面がみられる。壁面は最も保存の良い東壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており、底面レベルは一定しないが、中央部が低く、壁際が高くなる。土師器が出土した。

SK-10土坑（第19図）

3区の北東部B-7グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。SK-9土坑と重複関係にあり、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸0.95m以上、短軸0.70mの不整な楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。堆積土は2層に分けられ、炭化物、微量の焼土が混入している。壁面は最も保存の良い南壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており、底面レベルは一定しないが、中央部が低く、壁際が高くなる。遺物は出土していない。

SK-11土坑（第19図）

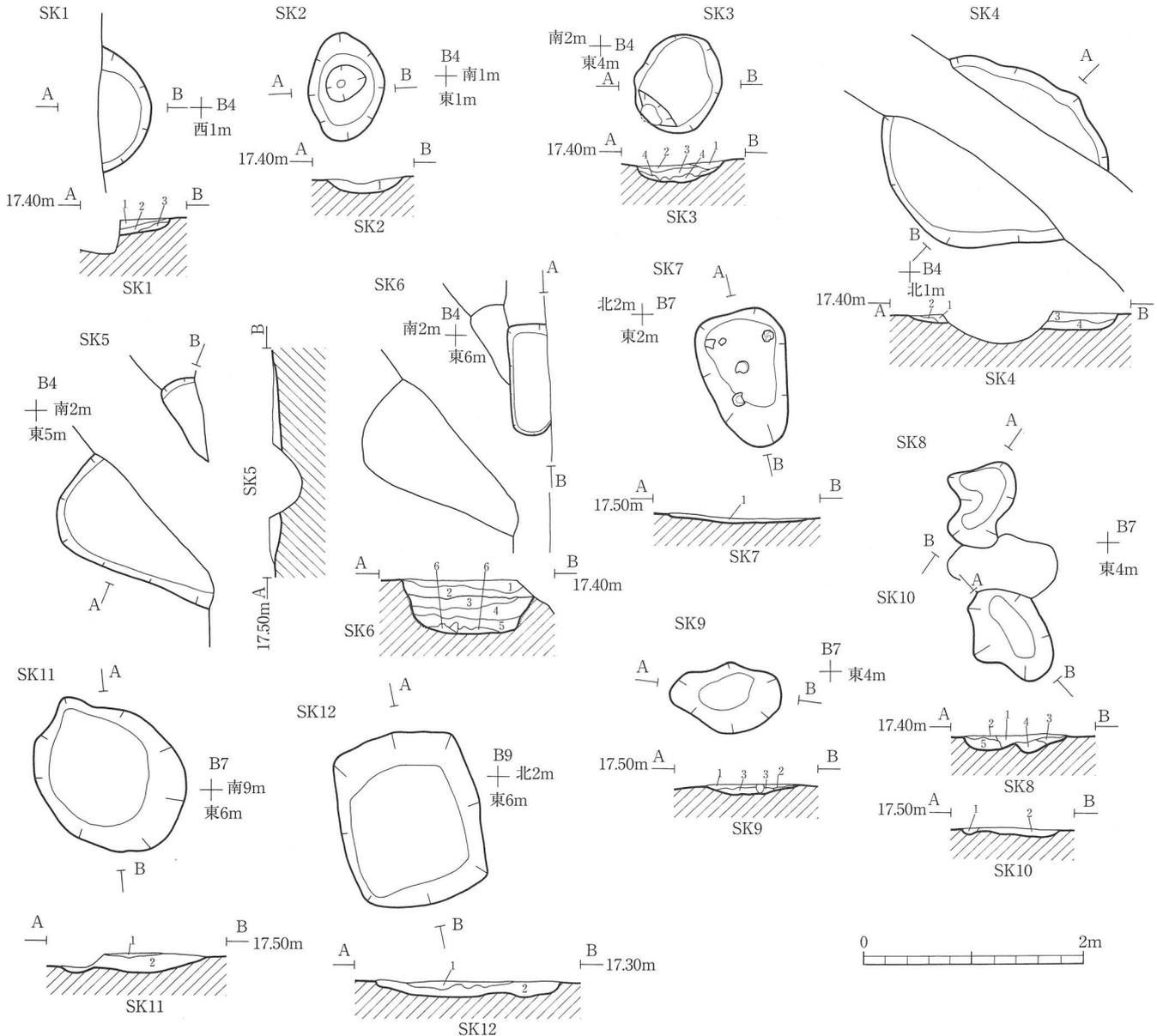
3区の南東端B-7グリットに位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1河川跡上面で確認された。遺構の西側は確認調査時のトレンチによって一部削平されている。平面形は長軸1.60m、短軸1.25mの不整な楕円形で、長軸方向はN-32°-Wである。堆積土は2層に分けられ、炭化物が混入している。壁面は最も保存の良い東壁で17cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は細かい凸凹が多く、底面レベルは一定しないが、中央部が高く、壁際が低くなる。土師器、須恵器が出土した。

SK-12土坑（第19図）

4区中央北側のA-9グリットに位置し、SI-2竪穴住居跡の堆積土上面で確認された。平面形は長軸1.6m、短軸1.2mの長方形で、長軸方向はN-10°-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁北側で14cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には凸凹が多く、底面レベルは一定しない。土師器、須恵器、赤焼け土器、かわらけ等が出土した。中にはSI-2竪穴住居跡堆積土中の遺物も含まれている可能性がある。そのうち土師器ミニチュア土器1点、坏1点、かわらけ3点を図示した。

SK-13土坑（第20図）

4区中央北西寄りA-9グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.73m、短軸1.2mの隅丸長方形で、長軸方向はW-2°-Sである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い西壁北側で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には凸凹が多く、底面レベルは一定しない。土師器、赤焼け土器が出土した。



遺構	No.	土色	土性	備考
SK1	1	10YR4/1	褐灰シルト	マンガン・炭化物粒を含む。
	2	2.5Y3/2	黒褐粘土質シルト	マンガン・炭化物を含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐シルト	マンガン・炭化物・焼土粒を含む。
SK2	1	10YR3/3	暗褐シルト	灰白火山灰・マンガン・炭化物・砂粒を含む。
SK3	1	10YR3/2	黒褐シルト	炭化物・焼土粒を若干・マンガンを含む。
	2	7.5YR2/2	黒褐シルト	炭化物・焼土粒・灰を含む。
	3	10YR3/1	黒褐シルト	灰多量・炭化物・焼土粒・焼けた粘土ブロックを含む。
SK4	4	10YR4/3	にぶい黄褐シルト	灰・炭化物・粘土ブロック・マンガンを含む。
	1	10YR3/3	暗褐シルト	灰白火山灰・マンガン・炭化物・焼土粒を含む。
	2	7.5YR3/2	黒褐砂質シルト	マンガン・炭化物・焼土粒を含む。
	3	10YR3/4	暗褐砂質シルト	マンガン・炭化物・焼土塊・焼土粒を含む。
SK5	1	2.5Y4/1	黄灰砂質シルト	炭化物・灰白・火山灰・マンガンを含む。
	2	2.5Y4/2	暗灰黄	
SK6	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐シルト	炭化物・マンガン粒を含む。
	2	10YR2/1	黒シルト	炭化物・焼土塊・10YR4/3(にぶい黄褐)の細砂ブロックを含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐細砂	焼土塊をまばらに含む。
	4	10YR3/2	黒褐細砂	焼土塊をまばら・炭化物を含む。
	5	10YR3/4	暗褐細砂	焼土塊・炭化物を4層よりまばらに含む。
	6	7.5YR3/4	暗褐細砂	炭化物を多量・焼土塊を少量含む。

遺構	No.	土色	土性	備考
SK7	1	10YR4/3	にぶい黄褐砂質シルト	10YR3/2(黒褐)の粘土質シルトブロックと木炭粒を微量含む。
SK8	1	7.5YR3/2	黒褐シルト	炭化物・2.5Y4/3(オリーブ褐)のシルト質砂ブロックを少量含む。
	2	10YR3/2	黒褐砂質シルト	
	3	10YR4/3	にぶい黄褐細砂	木炭粒を微量含む。
	4	10YR4/3	にぶい黄褐細砂	10YR3/1(黒褐)の粘土ブロックを少量含む。
	5	10YR4/3	にぶい黄褐細砂	10YR3/1(黒褐)のシルトブロックを少量含む。
SK9	1	10YR3/1	黒褐砂質シルト	10YR4/2(灰黄褐)の砂質シルトブロックを少量・木炭粒を多量に含む。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐砂質シルト	
	3	7.5YR3/2	黒褐砂質シルト	上層に7.5YR3/4(暗褐)の硬化面(焼面)あり。
SK10	1	10YR3/1	黒褐シルト	
	2	10YR3/2	黒褐砂質シルト	10YR4/2(灰黄褐)の砂質シルトブロックと木炭粒を多量・焼粒を微量含む。
SK11	1	10YR3/3	暗褐シルト	木炭粒を少量含む。
	2	10YR3/2	黒褐シルト	10YR2/2(黒褐)の粘土質ブロックを多量・10YR4/2(灰褐)のシルト質粘土ブロックを少量・木炭粒を多量に含む。
SK12	1	10YR2/2	黒褐シルト	木炭粒を多量・10YR4/2(灰黄褐)のシルトブロックを少量含む。
	2	10YR4/2	灰黄褐砂質シルト	10YR3/2(黒褐)の粘土質シルトブロックを多量に含む。

第19図 SK1土坑～SK12土坑

SK-14土坑 (第20図)

4区中央北西寄りA・B-9グリット、SK-13土坑の南に並んで位置し、Ⅲ層上面で確認された。削平のため南西の一部は確認されなかった。平面形は長軸1.83m、短軸1.1m以上の隅丸長方形を基調としたもので、長軸方向はSK-13土坑と同方向のW-2°-Sである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い東壁で9cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹が多く、底面レベルは一定しない。土師器、赤焼け土器が出土した。

SK-15土坑 (第20図)

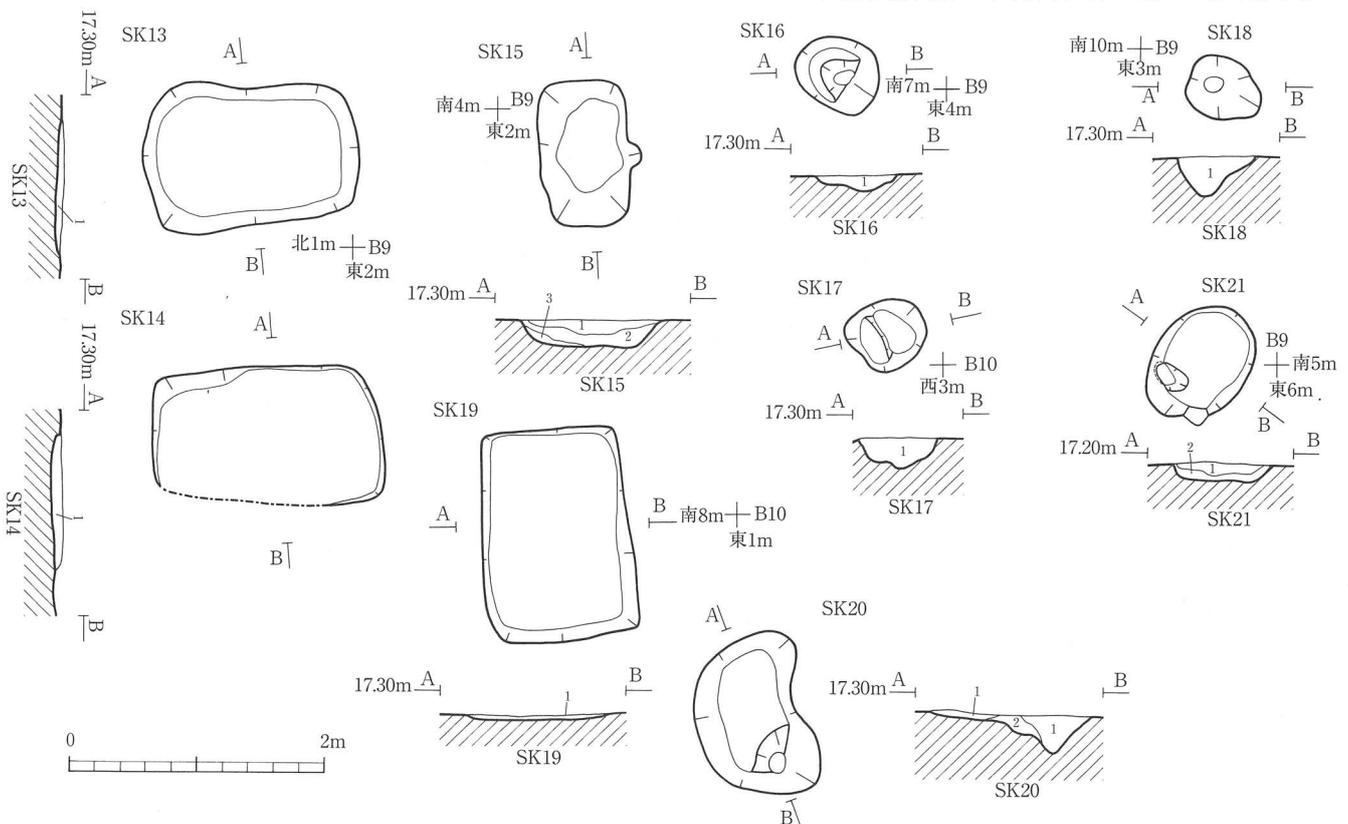
4区中央B-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.15m、短軸0.7mの隅丸長方形で、長軸方向はN-2°-Wである。堆積土は3層に分けられ、少量の炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い南壁で22cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹が多い。底面レベルは一定しないが、北壁際が最も高く、南壁際が低くなっている。土師器、須恵器が出土した。

SK-16土坑 (第20図)

4区中央南西寄りB-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.77m、短軸0.55mの不整な楕円形で、長軸方向はW-28°-Nである。堆積土は単層で、少量の炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い東壁で14cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は中央部が最も低く、西側が一段高くなっている。その比高差は7cmである。土師器、須恵器が出土した。

SK-17土坑 (第20図)

4区中央A-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-2 堅穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が切っ
ていることから、本遺構が新しい。平面形は長軸0.65m、短軸0.55mの不整な楕円形で、方向はW-26°-Sである。



遺構 No.	土色	土性	備考
SK13 1	10YR4/3 におい黄褐	砂質シルト	10YR3/2(黒褐)の粘土ブロックを多量に含む。
SK14 1	10YR4/3 におい黄褐	砂質シルト	10YR3/2(黒褐)の粘土ブロックを多量・木炭粒を少量含む。
SK15	1	10YR4/3 におい黄褐	砂質シルト 木炭粒を少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐	粘土質シルト 10YR4/3(におい黄褐)の砂質シルトブロックを多量に含む。
	3	10YR4/3 におい黄褐	砂質シルト 木炭粒を少量含む。
SK16 1	10YR4/2 灰黄褐	粘土質シルト	10YR4/3(におい黄褐)の砂質シルトブロックを少量・木炭粒・木炭を少量含む。
SK17 1	10YR4/3 におい黄褐	シルト	10YR3/2(黒褐)のシルト質粘土ブロックを多量・木炭粒を少量含む。

遺構 No.	土色	土性	備考
SK18 1	10YR3/2 黒褐	シルト	10YR3/1(黒褐)のシルトブロック・木炭粒を少量・焼き土粒を少量含む。
SK19 1	10YR3/2 黒褐	シルト質粘土	10YR4/2(灰黄褐)の砂質シルトブロックを少量含む。
SK20	1	10YR3/2 黒褐	粘土 10YR4/3(におい黄褐)の砂質シルトブロック・木炭粒を少量含む。
	2	10YR4/3 におい黄褐	砂質シルト 10YR3/2(黒褐)の粘土質シルトブロックを微量含む。
SK21	1	10YR3/4 暗褐	シルト 5Y4/1(灰)のシルトを斑状に、マンガ・炭化物・焼土を含む。
	2	10YR4/4 褐	砂質シルト 5Y4/1(灰)のシルトを斑状に、炭を若干含む。

第20図 SK13土坑～SK21土坑

堆積土は単層で、少量の炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い北東壁で22cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は東側が最も低く、西側が一段高くなっている。土師器が出土した。

SK-18土坑（第20図）

4区南端B-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.57m、短軸0.48mの不整な楕円形で、方向はW-27°-Nである。堆積土は単層で、多量の炭化物、少量の焼土粒を混入している。壁面は最も保存の良い西壁で34cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。土師器、赤焼け土器が出土した。

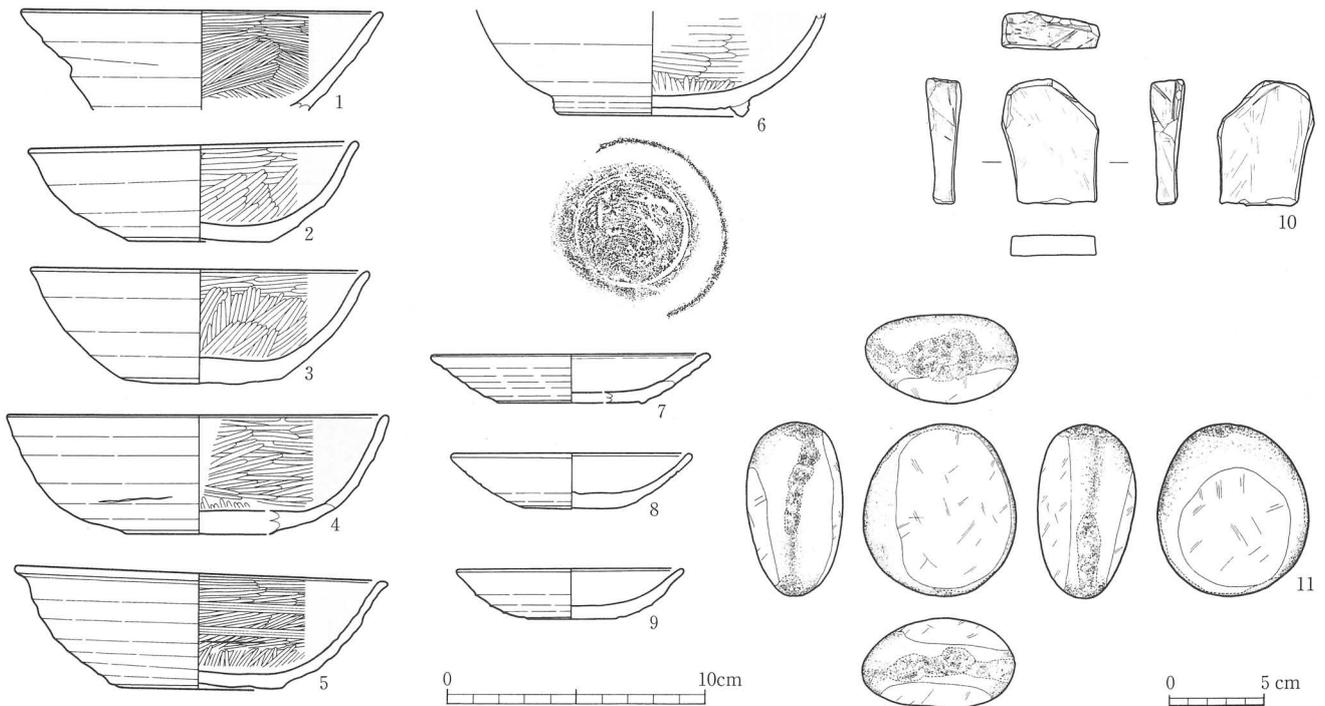
SK-19土坑（第20図）

4区南寄りB-9・10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-1 竪穴住居跡、ピットと重複関係にあり、SI-1 竪穴住居跡を切り、ピットに切られていることから、本遺構はSI-1 竪穴住居跡より新しく、ピットより古い。平面形は長軸1.7m、短軸1.17mの長方形で、長軸方向はN-2°-Wである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い東壁南側で4cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。土師器、縄文土器が出土した。

SK-20土坑（第20図）

4区南端B-10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-1 竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。平面形は長軸1.3m、短軸0.9mの不整な楕円形で、方向はN-0°-E・Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で17cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、南東部が深さ20cmの凹みになっている。土師器、縄文土器が出土し、土師器坏1点を図示した。

SK-21土坑（第20図）



No	登録番号	種別	器種	遺構	外	内	面	底部	備考	写真図版
1	2D-3	土師器	坏	SK 3	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理				
2	3D-4	土師器	坏	SK 7	ロクロ	ロクロミガキ・黒色処理	回転系切り			53-15
3	3D-3	土師器	坏	SK 7	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り			
4	4D-21	土師器	坏	SK12	ロクロ	ミガキ・黒色処理				
5	4D-8	土師器	坏	SK20	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り			53-19
6	3D-5	土師器	高台付坏	SK 8	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り	付高台		
7	4D-5	土師器	カワラケ	SK12	ロクロ	ロクロ	回転系切り			
8	4D-4	土師器	カワラケ	SK12	ロクロ	ロクロ	回転系切り			
9	4D-3	土師器	カワラケ	SK12	ロクロ	ロクロ	回転系切り			
No	登録番号	遺構	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考		写真図版
10	28	SK 7	砥石	(49.0)	37.5	13.5	27.7			
11	698	SK 1	礫石器	92.0	79.0	49.5	465.0	磨・蔽		

第21図 土坑出土遺物

4区中央B-9グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。ピットと重複関係にあり、ピットに切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.0m、短軸0.75mの不整な楕円形で、長軸方向はN-35°-Eである。堆積土は2層に分けられ、焼土、炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で15cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、南西部に深さ20cmのピットがある。土師器、須恵器、縄文土器が出土した。

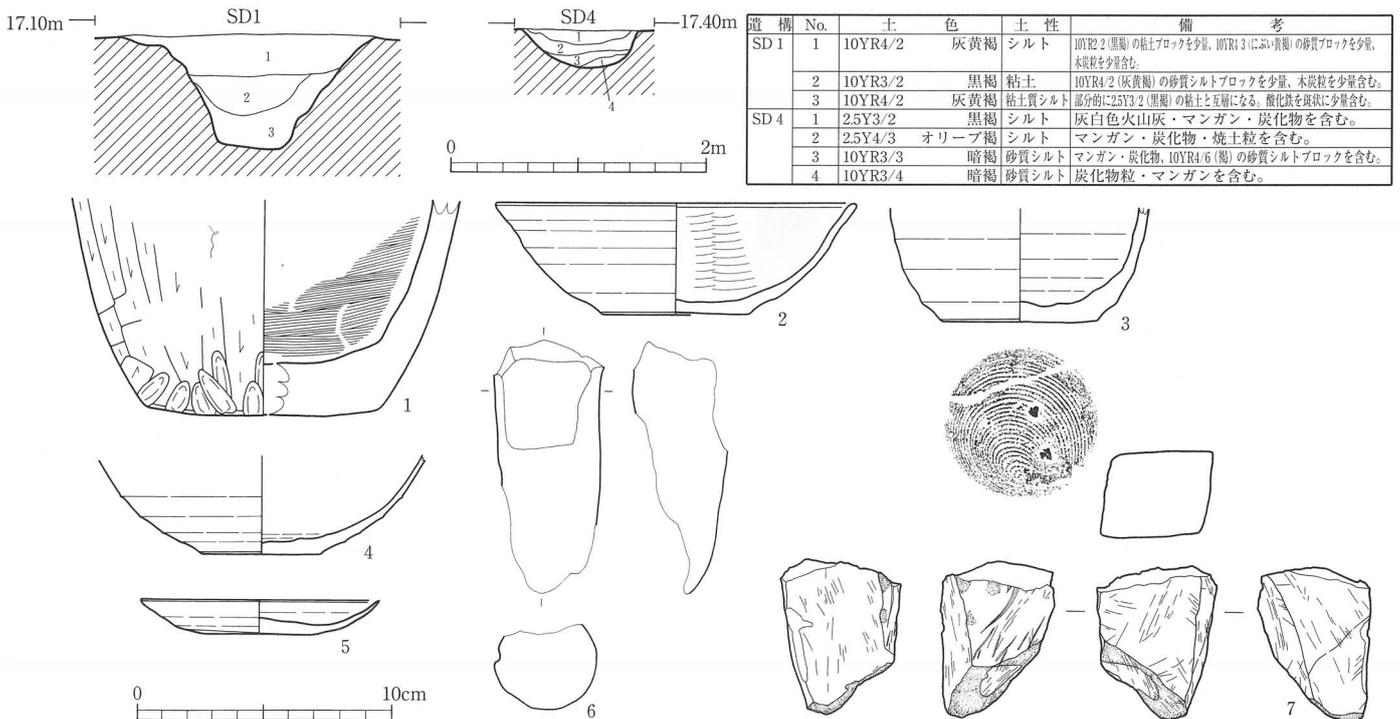
溝跡

SD-1 溝跡 (第6・22図)

5区の東部A・B-12グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。北と南は調査区外へ更に延びている。SD-2 溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。Bラインより南では直線的に延びており、方向はN-7°-Wである。北側では西へ向かって湾曲しながら延びている。確認された長さは約15mで、上端幅は北端で2mあり、南へ行くにしたがって狭くなっている。下端幅は55~35cmで、上端幅と同様に南へ行くにしたがって狭くなっている。堆積土は3層に分けられる。壁面は75~87cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がり、上半部は緩やかな角度で傾斜している。底面は平坦であるが、底面のレベルは緩やかに波打っている。土師器、須恵器、丸瓦、縄文土器、石製品が出土し、土師器甕1点を図示した。

SD-2 溝跡 (第6図)

5区の北部A・B-11・12グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。東と西は調査区外へ更に延びている。SD-1 溝跡と重複関係にあり、本遺構が古い。ほぼ直線的に延びており、方向はW-27°-Sである。確認された長さは約12mで、上端幅は30~50cmで西端でやや広がっている。下端幅は10~30cmである。堆積土は単層である。灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルトで、10YR5/2(にぶい黄褐)砂質シルトを混入する。壁面は5~10cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦であるが、底面のレベルは東から西に向かって緩やかに低



No.	登録番号	種別	器種	遺構	外	内	底	備	考	写真図版	
1	5C-1	土師器	甕	SD-1上層	ケズリ	ナデ	ナデ・棒状圧痕				
2	2D-2	土師器	杯	SD-4	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	回転糸切り				
3	2D-1	土師器	甕	SD-4	ロクロ	ロクロ	回転糸切り				
4	2D-25	土師器	杯	SD-4	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	赤焼			
5	5D-1	土師器	カワラケ	SD-2確認面	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り				
No.	登録番号	種別	遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考			写真図版
6	5P-23	柱状土製品	SD-2	100.0	43.0	33.0	118.3				53-51
No.	登録番号	地区	遺構	層位	種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
7	1187	5区	SD1	上層	砥石	(61.5)	47.0	35.0	131.1		

第22図 SD1・SD4 溝跡土層断面図・溝跡出土遺物

くなっている。土師器、かわらけ、土製品が出土し、かわらけ1点、土製品1点を図示した。

SD-3 溝跡 (第6図)

5区の南西部B-11グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。ややくねりながら延びている。方向はおよそW-42°-Nである。確認された長さは約7mで、上端幅は22~40cmで南端が幅65cmと広がっている。下端幅は5~12cmで上端幅に対応して南端が幅40cmと広がっている。堆積土は単層である。黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトである。壁面は3~12cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは南から北に向かって低くなっている。遺物は出土していない。

SD-4 溝跡 (第6・22図)

2区の北東部A-3~B-4グリットにかけて位置し、Ⅲ層上面に相当するSR-1上面で確認された。北西及び南東の調査区外に更に延びている。SK-4・5・6の各土坑、ピットと重複関係にあり、ピットに切られ、3基の土坑を切っていることからピットより古く、各土坑より新しい。北東側にやや弧を描きながら延びている。方向はおよそW-35°-N~W-47°-Nである。確認された長さは約11m、上端幅は70~85cmで、南側がやや広がっている。下端幅は20~40cmで上端幅に対応して南側が広がっている。堆積土は2層に大別される。層No.1に灰白色火山灰が混入している。壁面は20~26cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは北西から南東に向かって低くなっている。土師器、須恵器、かわらけが出土し、土師器坏1点、甕1点、かわらけ1点を図示した。

SD-5 溝跡 (第6図)

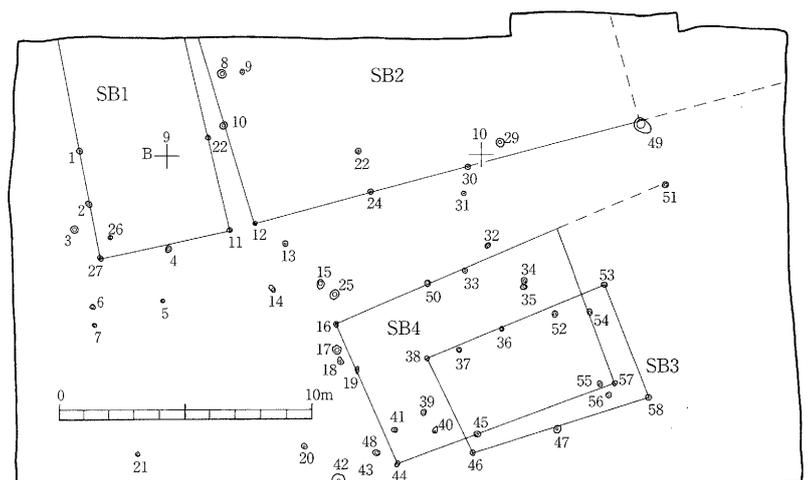
4区の北東部A-10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。やや弧を描きながら延びているが、両端は削平のためかすぼまりながら途切れている。方向はおよそW-20°-S~W-9°-Sである。確認された長さは約8m、上端幅は18~30cmである。下端幅は8~15cmである。堆積土は単層である。灰黄褐色(10YR4/2)シルトで、微量の炭化物粒を混入している。壁面は3~7cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは西から東に向かって低くなっている。土師器が出土した。

SD-6 溝跡 (第6図)

4区の北東部A・B-10グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。ほぼ直線的に延びているが、両端は削平のためかすぼまりながら途切れている。方向はおよそW-11°-Sである。確認された長さは約8m、上端幅は18~30cmである。下端幅は8~15cmである。堆積土は単層である。灰黄褐色(10YR4/2)シルトで、少量の炭化物粒を混入している。壁面は3~7cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは西から東に向かって低くなっている。土師器が出土した。

ピット群 (第6図)

2区から5区にかけてⅢ層上面及び、SR-1上面でピットが確認された。2区では14個、3区では5個、4区では58個、5区では22個のピットが検出された。後世の圃場整備や水田耕作による削平によって失われてしまったものも有ると思われ、遺存状況は悪い。2区のSD-4と5区のSD-1に挟まれた範囲に多く、2区のSD-4より西には4個のピットがみられたのみである。SD-1とSD-4は方向も似ており、何らかの施設を区画する溝である可能性がある。ピット



第23図 4区建物跡

群は柱痕跡が確認できるもの、埋土に共通性のあるもの、規模、深さに共通性のあるものの中にはみられるが、掘立柱建物跡として組み合う可能性を指摘できるものは4区の4棟のみであり、2、3、5区では掘立柱建物跡として確認することは出来なかった。ピットからの出土遺物は土師器、須恵器、かわらけ、鉄滓等があり、焼土や炭化物が混入しているものも多い。図示したものは土師器坏1点、かわらけ3点である。

S B - 1 掘立柱建物跡 (第23図)

4区の北西部A・B-8・9に位置し、Ⅲ層上面及びSR-1上面で確認された。位置的にSK-13・14土坑と重複していると思われるが、直接の新旧関係は不明である。東西2間、南北1間以上の南北棟と考えられる。南側柱列では6.35m、東側柱列では5.85m以上、西側柱列では6.95m以上である。方向は西側柱列でN-11°-Wである。P1から土師器、かわらけが出土した。

SB-2 掘立柱建物跡 (第23図)

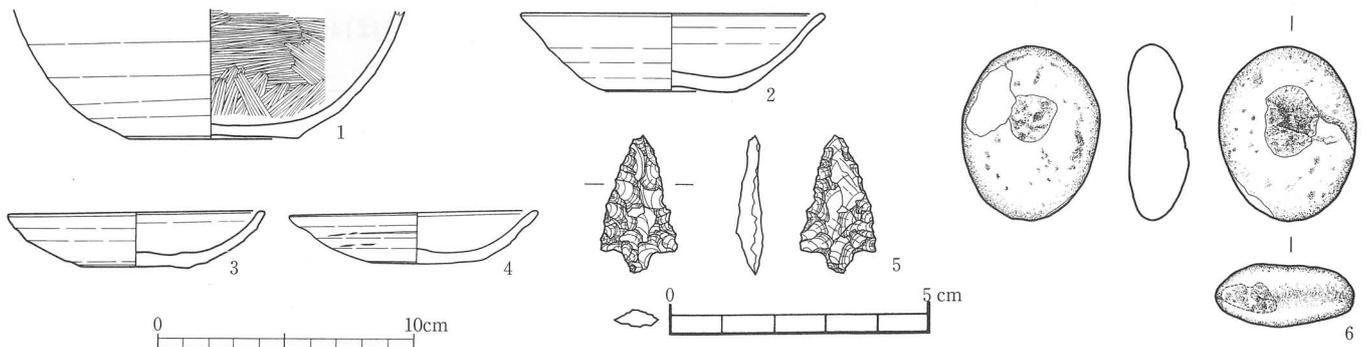
4区の北半部A・B-9に位置し、Ⅲ層上面で確認された。位置的にSI-2、4堅穴住居跡、SK-12、13、17土坑、SD-5、6溝跡と重複しており、直接の関係はSI-4堅穴住居跡、SD-6溝跡を切っていることから本遺構が新しい。その他の遺構との直接の新旧関係は不明である。東西3間、南北1間以上の東西棟と考えられる。南側柱列は12.7mであるが、南東隅がP30とすると7.0mとなる。西側柱列では5.6m以上である。東側柱列では3.7m以上、P30からでは3.75m以上となる。この東側の柱がP30あるいは49で北に折れなければ、南側柱列が更に東へ延び、L字型の塀あるいは柵のようなものであることも考えられ、その場合は南側柱列の長さは17m以上となる。方向は南側柱列でE-13°-Nである。P12、24、49から土師器、須恵器が出土した。

2区ピット土層註記					2区 ピット (cm)																
掘り方	No.	土色		土性	備考	No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	
		A	B				埋土	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B	A	B
A	2.5Y4/1	黄灰	シルト質粘土			埋土	A	B	B	A	B	A	B	B	B	B	B	B	A	A	B
	10YR4/4	褐	砂質シルト			深さ	14	27	29	36	25	22	16	13	30	36	29	13	16	24	
B	2.5Y4/3	オリーブ褐	砂質シルト			柱痕跡	A	B	B+C	A	B	A	B	B	B	B	B	A	A	B+C	
	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	砂質シルト			深さ	14	27	29	36	25	22	16	13	30	36	29	13	16	24	
C			灰白次山灰																		

3区ピット土層註記					3区 ピット (cm)						
掘り方	No.	土色		土性	備考	No.	P1	P2	P3	P4	P5
		A	B				埋土	A	B	C	C
A	10YR3/1	黒褐	粘土質シルト			埋土	A	A	B	C	C
B	10YR2/1	黒	シルト			深さ	14	17	13	9	16
C	10YR3/1	黒褐	砂質シルト								

4区ピット土層註記											4区 ピット (cm)																
No.	土色	土性	備考	No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17						
					A1	A1	A1	B1	A2	A2	B2	A1	C1	E1	C1	D1	A1	A1	D2								
A1	10YR4/2	灰黄褐	粘土質シルト	10YR5/4 (にぶい黄褐) の砂質シルトブロックを少量含む。	埋土	A1	A1	A1	B1	A2	A2	B2	A1	C1	E1	C1	D1	A1	A1	D2							
A2	10YR4/2	灰黄褐	粘土質シルト		深さ	8	14	25	14	6	11	8	15	10	19	11	14	20	22	18	10	17					
A3	10YR4/2	灰黄褐	粘土質シルト	木炭粒を少量含む。	No.	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34					
A4	10YR4/2	灰黄褐	粘土質シルト	10YR5/4砂質シルトブロックを少量、木炭粒を微量含む。	埋土	D2	C1	C1	C1	C1	A1	C1	A3	B1	A2	-	C1	A1	C1	A1	A1	C2					
B1	10YR3/3	暗褐	粘土質シルト	木炭物を少量含む。	深さ	5	8	17	17	15	10	19	11	15	15	-	22	-	14	7	6	15					
B2	10YR3/3	暗褐	粘土質シルト		No.	P35	P36	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50	P51					
C1	10YR3/2	黒褐	粘土	10YR4/3砂質シルトブロックを少量含む。	埋土	C2	C1	C1	A1	A1	C2	A1	C2	B2	A3	C1	C1	C1	C1	A2	B1	A3					
C2	10YR3/2	黒褐	粘土	10YR4/3砂質シルトブロック、木炭粒を少量含む。	深さ	14	17	13	12	16	32	9	8	9	19	12	17	20	18	8	12	23					
D1	10YR4/3	にぶい黄褐	砂質シルト	10YR4/3シルトブロックを多量含む。	No.	P52	P53	P54	P55	P56	P57	P58															
D2	10YR4/3	にぶい黄褐	砂質シルト	10YR3/1のシルトブロックを多量、焼土塊を少量含む。	埋土	A4	A4	A4	C2	C2	A3	C2															
E1	10YR3/1	黒褐	粘土	10YR4/3砂質シルトブロックを微量含む。	深さ	9	10	15	7	17	11	17															

5区ピット土層註記					5区 ピット (cm)																	
No.	土色	土性	備考	No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	
					A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
PI-2	10YR3/3	暗褐	粘土	10YR4/3シルトブロックを少量含む。	埋土	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
P22	掘り方 5Y4/1	灰	砂質シルト		深さ	14	15	18	16	18	16	11	27	14	8	13	13	13	21	17	9	12
	柱痕跡 10YR2/1	黒	粘土	木炭粒を少量含む。	No.	P18	P19	P20	P21	P22												
					深さ	9	26	19	15	40												



No.	登録番号	種別	器種	遺構	外 面	内 面	底 部	備 考	写真図版	
1	3D-1	土師器	坏	P3	ロクロナデ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		53-14	
2	4D-7	土師器	かわらけ	P42	ロクロ		回転系切り		53-32	
3	4D-2	土師器	かわらけ	P1	ロクロ		回転系切り		53-30	
4	4D-6	土師器	かわらけ	P15	ロクロナデ		回転系切り		53-31	
No.	登録番号	地 区	遺 構	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
5	1189	5区	B11	P25	石鏃	27.5	15.0	5.2	1.5	
6	1199	5区	AB11	P31	礫石器	69.5	54.5	23.5	110.0	巖・門

第24図 ピット出土遺物

SB-3 掘立柱建物跡 (第23図)

4区の中央南寄りB-9・10に位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-1 竪穴住居跡、SK-19、21土坑と重複しており、それぞれの遺構を切っていることから、本遺構が新しい。また、位置的にSB-4 建物跡と重複しているが直接の新旧関係は不明である。北西隅の柱穴は確認できなかったが東西2間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は7.4mである。西側柱列では4.85mである。東側柱列では5.15mと考えられる。北側柱列は7.85mと考えられるが、更に東のP51まで延びて11.4mとなり、それに対応して南側の柱列も長くなることが考えられる。また、北側柱列がP51から更に東へ延び、SB-3 建物跡に取りつく塀あるいは柵のようなものであることも考えられ、その場合は北側柱列の長さは14.9m以上となる。方向は南側柱列でE-19°-Nである。P16、45、51、から土師器が、P44から丸瓦が出土した。

SB-4 掘立柱建物跡 (第23図)

4区の南東寄りB-9・10に位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-1 竪穴住居跡と重複しており、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。また、位置的にSB-3 建物跡と重複しているが直接の関係は不明である。東西2間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は5.9mである。西側柱列では3.35mである。東側柱列では4.85mである。北側柱列は6.1mである。方向は南側柱列でE-16°-Nである。P58から土師器が出土した。

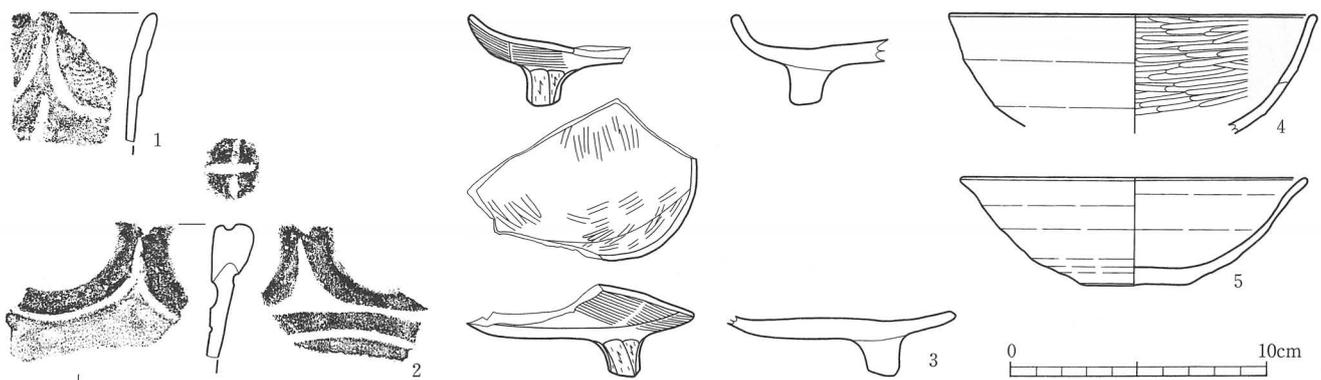
SR-1 河川跡 (第6図・26図)

〔遺構の確認〕 1区～4区の西寄りA～C-1～9にかけて位置し、Ⅱ層下面で確認され、4区まで遺構検出作業が進んだところで東岸が明らかになったものである。西岸は西側の調査区外であると考えられる。検出層位はⅢ層上面である。南北方向のものであると考えられるが流れの方向は不明である。

〔堆積土〕 1区では33層、2区では32層、3区では16層、4区で9層に細分されるが、それぞれの対応関係は不明である。特に3区では砂利層、礫層が検出面に見られる部分があり、4区の6層はⅣb層遺物包含層に対応し、壁際に堆積している。また、4区のA～C-9以西では、上面が古代以降の遺構確認面となっており、古代には大部分が埋まっていたものと思われるが、灰白色火山灰を混入する層もあり、出土遺物からも古代以降にも完全に埋まりきらなかった部分もあったことが考えられる。

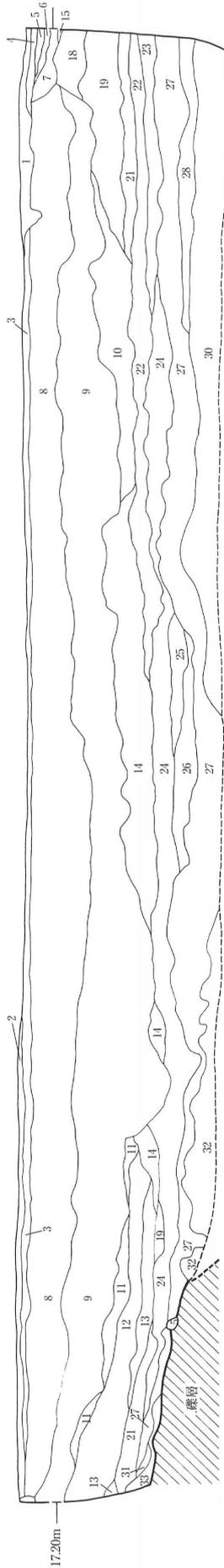
〔壁面・底面〕 壁面は3区で検出された。底面からの立ち上がりは不明であるが、緩やかに立ち上がり、検出面近くで更に緩やかな角度になっている。1区の西側で底面の一部が検出され、人頭大～手のひら大の礫が積み重なって、南東方向に緩やかに下がっている。

〔出土遺物〕 土師器、須恵器、縄文土器、赤焼け土器、かわらけ、石器、石製品等が出土している。これらは全て混在して出土した。これらのうち縄文土器2点、土師器坏16点、高台付坏2点、須恵器坏2点、甕2点、赤焼土器坏2点、かわらけ4点、土製品2点、石器4点、石製品1点を図示した。

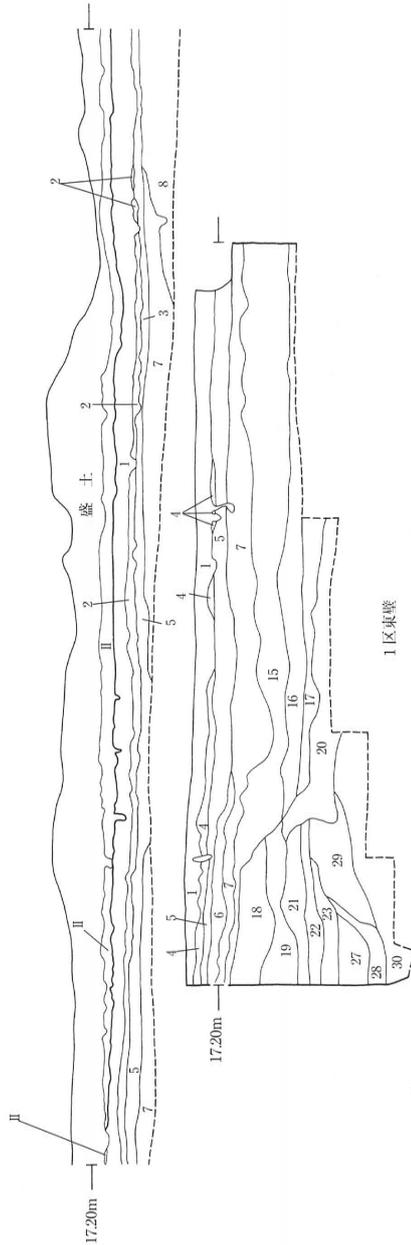


No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	3A-1	縄文土器	深鉢	礫層	沈線文	ミガキ	—	—	55-8
2	3A-2	縄文土器	深鉢	深掘り	沈線文・刻目文・隆線文	沈線文	—	—	55-9
3	2C-1	土師器	耳皿		ナデ・ケズリ	ミガキ	磨減	3脚?	53-2
4	2D-6	土師器	坏		ロクロ	ミガキ・黒色処理	—	—	—
5	5D-4	土師器	坏	上層	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り	—	—

第25図 SR1 河川跡出土遺物 (1)

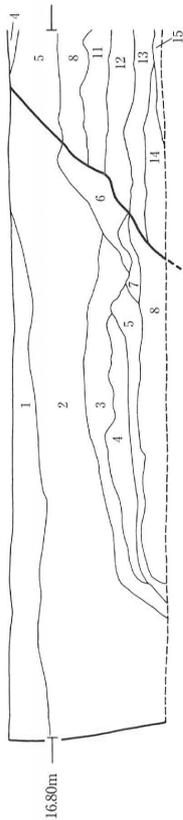


1区北壁



1区東壁

SR-1 河川跡



4区北壁

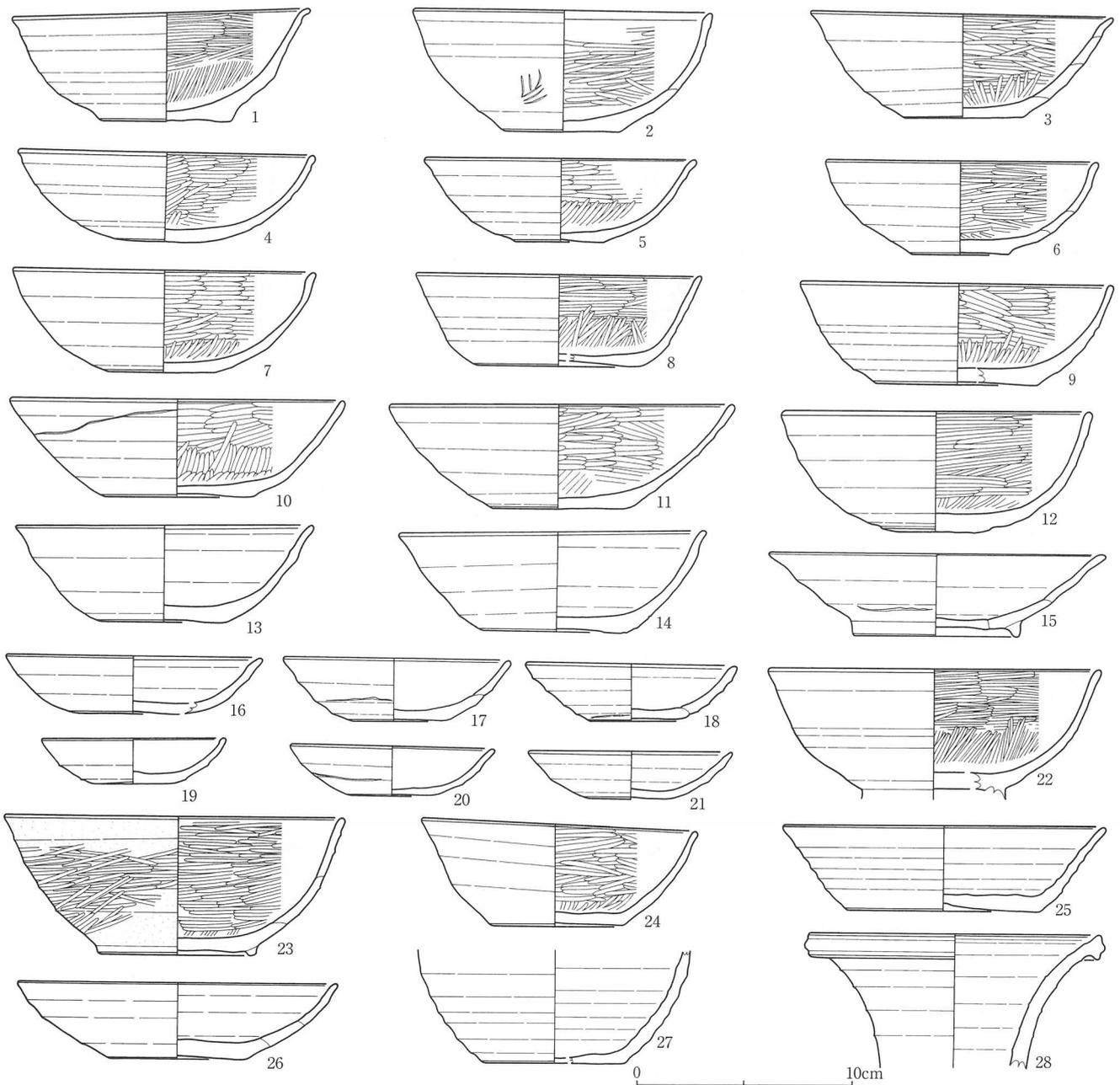
1区土層註記

層No.	土色	土性	備考
1	10YR3/2	黒褐 砂質シルト	酸化鉄・マンガン・炭化物を含む。
2	25Y4/2	暗灰黄 砂質シルト	しまり大、マンガン・酸化鉄を含む。
3	10YR3/4	暗褐 砂質シルト	酸化鉄を含む。
4	10YR3/2	暗褐 砂質シルト	25Y3/1 (黒褐) の細砂ブロックをところどころに含む。
5	25Y4/2	暗灰黄 砂質シルト	酸化鉄・マンガン・炭化物を含む。
6	10YR4/1	褐灰 細砂	マンガン・粗砂ブロックを含む。
7	10YR3/4	暗褐 細砂	認め難く、マンガン・粗砂ブロックを含む。
8	10YR4/3	におい黄褐 砂質シルト	25Y3/1 (黒褐) の粗砂ブロックを認め難く、マンガン・粗砂ブロックを含む。
9	10YR4/4	褐 粘土質シルト	マンガンを多量、酸化鉄・10YR4 (褐) の大きいシルトブロックを含む。
10	10YR3/3	暗褐 砂質シルト	マンガンを多量、酸化鉄を含む。
11	10YR4/3	におい黄褐 シルト	マンガンを多量、酸化鉄を含む。
12	10YR4/4	褐 粘土質砂	マンガン集積部分を含み。
13	10YR4/2	暗灰黄 砂質シルト	マンガン集積部分を含み。
14	5Y4/2	灰オリーブ 砂質シルト	多量のマンガンを含み、酸化鉄を含む。
15	25Y3/2	黒褐 粗砂~小礫	粗砂~小礫が互層状になる。マンガン・酸化鉄を含む。
16	25Y4/1	黄灰 粗砂	上層との層理面に酸化鉄集積、酸化鉄・マンガンほとんどなく含む。
17	7.5Y3/1	オリーブ黒 粘土質砂	マンガン・酸化鉄を含む。腐植土層の部分、植物遺体多量を含む。
18	25Y3/2	黒褐 微砂	マンガン・酸化鉄を含む。
19	25Y4/2	暗灰黄 砂質シルト	マンガン・酸化鉄・炭化物を含む。
20	25Y4/2	暗灰黄 粗砂	上層の層理面に酸化鉄集積、植物遺体多量を含む。
21	25Y4/3	オリーブ褐 粘土質砂	酸化鉄・マンガンを含む。
22	5Y5/3	灰オリーブ 細砂	酸化鉄を含む。
23	5Y3/2	オリーブ黒 シルト	マンガン・酸化鉄を含む。しまり大。
24	25Y4/4	オリーブ褐 砂質シルト	酸化鉄・マンガン・炭化物を含む。
25	25Y4/2	暗灰黄 シルト	粗砂、しまり大、炭化物を若干・マンガン・酸化鉄を含む。
26	7.5YR7/2	灰褐 粘土質シルト	しまり大、25Y4/2 (暗灰黄) のシルトブロック、酸化鉄を含む。
27	10YR4/2	暗灰黄 シルト	粗砂、しまり大、酸化鉄・マンガンを含む。西側では礫質上。
28	25Y5/3	黄褐 砂質シルト	部分にしまり大、25Y4/3 (オリーブ褐) のシルトを含み、酸化鉄を含む。
29	5Y5/2	灰オリーブ 細砂	上部に粗砂・炭化物・マンガン・酸化鉄を含む。
30	5Y4/1	灰 粘土	粗砂、部分にしまり大、酸化鉄・マンガンの層理面あり、粗砂は礫質上。
31	25Y4/2	暗灰黄 細砂	粗砂、酸化鉄・マンガンを含む。
32	25Y5/4	黄褐 粘土	粗砂、酸化鉄多量を含む。腐状の部分。
33	25Y4/4	オリーブ褐 粗砂~細砂	西側端礫層上にかぶる。

4区土層註記 (河川跡)

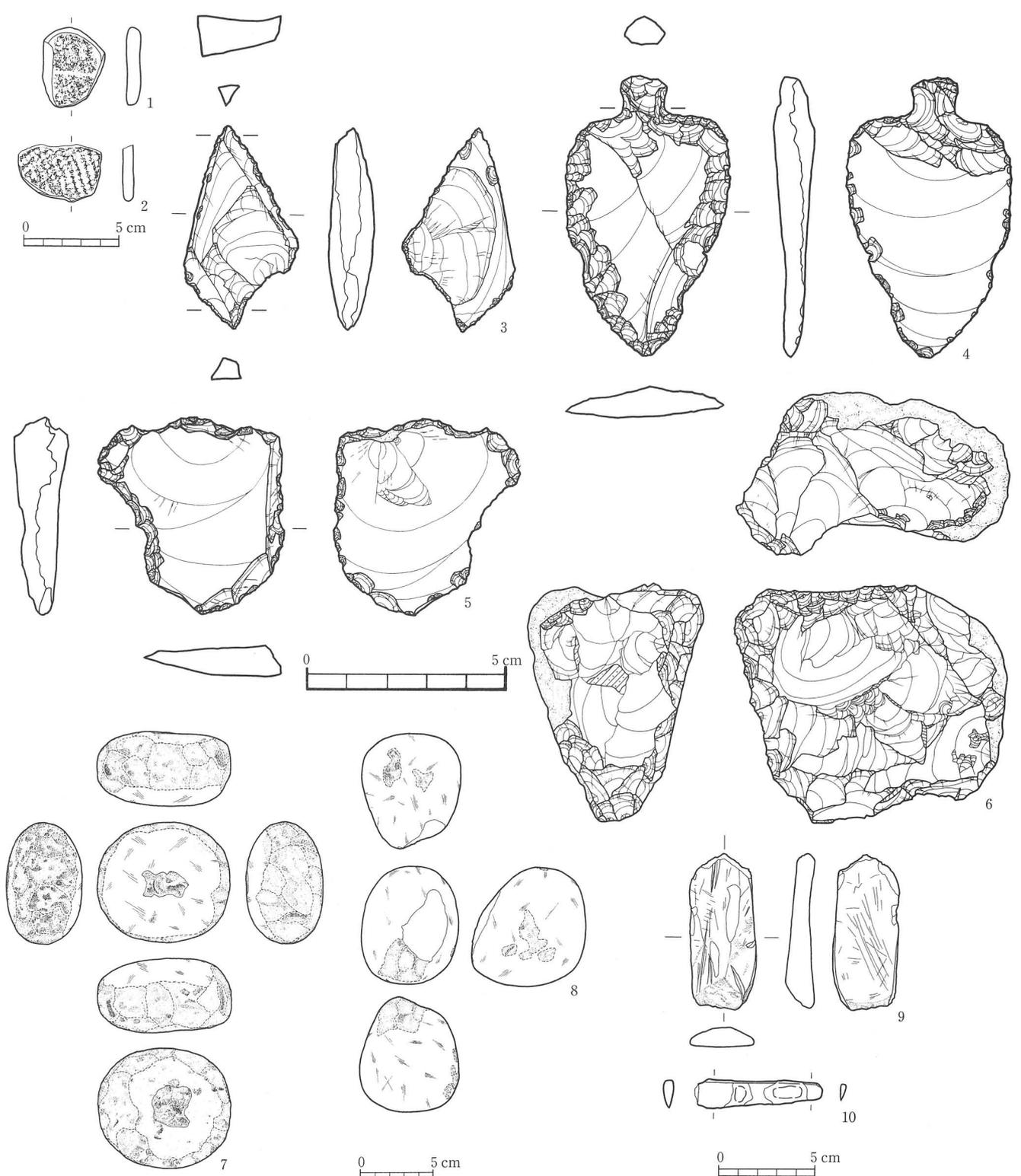
層No.	土色	土性	備考
1	7.5YR4/4	褐 粘土質砂	炭化物・マンガン・10YR5/6 (黄褐) の細砂ブロックを含む。
2	10YR4/6	褐 粘土質砂	酸化鉄の一部混入している部分あり、マンガン・酸化鉄を含む。下部礫質シルトの層理。
3	5Y4/4	暗オリーブ 細砂	マンガン・酸化鉄・炭化物をまばらに含む。
4	25Y4/6	オリーブ褐 粘土質シルト	マンガン・酸化鉄を3層よりまばらに含む。
5	5Y4/2	灰オリーブ 粘土質シルト	炭化物・マンガン・酸化鉄を含む。
6	10YR4/4	褐 粘土質砂	炭化物・マンガンを含む。W層をSR-1が閉って崩れた上層と思われる。
7	5Y4/1	灰 粘土質砂	酸化鉄を含む。下部25Y3/3 (オリーブ褐) の粗砂層に付。
8	5Y5/3	灰オリーブ 粘土質砂	マンガン・酸化鉄を含む。

第26図 SR-1 河川跡土層断面図



No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	2D-8	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		53-5
2	2D-9	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り	体部に線刻あり	53-6
3	2D-10	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		53-7
4	2D-11	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		
5	2D-12	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		
6	2D-14	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		53-9
7	2D-16	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		
8	2D-17	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		
9	2D-18	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		
10	2D-19	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り	輪積痕跡あり	53-11
11	2D-20	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		53-12
12	2D-21	土師器	環	深掘り	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		53-13
13	2D-13	土師器	環	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転系切り		53-8
14	2D-15	土師器	環	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転系切り		53-10
15	1D-1	土師器	高台付環	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切りナデ	赤焼	53-33
16	2D-22	土師器	環	深掘り	ロクロ	ロクロ	—	赤焼	
17	2D-28	土師器	カワラケ	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転系切り		53-29
18	2D-27	土師器	カワラケ	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転系切り		53-28
19	2D-23	土師器	環	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転系切り	赤焼	
20	2D-24	土師器	カワラケ	—	ロクロ	ロクロ	回転系切り		53-26
21	2D-26	土師器	カワラケ	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転系切り		53-27
22	2D-5	土師器	高台付環	上層	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	—		
23	2D-7	土師器	高台付環	深掘り	ロクロ・ヘラミガキ	ヘラミガキ・黒色処理	ナデ		53-34
24	3D-8	土師器	環	—	ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転系切り		53-16
25	2E-3	須恵器	環	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転ヘラケズリ		
26	2E-4	須恵器	環	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転系切り		
27	2E-2	須恵器	甕	深掘り	ロクロ	ロクロ	回転系切り		
28	2E-1	須恵器	甕	最上層	ロクロ	ロクロ	—		53-48

第27図 SR1河川跡出土遺物(2)



No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版	
1	3P-1	土製円盤		42.0	(33.0)	7.0	11.5		55-27	
2	3P-2	土製円盤		(30.0)	40.0	55.0	9.7		55-28	
10	2N-3	刀子		66.0	16.0	6.0	9.5		57-3	
No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
3	39	3区	東深掘	石錐	52.5	29.0	10.5	13.0		55-126
4	701	4区	B8-5	石匙	72.5	41.5	10.0	22.2		55-120
5	32	3区	礫層	スクレイパー	51.0	47.0	9.5	46.6		56-125
6	20	2区	深掘	石核	69.0	61.5	42.0	190.4		56-12
7	707	4区	B8-9	礫石器	91.0	84.0	49.0	460.1	磨・敲・凹	56-19
8	8	1区		礫石器	82.5	78.0	68.0	626.9	磨・敲	56-23
9	21	2区	深掘	砥石	(81.5)	35.0	10.4	45.4		56-45

第28図 SR1 河川跡出土遺物 (3)

(2) 縄文時代の遺構と出土遺物

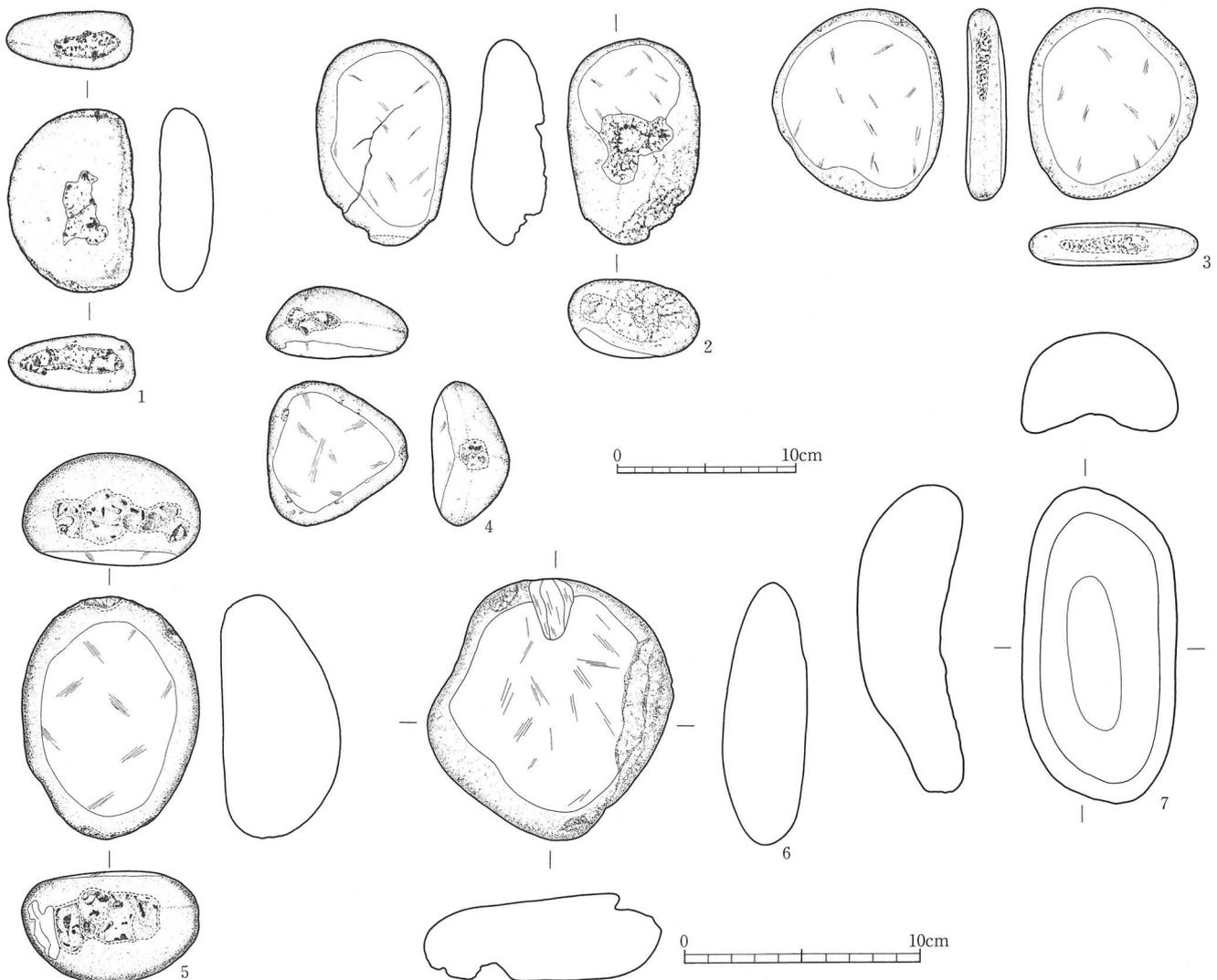
IVa層検出遺構

配石遺構

1号配石 (第31図)

〔遺構の確認〕 4区の中央A・B-9グリットに位置している。上層検出のSI-2 竪穴住居跡の床面及び掘り方底面で既に配石の上面が表面に現れていたものである。Ⅲ層を除去しⅣ層上面 (遺物包含層上面) を検出しようとした際に遺物包含層の上位の土層の上面で全体が現れたものである。確認面はIVa層上面ということになる。配石遺構とその南西及び北西に配石に伴う形で弧状に延びる列石が確認された。これらには重複関係は認められず、一体の遺構であると考えられる。また、列石の北西端の北に隣接して2号配石が検出され、南側の列石をはさんで焼土遺構が2基検出されている。これらの遺構との直接の関係は不明である。

〔平面形・規模〕 配石部分は弧状の列石から北東に方形に張り出すような形になっており、一部にSI-2 竪穴住居による削平で礫が抜けている部分もみられるが、列石部分を含めると一辺1.3mの方形である。列石から張り出している方向はE-30° -Nである。



No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	428	4区	AB9	礫石器	106.0	72.0	31.0	316.5	敲・凸	
2	441	4区	AB9	礫石器	119.0	75.0	42.0	495.8	磨・敲・凹、焼け	
3	429	4区	AB9	礫石器	111.0	96.0	22.0	375.9	磨・敲	
4	451	4区	AB9	礫石器	83.5	80.0	42.0	289.0	磨・敲	
5	423	4区	AB9	礫石器	141.0	101.5	67.0	1200.0	磨・敲	
6	430	4区	AB9	砥石	140.0	106.0	36.5	520.0		56-36
7	411	4区	AB9	石碗	138.0	67.0	39.5	525.0		56-33

第29図 1号配石出土遺物

列石は長軸6.5m前後、短軸5.5m前後の楕円形であったものがSR-1河川跡等によって削平され、配石の南側と西側に弧状に残存したものか、本来が弧状のものであったのかは不明であるが、約30cmの幅に礫が並べられている。〔配石〕配石はやや平らで長楕円形あるいは長方形の礫を立て並べている。北辺沿いには一部を除いて礫が外されているため、その状況は明らかではないが、南辺沿いにはやや厚みのある礫を並べ、東半部は東辺に沿って南辺同様やや厚みのある礫を並べ、中央近くには小振りの礫を並べている。中央部から列石迄の間は厚みのない小振りの礫を列石から張り出している方向に並べている。いずれの礫も平らに敷き並べたものより、立てて並べているものが多いところが一つの特徴である。

礫の下部には掘り方が検出された。二段構造になっている。上段の平面形は南北1.3m、東西1.25mの不整な五角形である。壁の高さは5cm～13cmで底面から緩やかに立ち上がる。下段は底面の北西側に掘り込まれている。平面形は東西1.03m、南北0.6mの不整な隅丸の長方形である。壁の高さは15cmで、底面から緩やかに立ち上がる。全体の深さは約30cmである。下段の長軸方向はE-42°-Nで、集石の方向と約12°ずれている。堆積土は4層に分けられ、炭化物が混入しているが、その他の混入物は見られなかった。

〔列石〕配石の北西部にSI-2 堅穴住居跡の掘り方によって削平されている部分があり、礫は削平部分の南側に多く残存し、西側ではほとんど残っておらず、掘り方と考えられる幅30cmの溝が検出され、礫が疎らに見られるのみである。弧状に残存している部分の弦に当たる線の方向はN-28°-Wで配石の方向とはほぼ垂直の方向を指している。列石に用いられている礫は配石に接している部分では、20cm前後の比較的大振りのものであるが、その他の部分では10cm以下の小振りのものである。配石と同様に礫は立て並べられているものが多い。

礫の下部の掘り方は配石に接する付近が最も幅が広く35cm～50cmあり、西端部で25cmである。壁の高さは3cm～10cmで、底面から緩やかに立ち上がり、断面形は緩やかな「U」字形である。底面は凸凹しており、一定しない。底面レベルは配石に接する付近が最も低く、両端に向かって徐々に高くなる。礫は掘り方底面に接しているものと、底面から浮いた状態のものがある。

〔出土遺物〕配石及び列石の掘り方から縄文土器細片が出土している。また配石及び列石中に礫石器が転用されていた。そのうち石器6点、石製品1点を図示した。

2号配石 (第30図・31図)

〔遺構の確認〕4区の北東寄りA-9グリット、1号配石西端の北西に隣接して位置し、IVa層上面で確認された。他の遺構との重複関係はない。

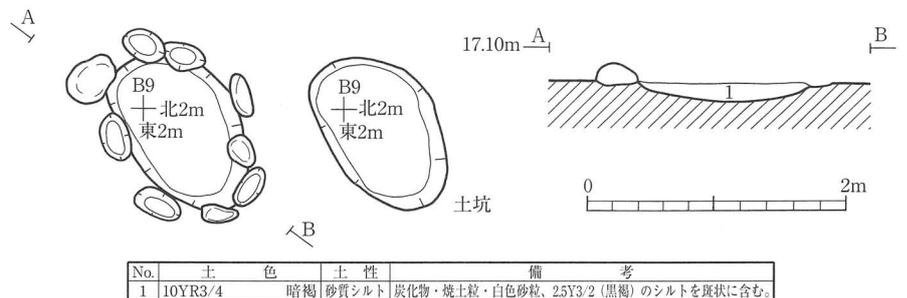
〔平面形・規模〕配石は4個の礫が残存していたのみであったが、精査の結果、4個の礫の他に5か所の礫

の抜き取り痕と土坑を検出した。残存する礫と礫の抜き取り痕から配石の平面形、規模は長軸0.9m、短軸0.65m程と考えられる。長軸方向はN-43°-Wである。

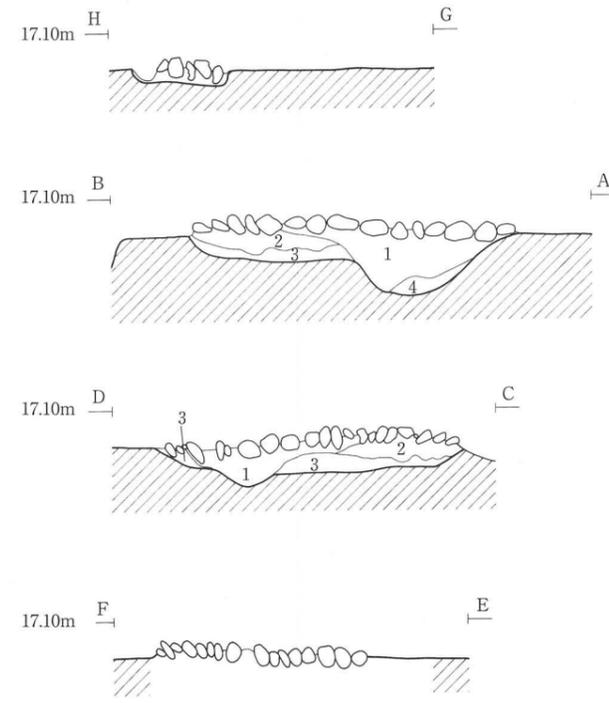
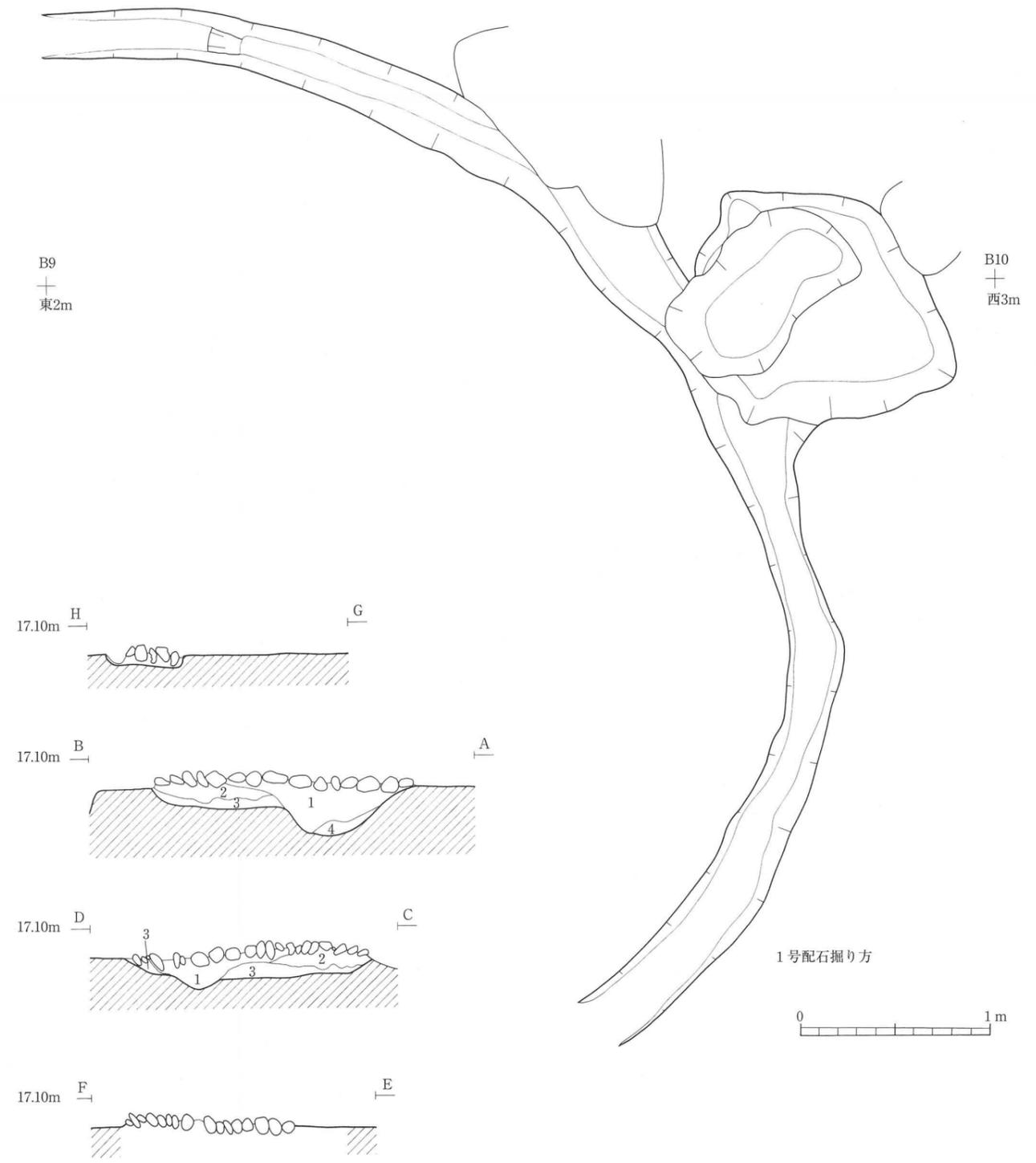
〔土坑〕土坑は長軸0.75m、短軸0.45mの楕円形である。堆積土は単層で、炭化物、焼土粒、白色砂粒を混入している。壁の高さは5cmで、底面から緩やかに立ち上がる。底面に凸凹はみられず、底面レベルは中央が最も低く、壁際に向かって徐々に高くなる。

〔出土遺物〕配石上面、土坑内部から遺物の出土はなかったが、配石中に礫石器が転用されていた。

3号配石 (第32図)



第30図 2号配石



1号配石列石掘り方埋土				
No.	土色	土性	備考	
1	10YR3/3	暗褐 砂質シルト	10YR4/4 (褐) のシルトを斑状に含む。	
1号配石掘り方				
No.	土色	土性	備考	
1	2.5Y4/3	オリーブ褐 砂質シルト	酸化鉄・マンガン・径0.5~1.5cmの礫。	
2	10YR3/4	暗褐 砂質シルト	炭化物粒・マンガンを含む。	
3	7.5YR3/3	暗褐 シルト	炭化物・マンガン。	
4	2.5Y4/4	オリーブ褐 砂質シルト	10YR3/4 (暗褐) の砂質シルトブロックを斑状、炭化物を若干含む。	

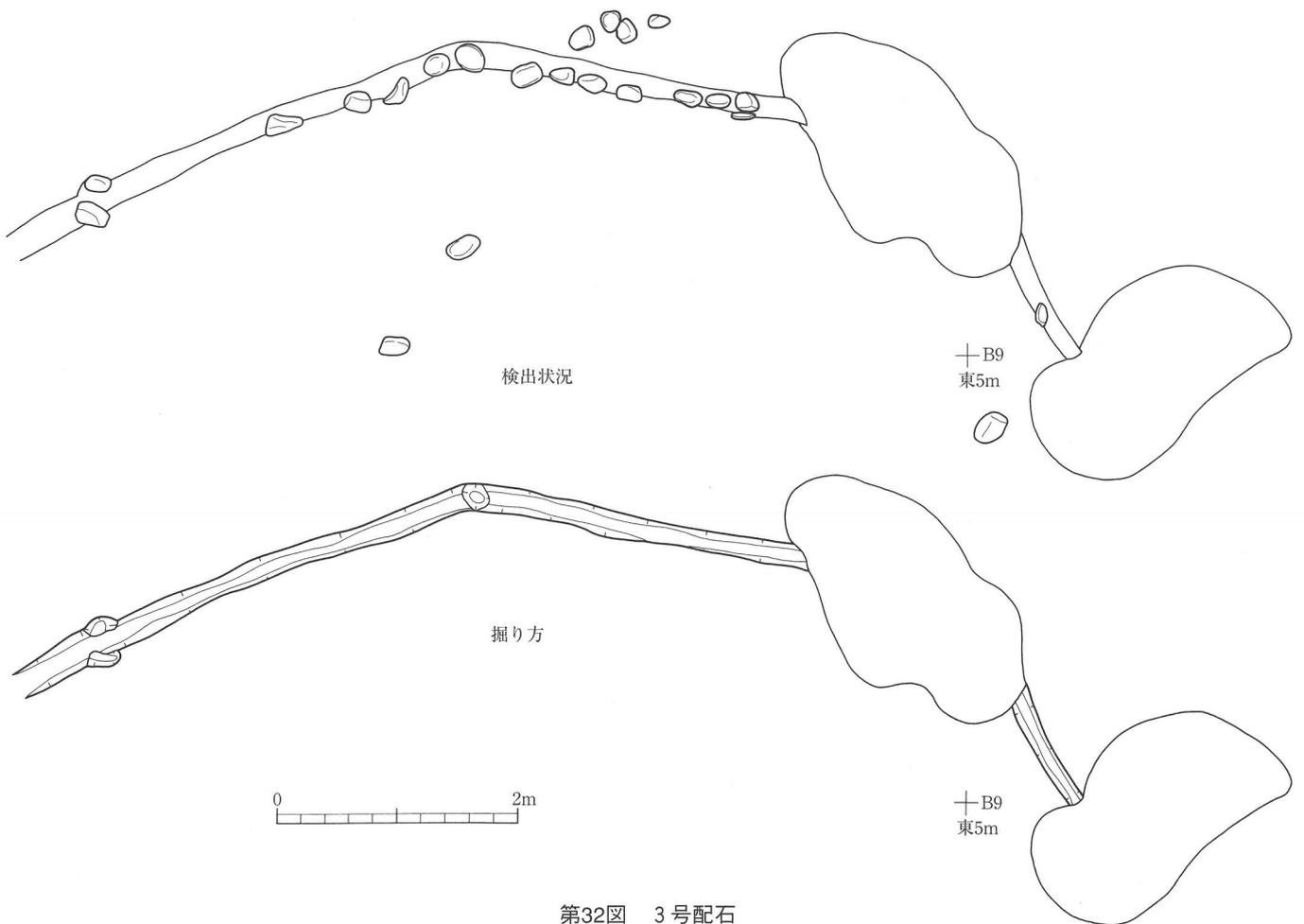
第31図 1号配石・周辺の遺構

〔遺構の確認〕 4区の北東寄りA-9グリット、1号配石の列石北側部分の掘り方底面で1号配石の列石と方向が若干異なる礫の列が検出され、精査の結果、疎らではあるが礫が並ぶ部分と散乱する部分、掘り方と思われる溝を確認した。これらを3号配石とした。確認されたのはIVa層上部である。

〔平面形・規模〕 配石は1号配石の掘り方に重なっている部分があり、屈曲する部分もあるが、ほぼ一列に礫が並べられている。北側に散乱している礫は列から外れたものであると考えられる。礫は約3.6mの長さに並んでいる。礫の方向は屈曲部の西が $W-23^{\circ}-S$ 、東が $W-12^{\circ}-N$ である。

〔掘り方〕 掘り方は1号配石の配石部分の掘り方の北から削平を受けている部分を除いて計4mの長さで検出された。屈曲しながら西へ延びている。幅は7~12cm、深さは1号配石の列石部分の掘り方による削平で2cm前後と残存状況は良くない。底面は礫の痕跡か凸凹がみられるが、レベルはほぼ一定である。東側の掘り方の方向は $N-28^{\circ}-W$ である。

〔出土遺物〕 配石中に礫石器が転用されていた。

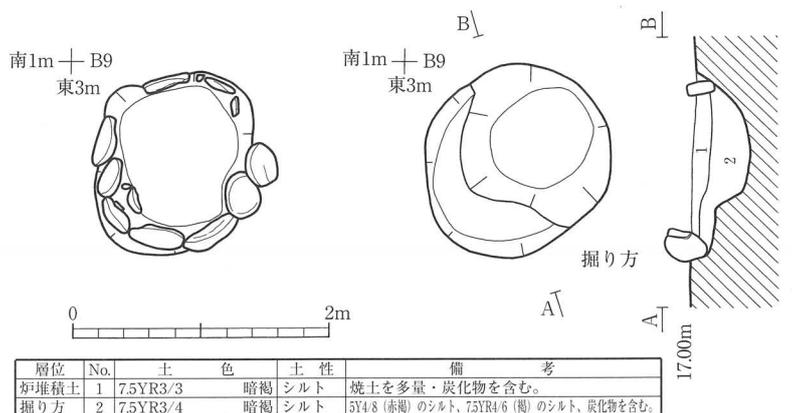


第32図 3号配石

炉跡

1号炉 (第31図・33図)

〔遺構の確認〕 4区の中央やや北東寄りB-9グリット、1号配石の列石の弧状に残存している部分の弦に当たる線のほぼ中央に位置している。グリットラインに沿って土層観察のための、先行トレンチを掘り下げ中、礫が



層位	No.	土色	土性	備考
炉堆積土	1	7.5YR3/3	暗褐シルト	焼土を多量・炭化物を含む。
掘り方	2	7.5YR3/4	暗褐シルト	5Y4.8 (赤褐) のシルト、7.5YR4.6 (褐) のシルト、炭化物を含む。

第33図 1号炉

弧状に並んでいるのが検出され、更に弧状の礫の反対側に礫の抜き取り痕跡と遺構の輪郭線を確認した。礫が火熱を受けて赤変しており、内部に焼土や炭化物が認められたため石組炉であると判断された。位置的に1号配石と関連した施設の可能性があるが、確認面が3号配石と同様、IVa層上部であり、直接の関連は不明である。

〔平面形・規模〕礫が南側に多く残存し、北側は礫が一個と二箇所の礫の抜き取り痕跡、遺構の輪郭線しか検出されなかったが、それらから直径70cmの不整な円形を基調とした平面形であると考えられる。

〔堆積土〕単層である。多量の焼土、炭化物を混入している。

〔壁面・底面〕礫が掘り方の内側にすき間無く並べられていたものと思われ、残存する礫の炉の内側の面が加熱を受けて赤変しているが、礫が抜き取られている部分の壁面は赤変していない。礫には内側に傾斜しているものもみられる。底面まで掘り下げると、北側の確認面下の壁面に礫が検出され、いずれも内側の面が赤変している。底面は掘り方埋土上面から成っており、火熱を受けて赤変しているが、焼け締まった状態ではなかった。底面は凸凹はなく平坦である。底面レベルは南側が若干高く北壁際が低くなっている。

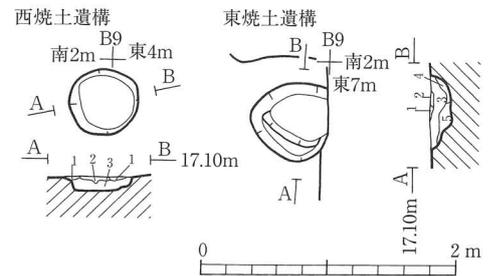
〔掘り方〕掘り方は、長軸0.8m、短軸0.7mの楕円形で、長軸方向はN-45°-Eである。底面は二段になっており、南西側が約10cm高くなっている。低い部分では中央がもっとも低く壁際が高くなっている。

〔出土遺物〕掘り方埋土中から縄文土器片が出土し、石組中に礫石器が転用されていた。

焼土遺構

1号配石東焼土遺構（第31図・34図）

4区の中央寄りB-9グリット、1号配石南側の列石の東に位置し、焼土の広がりとして確認されたため、焼土遺構として取り扱った。IVa層上面で確認され、東部は先行して掘り下げた部分に入っており、既に削平されていた。他の遺構との重複関係はなく、1号配石との関係も不明である。平面形は長軸55cm以上、短軸55cmの楕円形を基調としたものであると思われ、土坑状に落ち込んでいる。堆積土は5層に分けられる。上面に焼土層がみられ、焼土、炭化物が多量に混入している。壁は保存の良い北壁で14cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は二段になっており、南西側が約5cm高くなっている。底面には細かい凸凹がある。壁面及び底面に火熱を受けた痕跡は見られなかった。縄文土器片が出土した。



	No.	土色	土性	備考
東	1	10YR4/4 暗褐	シルト	
	2	5YR4/8 赤褐	シルト	焼土層
	3	7.5YR4/6 褐	シルト	炭化物(石, 31粒) (麻縄痕跡) のシルト(焼土)の層に混入
	4	10YR4/4 暗褐	シルト	焼土・炭を若干含む。
	5	10YR3/4 暗褐	シルト	焼土・炭を若干含む。
西	1	10YR4/4 暗褐	シルト	
	2	5YR4/8 赤褐	シルト	焼土層
	3	5YR2/2 黒褐	シルト	焼土を含む。
		7.5YR4/4 暗褐		

第34図 1号配石東・西焼土遺構

1号配石西焼土遺構（第31図・34図）

4区の中央やや西寄りB-9グリット、1号配石南側の列石の西に位置し、焼土の広がりとして確認された。1号配石東焼土遺構と同様に焼土遺構として取り扱った。IVa層上面で確認された。他の遺構との重複関係はない。平面形は直径約50cmの不整な円形である。堆積土は3層に分けられる。上面に焼土層がみられ、焼土、炭化物を多量に混入している。壁は保存の良い西壁で12cmの高さで残存している。大部分が底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もみられる。底面はほぼ平坦である。壁面及び底面に火熱を受けた痕跡は見られなかった。遺物は出土しなかった。

IVb層検出遺構

竪穴住居跡

SI-5 竪穴住居跡（第35図）

〔遺構の確認〕4区の南部B-9・10グリットに位置し、IVb層上面で確認された。検出当初は7号倒木痕として掘

り下げを開始したが、壁が立ち、倒木痕ではないと考えられたため、SX-2として掘り下げ、出土遺物を取り上げた。整理時に表記の遺構名に変更した。IVb層上面での他の遺構との重複関係はないが、上層のSI-1 竪穴住居跡の土坑によって遺構南東壁の一部が削平されている。

〔平面形・規模〕平面形は長軸4.3m、短軸3.85mの楕円形である。長軸方向はE-31°-Nである。

〔堆積土〕3層に分けられるが、上半部の堆積土については土層観察の処置が不十分だったため不明である。

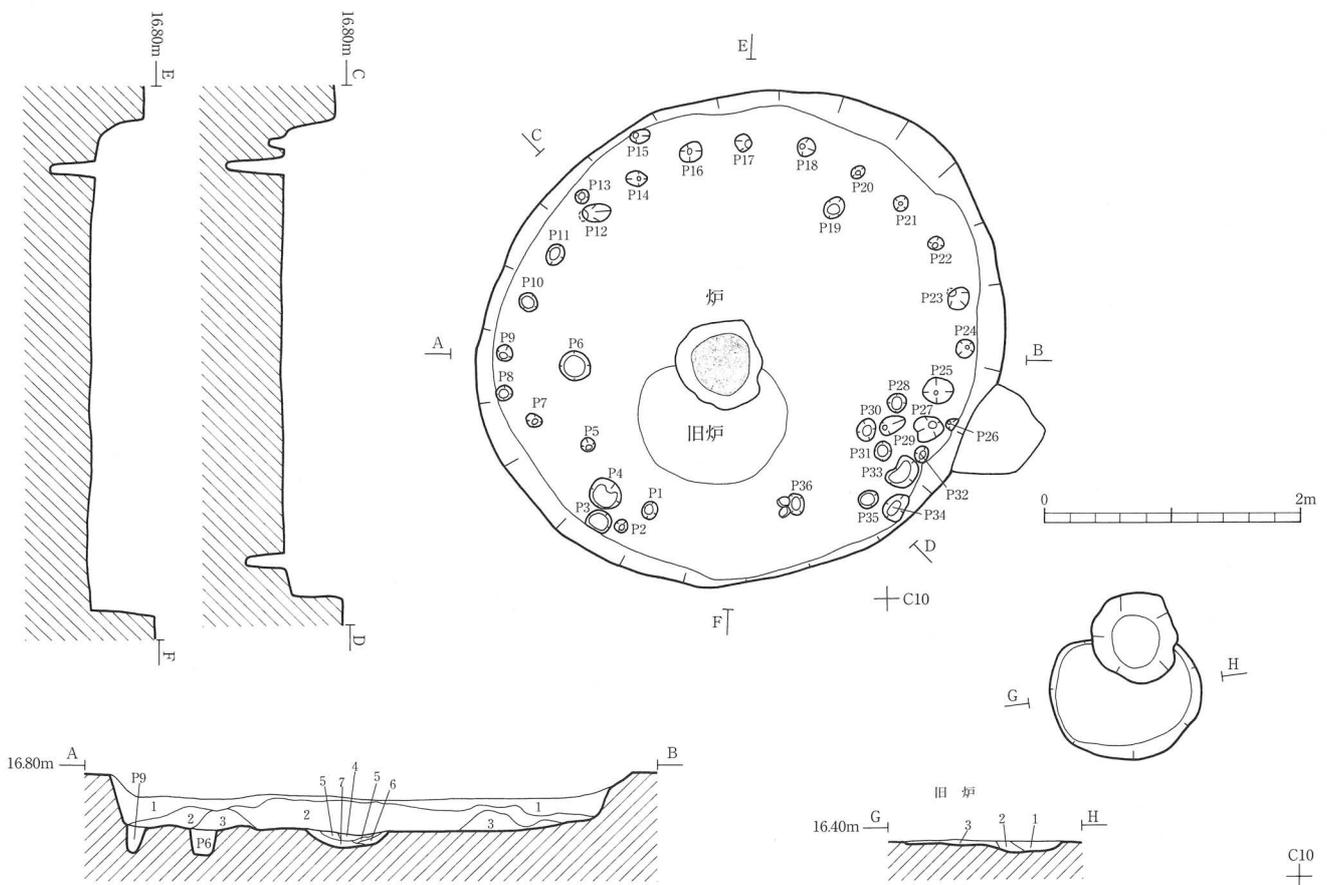
〔壁 面〕最も保存の良い南壁で50cmの高さで残存している。大部分床面から急角度で立ち上がっているが、遺構北東部に緩やかに立ち上がる部分がある。

〔床 面〕掘り方底面を直接床面としている。凸凹はなく平坦である。床面のレベルは炉の周辺が最も低く、壁際が若干高くなっているが、その中では南壁際が低くなっている。

〔柱 穴〕床面で36個のピットが検出された。壁際に規則的に巡っている21個のピットが柱穴に関連するものと考えられる。

〔 炉 〕住居跡中央やや南西寄りに位置する。焼け面と、それを取り巻く火熱を受けて赤変している部分が炉である。焼け面は径約50cmの不整な円形で、その周囲約10cmの範囲で赤変している。焼け面下には深さ10cm程の掘り方が認められる。また、炉の南側に炉と重複する、焼土と炭化物が混入した落ち込みが検出された。古い炉であると考えられる。平面形、規模は、長軸120cm、短軸100cm前後の楕円形を基調としたものであると思われる。深さは東側で8cmあり、西側に向かって徐々に浅くなる。

〔その他の施設〕その他に周溝等の施設は検出されていないが、住居跡南壁際周辺の床面では壁際を巡るピットが



遺構	No.	土色	土性	備考
竪穴部	1	10YR3/3	暗褐色 砂質シルト	炭化物・焼土粒少量・10YR4/4(褐)のシルトを痕跡に含む。
	2	7.5YR3/4	暗褐色 シルト	炭化物多量・焼土(特に下部に多い)・10YR4/6(褐)砂質シルトを痕跡に含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色 シルト	細かい炭化物粒・10YR4/6(褐)粘土質シルトブロックを含む。
炉	4	7.5YR4/3	褐色 粘土	10YR4/4(褐)の粘土ブロックを多量、焼土・木炭粒を少量含む。
	5	5YR4/4	にぶい赤褐色 焼土ブロック	硬い。
	6	7.5YR4/3	褐色 シルト	木炭粒少量含む。
	7	7.5YR4/3	褐色 粘土質シルト	この部分は理上ではなく、熱で変色した基本層と指定される。

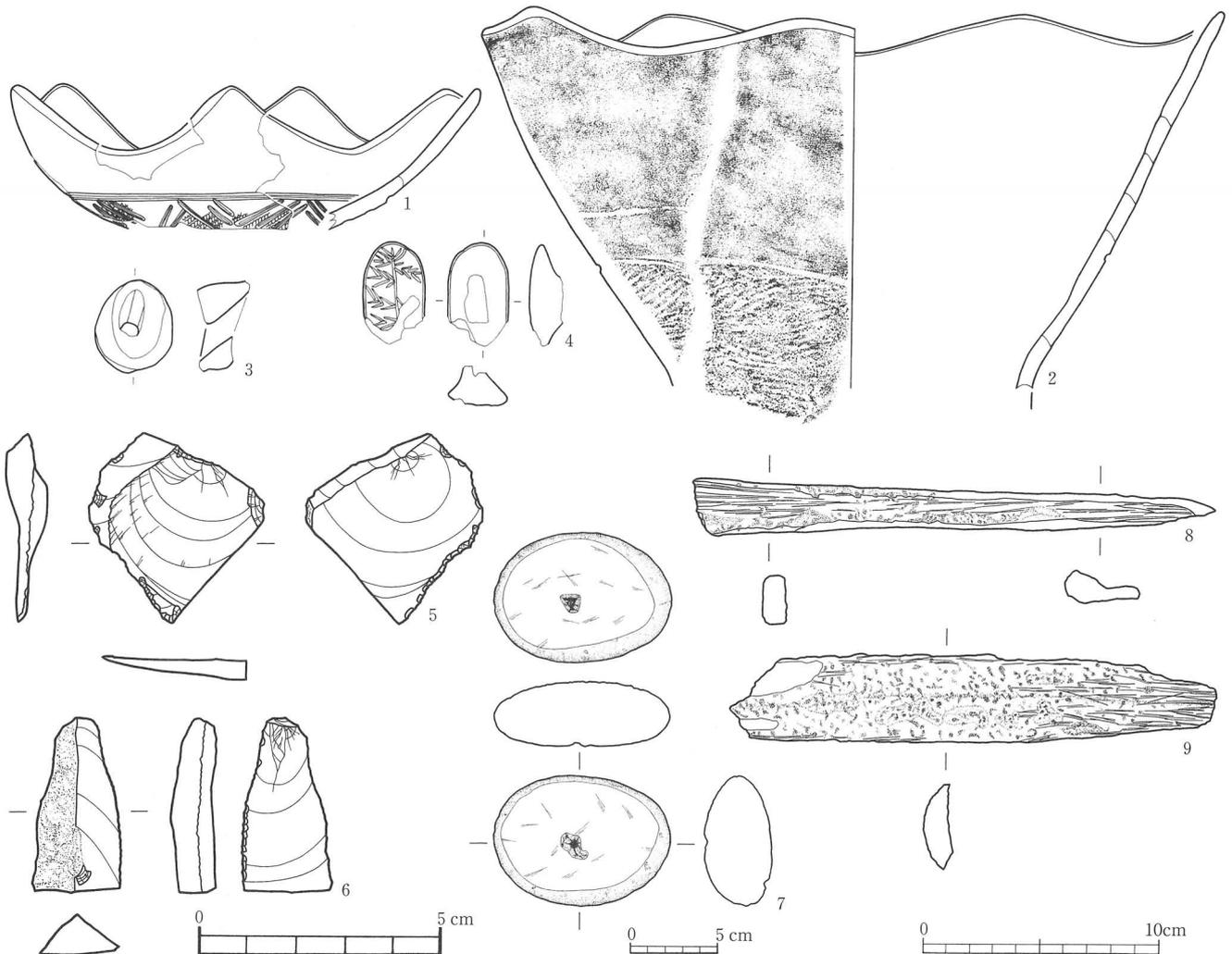
遺構	No.	土色	土性	備考
旧炉	1	5YR4/4	にぶい赤褐色 シルト(焼土)	7.5YR4/3(褐)の粘土ブロックを少量含む。
	2	7.5YR4/3	褐色 粘土	木炭粒・焼土粒を多量含む。
	3	10YR4/3	にぶい黄褐色 粘土	木炭粒を少量含む。

ピット計測表 (cm)																		
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
深さ	8	13	10	17	15	21	12	15	19	19	21	71	12	35	8	35	34	21
No.	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
深さ	12	16	24	38	43	18	38	13	15	14	34	21	23	13	23	32	30	22

第35図 SI 5 竪穴住居跡

途切れている部分がある。

〔出土遺物〕 堆積土中及び床面、ピットから縄文土器、土製品、剥片石器、礫石器、石製品が出土している。そのうち縄文土器6点、土製品2点、剥片石器4点、礫石器1点、石製品2点を図示した。



No.	登録番号	種別	器種	層位	外 面				内 面		底 部	備 考	写真図版
1	4A-26	縄文土器	浅鉢		LR縄文・沈線文・ミガキ				ミガキ				54-1
2	4A-27	縄文土器	鉢		単筋縄文・沈線文				ミガキ				54-3
No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考				写真図版	
3	4P-13	注口		40.0	34.0	16.0	16.0						
4	4P-14	スリ状石器		(44.0)	26.0	(17.0)	14.3						
No.	登録番号	層位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考				写真図版	
5	710	P15	剥片	41.0	37.0	5.5	6.3	微細剥離痕				56-10	
6	730		剥片	37.5	19.0	8.7	5.3	微細剥離痕				56-11	
7	746	床面	礫石器	101.0	75.0	36.5	333.2	磨・凹				56-31	
8	743	床面	棒状石器	(220.0)	25.0	32.5	121.8					56-39	
9	744	床面	棒状石器	(205.0)	33.0	11.0	114.2					56-40	

第36図 SI5 竪穴住居跡出土遺物

SI-6 竪穴住居跡 (第37図)

〔遺構の確認〕 4区の東端B-10グリットに位置している。遺構は東側の調査区外に延びており、遺構全体を確認することはできなかった。遺構検出当初は、V層上面で確認された9号倒木痕として掘り下げ、出土遺物を取り上げたが、底面まで掘り下げたところで炉跡、ピットが検出され竪穴住居跡と認定された。壁面の精査の結果、本遺構はIVb層上面から掘り込まれていることが確認されたことから、IVb層上面検出遺構としてここで記述する。整理時に遺構名を表記の遺構名に変更した。IVb層上面での他の遺構との重複関係はない。

〔平面形・規模〕平面形は長軸5.25m以上、短軸4.05mの楕円形を基調としたものであると考えられる。長軸方向はE-45°-Nである。

〔堆積土〕4層に大別される。第1層は遺物包含層の流入土と思われ、炭化物、焼土粒が多量に混入しており、遺物も多い。第4層は床面上の火熱を受けて赤変した粘土である。

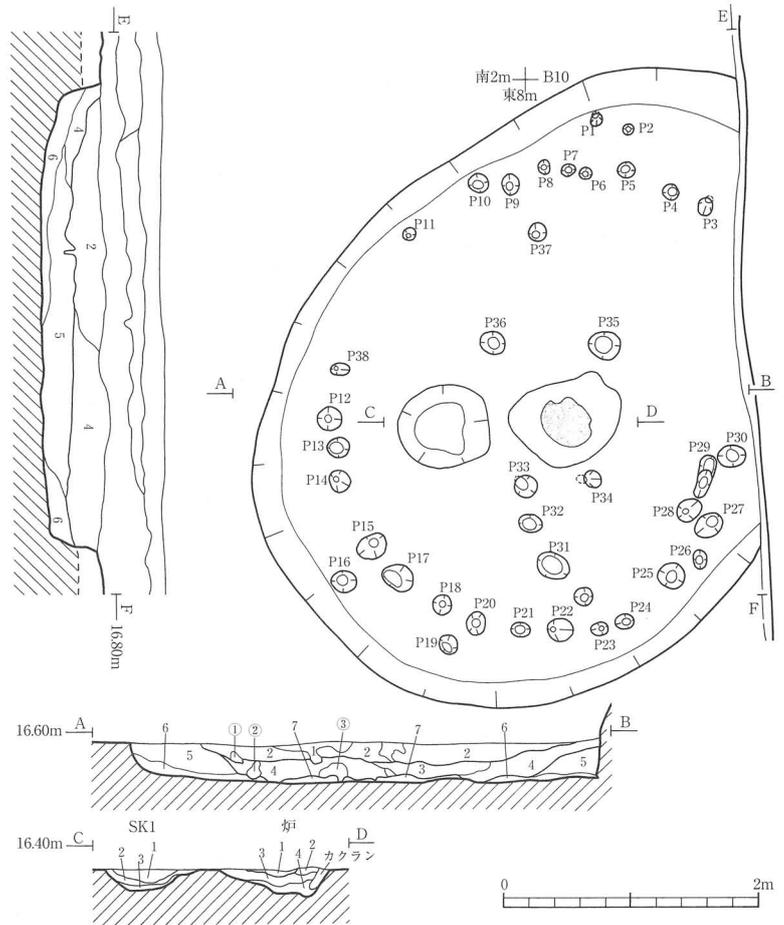
〔壁面〕最も保存の良い西壁で27cmの高さで残存しているが、調査区東壁の断面をみると、本住居跡北壁で33cm、南壁で38cmの高さで残存していたことを確認できる。床面からやや緩やかな角度で立ち上がっている。

〔床面〕掘り方底面を直接床面としている。凸凹は少なく、ほぼ平坦である。床面レベルは炉の周辺が最も低く、壁際に向かって高くなる。

〔柱穴〕検出された範囲の床面で38個のピットが検出された。それらのピットは柱穴に関連するものと考えられる。壁際には29個のピットが巡っている。

〔炉〕住居跡中央やや南寄りに位置する。焼け面と、それを取り巻く火熱を受けて赤変している部分が炉である。焼け面は長軸約50cm、短軸40cmの不整な楕円形で、その周囲約15cm~25cmの範囲で赤変している。遺構内の堆積土の状況から、赤変している部分は、粘土が土手状に盛り上げられていたものと考えられる。赤変している部分の下には深さ20cm程の掘り方が認められる。

〔その他の施設〕その他に周溝等の施設は検

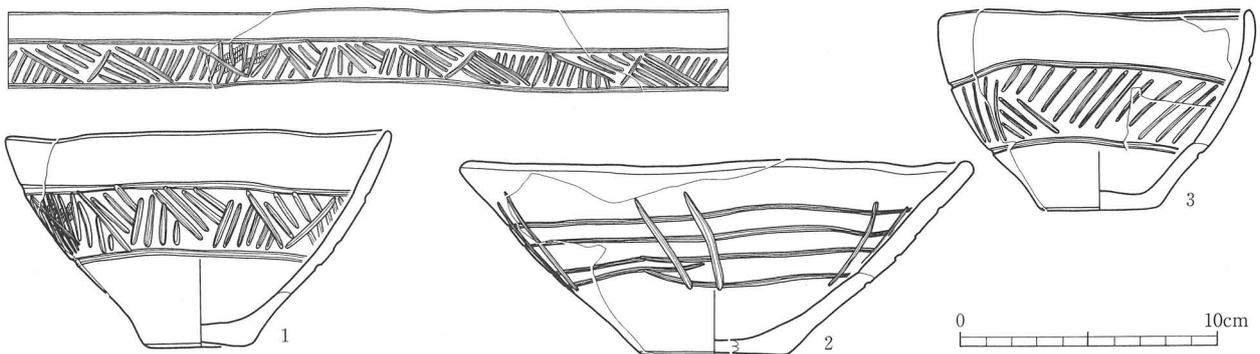


層位	No.	土色	土性	備考
1	1	10YR4/4	褐砂質シルト	砂粒・炭化物粒を含む。
	2	7.5YR2/3	極暗褐シルト	炭化物・遺物を多量に含む。
2	3	7.5YR3/4	暗褐シルト	炭化物を多量、7.5YR2/3 (極暗褐) のシルトの小ブロックを含む。
	4	10YR3/3	暗褐砂質シルト	10YR4/6 (褐) の砂質シルトを層状に含む、炭・焼土粒を含む。
3	5	10YR3/4	暗褐粘土質シルト	10YR4/4 (褐) のシルトを層状に含む、炭化物を少々含む。
	6	10YR4/4	褐シルト	
4	7	5YR3/4	暗赤褐粘土	炉壁の粘土? 焼けている。
ブロック土	①	7.5YR3/4	暗褐粘土	炭・焼土を含む。
	②	10YR4/3	にぶい黄褐シルト質粘土	
	③	2.5Y6/6	明黄褐粘土	砂粒を含む。

層位	No.	土色	土性	備考
SK1	1	10YR3/3	暗褐シルト	炭化物、2.5Y5/3 (黄褐) の細砂のブロックを含む。
	2	10YR3/4	暗褐粘土質シルト	炭化物を少量含む。
	3	10YR4/4	褐シルト	10YR3/3 (暗褐) の粘土の小ブロックを含む。
炉	1	7.5YR3/2	黒褐粘土	炭・骨片少々・焼土粒を含む。
	2	5YR3/6	暗赤褐シルト質粘土	炭・骨少々含む。
		5YR4/6	赤褐	
		7.5YR3/4	暗褐	
3	5YR4/8	赤褐	シルト	10YR4/4 (暗褐) のシルトを下部に多く含む。
	4	10YR4/4	暗褐シルト	5YR4/8 (赤褐) のシルトブロック、炭少々含む。

ピット計測表 (cm)

No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
深さ	16	12	25	32	39	25	24	14	54	21	10	31	17	50	55	21	27	23	21
No.	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
深さ	47	19	16	29	29	22	24	23	31	34	21	14	21	36	28	8	21	14	20

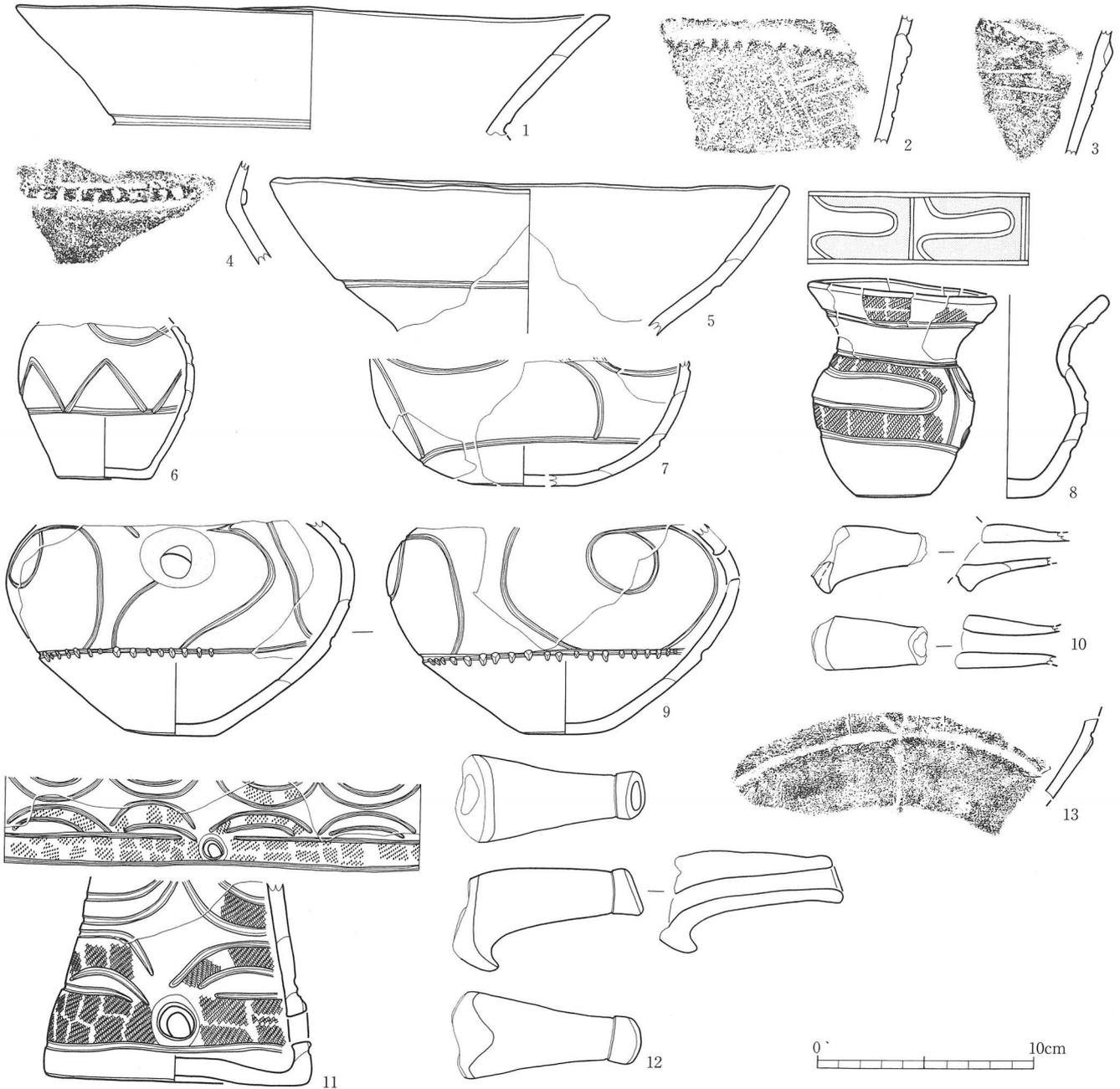


No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-43	縄文土器	鉢	2層	LR縄文・ミガキ・2条に平行沈線文	ミガキ	ミガキ		54-8
2	4A-33	縄文土器	浅鉢	堆積土	ミガキ・沈線文	ミガキ	網代痕		54-9
3	4A-32	縄文土器	鉢	堆積土	沈線文・ミガキ		ミガキ		55-13

第37図 SI6 竅穴住居跡・出土遺物 (1)

出されていないが、炉の西側に土坑が1基検出された。平面形、規模は長軸75cm、短軸65cmの不整な楕円形で、床面からの深さは16cmあり、壁は床面から緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。また、住居跡北西壁中央部の壁際周辺に壁際を巡るピットが途切れている部分がある。

〔出土遺物〕住居跡北半部の堆積土第1層から縄文土器がまとまって出土した。また、床面から一括土器が出土している。その他に剥片石器、礫石器、石製品が出土している。そのうち縄文土器36点、剥片石器8点、礫石器15点、石製品3点を図示した。



No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-48	縄文土器	深鉢	2層	ミガキ	ミガキ	---		54-16
2	4A-9	縄文土器	深鉢	2層	沈線文・刻目文	ミガキ	---		54-6
3	4A-10	縄文土器	深鉢	2層	隆線文・沈線文・刻目文	ミガキ	---		55-1
4	4A-15	縄文土器	深鉢	2層	隆線文・刻目文	ミガキ	---		54-7
5	4A-31	縄文土器	浅鉢	堆積土	沈線文・ミガキ	ミガキ	---		54-17
6	4A-55	縄文土器	小壺	3層	沈線文・磨滅	磨滅		砂粒多い	
7	4A-46	縄文土器	注口	2層	沈線文・ミガキ	ミガキ	ミガキ		54-11
8	4A-50	縄文土器	小壺	2層	LR縄文・沈線文	ミガキ			54-5
9	4A-28	縄文土器	注口	堆積土	沈線文・刻目文・ミガキ	ミガキ	ミガキ		54-13ab
10	4A-34	縄文土器	注口	堆積土	ミガキ	ナデ			54-15
11	4A-36	縄文土器	注口	2層	LR縄文・2条の沈線文・ミガキ	ミガキ	網代痕	粘土紐痕	54-4
12	4A-35	縄文土器	注口	堆積土	ミガキ				54-14
13	4A-11	縄文土器	深鉢	3層	隆線文・沈線文	ナデ			55-6

第38図 SI6 壁穴住居跡出土遺物 (2)



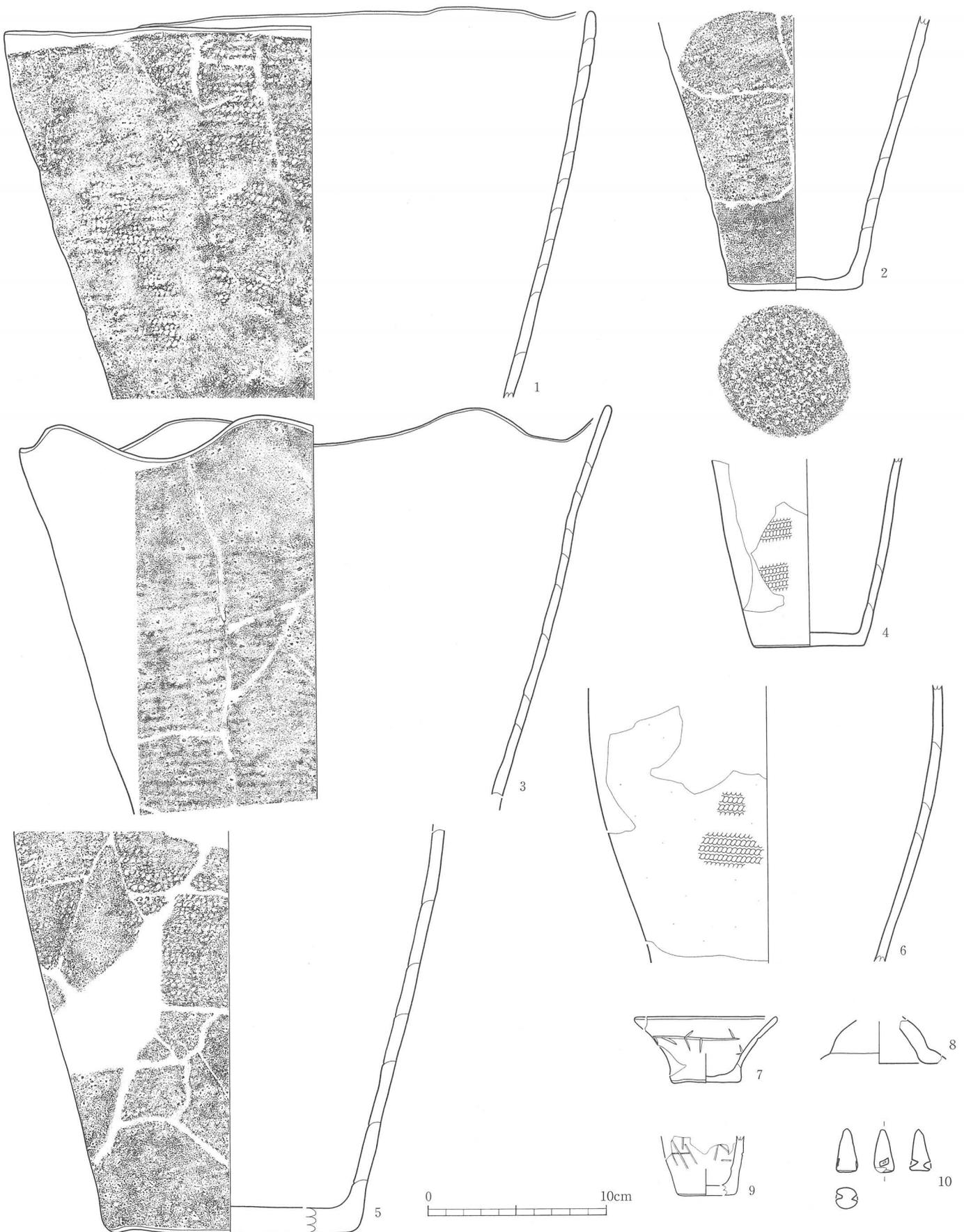
No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-42	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文・沈線文	ミガキ	—		54-19
2	4A-44	縄文土器	壺	2層	LR縄文・沈線文	ミガキ	—		54-20
3	4A-53	縄文土器	深鉢	3層	沈線文・ミガキ・磨滅	ミガキ	—		
4	4A-45	縄文土器	鉢	2層	LR縄文・沈線文	ミガキ・ナデ	—		
5	4A-30	縄文土器	深鉢	堆積土	LR縄文・沈線文	ミガキ	—		54-27

第39図 SI6 竪穴住居跡出土遺物 (3)



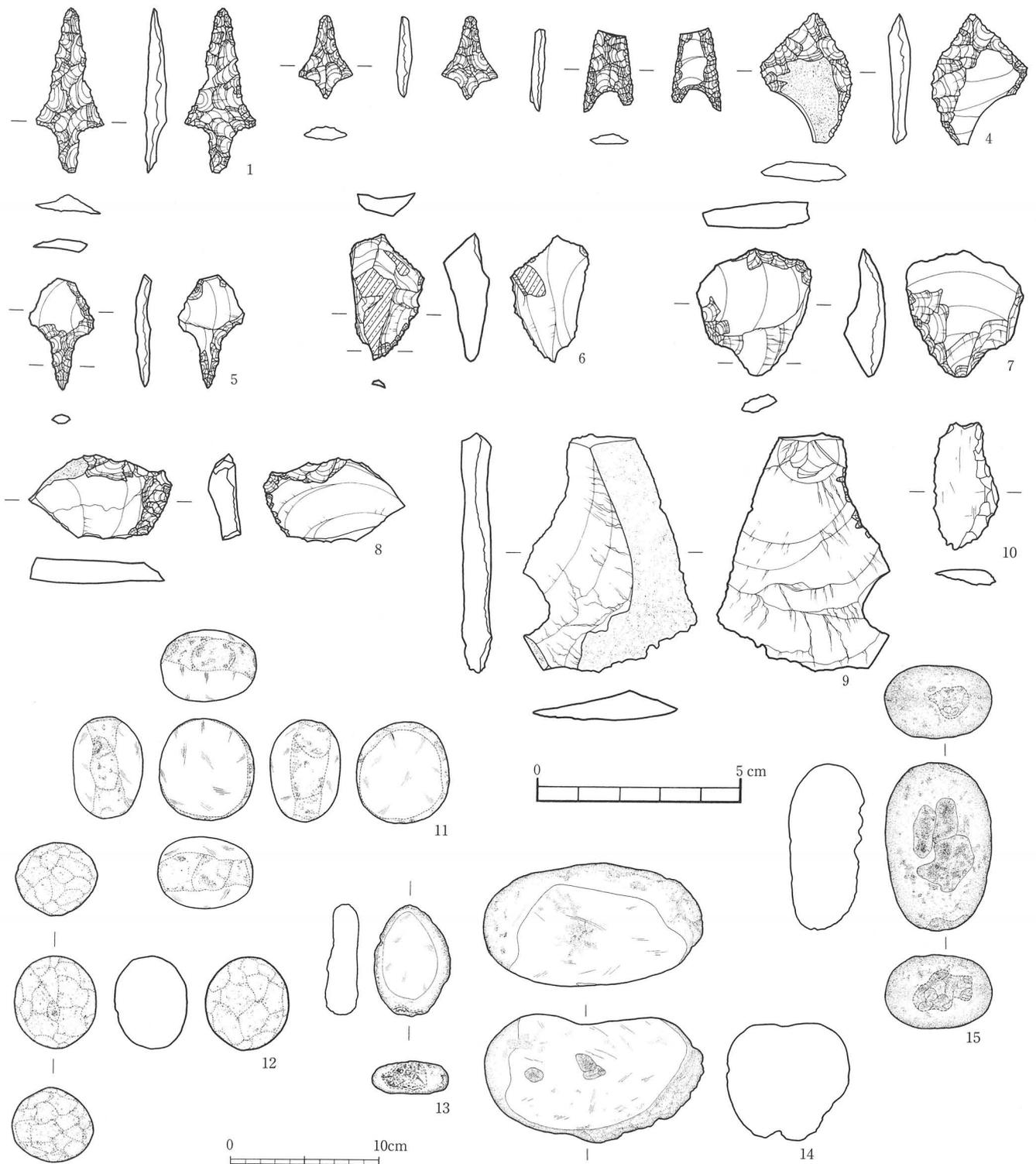
No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-39	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文・沈線文	磨滅	—	—	54-18
2	4A-61	縄文土器	鉢	3層	LR縄文	ミガキ	—	—	54-22
3	4A-29	縄文土器	壺	堆積土	LR縄文・ミガキ	ミガキ	—	—	54-28
4	4A-54	縄文土器	深鉢	3層	LR縄文	ミガキ・ナデ	木葉痕	—	54-23
5	4A-40	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文	ミガキ	—	—	54-26

第40図 SI6 竪穴住居跡出土遺物 (4)



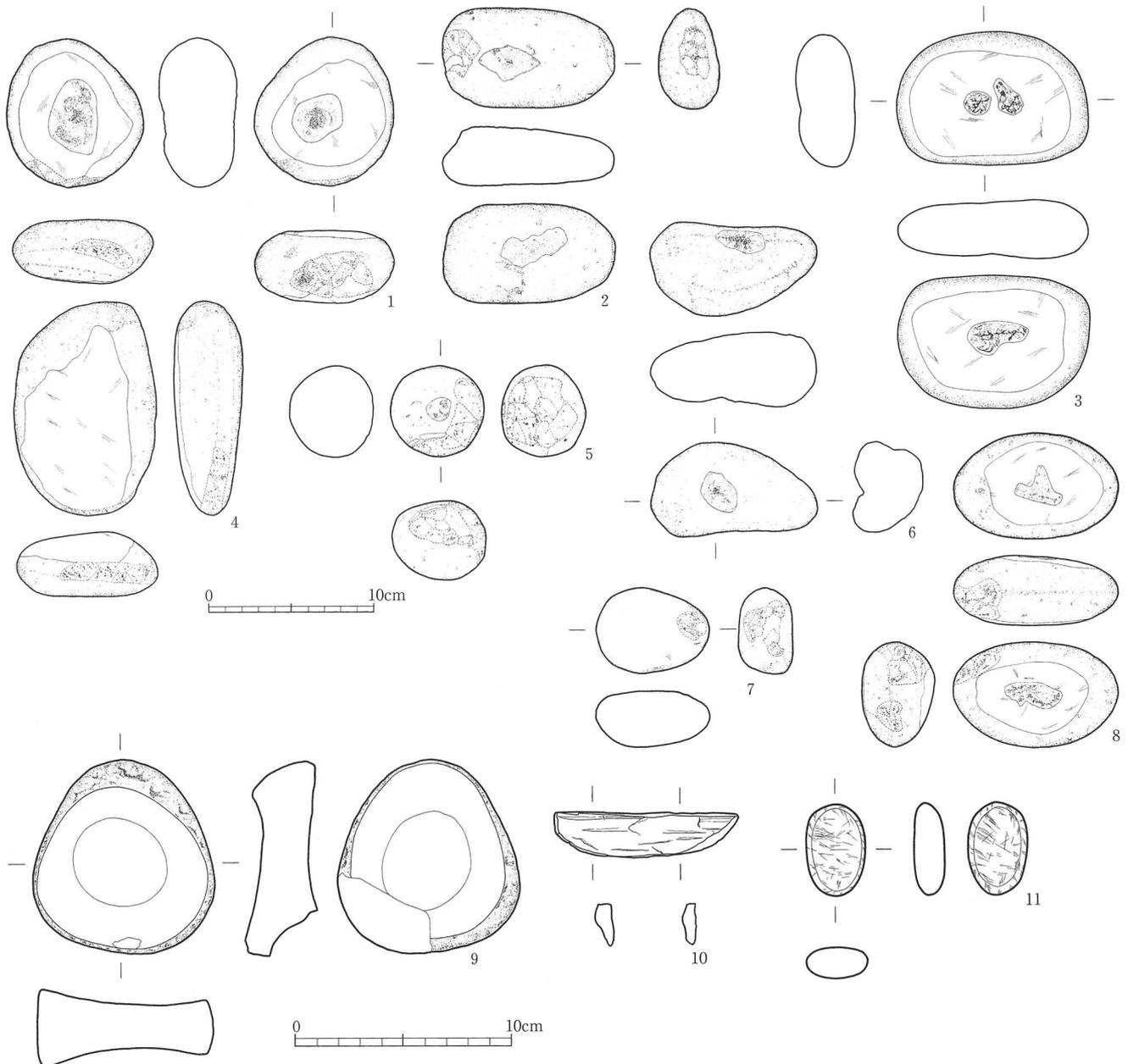
No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-56	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文	ミガキ	—	—	54-25
2	4A-37	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文・ミガキ	ミガキ	網代痕	—	—
3	4A-41	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文	ミガキ	—	突起7コ	54-21
4	4A-51	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文・磨滅	ナデ	網代痕	—	—
5	4A-47	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文	ミガキ	木葉痕	—	54-24
6	4A-49	縄文土器	深鉢	2層	LR縄文	ミガキ	—	煤状炭化物付着	—
7	4A-52	縄文土器	ミニチュア	2層	沈線文・ナデ	ナデ	木葉痕	—	55-15
8	4A-38	縄文土器	異形土器	2層	ミガキ	ナデ	—	—	55-14
9	4A-57	縄文土器	ミニチュア	3層	沈線文	—	—	—	55-16
No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	口径(mm)	重さ(g)	備考		写真図版
10	4P-16	不明土製品	—	25.0	12.0	2.5	—		55-26

第41図 SI6 竪穴住居跡出土遺物 (5)



No.	登録番号	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備	考	写真図版
1	648	2層	石鏃	41.5	17.0	5.1	1.3			
2	646		石鏃	20.5	13.5	3.3	0.6			55-59
3	647		石鏃	(21.0)	12.5	2.5	(0.6)			55-64
4	620	3層	石鏃	(33.0)	23.0	5.2	(2.8)			55-93
5	649		石錐	(28.5)	16.5	3.0	0.9			55-94
6	559		石錐	32.0	19.0	8.5	4.1			55-99
7	557		石錐	32.0	29.0	9.5	6.9			55-111
8	605		スクレイパー	(21.5)	(35.0)	6.5	(5.6)			55-106
9	645	P20	剥片	(60.5)	43.0	7.3	(15.0)	微細剥離痕		55-132
10	578		磨製石斧	43.0	21.0	(5.1)	(4.9)	裏面欠損		56-8
11	660		礫石器	69.0	63.5	48.0	303.1	磨・敲		
12	665		礫石器	63.0	55.0	48.5	127.6	敲		
13	666		礫石器	76.0	51.5	21.0	109.9	磨・敲		
14	674		礫石器	222.0	1334.5	126.5	5000.0	磨・凹		
15	661		礫石器	174.0	107.0	79.0	1830.0	敲・凹		

第42図 SI6 竅穴住居跡出土遺物 (6)

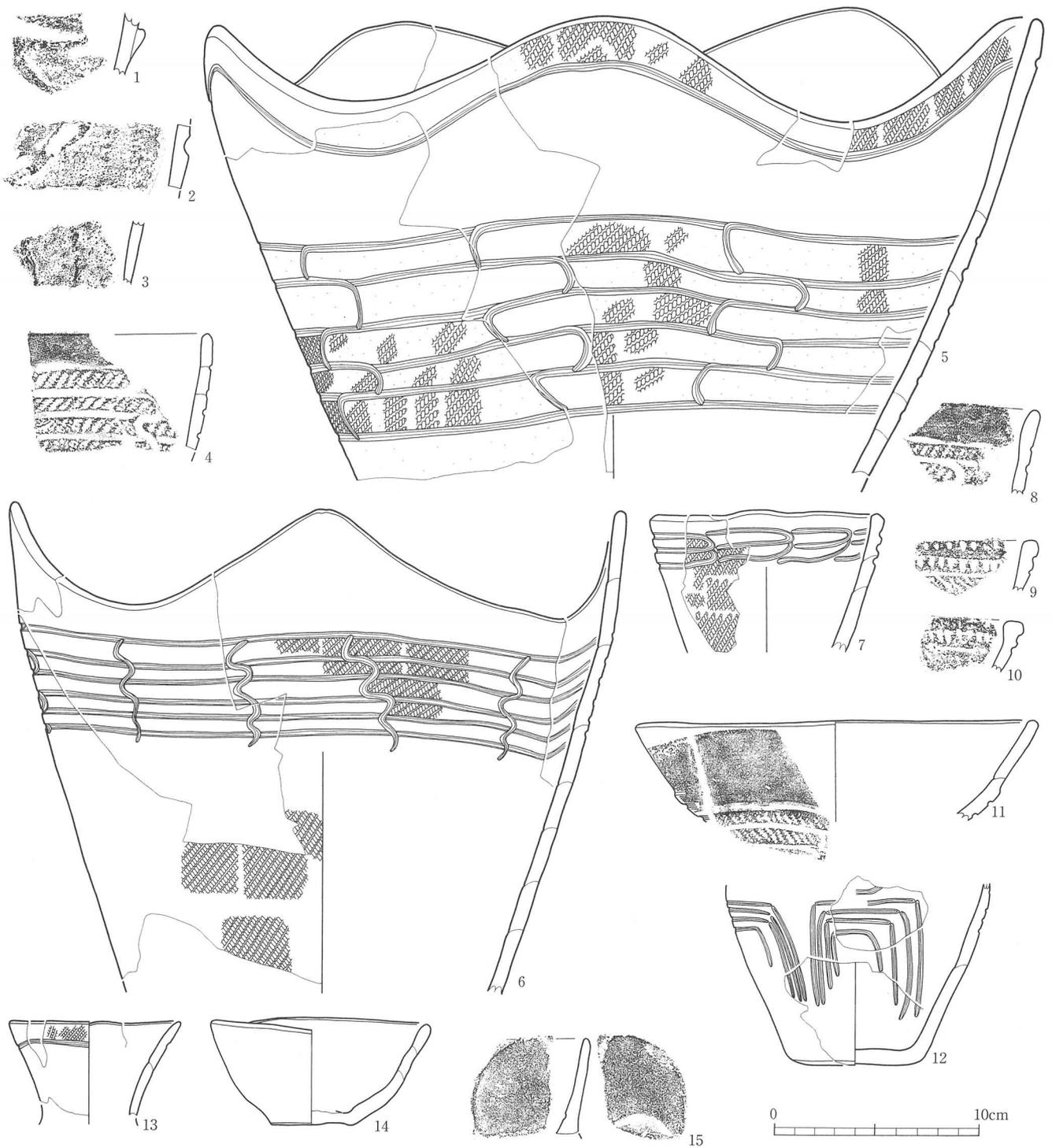


No.	登録番号	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	675		礫石器	94.0	86.0	46.0	516.4	磨・敲・凹	56-18
2	680	2層	礫石器	106.0	63.0	35.0	366.2	敲・凹・焼け	
3	684	3層	礫石器	117.0	84.0	37.0	549.7	磨・凹	56-28
4	685	3層	礫石器	134.0	88.0	42.0	657.9	磨・敲・焼け	56-29
5	688	3層	礫石器	58.0	57.0	57.0	139.7	敲・凹	
6	694	溝状ピット	礫石器	101.5	59.0	47.5	334.3	凹	
7	697	床面直上	礫石器	69.0	53.0	33.0	188.7	敲	
8	686	3層	礫石器	99.5	66.0	43.0	361.2	磨・敲・凹・焼け	56-30
9	673		石碗	92.0	85.0	33.0	210.4		56-36
10	659	2層	珪化木	85.0	(22.0)	8.0	(10.2)		
11	696	底面直上	礫石器	43.0	28.0	16.0	27.4	磨・細い擦痕	

第43図 SI6 竪穴住居跡出土遺物 (7)

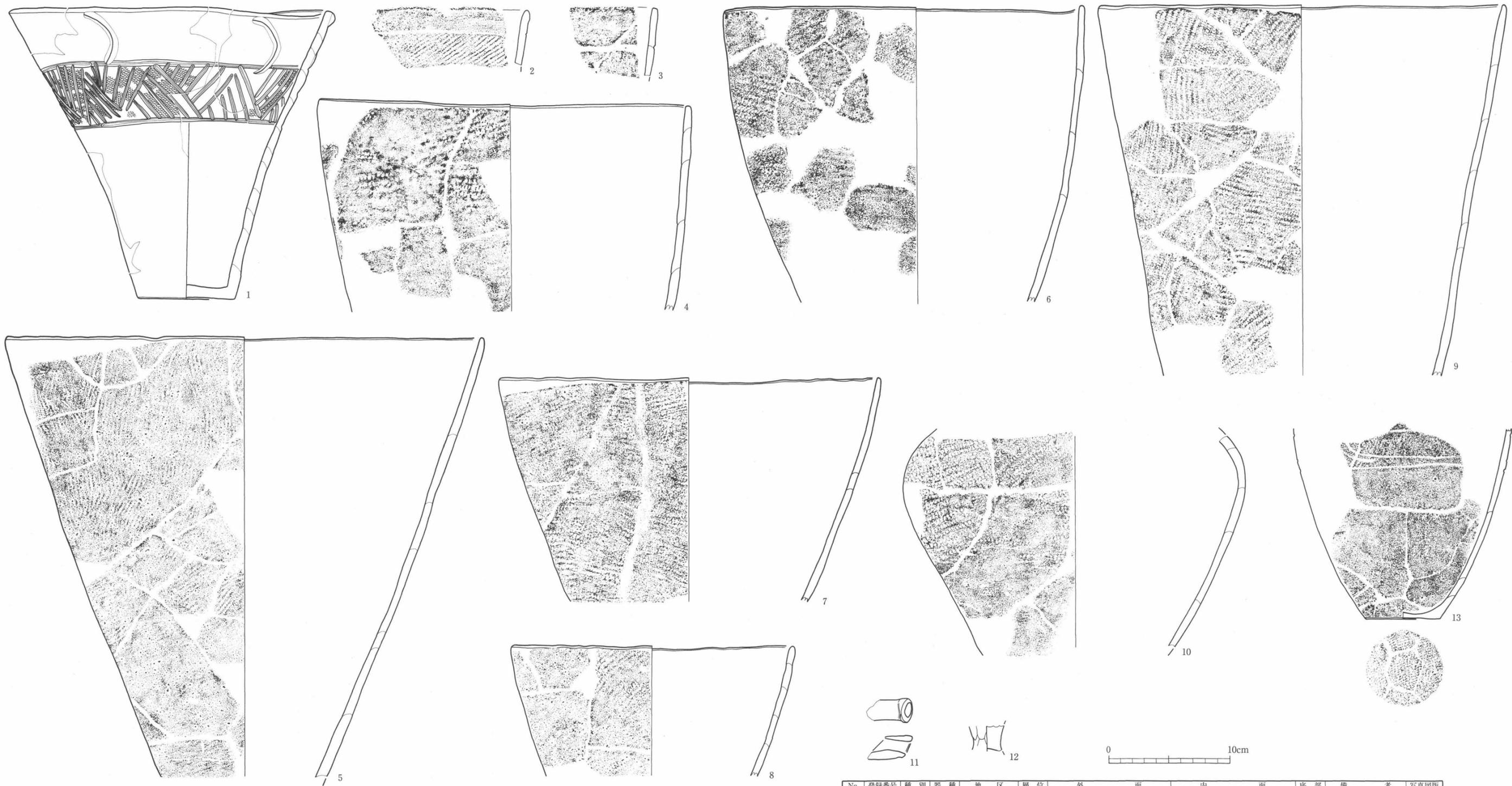
遺物包含層

4区から5区にかけてのIVb層には特に他の地区、層よりも多量に遺物が混入していたことから遺物包含層として扱った。4区及び5区のA・B-9・10・11・12の各10mグリットを各々更に北西から南東に向かって、1~25までの2mグリットに細分して精査を行い、遺物を取り上げた。4区の西寄りに位置するSR-1河川跡によって西側が削平され、東側は6区の攪乱によって範囲が確定できず、南北は調査区外に広がっており、遺物包含層としての範囲は不明である。縄文土器、土製品、剥片石器、礫石器、石製品が出土している。出土遺物の時期は縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけてのものであるが、各時期のものが混在しており、出土状況から時期的な変遷を追えるようなものではなかった。



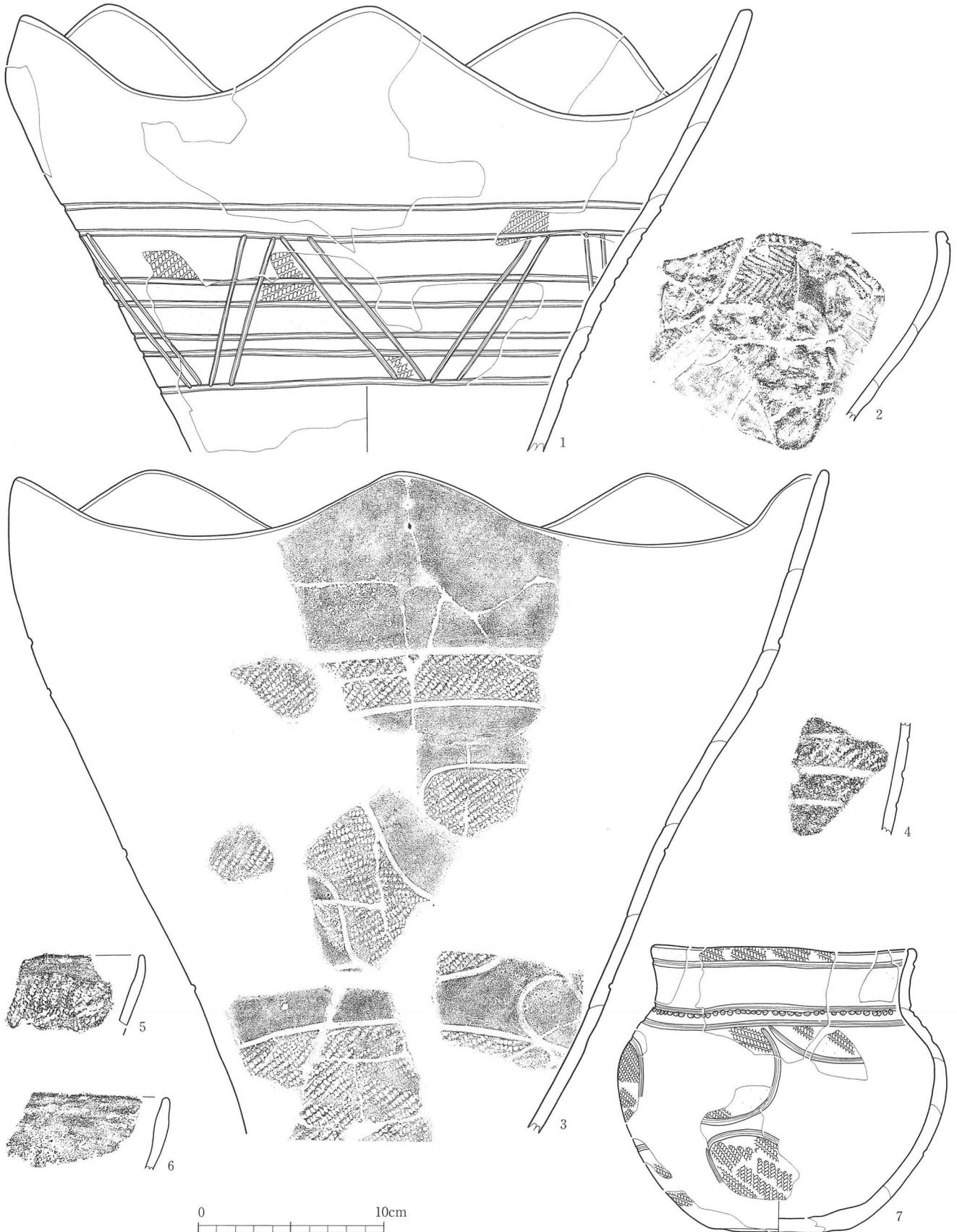
No	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1・2・3	5A-6	縄文土器	深鉢	5区	B11	LR縄文・隆線文・刺突文	ミガキ	—		54-37
4	4A-3	縄文土器	深鉢	4区		LR縄文・沈線文	ミガキ	—		54-29
5	4A-59	縄文土器	深鉢	4区		LR縄文・沈線文	ミガキ	—	突起5コ	55-12
6	4A-14	縄文土器	深鉢	4区	B10	LR縄文・S字状沈線文・平行沈線文	ミガキ	—	突起4コ	55-10
7	5A-5	縄文土器	小型鉢	5区	B9	LR縄文・沈線文	ミガキ	—		
8	5A-3	縄文土器	深鉢	5区	A11-25	IVb層	LR縄文・沈線文	—		54-36
9	6A-3	縄文土器	深鉢	6区	A14-18	IVb層	RL縄文・沈線文・刻目文	—		54-39
10	6A-2	縄文土器	深鉢	6区	A14-24	IVb層	沈線文・刻目文	—		54-38
11	4A-13	縄文土器	鉢	4区	B10	IVb層	RL縄文・沈線文	—		
12	6A-1	縄文土器	小型鉢	6区	B13-20	IVb層	沈線文	—		
13	4A-17	縄文土器	小壺	4区	B10-20	IVb層	LR縄文・沈線文	—		55-18
14	4A-16	縄文土器	浅鉢	4区	B10-1	IVb層	ミガキ	—		55-17
15	5A-5	縄文土器	深鉢	5区	B11-4	IVb層	ミガキ	—		54-35

第44図 包含層出土遺物 (1)



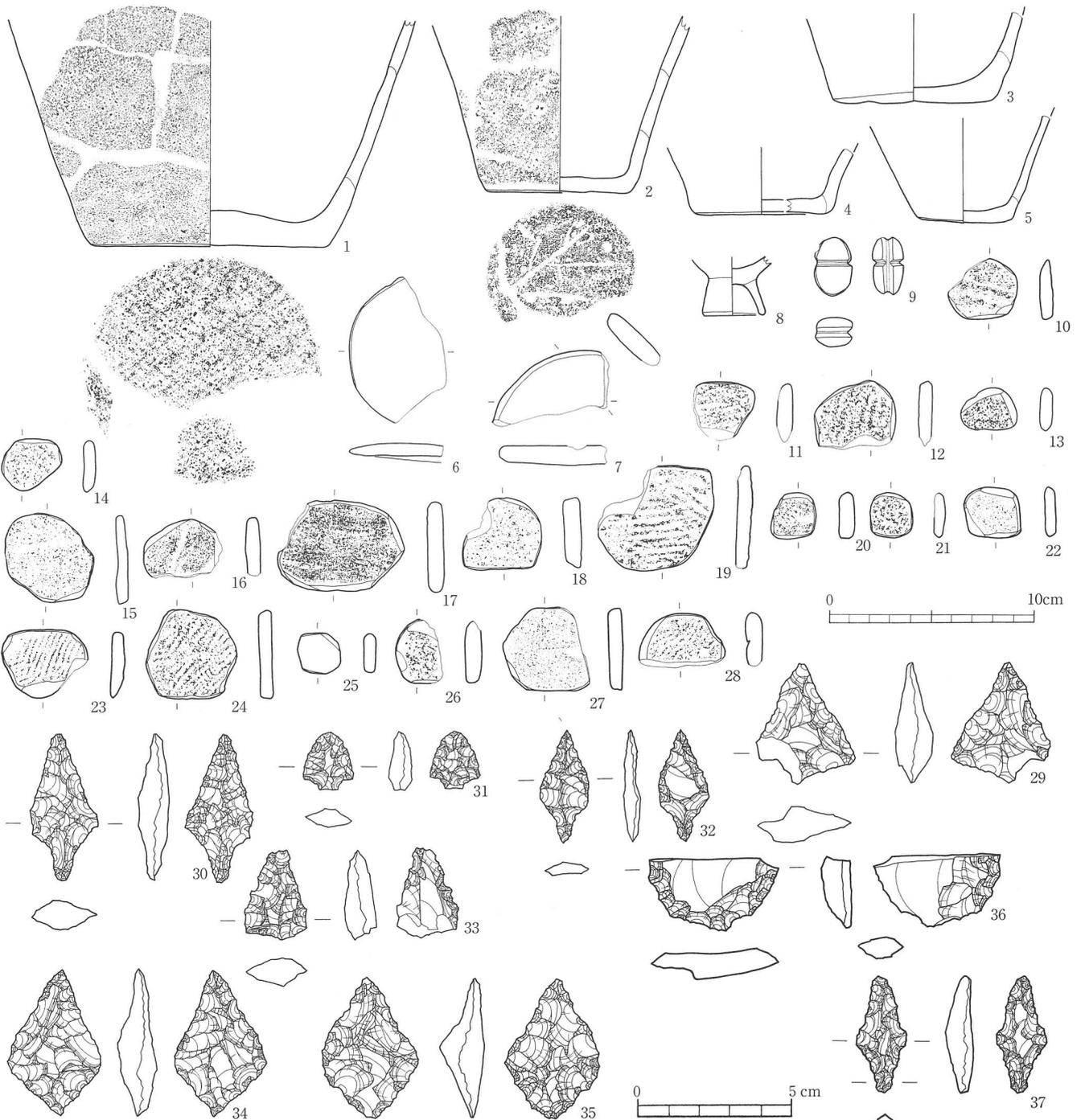
第45図 包含層出土遺物 (2)

No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-25	縄文土器	深鉢	4区 AB10	IVb層	LR縄文・沈線文・貼付文	ミガキ	網代痕		55-11
2	5A-2	縄文土器	深鉢	5区 A12-12	IVb層	LR縄文・沈線文	ミガキ			54-34
3	6A-1	縄文土器	深鉢	6区 A3G-18	IVb層	沈線文	ミガキ			
4	4A-11	縄文土器	深鉢	4区 B10-9	IVb層	LR縄文	ミガキ			54-12
5	5A-8	縄文土器	深鉢	5区 A11-24	IVb層	LR縄文	ミガキ			54-33
6	4A-6	縄文土器	深鉢	4区 B9-4	IVb層	LR縄文	磨滅			55-5
7	4A-62	縄文土器	深鉢	4区 B10-14	IVb層	LR縄文	ミガキ			54-32
8	4A-2	縄文土器	鉢	4区	IVb層	LR縄文	ミガキ			
9	4A-21	縄文土器	深鉢	4区 B10-16	IVb層	LR縄文	ミガキ・磨滅			54-31
10	4A-9	縄文土器	壺	4区 B10-9	IVb層	LR縄文	ミガキ・ナデ・ケズリ			54-6
13	4A-1	縄文土器	深鉢	4区	IV層上	沈線文・磨滅	ナデ	網代痕		
No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	(mm)	(mm)	重さ(g)	備考		写真図版
11	4P-15	注口	IVb層	(38.0)	口径20.0	厚さ8.0	8.7			
12	5P-24	注口	IVb層	—	—	口径(24.0)	16.5			55-22



No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-15	縄文土器	深鉢	4区	B10-1	IVb層	LR縄文・沈線文・ミガキ	---		
2	4A-12	縄文土器	鉢	4区	B10-16	IVb層	LR・RL縄文・沈線文・刻目文	---		54-30
3	4A-8	縄文土器	深鉢	4区	B10-24	IVb層	LR縄文・沈線文	---		54-61
4	5A-7	縄文土器	深鉢	5区	B11-3	IVb層	LR縄文・沈線文	---		
5	5A-4	縄文土器	深鉢	5区	B12-2	IVb層	LR縄文	---		54-40
6	6A-4	縄文土器	深鉢	6区	B14-16	IVb層	ミガキ	---		54-41
7	4A-7	縄文土器	壺	4区	B10-10	P85	RL縄文・沈線文・刺突文	---	ナデ・ミガキ	54-60

第46図 包含層出土遺物 (3)



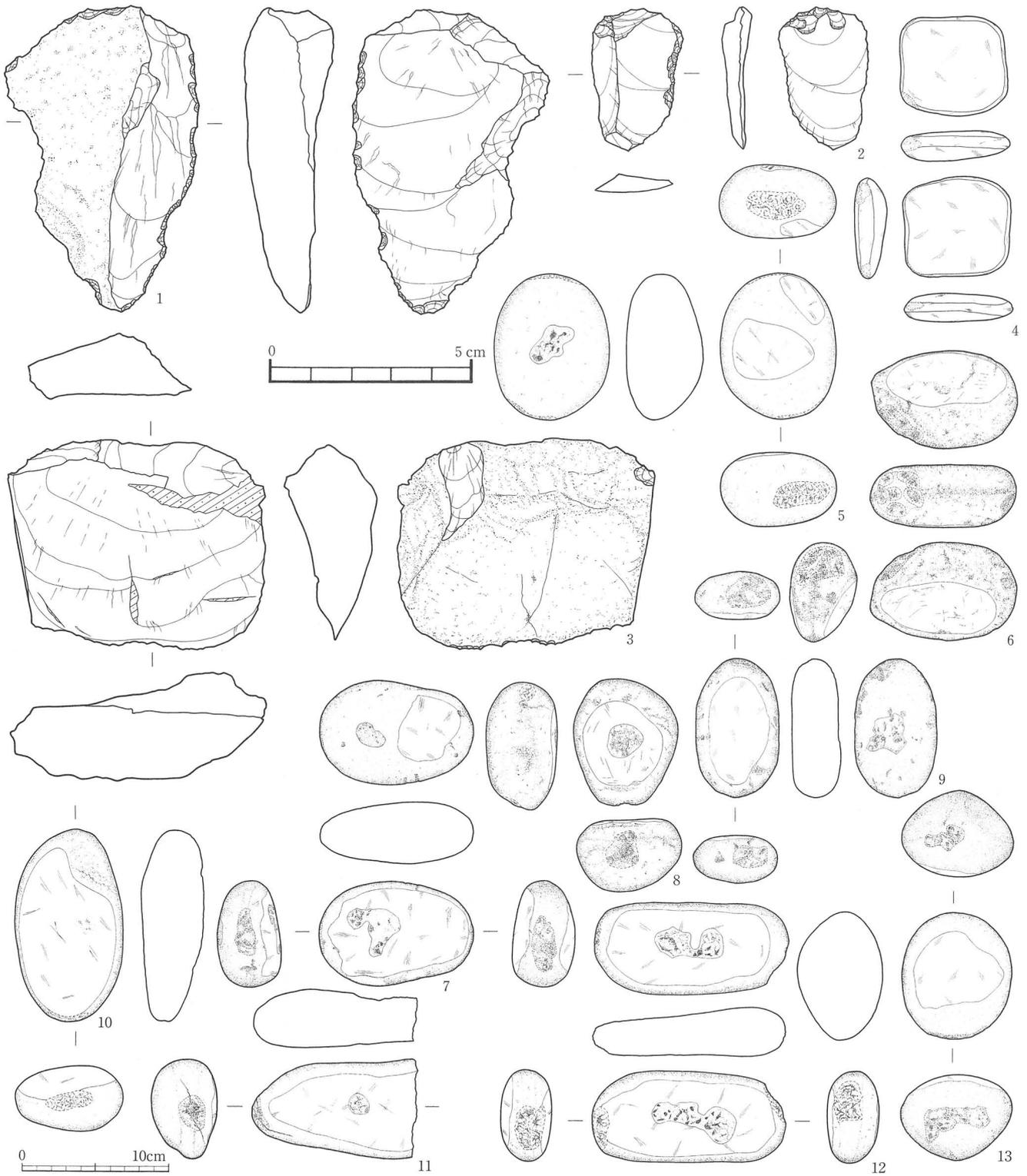
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版									
1	5A-1	縄文土器	鉢	5区	B11-9	IV層	RL縄文・磨減												
2	4A-22	縄文土器	鉢	4区	AB10	IV層	磨減	網代痕											
3	4A-19	縄文土器	底部	4区	B10-16	IV層	ミガキ	木炭痕											
4	4A-23	縄文土器	深鉢	4区	B9-14	IV層	ミガキ												
5	4A-24	縄文土器	深鉢	4区	AB10	IV層	ミガキ			55-19									
8	5P-22	ミナト土器	IVb層			ナデ		15.6g											
No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	写真図版	No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	写真図版		
6	4P-1	蓋	IVb層	(72.0)	(47.0)	6.0	22.9	55-20	23	5P-14	土製円盤	IV層	34.0	42.0	6.0	9.8	55-51		
7	4P-8	蓋	IVb層	(57.0)	(37.0)	10.0	20.7	55-21	24	5P-15	土製円盤	IV層	44.0	45.0	7.0	14.6	55-52		
9	5P-25	土錘	IVb層	29.0	19.0	15.0	8.0	55-25	25	5P-16	土製円盤	IV層	20.0	21.0	6.0	3.1	55-53		
10	5P-3	土製円盤	IV層	30.0	34.0	6.0	7.0	55-40	26	5P-17	土製円盤	IV層	(32.0)	(23.0)	8.0	6.2	55-54		
11	5P-4	土製円盤	IV層	29.0	30.0	8.0	6.9	55-41	27	5P-18	土製円盤	IV層	42.0	42.0	7.0	15.2	55-55		
12	5P-5	土製円盤	IV層	(33.0)	40.0	7.0	11.3	55-42	28	5P-19	土製円盤	IV層	(22.0)	42.0	8.0	9.0	55-56		
13	5P-6	土製円盤	IV層	21.0	28.0	6.0	4.0	55-43	No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	写真図版	
14	5P-20	土製円盤	IV層	26.0	29.0	6.0	5.2	55-57	29	153	4区	B10-14	IVb層	石鏃	29.5	24.0	9.1	3.8	55-70
15	5P-7	土製円盤	IV層	44.0	33.0	6.0	12.0	55-44	30	158	4区	A10-19	IVb層	石鏃	36.0	16.5	7.9	2.8	55-77
16	5P-8	土製円盤	IV層	(29.0)	39.0	8.0	9.5	55-45	31	154	4区	B10-2	IVb層	石鏃	(14.5)	12.0	5.1	0.8	55-72
17	4P-9	土製円盤	IV層	45.0	61.0	8.0	27.0	55-34	32	155	4区	B9-17	IVb層	石鏃	27.0	12.0	3.5	0.8	55-76
18	5P-10	土製円盤	IV層	35.0	39.0	9.0	13.3	55-47	33	765	4区	B11-8	IVb層	石鏃	(22.0)	15.0	7.1	1.9	55-71
19	5P-12	土製円盤	IV層	(52.0)	(57.0)	7.0	22.3	55-49	34	159	4区	B9-21	IVb層	石鏃	36.0	22.5	7.6	4.1	55-96
20	5P-9	土製円盤	IV層	23.0	22.0	9.0	5.1	55-46	35	156	4区	B10-1	IVb層	石鏃	34.0	23.0	10.7	5.5	55-95
21	5P-11	土製円盤	IV層	23.0	21.0	6.0	3.0	55-48	36	224	4区	B10-2	IVb層	尖頭器 槌形	(17.5)	30.5	6.7	4.0	55-98
22	5P-13	土製円盤	IV層	25.0	28.0	6.0	4.7	55-50	37	157	4区	B10-1	IVb層	石錐	28.5	22.5	6.0	1.7	55-103

第47図 包含層出土遺物(4)



No	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	767	5区	B11-13	IVb層 石錐	(35.0)	(9.0)	(4.3)	(1.2)	先端部	55-119
2	814	5区	B11-14	IVb層 石錐	22.0	17.7	4.8	1.4	タール附着	55-110
3	805	5区	B11-9	IVb層 石錐	26.0	17.0	3.5	1.2		55-115
4	177	4区	B10-19	IVb層 石錐	31.5	23.5	10.0	4.5	先端部磨減	55-108
5	217	4区	B10-2	IVb層 石錐	(19.0)	22.5	4.2	1.6	基部折れ	55-101
6	219	4区	B10-2	IVb層 石錐	(28.0)	10.0	9.1	2.2	先端部・焼けはじけ	55-117
7	818	5区	B11-14	IVb層 ビエス・エスキュー	(19.0)	28.0	6.5	4.0	折れ	55-121
8	201	4区	B10-14	IVb層 ビエス・エスキュー	(32.0)	48.0	10.1	17.2	折れ	55-124
9	255	4区	B9-15	IVb層 ビエス・エスキュー	19.5	22.5	4.7	2.1		55-122
10	221	4区	B10-2	IVb層 スクレイパー	22.0	17.5	7.0	1.9		55-127
11	832	5区	B11-3	IVb層 スクレイパー	36.0	16.5	5.0	2.8	微細剥離痕	55-134
12	250	4区	A9-2	IVb層 スクレイパー	42.0	53.0	7.5	17.4		55-128
13	771	5区	A11-20	IVb層 スクレイパー	42.0	40.0	9.2	14.8		56-1
14	202	4区	B10-14	IVb層 二次加工のある剥片	30.5	38.0	7.5	7.7	微細剥離痕	55-102
15	332	4区	B9-25	IVb層 剥片	50.0	23.5	6.5	6.3	微細剥離痕	56-2
16	192	4区	B10-9	IVb層 剥片	47.5	53.0	9.0	20.4	微細剥離痕	56-3

第48図 包含層出土遺物 (5)



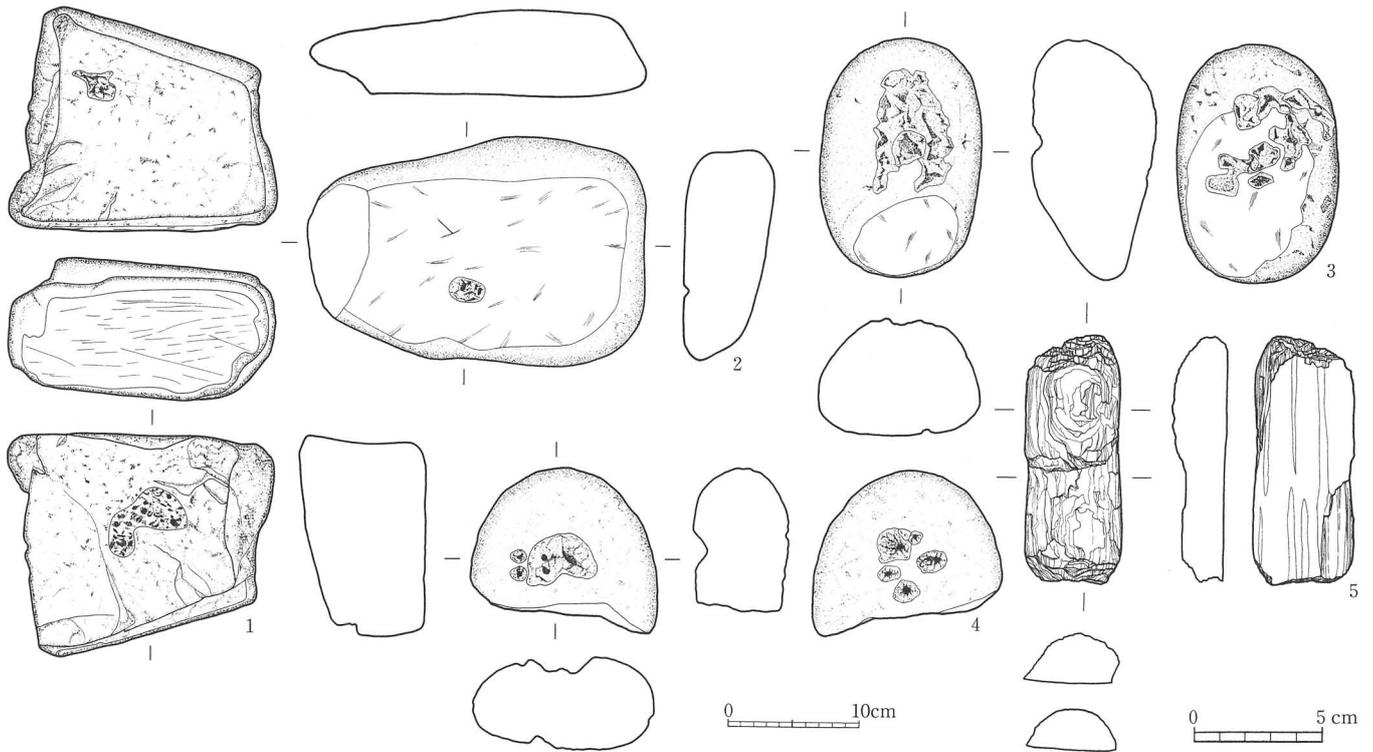
No	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	198	4区	B10-15	剥片	78.0	49.5	16.3	57.5	微細剥離痕	56-4
2	252	4区	A9-2	剥片	36.5	23.0	5.0	4.0	微細剥離痕	56-5
3	772	5区	A12-21	剥片	54.0	65.0	21.5	80.5	微細剥離痕	56-9
4	299	4区	B9-16	礫石器	74.0	69.0	20.0	150.0	磨・敲	
5	862	5区	A12	礫石器	101.0	79.0	51.5	526.5	磨・敲・凹	
6	287	4区	B9-1	礫石器	100.0	68.0	43.5	426.7	磨2面・敲	
7	272	4区	B10-12	礫石器	104.5	72.0	44.0	489.1	磨・敲・凹	56-25
8	284	4区	A9-16	礫石器	87.5	70.5	48.5	425.0	磨・敲・2ヶ所・凹	
9	859	5区	A11-25	礫石器	95.5	56.0	32.0	225.6	磨・敲・凹	
10	854	5区	B11-19	礫石器	133.0	74.0	43.0	535.0	磨・敲	
11	268	4区	B10-14	礫石器	(112.0)	70.0	39.0	413.7	磨・敲・凹	
12	288	4区	B9-1	礫石器	131.0	64.0	34.0	456.2	磨・敲・凹・焼け	
13	852	5区	A12-22	礫石器	88.0	76.0	59.0	519.4	磨・敲	

第49図 包含層出土遺物 (6)



No	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	280	4区	B10-1	IVb層 礫石器	121.0	104.5	57.5	1002.0	磨・凹	
2	281	4区	A8-20	IVb層 礫石器	107.0	102.0	59.0	980.0	磨・敲	56-14
3	294	4区	B9-3	IVb層 礫石器	127.0	99.0	61.0	1050.0	磨・敲・凹	
4	300	4区	B9-16	IVb層 礫石	182.0	(121.5)	19.0	545.0		
5	289	4区	B9-18	IVb層 礫石器	95.0	87.0	62.0	676.0	磨・敲	
6	265	4区	B10-20	IVb層 礫石器	143.0	85.0	61.0	906.9	磨・凹	
7	291	4区	A9-16	IVb層 礫石器	108.0	67.0	27.5	245.0	磨・凹	56-15
8	334	4区	B10-13	IVb層 礫石器	(82.0)	51.0	30.0	161.5	敲・凹	56-16
9	282	4区	A9-16	IVb層 礫石器	61.0	68.5	78.0	389.7	敲	
10	271	4区	B10-12	IVb層 礫石器	96.0	118.5	67.5	855.0	敲・凹	
11	274	4区	B10-6	IVb層 礫石器	92.0	78.0	56.0	434.1	敲・凹	56-24

第50図 包含層出土遺物 (7)



No	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	295	4区	A10-20	礫石器	209.0	159.0	98.0	5,850.0	磨・凹	
2	292	4区	A9-16	礫石器	262.5	183.0	83.0	5,300.0	磨・凹・焼け	
3	297	4区	A9-3	礫石器	191.0	126.5	96.0	3,050.0	磨・凹	
4	266	4区	B10-16	礫石器	(132.0)	146.0	75.0	1,174.7	凹	56-22
5	304	5区	B10-4	珪化木	99.0	39.0	22.0	84.0	磨	56-38

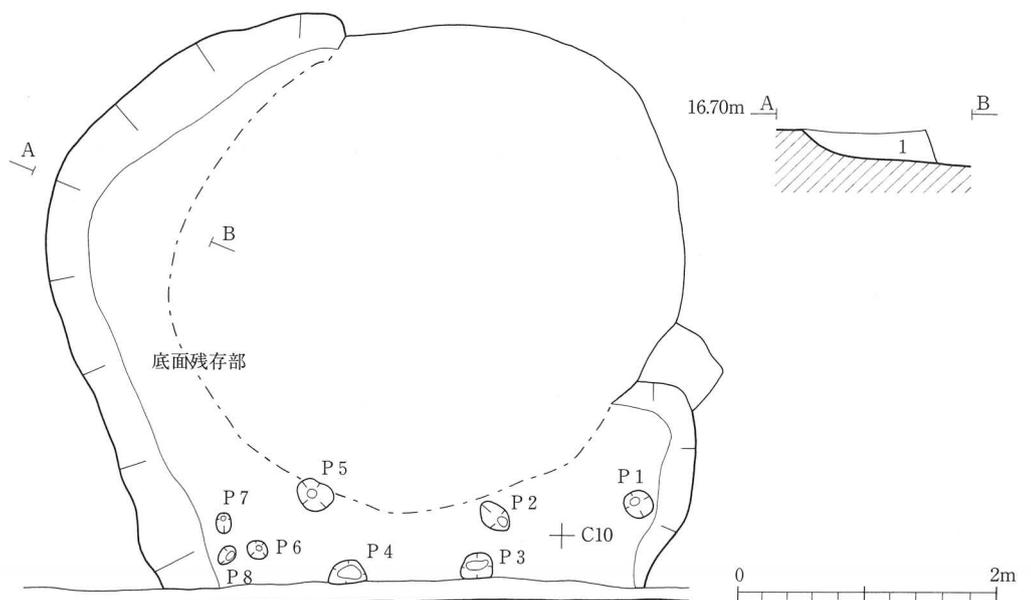
第51図 包含層出土遺物 (8)

V層上面検出遺構

性格不明遺構

SX-3 性格不明遺構 (第52図)

4区の南端B-9・10グリットに位置し、V層上面で確認された。上層のSI-5 堅穴住居跡によって遺構の北東部の大部分が削平され、更に南側の調査区外に延びており、遺構の全体は確認できなかった。平面形は長軸4.75m以上、短軸2.8m～4.3mの不整な隅丸長方形を基調としたものであると考えられるが、遺構の大部分が検出されず、不明である。西壁を基準とした方向はN-20°-Wである。堆積土は遺構の大部分が残っておらず確認されたのは1層のみで、炭化物が混入し

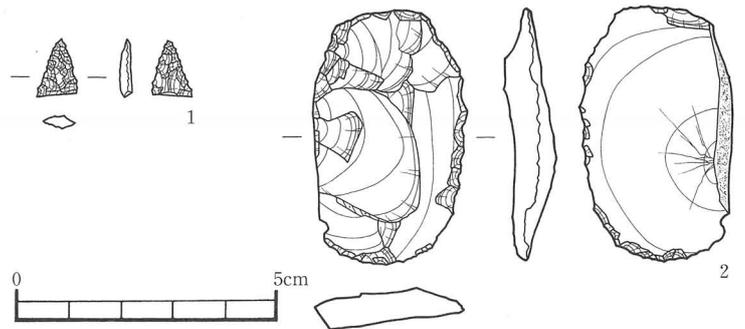


No.	土色	土性	備考
1	10YR4/4 10YR6/6	褐 明黄褐	粘土質シルト 炭化物少量含む。
Pit	10YR3/4 10YR2/3	褐 暗褐	粘土質シルト

Pit (cm)								
No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8
深さ	14	30	18	14	22	18	28	20

第52図 SX 3 性格不明遺構

ている。壁面は最も保存の良い西壁南部分で33cmである。大部分の壁は底面から緩やかに立ち上がるが、東壁は急角度で立ち上がる。掘り方底面が直接底面となっている。凸凹はなく、ほぼ平坦である。底面レベルは北側が高く南側へ向かって低くなる。底面でピット8個が検出された。配置、規模に規則性がなく、柱痕跡もみられなかった。その他に周溝や、炉などの施設は検出されなかった。縄文土器、石器が出土し、剥片石器2点を図示した。

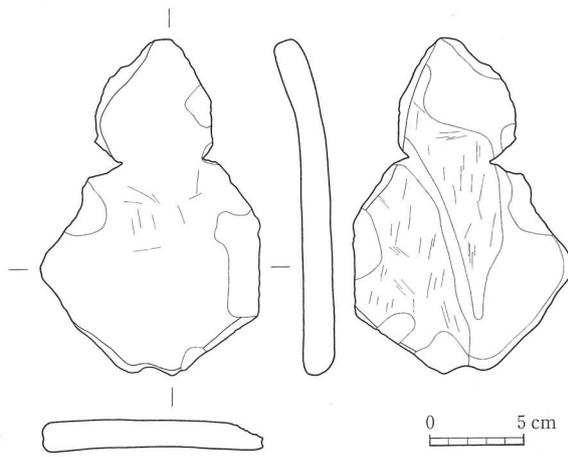
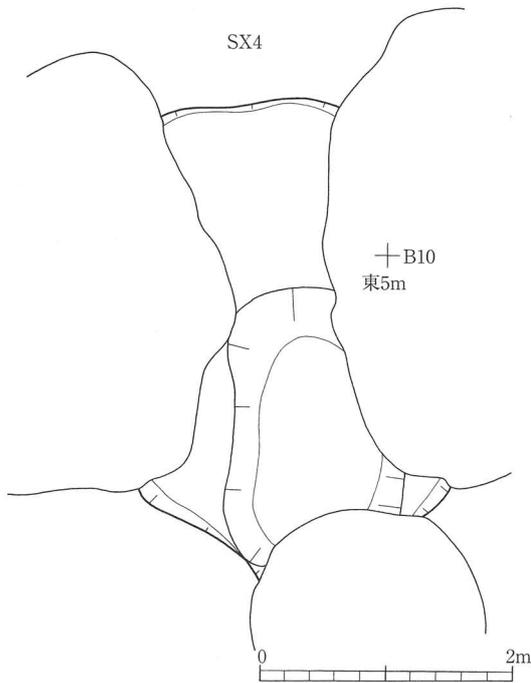


No	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	747	4区	B9-10	石鏃	(11.0)	8.0	2.3	0.2	尖端の部分	
2	748	4区	B9-10	スクレイパー	50.5	30.5	6.8	12.4		55-133

第53図 SX 3 性格不明遺構出土遺物

SX-4 性格不明遺構 (第54図)

4区の中央北東寄りA・B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。遺構の東側を上層の3号倒木痕によって削平され、更に南側がSK-31土坑、西側が7号倒木痕と重複し、それぞれに切られていることから、本遺構が最も古い。遺構の3方を削平されているため正確な平面形は不明であるが、南北3.7m以上、東西2.45m以上の規模で、方向は不明である。堆積土は単層である。10YR3/4(暗褐)・10YR2/3(黒褐)の混在するシルト層で、炭化物、10YR4/4(褐)細砂ブロックが混入している。壁面は最も保存の良い西南壁で11cmと、遺存状況は良くない。大部分の壁は



底面から緩やかに立ち上がる。掘り方底面が遺構底面となっている。細かい凸凹はないが、底面の南側に段があり、南側が7cm低くなっている。縄文土器、石器、石製品が出土し、石製品1点を図示した。

第54図 SX 4 性格不明遺構・出土遺物

土坑

SK-22土坑 (第55図)

6区B-13グリット南側の確認トレンチの西寄りに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.25m、短軸0.88mの不整な楕円形で、長軸方向はE-40°-Nである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い北東壁で20cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には細かい凸凹はないが、三段になっており、5cm~7cmのレベル差を持ちながら南から北へと下がっている。遺物は出土していない。

SK-23土坑 (第55図)

6区B-13グリット南側の確認トレンチの西寄りに位置し、V層上面で確認された。南側の確認トレンチの外側

に延びており、全体は確認できなかつた。遺構は二段になっており、上部は崩落した部分で、下部が本来の遺構の残存部分であると考えられる。上部の平面形は長軸2.15m、短軸0.95m以上の楕円形を基調としたものであると考えられ、本来の遺構の残存部と考えられる東側の下部は長軸1.1m、短軸0.95m以上の楕円形で、長軸方向はE-8°-Nである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い北東壁で40cmの高さで残存している。底面からオーバーハングしながら立ち上がっている。底面はほぼ平坦であるが、細かい凸凹がある。遺物は出土していない。

SK-24土坑 (第55図)

5区の東端A-12グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.0m、短軸0.85mの不整な楕円形で、長軸方向がE-0°-N・Sである。西側が長軸0.85m、短軸0.65mの不整な楕円形に一段深くなっている。西側の長軸方向はN-13°-Wである。堆積土は6層に分けられ、中に焼土層、炭化物を多量に含む層がある。壁面は最も保存の良い西側の北壁で48cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がるが、オーバーハングしながら立ち上がる部分がある。底面は二段になっており、東側が浅く、西側が深くなっている。東側は西側に傾斜しており、西側の底面と35cmの比高差がある。西側の底面はほぼ平坦である。底面レベルは南側が高く、北側が低くなっている。縄文土器、石器が出土し、縄文土器1点、礫石器1点を図示した。

SK-25土坑 (第55図)

5区の西端B-11グリットに位置し、V層上面で確認された。遺構は西側の調査区外に延びており、できるだけ調査区の拡張を試みたが、遺構全体を検出することは出来なかつた。ピットと重複しており、本遺構がピットを切っていることから、本遺構が新しい。全体の平面形は不明であるが、長軸2.4m以上、短軸1.4m以上の方形を基調とするもので、東側に張出部があるものと思われる。方向は不明である。堆積土は2層に大別される。第1層に焼土、炭化物を多量に含む層がある。壁面は最も保存の良い北東壁で28cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がるが、緩やかに立ち上がり、二段になっている部分がある。底面はほぼ平坦である。底面レベルは南側が高く、北側が低くなっている。検出部分の北側に直径25cm、深さ15cmのピットが検出された。縄文土器、土製品、石器が多量に出土し、縄文土器8点、土製品2点、剥片石器24点、礫石器3点を図示した。また、堆積土中に細かい遺物が見られたため、堆積土の2層をサンプリングして水洗したところ多量のチップが検出された。チップの量は8,300個以上でおおよそ500gにのぼる。

SK-26土坑 (第55図)

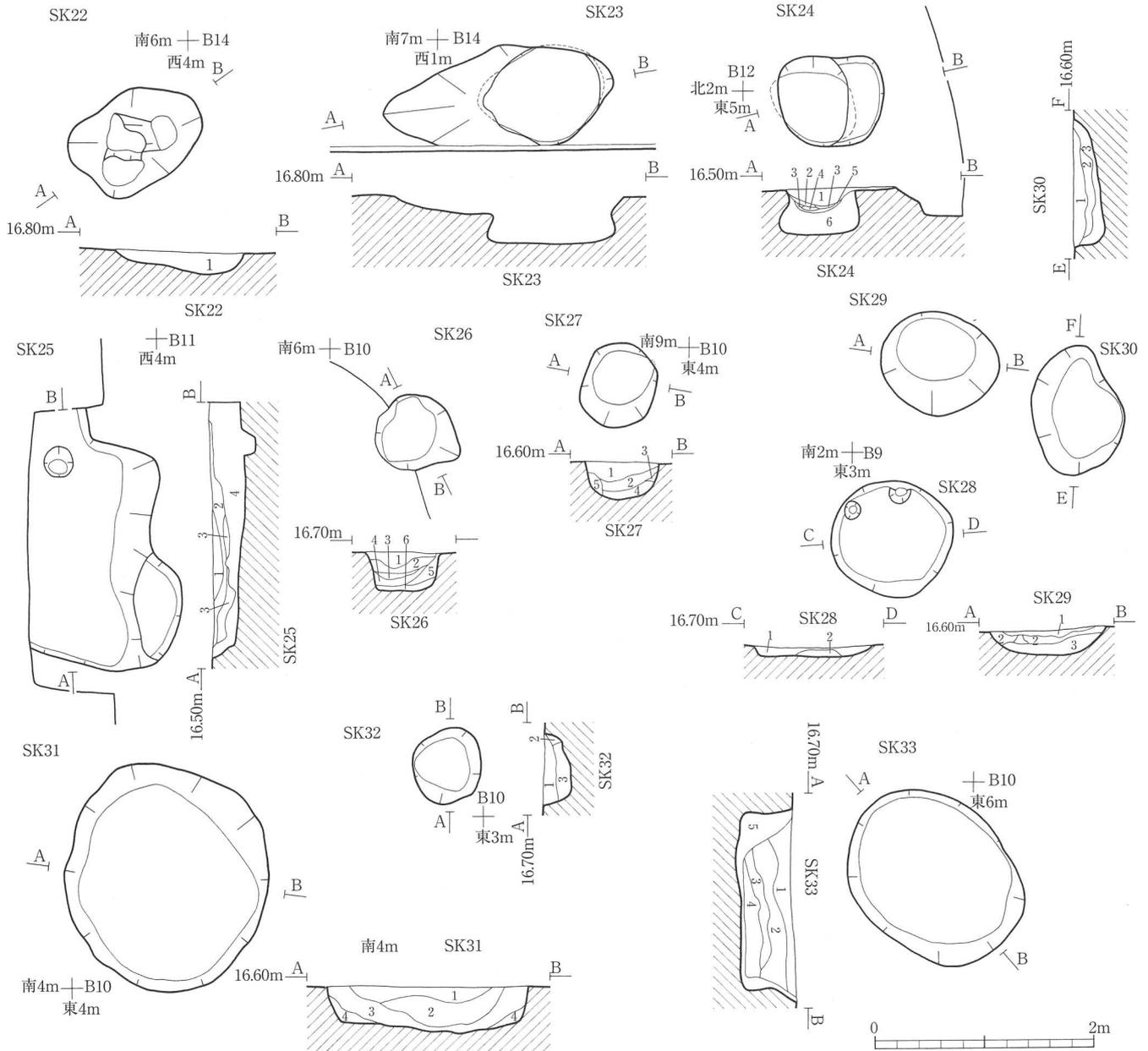
4区の中央南東寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。V層上面では他の遺構との重複関係はないが、上層のSI-5 堅穴住居跡によって遺構の西半部が削平されている。全体の平面形は不明であるが、直径0.7m前後の不整な円形を基調としたものであると思われる。堆積土は6層に分けられる。壁面は最も保存の良い北壁で37cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がるが、緩やかに立ち上がる部分がある。底面はほぼ平坦である。底面レベルは南側が高く、北側が低くなっている。縄文土器、石器が出土した。

SK-27土坑 (第55図)

4区の南寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.8m、短軸0.67mの不整な円形である。堆積土は5層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で36cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土した。

SK-28土坑 (第55図)

4区の中央、B-9グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は直径約1.1mの不整な円形である。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い西壁で11cmの高さと残存状況は良くない。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がある。底面はほぼ平坦であるが、底面北側に直径15cm~25cm、深さ5cm~8



遺構	No.	土色	土性	備考
SK22	1	10YR4/2 灰黄褐	粘土	10YR3/2(黒褐)の粘土ブロックを多量に含む。
SK23	1	10YR4/2 灰黄褐	粘土	10YR3/2(黒褐)の粘土ブロックを多量に含む。
SK24	1	10YR2/2 黒褐	粘土	焼土ブロック・木炭粒を少量含む。
	2	10YR2/2 黒褐	粘土	焼土ブロック・木炭粒を多量に含む。
	3	5YR4/4 にぶい赤褐	焼土	
	4	10YR3/2 黒褐	粘土	木炭粒を少量含む。
	5	7.5YR2/2 黒褐	粘土	焼土粒・木炭粒を微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐	粘土	木炭粒を少量含む。
SK25	1	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土	木炭粒を多量・焼土粒を微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐	粘土	木炭粒を多量・焼土粒を少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐	粘土	木炭粒を薄層状に多量・焼土ブロックを少量含む。
	4	10YR4/4 褐	粘土	木炭粒を少量含む。
SK26	1	10YR3/3 黒褐	砂質シルト	炭化物・酸化鉄を含む。
	2	2.5YR4/2 暗灰黄		
SK27	1	10YR3/4 暗褐	シルト	10YR4/6(褐)の砂質シルトブロックと炭化物を含む。
	2	10YR4/4 にぶい赤褐	シルト質砂	炭化物を含む。
	3	10YR3/3 暗褐	粘土質シルト	10YR5/3(にぶい黄褐)の細砂ブロック・炭化物を多量に含む。
	4	10YR4/6 褐	シルト	10YR3/4(暗褐)のシルトブロック・炭化を少々含む。
	5	10YR3/2 黒褐	シルト	10YR5/4(にぶい黄褐)の粘土ブロック・炭を含む。
	6	10YR2/5 黒褐	シルト	砂粒・炭を含む。
SK28	1	10YR2/5 黒褐	シルト	炭粒を含む。
	2	10YR3/4 暗褐	シルト	
	3	10YR4/6 褐	粘土質シルト	しまり大。
	4	10YR4/4 褐	粘土質シルト	10YR4/6(褐)の粘土粒・炭粒を含む。
	5	10YR4/4 褐	シルト	しまり大、炭を若干含む。

遺構	No.	土色	土性	備考
SK28	1	7.5YR3/4 暗褐	シルト	炭化物・10YR4/4(褐)の砂粒を含む。
SK29	1	10YR4/4 褐	シルト	炭化物を含む。
	2	7.5YR4/4 褐	砂質シルト	炭化物・焼土・骨片を含む。
	3	7.5YR3/4 暗褐	シルト	10YR4/6(褐)砂質シルトブロック・炭・焼土粒を含む。
SK30	1	10YR3/4 暗褐	粘土質シルト	炭化物を含む。
	2	10YR4/4 褐	シルト	炭化物を含む。
	3	2.5YR3/3 暗オリーブ褐	粘土質シルト	炭化物を多量・白色砂粒を含む。
SK31	1	10YR4/4 褐	砂質シルト	炭を若干と10YR3/4(暗褐)のシルトブロックを塊状に含む。
	2	7.5YR3/4 暗褐	シルト	炭・10YR5/6(黄褐)の砂の小ブロックを含む。
	3	10YR4/6 褐	シルト	10YR5/8(黄褐)の粘土粒を含む。
	4	10YR4/4 褐	シルト質粘土	粘性大、炭を少々含む。
SK32	1	10YR3/4 暗褐	シルト	10YR4/6(褐)のシルトブロックと炭を含む。
	2	10YR4/6 褐	粘土質シルト	
	3	10YR3/2 黒褐	シルト	炭を多量含む。
SK33	1	10YR3/4 暗褐	シルト	炭化物・焼土粒・マンガンを含む。
	2	10YR4/6 褐	粘土質シルト	炭化物を少々含む。
	3	7.5YR4/4 褐	シルト	炭化物を多量・白色砂粒を含む。
	4	7.5YR4/6 褐	粘土質シルト	炭化物を若干と、上に7.5YR3/3(暗褐)の粘土質シルトの小ブロックを含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐	砂質シルト	

第55図 SK22土坑～SK33土坑

cmの2個のピットがある。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、剥片石器1点を図示した。

SK-29土坑 (第55図)

4区の中央やや西寄り、B-9グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.1m、短軸0.97mの不整な楕円形で、長軸方向はW-30°-Nである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い北壁で25cmの高さで残存している。底面から緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは南壁際が低く、北壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、礫石器1点を図示した。

SK-30土坑 (第55図)

4区の中央やや西寄り、B-9グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.23m、短軸0.85mの不整な楕円形で、長軸方向はN-8°-Eである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で30cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分がある。底面はほぼ平坦である。底面レベルは南壁際が低く、北壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、礫石器1点を図示した。

SK-31土坑 (第55図)

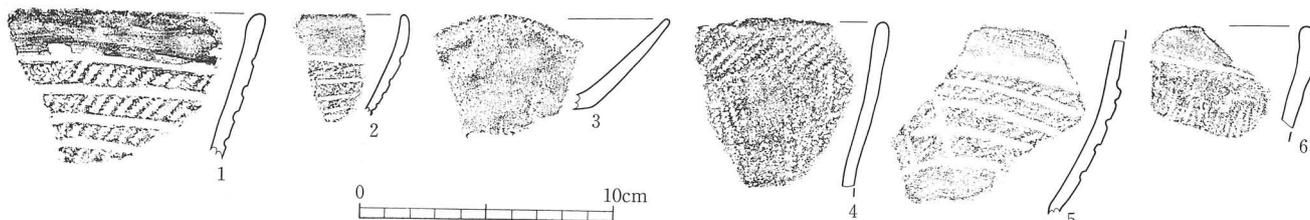
4区の中央東寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。SX-4性格不明遺構と重複関係にあり、本遺構が切っていることから本遺構が新しい。平面形は長軸2.1m、短軸1.85mの不整な楕円形で、長軸方向はN-12°-Wである。堆積土は4層に分けられる。壁面は最も保存の良い北壁で35cmの高さで残存している。大部分底面から急角度で立ち上がり、オーバーハングした部分も見られるが、北東部分は緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは中央部が低く、壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、縄文土器1点、礫石器1点を図示した。

SK-32土坑 (第55図)

4区の南寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.73m、短軸0.65mの不整な楕円形で、長軸方向はN-15°-Eである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁で25cmの高さで残存している。大部分底面から緩やかに立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面は小さい凸凹がある。底面レベルは中央~南壁際が低く、北壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土した。

SK-33土坑 (第55図)

4区の中央やや南寄り、B-10グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.77m、短軸1.4mの不整な楕円形で、長軸方向はN-21°-Wである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁で50cmの高さで残存している。大部分底面から急角度で立ち上がるが、壁面中位までオーバーハングしている部分もある。底面には緩やかな起伏が見られる。底面レベルは中央付近が低く、壁際が高くなっている。縄文土器、石器が出土し、礫石器1点を図示した。



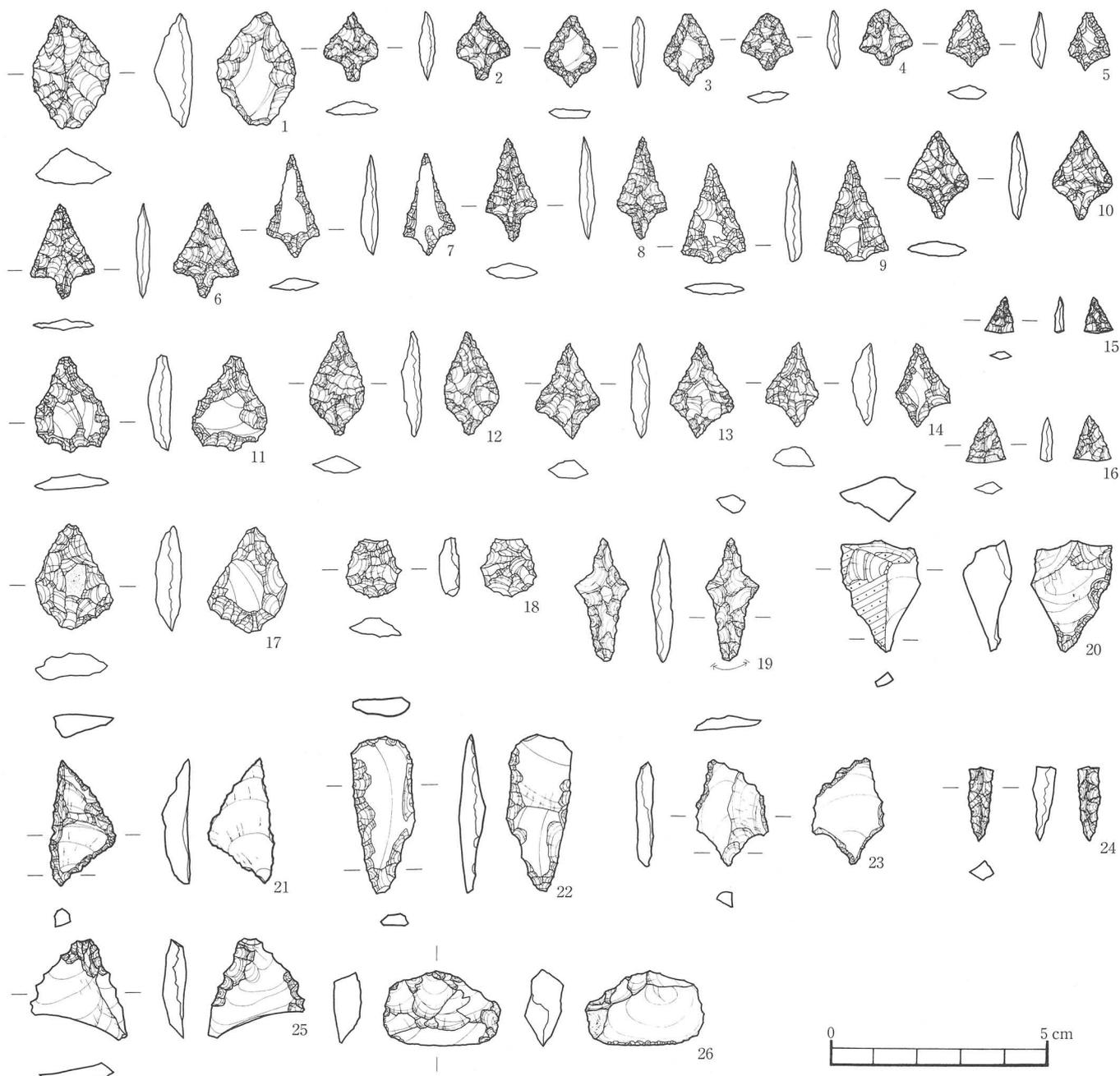
No.	登録番号	種別	器種	遺構	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5A-8	縄文土器	深鉢	SK24	堆積土	LR縄文・沈線文	ミガキ	—		54-42
2	5A-10	縄文土器	深鉢	SK25	堆積土	沈線文	ミガキ	—		54-43
3	5A-11	縄文土器	鉢	SK25	堆積土	ミガキ	磨滅	—		54-46
4	5A-14	縄文土器	深鉢	SK25	堆積土	LR縄文	ミガキ	—		54-47
5	4A-4	縄文土器	深鉢	SK30	堆積土	LR縄文・沈線文	磨滅	—		54-52
6	4A-5	縄文土器	深鉢	SK31	堆積土	RL縄文・沈線文	磨滅	—		54-53

第56図 土坑出土遺物 (1)



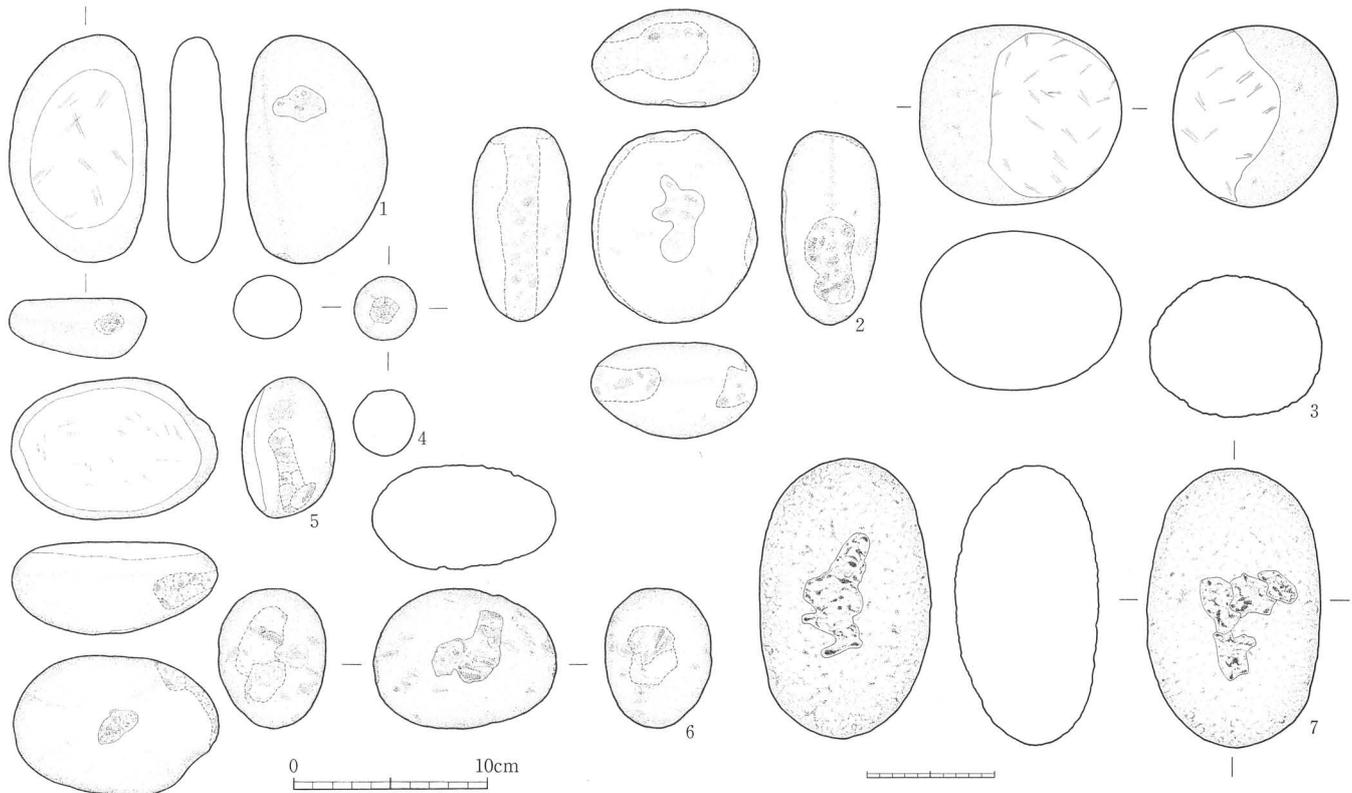
No.	登録番号	種別	器種	遺構	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5A-9	縄文土器	深鉢	SK25	堆積土	隆線文・沈線文・刺突文	隆線文・磨滅	—	—	54-44
2	5A-6	縄文土器	深鉢	SK25	堆積土	LR縄文・沈線文	ミガキ	—	突起5コ・補修孔	54-48
3	5A-4	縄文土器	深鉢	SK25	堆積土	RL縄文・沈線文	ミガキ	—	—	54-49
4	5A-7	縄文土器	深鉢	SK25	堆積土	LR縄文	ミガキ	—	—	54-51
5	4A-58	縄文土器	深鉢	SK33	堆積土	LR縄文	ミガキ	—	—	54-55
6	4A-60	縄文土器	浅鉢	SK31	底面	LR縄文・ミガキ	ミガキ	ミガキ	粘土紐痕	54-54
7	5A-3	縄文土器	深鉢	SK25	堆積土	LR縄文	ミガキ	—	—	54-50
No.	登録番号	種別	遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考		写真図版
8	5P-21	土製円盤	SK25	26.0	23.0	6.0	3.8	—		55-58
9	4P-10	土製円盤	SK33	(30.0)	25.0	7.0	6.5	—		55-35
10	4P-11	土製円盤	SK33	51.0	42.0	8.0	20.5	—		55-36

第57図 土坑出土遺物(2)



No	登録番号	地区	遺構	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	13	2区	SK 5	堆積土	石鏃	27.0	18.5	8.5	3.3		55-97
2	870	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	16.5	13.0	3.2	0.5		55-92
3	879	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	17.0	12.0	2.3	0.5		55-74
4	881	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	13.5	13.0	2.5	0.4		55-83
5	880	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	13.5	9.5	3.2	0.3		55-82
6	876	5区	SK25	堆積土	石鏃	23.0	15.0	3.2	0.6		55-62
7	877	5区	SK25	堆積土	石鏃	24.0	12.0	3.9	0.6	タール付着	55-63
8	872	5区	SK25	堆積土	石鏃	24.5	12.0	3.9	0.7		55-66
9	885	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	24.0	15.0	3.1	0.9	タール付着	55-60
10	873	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	21.0	14.0	3.6	0.9		55-88
11	886	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	23.0	17.5	4.9	1.4		55-75
12	875	5区	SK25	堆積土	石鏃	24.5	13.0	4.1	1.0		55-89
13	878	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	23.0	15.0	4.5	1.0		55-80
14	874	5区	SK25	堆積土	石鏃	20.0	12.5	4.9	0.9		55-81
15	887	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	(13.5)	(7.0)	(2.2)	(0.1)	先端部	
16	888	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	(11.0)	(9.0)	(2.7)	(0.2)	先端部	
17	882	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	25.0	18.5	5.4	2.5		55-85
18	884	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	(14.0)	13.0	4.4	(0.8)	先端部折れ	55-87
19	871	5区	SK25	堆積土	石鏃	30.0	13.0	4.5	1.0		55-104
20	897	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	26.0	19.0	10.2	3.2		55-112
21	1025	5区	SK25	堆積土	石鏃	30.0	16.0	6.5	2.1		55-105
22	889	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	(37.5)	15.0	5.3	(2.8)	先端部折れ	55-109
23	1091	5区	SK25	堆積土	石鏃	25.0	17.0	3.3	1.4		55-114
24	890	5区B11	SK25	堆積土	石鏃	(17.5)	(6.0)	(4.2)	(0.4)	先端部	55-118
25	883	5区B11	SK25	堆積土	剥片	24.0	23.0	5.3	2.0	二次加工	56-7
26	374	4区	SK28	堆積土	剥片	18.0	28.5	7.0	3.4	微細剥離痕	56-6

第58図 土坑出土遺物 (3)



No	登録番号	地区	遺構	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	1183	5区B11	SK25	堆積土	礫石器	121.0	73.0	30.0	319.6	磨・敲・凹	
2	385	4区	SK30	堆積土	礫石器	103.0	87.0	50.5	565.0	敲2ヶ所・凹	56-21
3	1181	5区A12	SK24	堆積土	礫石器	160.5	144.5	126.0	4,290.0	磨	
4	1182	5区B12	SK25	堆積土	礫石器	32.5	34.0	36.5	54.0	敲	
5	384	4区	SK29	堆積土	礫石器	108.0	75.0	49.0	56.0	磨・敲・凹	56-27
6	387	4区	SK31	堆積土	礫石器	96.5	75.0	55.5	490.2	敲・凹	
7	388	4区	SK33	堆積土	礫石器	225.0	133.0	114.0	4,008.0	凸5ヶ所	

第59図 土坑出土遺物 (4)

ピット群

4区及び5区のV層上面でピットが確認された。4区では27個、5区では10個のピットが検出された。ピットの中には柱痕跡が確認できるもの、埋土に共通性のあるもの、規模、深さに共通性が見られるものもあるが、建物として組み合う可能性の考えられるものは、5区の1棟のみであり、他には掘立柱建物として組み合う可能性のあるものは確認することは出来なかった。ピットからの出土遺物は縄文土器、石器があり、炭化物が混入しているものも多い。

SB-5 建物跡 (第60図)

5区の北東寄り、A・B-11グリットに位置し、V層上面で確認された。SK-25土坑とP-25が重複関係にあり、SK-25土坑に切られていることから本遺構が古い。東西1間、南北1間の建物跡である。南側柱列は2.7m、東側柱列は3.6m、北側柱列は3.0m、西側柱列は2.65mとやや歪んでいる。方向は西側柱列でN-18°-Eである。P24、P25、P31から縄文土器、石器が出土し、縄文土器2点、剥片石器1点、礫石器1点を図示した。

4区V層上面ピット土層誌記

No.	土色	土性	備考
F-1	10YR3/2 黒褐	粘土質シルト	10YR4/3砂質シルトブロックを少量含む。
F-2	10YR3/2 黒褐	粘土質シルト	10YR4/3砂質シルトブロック、木炭粒を少量含む。
F-3	10YR3/2 黒褐	粘土質シルト	10YR4/3砂質シルトブロックを少量、木炭粒を微量含む。

5区(V層上面)ピット土層誌記

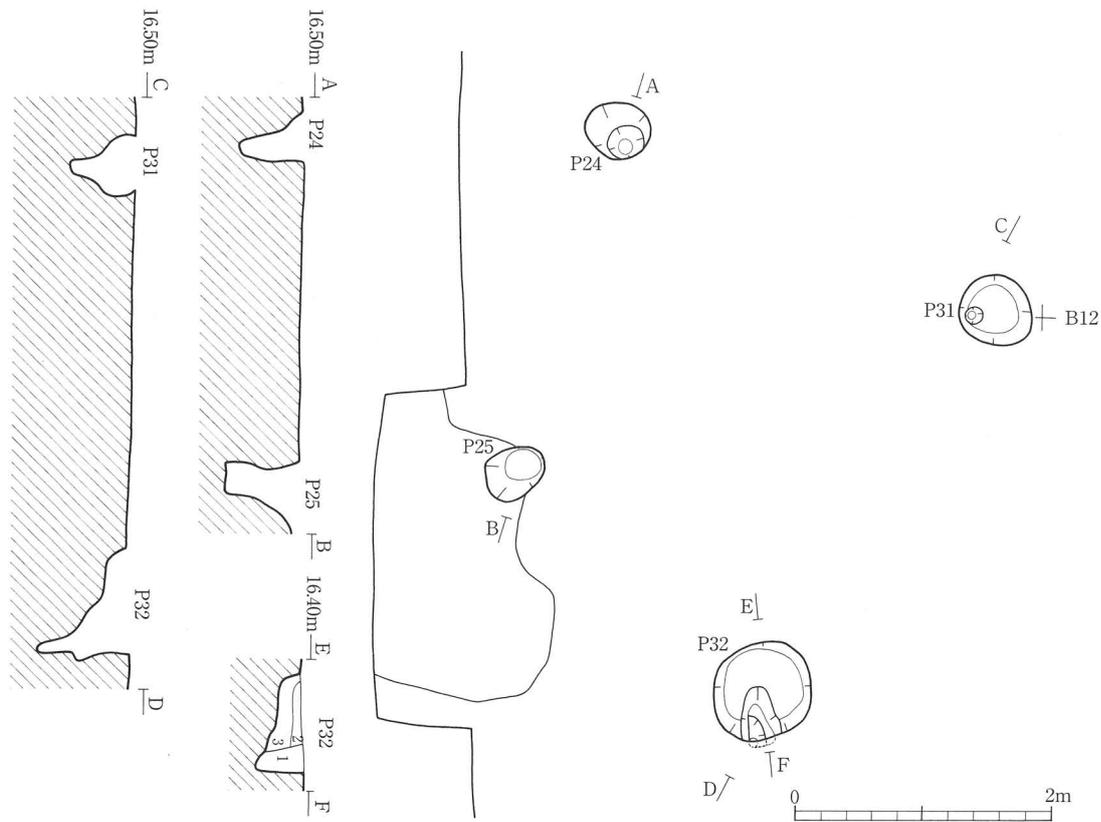
No.	土色	土性	備考
P23	10YR3/2 黒褐	粘土	木炭粒多量、焼土粒を微量含む。
P24~31	10YR3/3 暗褐	粘土	木炭粒を微量含む。

4区V層上面ピット (cm)

No.	P59	P60	P61	P62	P63	P64	P65	P66	P67	P68	P69	P70	P71	P72	P73	P74	P75
埋土	F1	F2	F1	F1	F1	F1	F3	F1	F1	F1	F1	F2	F1	F3	F2	F1	F3
深さ	40	38	56	29	45	18	17	50	24	13	34	48	35	39	25	14	56
No.	P76	P77	P78	P79	P80	P81	P82	P83	P84	P85	P86	P87					
埋土	F1	F1	F3	F2	F2	F3	F2	F1	F2	F2	F2	F3					
深さ	27	23	38	8	29	19	33	15	17	25	12	17					

5区V層上面ピット (cm)

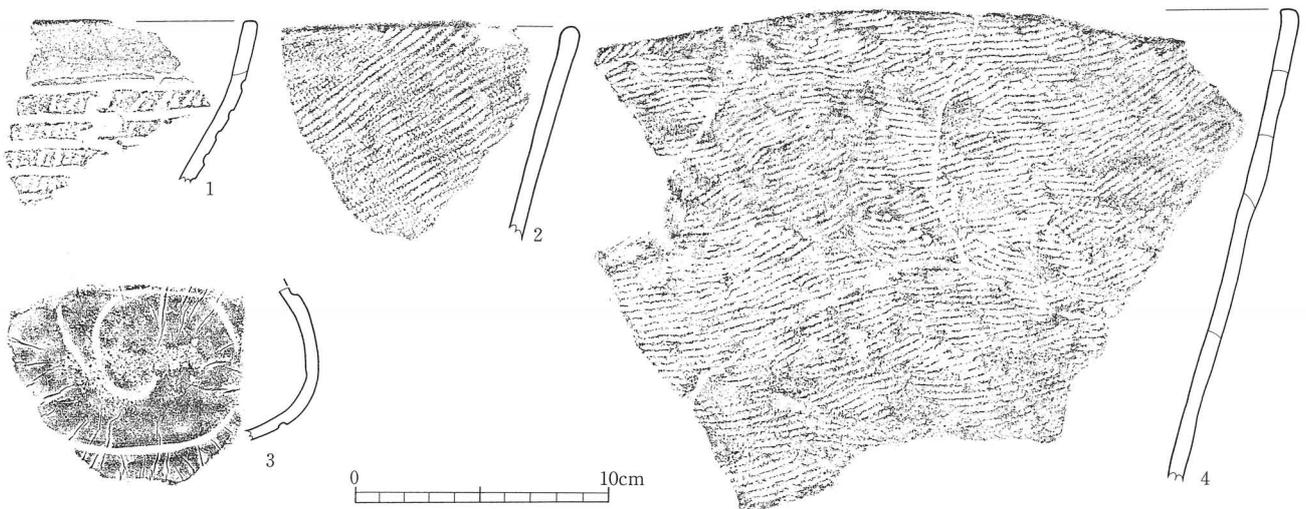
No.	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31
深さ	26	49	58	26	26	30	21	28	33



5区 P32土層註記

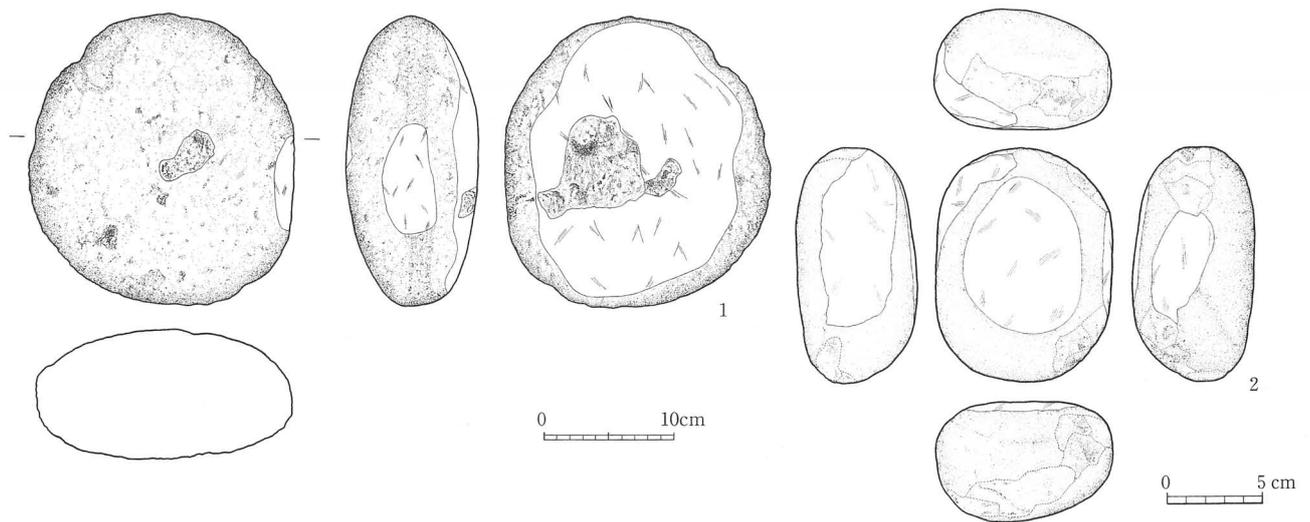
層位	No.	土色	土性	備考
柱痕跡	1	10YR3/3	暗褐色粘土	木炭粒多量、焼土粒を微量含む。
掘り方	2	10YR3/3	暗褐色粘土	木炭粒微量。
掘り方	3	10YR3/2	黒褐色粘土	木炭粒多量、焼土粒を少量含む。

第60図 SB 5 建物跡



No.	登録番号	種別	器種	地区	遺構	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5A-13	縄文土器	深鉢	5区	AB11 P31	LR縄文・沈線文	ミガキ	—		54-59
2	4A-7	縄文土器	深鉢	4区	B10 P85	LR縄文	ミガキ	—		54-57
3	5A-12	縄文土器	鉢	5区	B11 P25	沈線文・ミガキ	ナデ	—		54-58
4	4A-6	縄文土器	深鉢	4区	B10 P86	L縄文	ミガキ	—		54-56

第61図 ピット出土遺物 (1)

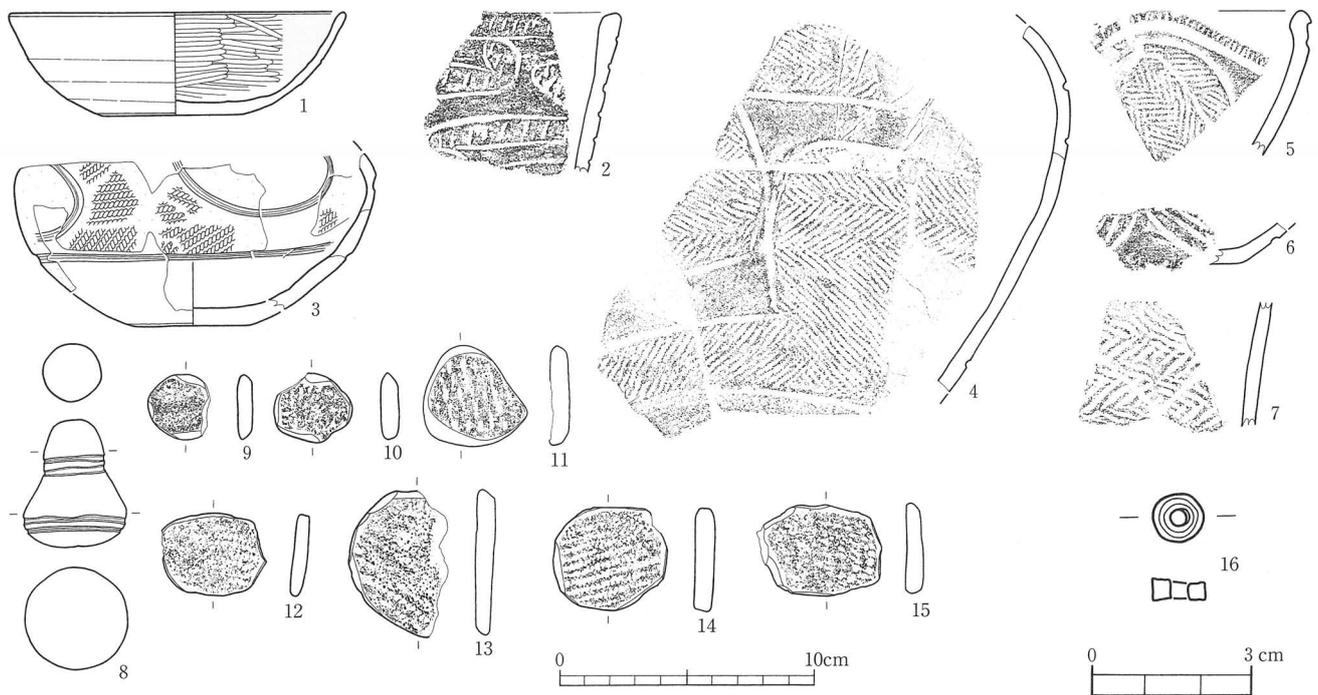


No.	登録番号	地 区	遺 構	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	480	4区 B10	P86	礫石器	232.0	208.0	105.0	5,370.0	磨・凹・焼け	
2	479	4区 B9	P72	礫石器	124.5	92.5	62.0	1,138.1	磨・凹	

第62図 ピット出土遺物 (2)

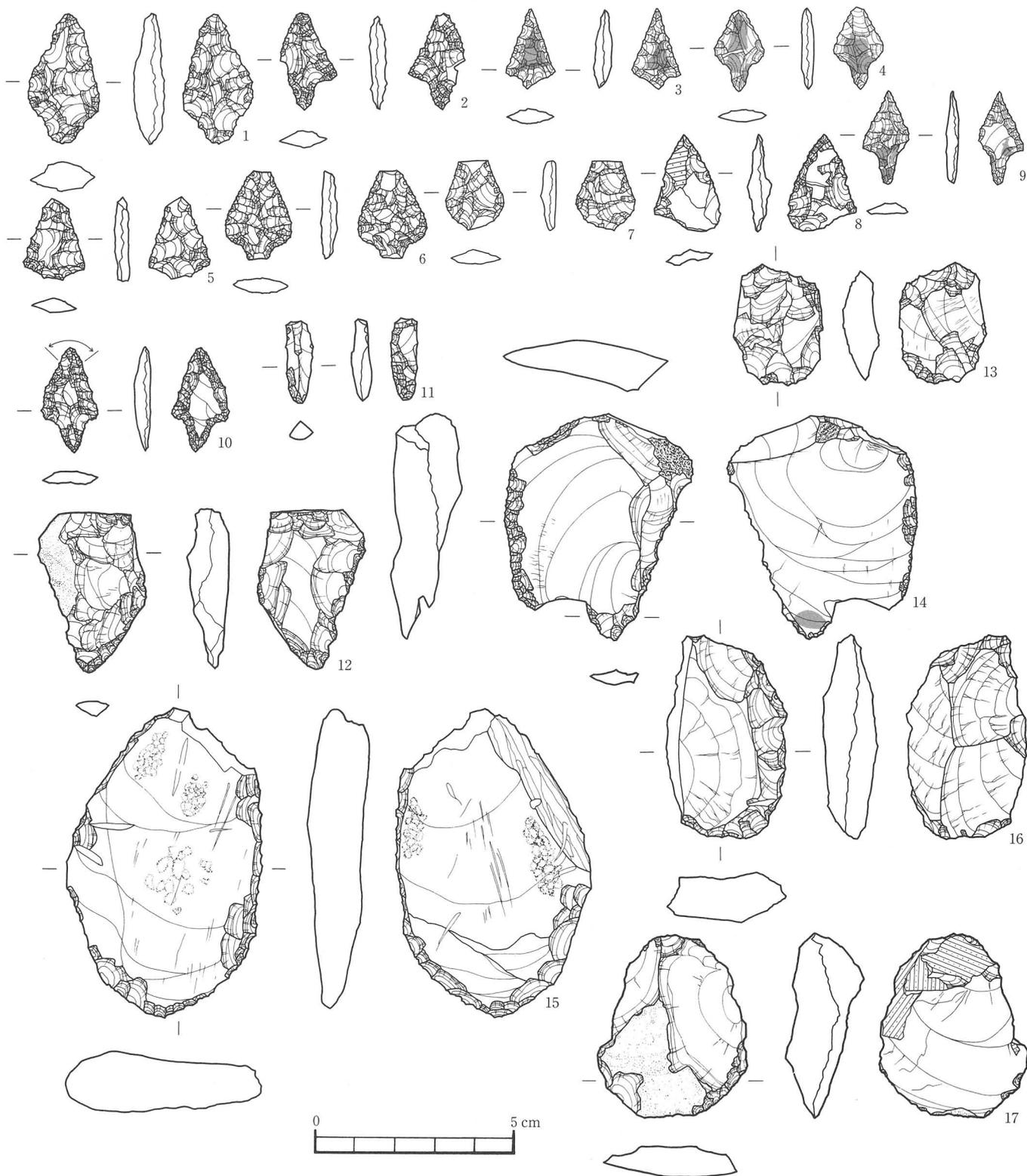
遺構外出土遺物

各区のI層～Ⅲb層の遺構に属さない基本層中出土遺物のうちの主なものを図示する。各層検出の倒木痕から出土した遺物についてもここに掲載する。



No.	登録番号	種 別	器 種	地 区	層 位	外 面	内 面	底 部	備 考	写真図版
1	4D-1	土師器	环	4区	Ⅲ層	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転条切り		53-18
2	2A-1	縄文土器	深鉢	2区	I層	沈線文・刺突文	ミガキ			55-7
3	4A-20	縄文土器	注口	4区 A9-21	Ⅲb層	LR縄文・沈線文	ミガキ			54-2
4	4A-13	縄文土器	深鉢	4区	Ⅲb層	LR・RL縄文・沈線文	ミガキ			54-62
5	4A-14	縄文土器	深鉢	4区	Ⅲb層	LR・RL縄文・沈線文・刻目文	ミガキ			54-63
6	4A-2	縄文土器	鉢	4区 B10-12	Ⅲb層	沈線文	ミガキ			55-2
7	4A-16	縄文土器	深鉢	4区 B10-16	Ⅲb層	LR・RL縄文	ミガキ			54-64
No.	登録番号	種 別	地 区	層 位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
8	4P-12	分銅型土製品	4区 B10		51.0	大径 41.0 小径 23.0		60.1		55-24
9	5P-1	土製円盤	5区	I層	26.0	24.0	6.0	4.1		55-38
10	5P-2	土製円盤	5区	I層	28.0	31.0	7.0	6.3		55-39
11	4P-3	土製円盤	5区	Ⅲb～Ⅳ層	41.0	42.0	8.0	12.8		55-30
12	4P-4	土製円盤	4区 B10-25	Ⅲb層	33.0	41.0	6.0	10.2		55-31
13	4P-5	土製円盤	4区 B10-16	Ⅲb層	59.0	39.0	8.0	17.9		55-32
14	4P-6	土製円盤	4区 B10-8	Ⅲb層	41.0	44.0	7.0	16.1		55-33
15	4P-7	土製円盤	4区 B9-4	Ⅲb層	36.0	49.0	7.0	14.3		55-37
16	1207	石製品	4区	I層	10.0	10.0	4.5	0.8		56-42

第63図 遺構外出土遺物 (1)



No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	62	4区	B10-23	Ⅲb層 石鏃	34.0	18.0	7.2	3.4		55-84
2	64	4区	B9-14	Ⅲb層 石鏃	(25.0)	(14.5)	4.7	(0.9)	折れ2ヶ所、タール付着	55-68
3	65	4区	B9-13	Ⅲb層 石鏃	21.0	12.5	4.3	0.8	タール付着	55-78
4	66	4区	A9-17	Ⅲb層 石鏃	21.0	12.5	3.2	0.7	タール付着	55-73
5	63	4区	B10-23	Ⅲb層 石鏃	(22.0)	16.0	3.5	1.1	折れ2ヶ所	55-69
6	61	4区	B10-18	Ⅲb層 石鏃	(23.0)	17.5	3.7	1.4	折れ2ヶ所	55-90
7	84	4区	B10-17	Ⅲb層 石鏃	(18.0)	15.0	4.5	0.9	折れ2ヶ所	55-91
8	495	4区		石鏃?	25.0	17.0	5.5	1.4	焼けはじけ	55-86
9	494	4区	AB10	石鏃	24.0	(11.5)	2.7	0.5		55-65
10	1200	5区	B11	石鏃	27.0	14.5	3.9	1.1	磨滅	55-79
11	118	4区	B9-14	Ⅲb層 石鏃	(21.0)	7.0	5.1	0.7	磨滅	55-116
12	325	4区	東壁	I層 石鏃	41.5	27.7	10.5	9.8	使用痕あり	55-107
13	133	4区	B9-8	Ⅲb層 ビエス・エスキーユ	31.5	22.5	10.7	7.6		55-123
14	102	4区	B10-16	Ⅲb層 スクレイパー	58.0	48.0	16.9	33.0	タール付着、石鏃としても使用	55-113
15	46-1	4区	Ⅲ層	打製石斧	(80.0)	50.0	18.0	78.0		56-13
16	517	4区	B10	スクレイパー	53.0	(31.0)	12.0	22.2		55-131
17	327	4区	北壁	I層 スクレイパー	47.5	38.5	18.0	26.6		55-129

第64図 遺構外出土遺物 (2)



No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	57	4区	A 9	礫石器	96.5	78.5	39.0	433.4	磨・敲・凹、焼け	
2	138	4区	B10-10	礫石器	119.0	101.0	48.0	720.1	磨・敲	56-20
3	140	4区	B10-12	礫石器	97.0	93.5	41.0	493.7	磨・敲	
4	146	4区	B10-1	礫石器	148.0	79.0	52.0	652.9	敲・凹	
5	137	4区	B10-10	礫石器	106.0	90.0	62.0	629.3	敲・凹	
6	522	4区	B10 8号倒木痕	礫石器	91.5	92.5	(61.0)	556.6	磨・敲・凹	
7	141	4区	B10-9	礫石器	112.0	(68.5)	58.0	518.2	磨	
8	145	4区	B10-22	礫石器	94.0	59.0	30.0	231.5	凹	
9	324	4区	東御溝	礫石器	92.5	81.0	55.0	569.5	磨・敲	
10	24	3区	I層	礫石	(76.0)	75.0	49.5	330.0	(砂岩)	
11	513	4区	7号倒木痕	磨製石斧	(55.0)	46.0	30.0	16.4	上・下欠損	
12	136	4区	B10-21	小型磨製石斧	(60.0)	31.5	12.5	41.5		56-35
13	135	4区	B10-16	小型磨製石斧	39.5	23.0	8.7	11.4		56-34

第65図 遺構外出土遺物 (3)



No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	144	4区	B10-14	Ⅲb層 石皿	(327.0)	(263.0)	80.0	5,360.0	磨	56-32
2	151	4区	B9-9	Ⅲb層 珪化木	151.5	27.5	13.0	68.5		
3	150	4区	B10-7	Ⅲb層 珪化木	132.5	26.0	17.5	65.9		
4	149	4区	B10-13	Ⅲb層 石刀	(355.0)	38.0	28.5	410.0		56-41

第66図 遺構外出土遺物 (4)

〔3〕まとめ

1. Ⅲa層上面（3区ではSR-1河川跡上面）で検出された竪穴住居跡3軒は、どれも住居跡東壁にカマドが付設されている。出土遺物から平安時代のものであると考えられる。SI-2竪穴住居跡は床面中央に炉が検出され、多量の鉄滓や溶解した炉壁の破片、羽口片等が出土している。このSI-2竪穴住居跡から西北西へおよそ50m離れた位置で、昭和60年度に送電線の鉄塔建設に関連した発掘調査が行われ、鍛冶作業場と考えられる竪穴状の遺構が検出されており、本遺構も同様の遺構であると考えられる。また、同じⅢa層上面（4区西半以西ではSR-1河川跡上面）で検出された竪穴住居跡以外の遺構については、同様の年代が考えられるものが多いが、出土遺物や遺構の重複関係から平安時代以降の遺構の存在も考えられ、それらには遺跡の東北東約400mに所在する富沢館跡と関連する遺構が存在する可能性があると考えられる。

2. Ⅲb層上面で検出された竪穴住居跡は、北壁にカマドが付設されており、Ⅲa層上面で検出された竪穴住居跡3軒とは異なっている。出土遺物から奈良時代後半頃のものと考えられる。

3. IVa層上面で検出された3基の配石遺構について、1号配石は楕円形のものの一部が弧状に残存したものか、あるいは本来弧状であったものかは不明であるが、北東部分に方形に張り出す部分があり、川原石を立て並べている。北東に張り出す部分の下部に土坑が検出されたが、土坑内部に遺物は見られなかった。2号配石は楕円形に巡る石組みで、下部に土坑が検出されたが内部に遺物は見られなかった。3号配石は弧状に検出されたが全体は不明である。1号、3号配石は形態から同様の性格のものであると考えられるが性格は不明である。2号配石は下の内浦遺跡などで検出された配石遺構と同様のものと思われる。時期が判別する遺物が出土していないため明確な時期は不明であるが、縄文時代以外と考えられる遺物は出土していないことから、後期後葉以降の縄文時代のものであると考えられる。

4. IVb層上面で検出された竪穴住居跡2軒は、どれも中央に炉が設置され、壁際に柱穴が巡り、壁際の一部に柱

穴が途切れる部分がある等、類似した構造である。SI-6 竪穴住居跡の出土遺物は縄文時代後期中葉から後葉頃のものである。下層の遺物包含層を掘り込んで竪穴住居を構築しており、遺物包含層中の遺物が土砂とともに竪穴住居跡内部に堆積したことが考えられることから、SI-6 竪穴住居跡本来の時期を示す遺物は後期後葉のものと思われる。また、4区、5区のIVb層は遺物包含層を形成しているが、範囲は明らかではない。遺物を取り上げる際に上層のIVa層出土遺物と分離できなかった部分や、他の層の遺物が混入した部分があり、出土遺物は縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけての時期のものが混在した状況を示している。上面が後期後葉の竪穴住居跡の掘り込み面であることから縄文時代後期中葉から後葉にかけての時期に形成されたものであると考えられる。

5. V層上面で検出された遺構のうち、土坑には壁がオーバーハングした所謂フラスコ型のものがあり、それらは食料等の貯蔵用のものであると考えられる。その他に、どのような性格のものであるか不明であるが、堆積土中に焼土、炭化物が多量に含まれ、多量のチップが出土した土坑がある。その他の遺構には性格不明遺構、掘立柱建物がある。遺構の時期は上層の遺物包含層の時期や、出土遺物から縄文時代後期中葉頃と考えられる。

VI. 鍛冶屋敷前遺跡

〔1〕基本層序（第69図）

調査区が細長い範囲にわたるため土性、土色などに若干の違いは見られるが、I～VI層まで大別6枚、細別16枚の層が確認された。

I層は、2層に細分される。全体に酸化鉄を含み、集積する部分がある。現代の水田作土である。

II層は、暗褐色系の土壌で、I層の耕作による削平のためか調査区の一部にしか確認されず、島状に分布している部分が多い。

III層は、灰黄褐色～褐色の土壌で調査区のほぼ全域に分布している。調査区の西側に向かって徐々に層厚が増しており、褐色がかっている。全体に、酸化鉄、マンガン粒を含んでいる。本層の上面が古代以降の遺構の検出面になっている。層中には古代から縄文時代にかけての遺物が含まれている。

IV層は、5層に細分される。黒褐色～にぶい黄褐色、粘土質シルト～砂質シルト土壌である。調査区のほぼ全域に分布していたものと思われるが、III層上面及び本層上面で検出された河川跡によって削平されており、1区の西端部、南東端、2区南東部、3区全域、4区南西部、5区東半部に分布している。西側に向かって徐々に層厚が増し、砂質が強くなる。5区東半部では本層の上部が縄文時代後期から晩期にかけての遺物包含層を形成している。その他の部分では縄文時代後期から晩期にかけての遺物が少量含まれているのみである。4区より西側では本層下部の上面が縄文時代の遺構検出面になっている。

V層は、2層に細分される。褐色～黄褐色で砂質土壌である。IV層と同じ分布状況である。5区東半部では本層上面が縄文時代の遺構検出面になっている。以下の層では遺物は出土していない。

VI層は、5層に細分される。上位2層は褐色～暗褐色で砂質土壌であるが、粘性が強くなっている部分もみられる。下位の2層は黒褐色～暗褐色で細砂である。下部に礫が含まれる部分がある。最下層は、砂礫層～礫層で、調査区中央部の2区～3区の標高14.5m前後の部分で検出された。他の調査区より礫層のレベルが高くなっているために検出されたものと考えられる。検出された部分では北側へ傾斜している。

〔2〕 検出遺構と出土遺物

今回の調査では、古代以降の遺構がⅢ層上面で竪穴住居跡2軒、土坑34基、溝跡5条の他河川跡、ピットが検出された。縄文時代の遺構として、IVb層の一部が遺物包含層であり、IVb層の下面（IVc層あるいはV層の上面）で、炉跡4基、土坑9基、ピットが検出された。遺物は整理用平箱（テンバコ32）にして30箱程度の出土量である。縄文土器、土師器、須恵器、土製品、石器、石製品、金属製品等がある。

(1) 古代以降の遺構と出土遺物

竪穴住居跡

SI-1 竪穴住居跡（第67図）

〔遺構の確認〕 4区の南端東寄り、B-17グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の犁取りのために削平され、検出されなかった。いくつかのピットと重複関係にあり、いずれのピットにも切られており、本住居跡が古い。

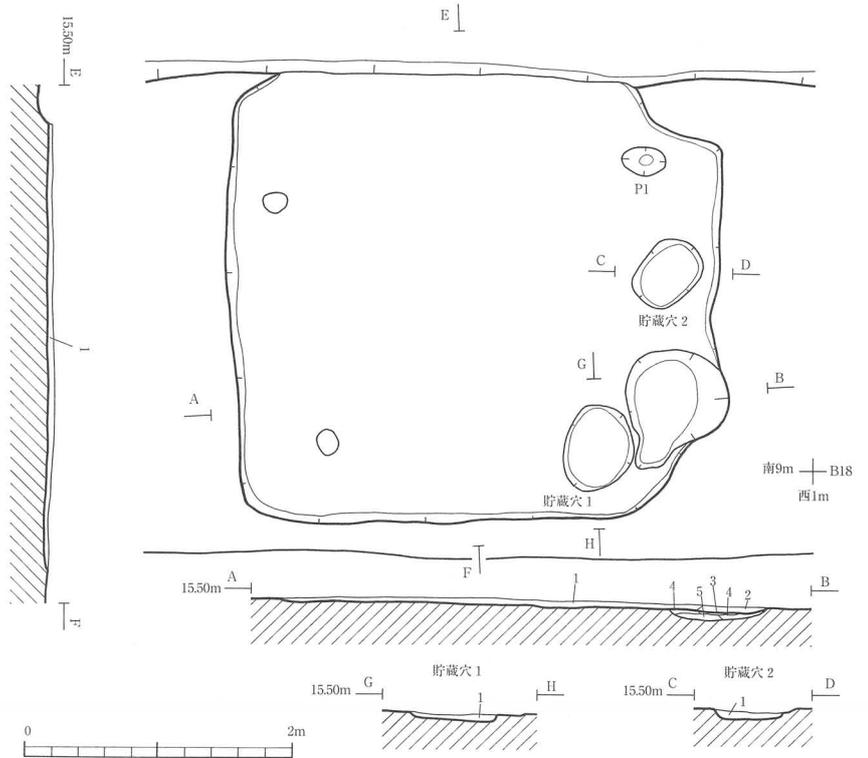
〔平面形・規模〕 平面形は南北3.4m以上、東西3.7mの隅丸方形を基調としたものであると考えられるが、東側が2.3mにわたって張り出している。南壁を基準とした方向はE-0°-N・Sである。

〔堆積土〕 2層に分けられる。灰白色火山灰と多量の焼土粒、焼土ブロックを多量に混入している。

〔壁面〕 最も保存の良い南壁西端付近で6cmと残存状況は良くない。床面から緩やかに立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もみられる。

〔床面〕 掘り方底面を直接床面としている。小さい凸凹はなく、ほぼ平坦である。床面のレベルは、北側が若干高く、南壁際へ向かって徐々に低くなる。

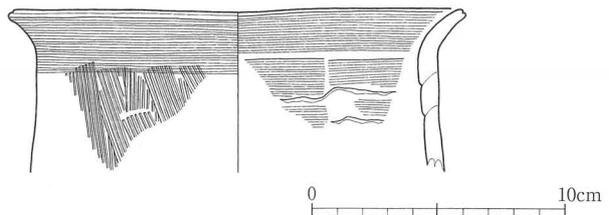
〔柱穴〕 床面で検出されたピットは1個のみであり、柱穴と考えられるピットは検出されなかった。



4区SI1土層註記表

	No.	土色	土性	備	考
竪穴部	1	10YR4/4	褐	砂質シルト	焼土粒、灰白色火山灰微小ブロック混入、10YR3 黒粘結土質シルトブロック混入を含む。
	2	10YR4/4	褐	砂質シルト	多量の焼土ブロック、微量の10YR3 1黒粘結土質シルトブロック含む。
カマド掘り方	3	7.5YR3/2	黒褐	シルト	焼土ブロック、炭化物、10YR4 1黒粘結土質シルトブロック含む。
	4	2.5YR4/3	オリーブ褐	砂質シルト	焼土粒、炭化物含む。
	5	2.5YR4/6	赤褐	シルト	焼土層。

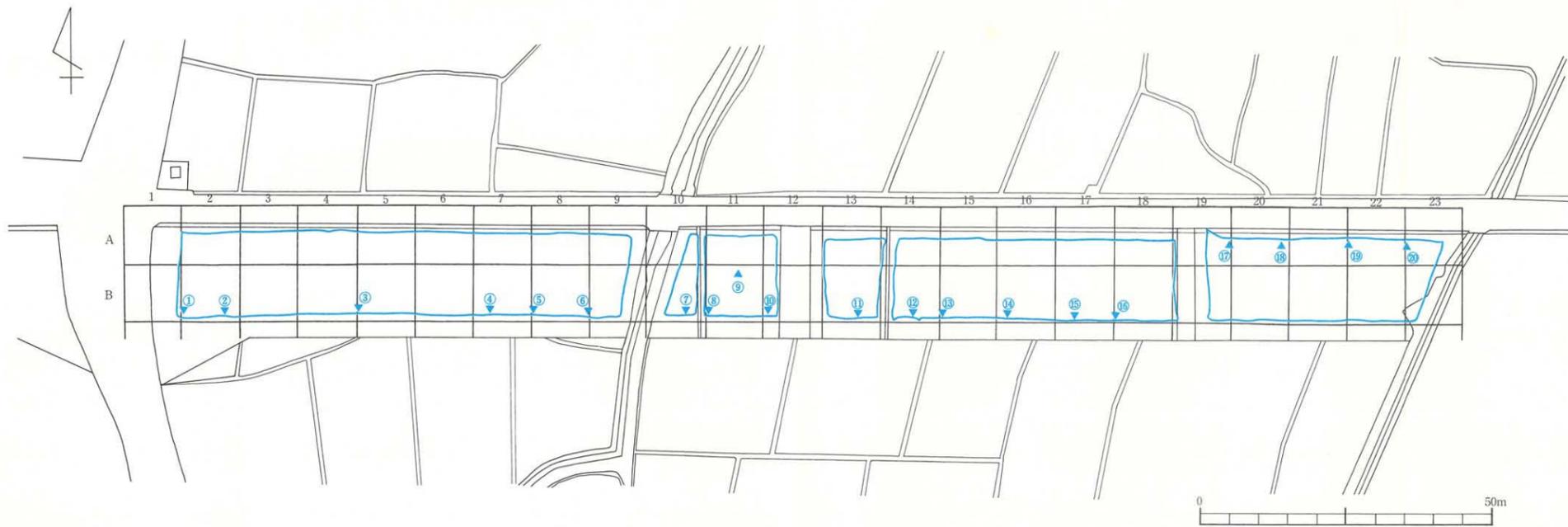
	No.	土色	土性	備	考
貯蔵穴1	1	7.5YR3/2	黒褐	シルト	焼土、炭化物、マンガングラファイト、2.5Y4 4オリーブ細砂質シルト質に含む。
貯蔵穴2	1	10YR3/3	暗褐	シルト	炭化物、マンガングラファイト、2.5Y3 3オリーブシルトブロック含む。



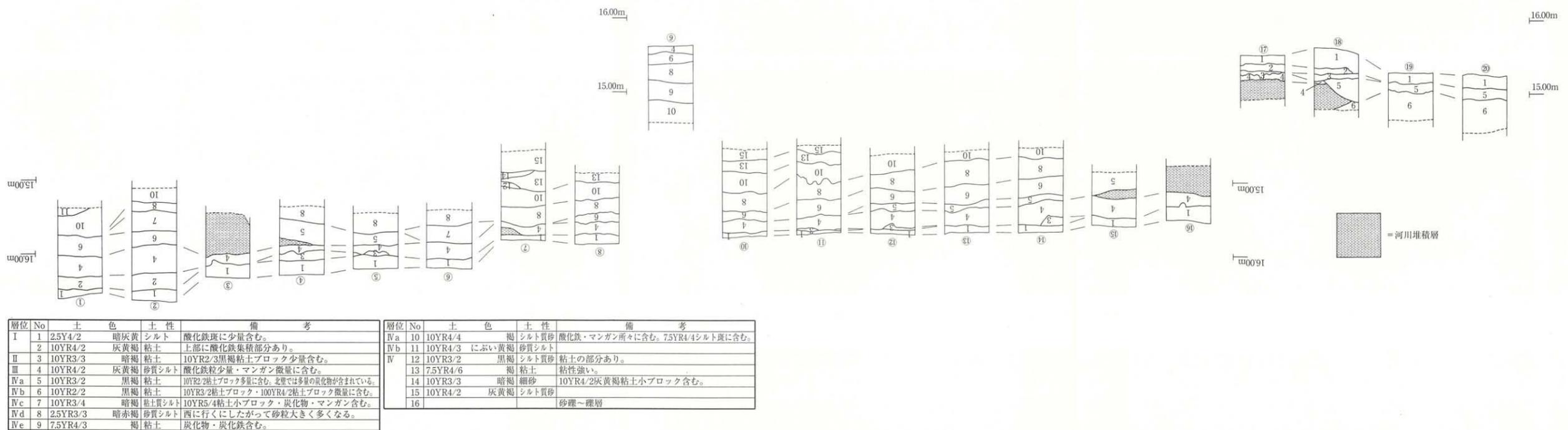
No.	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備	考	写真図版
1	4C-3	土師器	甕	堆積土	ハケメ・ナデ	ナデ・ヘラナデ	—			

第67図 SI1 竪穴住居跡・出土遺物

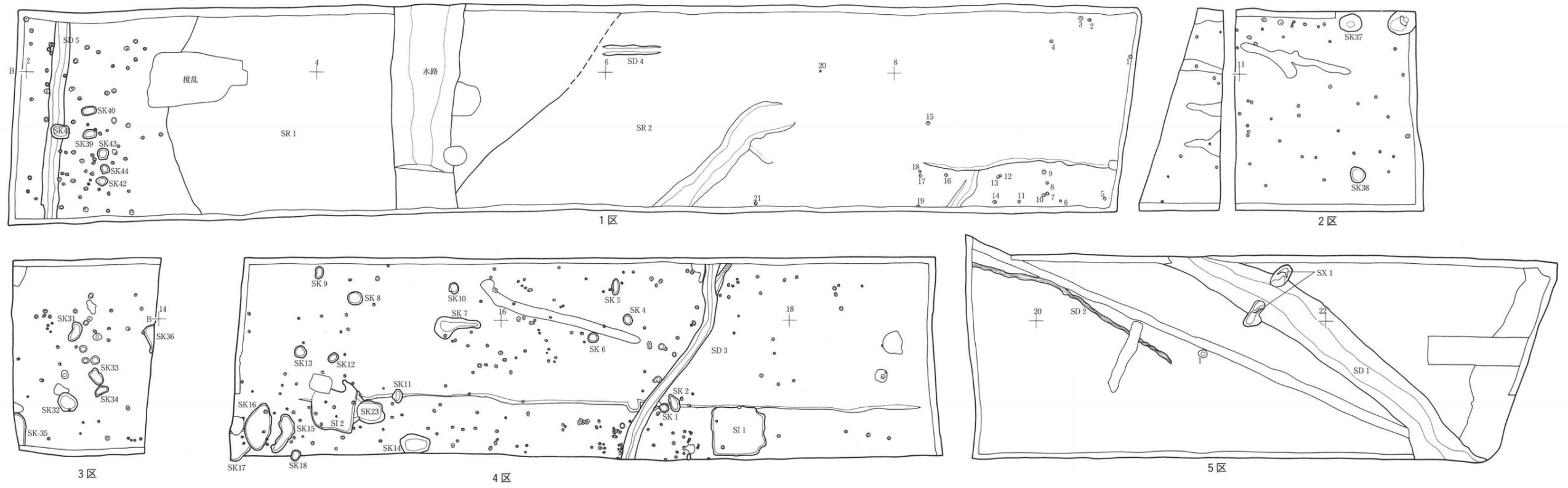
〔カマド〕 住居跡東壁南寄りに付設され、燃焼部のみが検出された。燃焼部は幅70cm、奥行き75cmで、奥壁はやや住居東壁から張り出す形になっている。側壁は削平されて残存しないが、中央部及び、奥壁が火熱を受けて赤変し



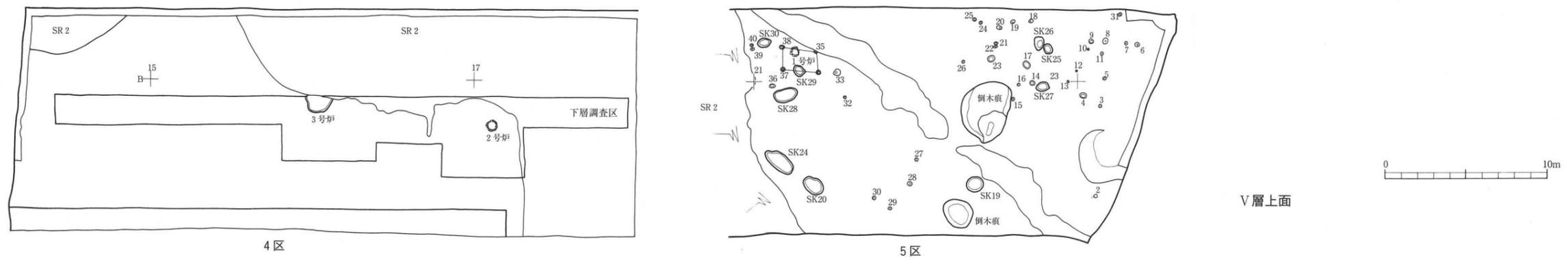
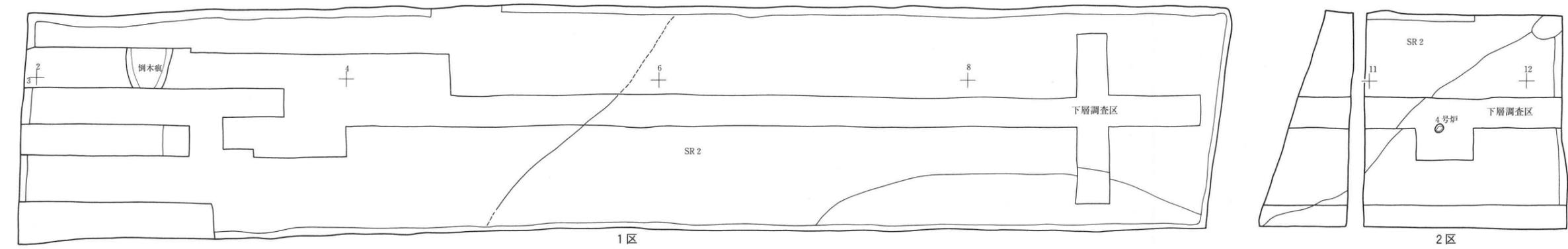
第68図 鍛冶屋敷前遺跡調査区配置図



第69図 鍛冶屋敷前遺跡基本層模式図



III層上面



V層上面

第70図 鍛冶屋敷前遺構配置図

ている。カマドの掘り方は貯蔵穴2と接している。幅85cm、奥行き77cmの不整な楕円形で深さは最も深い部分で10cmである。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔貯蔵穴〕 2個検出された。貯蔵穴1は住居跡南東隅近くのカマド西脇に、貯蔵穴2は東壁際中央のカマド北脇にカマドを挟むように位置している。貯蔵穴1の平面形は長軸65cm、短軸53cmの不整な楕円形である。床面からの深さは5cmと浅い。貯蔵穴2の平面形は長軸65cm、短軸53cmの隅丸長方形に近い楕円形で、床面からの深さは6cmと貯蔵穴1同様浅い。

〔出土遺物〕 堆積土出土の遺物はほぼ床面出土のものと考えられ、その他に貯蔵穴から出土している。土師器、須恵器が出土した。そのうち土師器甕1点を図示した。

SI-2 竪穴住居跡 (第71図)

〔遺構の確認〕 4区の南西寄り、B-14・15グリッドに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の犁取りのために削平された部分と攪乱坑によって削平された部分があり、検出されなかった部分もある。SK-21・22土坑と重複関係にあり、いずれの土坑をも切っており、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は南北3.0m以上、東西3.05mの方角を基調としたものであると考えられるが、南西及び北西コーナーは丸くなっている。東壁を基準とした方向はN-10°-Eである。

〔堆積土〕 5層に分けられる。焼土粒、炭化物が多量に混在している。

〔壁面〕 最も保存の良い東壁中央付近で15cmの高さで残存している。床面から緩やかに立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もみられる。

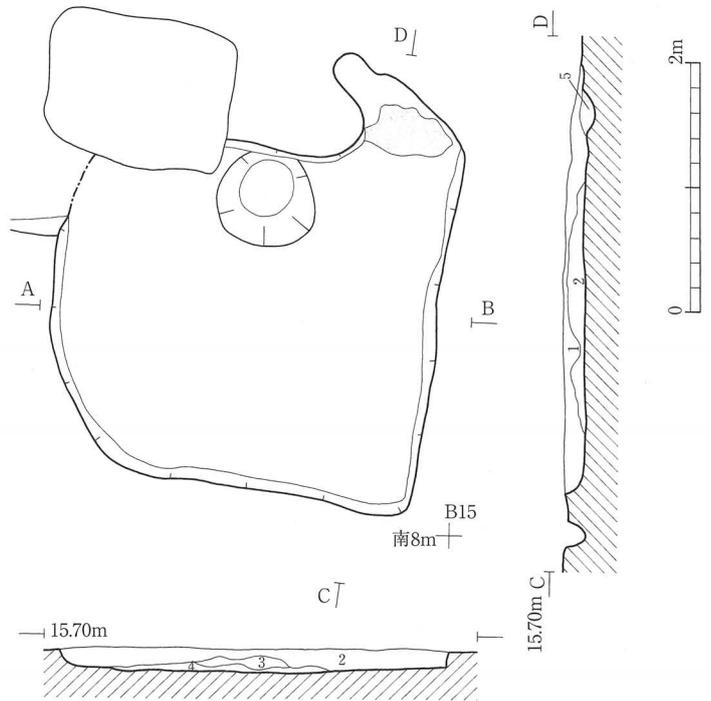
〔床面〕 掘り方底面を直接床面としているが、SK-21・22土坑の堆積土を床面としている部分がある。凸凹はなく、ほぼ平坦である。床面のレベルは、南壁際が若干高く、北側へ徐々に低くなる。

〔柱穴〕 床面でピットは検出されなかった。

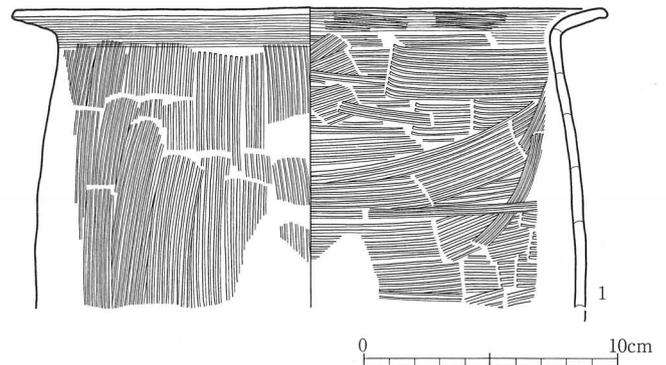
〔カマド〕 住居跡北壁東端で焼土と焼け面が検出された。この部分がカマドであると考えられる。側壁及び奥壁は削平されており残存しない。焼土の範囲は幅65cm、奥行き40cmで、中央がやや凹んでいる。奥壁はやや住居北壁から張り出す形になっており、更に北東に50cm程土色の違う部分が延びているが、住居跡の一部かカマドの一部であるのかは不明である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔貯蔵穴〕 1個検出された。住居跡北壁際の中央、カマドの西側に位置している。平面形は直径約80cmの円形である。床面からの深さは27cmである。



No.	土色	土性	備考
1	10YR4/2 灰黄褐	粘土質シルト	少量の焼土粒、炭化物粒、10YR4/3に多い黄褐色シルトブロック含む。
2	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土質シルト	焼土粒、少量の炭化物、10YR3/1黒褐粘土ブロック含む。
3	10YR3/2 黒褐	粘土	多量の焼土粒、炭化物粒含む。
4	10YR3/2 黒褐	粘土	多量の焼土粒、炭化物粒含む。
5	2.5YR4/6 赤褐	シルト	強く締まっている。焼土ブロック。



No	登録番号	種別	器種	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4C-5	土師器	甕	堆積土	ハケメ・口縁部ヨコナデ	ハケメ・口縁部ヨコナデ	—		103-8

第71図 SI2 竪穴住居跡・出土遺物

〔出土遺物〕堆積土中から土師器、須恵器が出土した。そのうち土師器甕1点を図示した。

土坑

SK-1 土坑（第72図）

4区中央やや南東寄りB-17グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の犁取りのために削平されている。SD-3溝跡と重複しており、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸0.95m以上、短軸0.65mの楕円形を基調としたものと考えられ、長軸方向はW-42°-Nである。堆積土は単層で、焼土粒、炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い東壁で16cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、底面レベルは南壁際が高く、北半部が低くなっている。また、西側が5cm程度の段になっており、北壁際に直径18cm、深さ13cmのピットが検出された。土師器が出土した。

SK-2 土坑（第72図）

4区中央やや南東寄りB-17グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の犁取りのために削平されている。平面形は長軸1.3m、短軸0.7mの不整な楕円形で、長軸方向はN-20°-Wである。堆積土は2層に分けられ、少量の焼土、炭化物粒が混入している。壁面は最も保存の良い東壁で10cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、約10cmの段になっており、南側が高く、北側が低くなっている。南側に直径約15cm、深さ11cm、北側に直径25cm、深さ15cmのピットが検出された。土師器、須恵器が出土した。

SK-3 土坑（第72図）

4区中央南端B-17グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は直径約0.7mの不整な円形である。堆積土は単層で、多量の焼土、炭化物粒が混入している。壁面は最も保存の良い西壁で20cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はないが、底面レベルは中央部が低く、壁際が高くなっている。西側が直径約30cm、深さ5cmのピット状になっている。土師器、縄文土器、焼壁の破片が出土した。

SK-4 土坑（第72図）

4区のほぼ中央A-16グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.7m、短軸0.65mの不整な円形である。長軸方向はN-0°-W・Eである。堆積土は単層で、微量の炭化物粒が混入している。壁面は最も保存の良い西壁で11cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には凸凹はないが、底面レベルは北側が低く、南側が高くなっている。土師器が出土した。

SK-5 土坑（第72図）

4区の中央北寄りA・B-16グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.17m、短軸0.5mの不整な楕円形で、長軸方向はN-0°-W・Eである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い南壁で14cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には凸凹はないが、底面レベルは中央が最も低く、壁際が高くなっている。遺物は出土していない。

SK-6 土坑（第72図）

4区のほぼ中央B-16グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.85m、短軸0.75mの楕円形で、長軸方向はN-11°-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い西壁で31cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面に凸凹はなく、摺鉢状を呈している。土師器が出土した。

SK-7 土坑 (第72図)

4区の中央西寄りA・B-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸3.1m、短軸は西側の幅の広い部分で1.4m、狭い部分で0.45mの隅丸の撥形で、長軸方向はE-1°-Sである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い西壁で24cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは東側が高く、西側が低くなっている。南壁西側に直径15cm、深さ24cmのピットが検出された。土師器、須恵器、縄文土器が出土した。

SK-8 土坑 (第72図)

4区やや北西寄りA-14・15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.05m、短軸0.95mの不整な円形で、長軸方向はE-1°-Sである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い南壁で9cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは中央部が低く、壁際が高くなっている。南西壁際に長軸30cm、短軸25cm、底面からの深さ13cmのピットが検出された。遺物は出土していない。

SK-9 土坑 (第72図)

4区の西寄り北端A-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.85m、短軸0.55mの不整な楕円形で、長軸方向はN-9°-Eである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁で26cmの高さで残存している。大部分底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面は平坦である。底面レベルは北半部が低く、南半部が高くなっている。遺物は出土していない。

SK-10 土坑 (第72図)

4区の中央北西寄りA-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.7m、短軸0.55mの不整な楕円形で、長軸方向はN-23°-Wである。堆積土は単層で、少量の焼土粒、炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い南壁で10cmの高さと残存状況は良くない。大部分底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面は平坦である。土師器が出土した。

SK-11 土坑 (第72図)

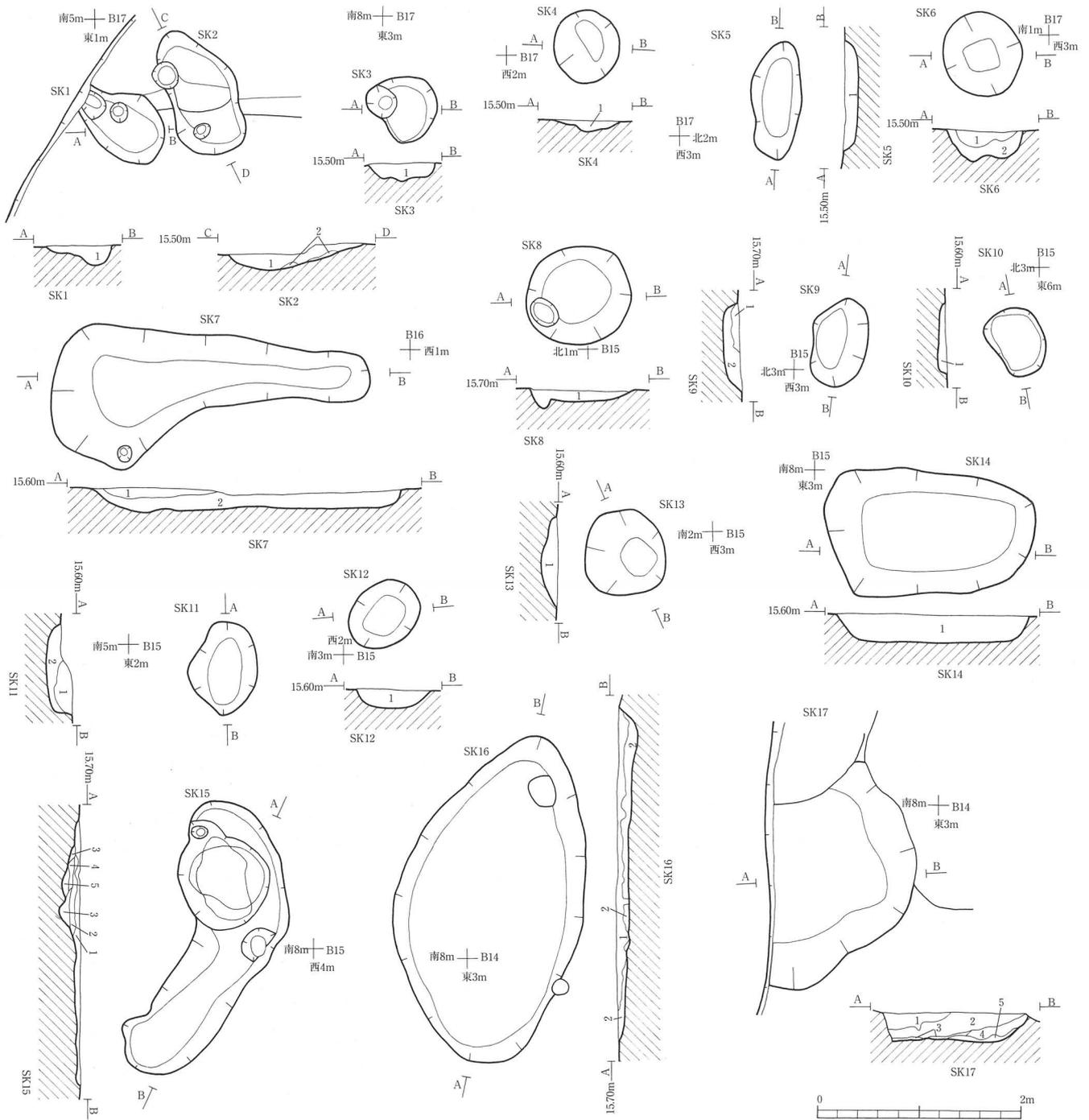
4区の中央南西寄りB-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は水田耕作土の犁取りのために削平されている。平面形は長軸0.95m、短軸0.65mの不整な楕円形で、長軸方向はN-5°-Eである。堆積土は2層に分けられ、少量の焼土粒、多量の炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い南壁で22cmの高さで残存している。大部分底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面は平坦である。土師器が出土した。

SK-12 土坑 (第72図)

4区の中央西寄りB-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.75m、短軸0.6mの不整な楕円形で、長軸方向はN-45°-Eである。堆積土は単層で、多量の焼土粒、炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で20cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は細かい凸凹はなく、平坦である。土師器が出土した。

SK-13 土坑 (第72図)

4区の西寄りB-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸0.85m、短軸0.8mの不整な円形で、長軸方向はN-10°-Eである。堆積土は単層である。壁面は15cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は細かい凸凹は



遺構	No	土色	土性	備考
SK1	1	10YR2/2	黒褐粘土	少量の焼土粒、炭化物粒、10YR4/3にぶい黄褐砂質シルトブロックを含む。
SK2	1	10YR3/2	黒褐粘土	少量の焼土粒、炭化物粒、10YR4/3にぶい黄褐砂質シルトブロックを含む。
SK2	2	10YR4/3	にぶい黄褐砂質シルト	少量の10YR2/2黒褐粘土ブロックを含む。
SK3	1	10YR2/2	黒褐粘土	多量の焼土粒、炭化物粒、10YR4/3にぶい黄褐砂質シルトブロック。
SK4	1	10YR4/3	にぶい黄褐粘土質シルト	微量の炭化物粒を含む。
SK5	1	10YR4/3	にぶい黄褐粘土質シルト	
SK6	1	10YR2/2	黒褐粘土	少量の焼土粒、炭化物粒を含む。
SK6	2	10YR4/3	にぶい黄褐砂質シルト	少量の10YR4/2灰黄褐砂質シルトブロックを含む。
SK7	1	10YR4/2	灰黄褐砂質シルト	多量のマンガン粒、少量の10YR3/2黒褐ブロックを含む。
SK7	2	10YR3/1	黒褐粘土	少量の炭化物粒、10YR4/2灰黄褐砂質シルトブロックを含む。
SK8	1	10YR4/2	灰黄褐シルト質粘土	微量の炭化物粒を含む。
SK9	1	10YR3/1	黒褐シルト質粘土	少量の焼土粒、炭化物粒を含む。
SK9	2	10YR4/2	灰黄褐シルト質粘土	少量の10YR3/1黒褐粘土ブロックを含む。
SK10	1	10YR3/2	黒褐粘土質シルト	少量の焼土粒、炭化物粒を含む。

遺構	No	土色	土性	備考
SK11	1	10YR3/2	黒褐粘土	多量の炭化物粒、少量の焼土物を含む。
SK11	2	10YR4/2	灰黄褐砂質シルト	少量の10YR3/1黒褐粘土ブロック、微量の炭化物粒を含む。
SK12	1	10YR3/2	黒褐粘土	多量の焼土粒、炭化物粒、10YR3/3暗褐粘土ブロックを含む。
SK13	1	10YR4/2	灰黄褐粘土質シルト	少量のマンガン粒、微量の炭化物粒を含む。
SK14	1	10YR4/2	灰黄褐粘土質シルト	微量の炭化物粒を含む。
SK15	1	10YR3/1	黒褐シルト質粘土	微量の焼土粒を含む。
SK15	2	10YR3/2	黒褐粘土	多量の焼土粒、炭化物粒を含む。
SK15	3	10YR4/2	灰黄褐シルト粘土	多量の焼土ブロック、少量の炭化物粒を含む。
SK15	4	5YR4/4	にぶい赤褐粘土	焼土層。
SK15	5	10YR3/3	暗褐粘土	多量の焼土粒、炭化物粒を含む。
SK16	1	10YR3/2	黒褐シルト質粘土	多量の焼土粒、炭化物粒を含む。
SK16	2	10YR4/2	灰黄褐粘土	多量の炭化物粒を含む。
SK17	1	10YR4/3	にぶい黄褐シルト質粘土	少量の焼土粒、炭化物粒、少量の10YR4/2灰黄褐粘土ブロックを含む。
SK17	2	10YR4/3	にぶい黄褐粘土	多量の焼土粒、炭化物粒と少量の10YR3/2黒褐粘土ブロックを含む。
SK17	3			炭化物層。多量の焼土粒を含む。
SK17	4	10YR4/2	灰黄褐粘土	多量の焼土ブロック、焼土粒、炭化物粒を含む。
SK17	5	10YR4/3	褐粘土	微量の炭化物粒を含む。

第72図 SK1~17土坑

ない。底面レベルは中央が最も低く壁際が高くなっている。土師器が出土した。

SK-14土坑（第72図）

4区の南端西寄りB-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸2.05m、短軸1.25mの不整な楕円形で、長軸方向はE-1°-Sである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い南壁で30cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは中央が最も低く壁際が高くなっている。土師器が出土し、甕1点を図示した。

SK-15土坑（第72図）

4区の南西端B-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸2.85m、短軸1.0mの逆「く」の字に湾曲した不整な楕円形で、長軸方向はN-18°-Eである。堆積土は5層に分けられ、多量の焼土、炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い西壁中央部で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており一定しない。底面の北西部に長軸1.1m、短軸0.8m、深さ20cmの不整な楕円形の落ち込みがあり、その底面に長さ70cm、幅65cmの範囲で多量の焼土が検出された。また、東壁際に直径約30cm、深さ20cm、北壁際に直径約15cm、深さ25cmのピットが検出された。土師器が出土し、坏2点、甕4点を図示した。

SK-16土坑（第72図）

4区の南西端B-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。SK-17土坑、3つのピットと重複関係にある。ピットに切られ、SK-17土坑を切っていることからピットより古く、SK-17土坑より新しい。平面形は長軸3.15m、短軸1.85mの不整な楕円形で、長軸方向はN-13°-Eである。堆積土は2層に分けられ、多量の焼土粒、炭化物を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で16cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は小さな凸凹があり一定しない。土師器が出土し、坏1点、甕1点を図示した。

SK-17土坑（第72図）

4区の南西端B-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構北側を後世の攪乱によって削平され、西側の調査区外に広がっているため遺構の全体は不明である。SK-16土坑、1つのピットと重複関係にある。それぞれに切られていることから、本遺構が最も古い。平面形は南北2.3m以上、東西1.5m以上の不整な円形あるいは楕円形を基調にしたものであると考えられる。堆積土は5層に分けられ、多量の焼土、炭化物を混入している。中には炭化物層もみられる。壁面は最も保存の良い南壁で30cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは中央の北寄りが最も低く、壁際が高い。土師器、須恵器、赤焼土器、縄文土器が出土し、土師器坏1点、甕2点を図示した。

SK-18土坑（第73図）

4区の南西端B-14グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.75m、短軸0.6mの不整な楕円形で、長軸方向はN-20°-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で6cmの高さと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは中央が最も低く、壁際が高い。遺物は出土していない。

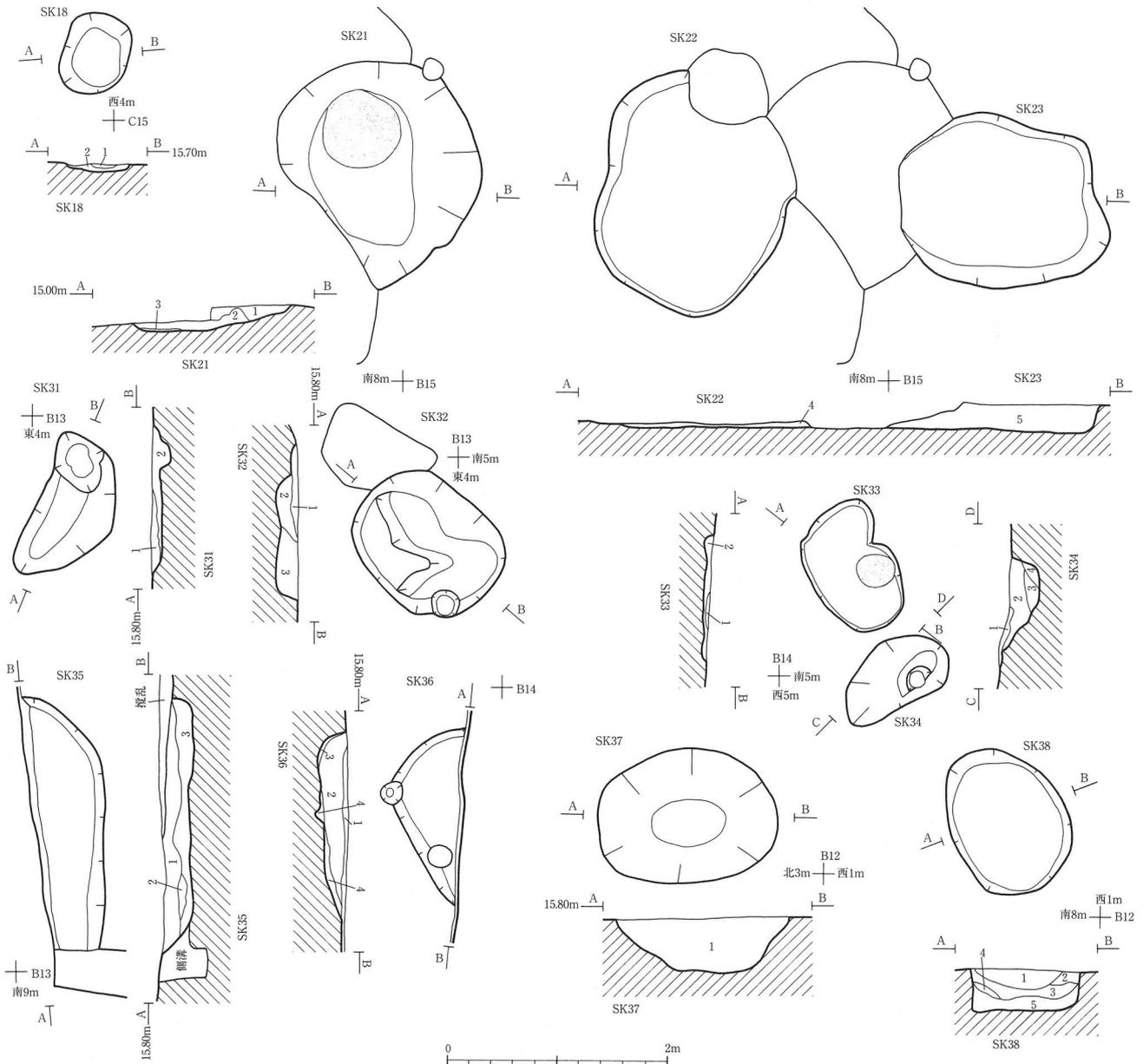
SK-21土坑（第73図）

4区の南西寄りB-14・15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。SI-2竪穴住居跡、SK-22土坑、23土坑と重複関係にある。SI-2竪穴住居跡に切られ、2基の土坑を切っていることから、SI-2竪穴住居跡より古く、2基の土坑より新しい。平面形は長軸2.05m以上、短軸1.85m以上の不整な楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はN-2°-Wである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い東壁で23cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは北側が最も低く、南側が高い。底面北側に直径約70cmの範囲で多量の焼土が検出された。土師器、縄文土器が出土し、土師器高台付坏1

点、甕1点を図示した。

SK-22土坑（第73図）

4区の南西寄りB-14グリットに位置している。SI-2 竪穴住居跡の床面、Ⅲ層の中位で確認された。SI-2 竪穴住居跡、SK-21土坑と重複関係にあり、それぞれに切られていることから、本遺構が最も古い。平面形は長軸



遺構	No.	土色	土性	備考
SK18	1	5YR3/2	暗赤褐 粘土	焼土層。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐 粘土	少量の炭化物粒含む。
SK21	1	10YR4/2	灰黄褐 シルト質粘土	少量の10YR4/1褐灰粘土ブロック含む。
	2	10YR3/2	黒褐 粘土	多量の炭化物、少量の焼土と10YR4/3にぶい黄褐シルトブロック含む。
	3			炭化物層。少量の焼土粒含む。
SK22	4	10YR3/1	黒褐 粘土	少量の炭化物粒含む。
	5	10YR3/2	黒褐 粘土	多量の焼土ブロック、少量の炭化物粒含む。
SK31	1	10YR3/1	黒褐 シルト	多量の焼土ブロック、炭化物粒含む。
	2	10YR4/2	灰黄褐 砂質シルト	少量の炭化物粒含む。
SK32	1	10YR4/2	灰黄褐 粘土	微量の炭化物粒含む。
	2	10YR3/3	暗褐 粘土	多量の焼土ブロック、炭化物粒含む。
	3	10YR4/2	灰黄褐 粘土	少量の炭化物粒、10YR6/4にぶい黄褐粘土ブロック含む。
SK33	1	2.5YR4/4	にぶい赤褐 粘土	焼土層。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐 粘土	少量の焼土粒含む。

遺構	No.	土色	土性	備考
SK34	1	10YR3/3	暗褐 粘土	多量の焼土ブロック、炭化物粒含む。
	2	10YR3/3	暗褐 粘土	少量の炭化物粒、10YR5/3にぶい黄褐粘土ブロック含む。
	3	10YR3/3	暗褐 粘土	少量の炭化物粒含む。
	4	10YR3/3	暗褐 粘土	微量の炭化物粒含む。
SK35	1	10YR3/3	暗褐 粘土	多量の炭化物粒、少量の焼土ブロック含む。
	2	10YR4/2	灰黄褐 粘土	多量の焼土ブロック、少量の炭化物粒含む。
	3	10YR4/2	灰黄褐 粘土	少量の炭化物粒含む。
	4	10YR3/3	暗褐 粘土	少量の炭化物粒含む。
SK36	1		基本層I層	
	2	10YR3/2	黒褐 粘土	少量の焼土粒、炭化物、10YR4/2灰黄褐粘土ブロック含む。
	3	2.5YR4/4	にぶい赤褐 粘土	焼土層。
	4	10YR4/2	灰黄褐 粘土	少量の焼土粒、炭化物含む。
SK37	1	10YR3/2	黒褐 粘土	少量の炭化物、炭化物を含む。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐 粘土	ブロック状に混在。人為的堆積土。
SK38	1	10YR2/2	黒褐 粘土	多量の炭化物、少量の焼土粒、灰含む。
	2	10YR4/2	灰黄褐 粘土	少量の炭化物含む。
	3	10YR3/3	暗褐 粘土	少量の焼土粒、炭化物、10YR4/3にぶい黄褐粘土ブロック含む。
	4	7.5YR4/3	褐 粘土	焼土層。
	5	10YR3/3	暗褐 粘土	少量の焼土粒、炭化物含む。

第73図 SK18・21~23・31~38土坑

2.3m以上、短軸1.65m以上の不整な楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はN-8° - Eである。堆積土は1層のみ残存していた。壁面は最も保存の良い北壁で5cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。土師器、縄文土器が出土し、土師器甕1点、縄文土器1点を図示した。

SK-23土坑 (第73図)

4区の南西寄りB-15グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。SK-21土坑と重複関係にあり、SK-21土坑に切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.75m以上、短軸1.6mの不整な楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はE-1° - Sである。堆積土は単層で、多量の焼土ブロック、少量の炭化物を混入する。壁面は最も保存の良い東壁で24cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。土師器、須恵器、縄文土器が出土し、土師器壺1点、縄文土器1点を図示した。

SK-31土坑 (第73図)

3区の中央B-13グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.35m、短軸0.7mの不整な楕円形で、長軸方向はN-31° - Eである。堆積土は2層に分けられ、多量の焼土粒、炭化物を混入する。壁面は最も保存の良い西壁で11cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、北端が深さ15cmのピット状になっている。土師器、縄文土器が出土し、土師器鉢1点を図示した。

SK-32土坑 (第73図)

3区の中央南寄りB-13グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の北側は攪乱によって削平されている部分がある。ピットと重複関係にあり、ピットに切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.4m、短軸1.1mの隅丸長方形で、長軸方向はN-43° - Wである。堆積土は3層に分けられ、焼土粒、炭化物を混入する。壁面は最も保存の良い南壁の東寄りで20cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は二段になっており、西側が東側より10cm~15cm高くなっている。土師器が出土し、坏1点、甕1点、甑1点を図示した。

SK-33土坑 (第73図)

3区の中央B-13グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.2m、短軸0.8mの不整な楕円形で、長軸方向はN-33° - Wである。堆積土は2層に分けられる。1層は焼土層である。壁面は最も保存の良い北壁の西寄りで10cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹はないが、底面レベルは中央が高く、壁際が低くなっている。また、底面中央の東壁際には長軸35cm、短軸30cmの楕円形の範囲に焼土が多量に検出され、下面が加熱を受けて赤変している。土師器が出土し、甕2点を図示した。

SK-34土坑 (第73図)

3区の中央やや南東寄りB-13グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削平されているものと考えられる。平面形は長軸1.1m、短軸0.6mの不整な楕円形で、長軸方向はE-35° - Nである。堆積土は4層に分けられ、焼土粒、炭化物粒を混入する。壁面は最も保存の良い東壁で34cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は遺構東側に寄っている。底面の南壁際に直径約25cm、深さ10cmのピットが検出された。土師器、縄文土器、土製品が出土し、土師器坏1点、土製品1点を図示した。

SK-35土坑 (第73図)

3区の南西端B-13グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の南側は調査区の側溝によって削平され、更に西側の調査区外に広がっており、全体は不明である。平面形は長軸2.3m以上、短軸0.7m以上の楕円形を基調としたものであると考えられる。堆積土は3層に分けられ、多量の焼土ブロック、炭化物粒が混入する。壁

面は最も保存の良い北壁で19cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がるが、調査区西壁の土層観察では南壁は緩やかな角度で立ち上がる。底面には小さい凸凹があり一定しない。土師器、須恵器、縄文土器が出土し、土師器坏2点、甕1点、鉢1点を図示した。

SK-36土坑 (第73図)

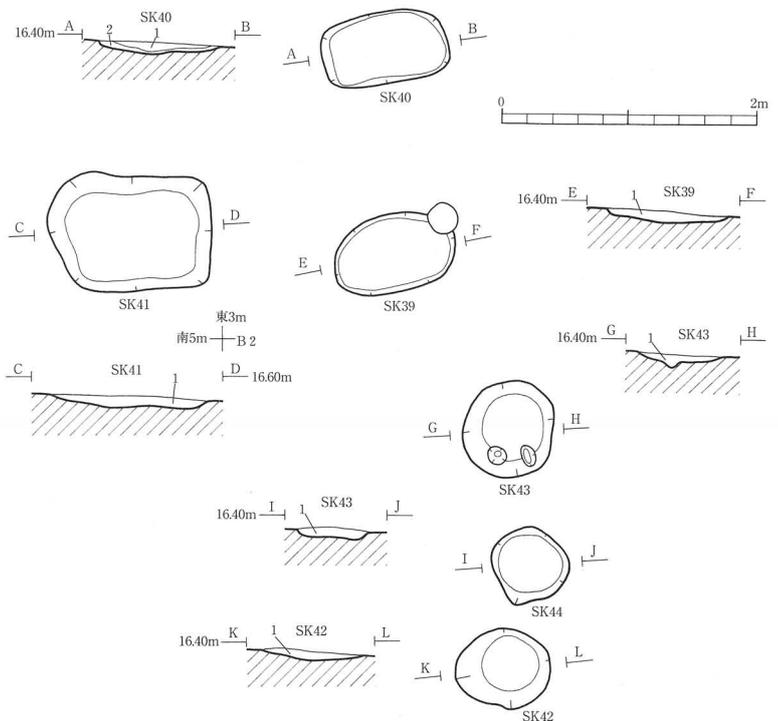
3区の中央東端B-13グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りで削られているものと考えられ、更に東側の調査区外に拡がっており、全体は不明である。2個のピットと重複関係にあり、それぞれに切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.7m以上、短軸0.6m以上の楕円形を基調としたものであると考えられる。堆積土は4層に分けられる。1層は基本層Ⅰ層である。少量の焼土ブロック、炭化物粒が混入する。壁面は最も保存の良い北壁で23cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は小さい凸凹があり一定しない。土師器、縄文土器が出土している。

SK-37土坑 (第73図)

2区の北東寄りA-11グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.65m、短軸1.2mの楕円形で、長軸方向はE-5°-Nである。堆積土は単層である。地山ブロックの混合土であり、人為的に埋められたものであると考えられる。壁面は最も保存の良い南壁で66cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは南側が低く、北側が高い。土師器が出土した。

SK-38土坑 (第73図)

2区の南東寄りB-11グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.4m、短軸1.0mの楕円形で、長軸方向はN-30°-Wである。堆積土は5層に分けられ、焼土粒、炭化物粒、灰を混入している。壁面は最も保存の良い西壁で40cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる。底面は小さい凸凹があり一定しない。土師器、須恵器、かわらけが出土し、土師器高台付坏1点、かわらけ3点を図示した。



SK-39土坑 (第74図)

1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。ピットと重複関係にあり、ピットに切られていることから、本遺構が古い。平面形は長軸1.0m、短軸0.6mの楕円形で、長軸方向はE-12°-Nである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い北西壁で7cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。石器が出土した。

SK-40土坑 (第74図)

1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸1.0m、短軸0.55mの隅丸長方形で、長軸方向はE-15°-Nである。堆積土は2層に分けられる。壁

遺構	No.	土色	土性	備考
SK39	1	10YR3/1 2.5Y4/2	黒褐 シルト シルト	
SK40	1	10YR3/1 2.5Y4/2	黒褐 シルト 暗灰黄	焼土粒、炭化物粒含む。
	2	10YR3/1 2.5Y4/2	黒褐 シルト 暗灰黄	層No.1より2.5Y4/2暗灰黄シルトの割合が多い。
SK41	1	10YR3/3 10YR4/4	暗褐 褐 シルト	若干の焼土粒、炭化物含む。
SK42	1	10YR4/3	に お い 黄 褐 シルト	焼土、焼壁片、炭化物粒斑を含む。
SK43	1	2.5Y4/2	暗灰黄 シルト	上部に焼土、焼壁片多く含む、全体の炭化物粒斑を含む。
SK44	1	10YR4/3	に お い 黄 褐 シルト	上部に多量の焼土含む。

第74図 SK39~44土坑

面は最も保存の良い南壁で7cmの高さと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がるが、急角度で立ち上がる部分もある。底面はほぼ平坦である。土師器が出土した。

SK-41土坑 (第74図)

1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。SD-5溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。平面形は長軸1.3m、短軸0.9mの隅丸長方形であるが、西側は丸くなっている。長軸方向はE-2°-Sである。堆積土は単層で、若干の焼土粒、炭化物粒を混入している。壁面は最も保存の良い北壁で9cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは北東部が低く、南西部が高くなっている。土師器、かわらけ、縄文土器が出土した。

SK-42土坑 (第74図)

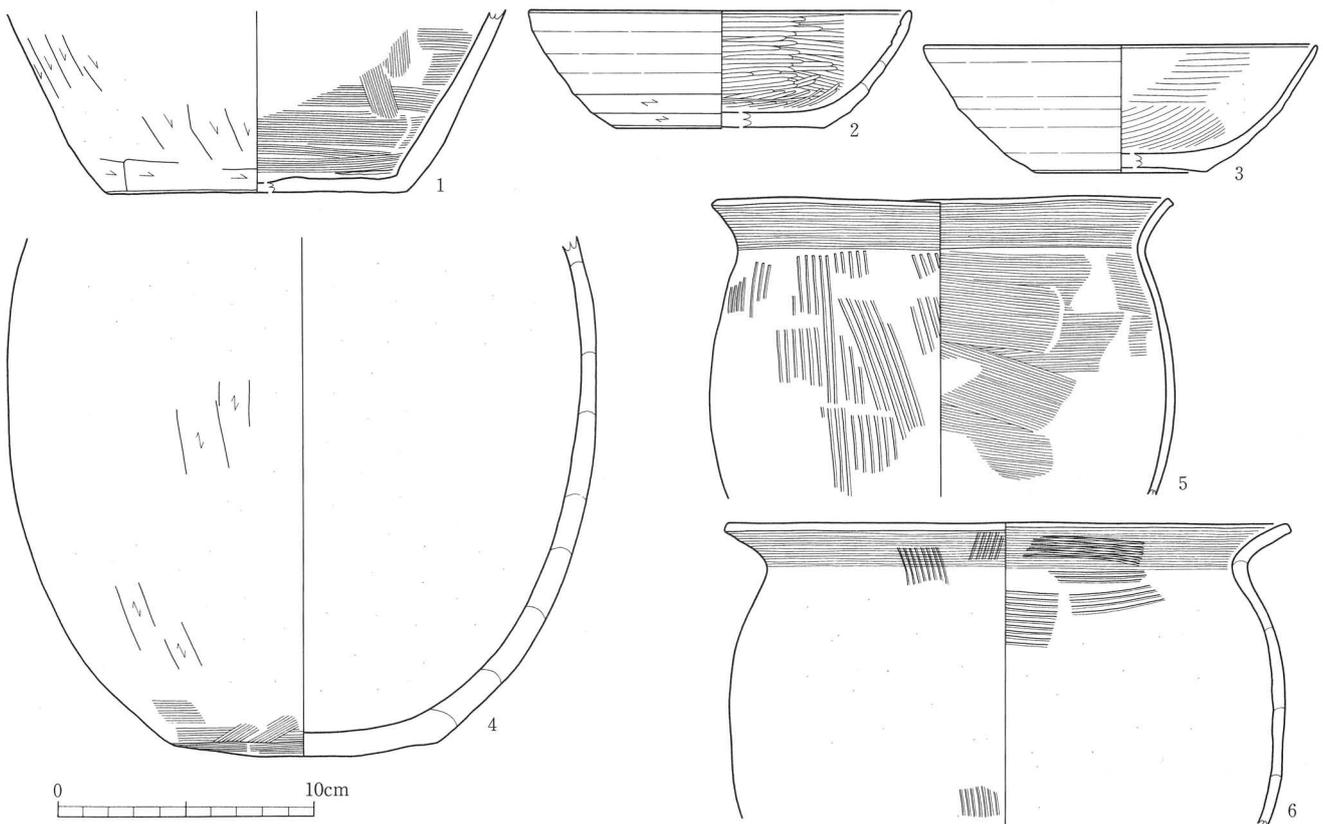
1区の西端南寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.75m、短軸0.6mの不整な楕円形で、長軸方向はE-9°-Nである。堆積土は単層で、焼土粒、炭化物粒、焼壁の一部と思われる焼土塊を混入する。壁面は最も保存の良い北西壁で9cmの高さと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面には小さい凸凹がある。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。土師器が出土した。

SK-43土坑 (第74図)

1区の西端寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.8m、短軸0.7mの不整な楕円形で、長軸方向はN-9°-Eである。堆積土は単層である。特に堆積土上部に多量の焼土粒、炭化物粒、焼壁の一部と思われる焼土塊を混入する。壁面は最も保存の良い南壁で10cmと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦である。底面レベルは北側が低く、南側が高くなっている。南側の壁際に直径15cm、深さ5cm、長軸20cm、短軸10cm、深さ9cmの2個のピットが検出された。土師器、縄文土器が出土した。

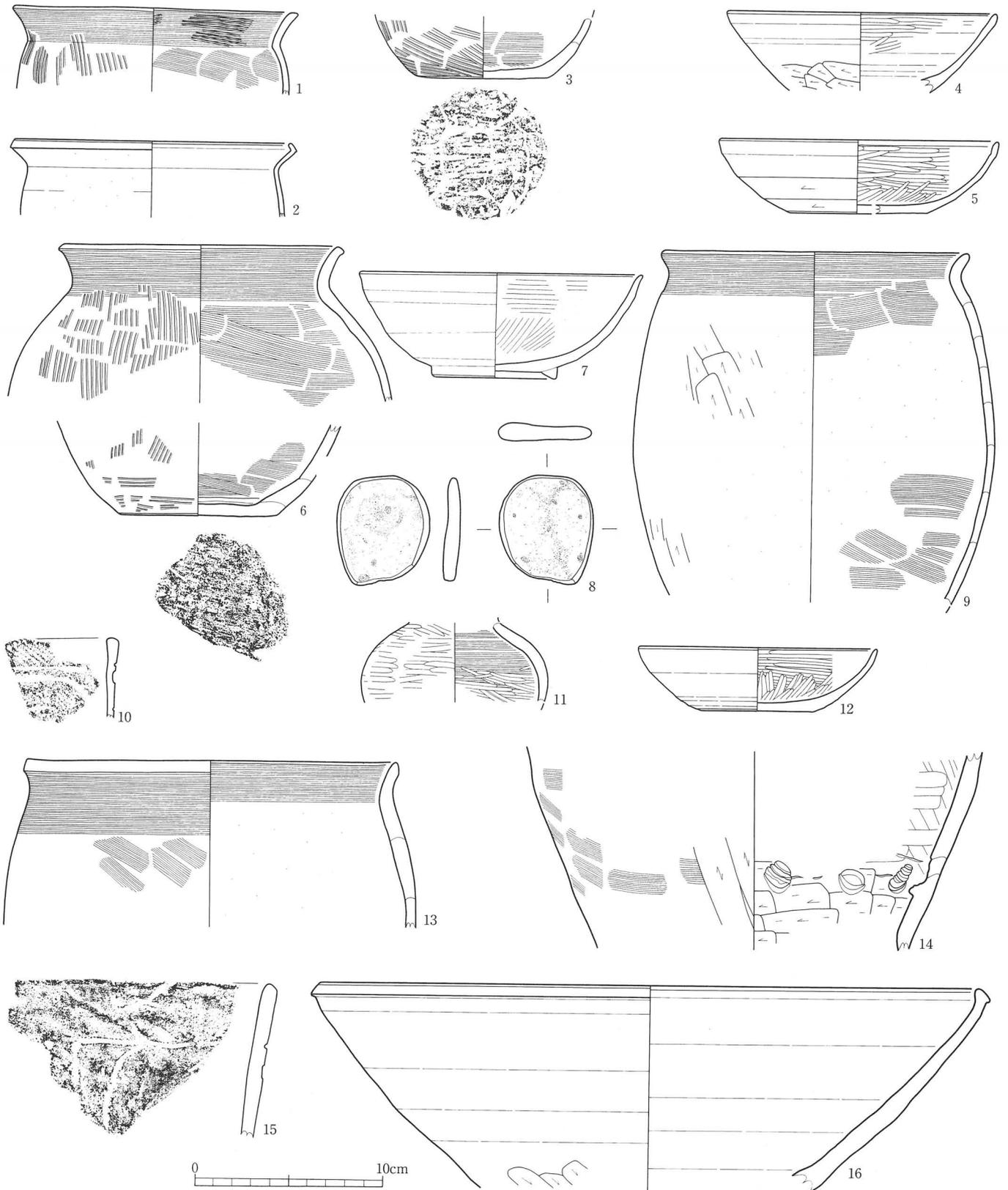
SK-44土坑 (第74図)

1区の西端南寄りB-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸0.6m、短軸0.55mの不



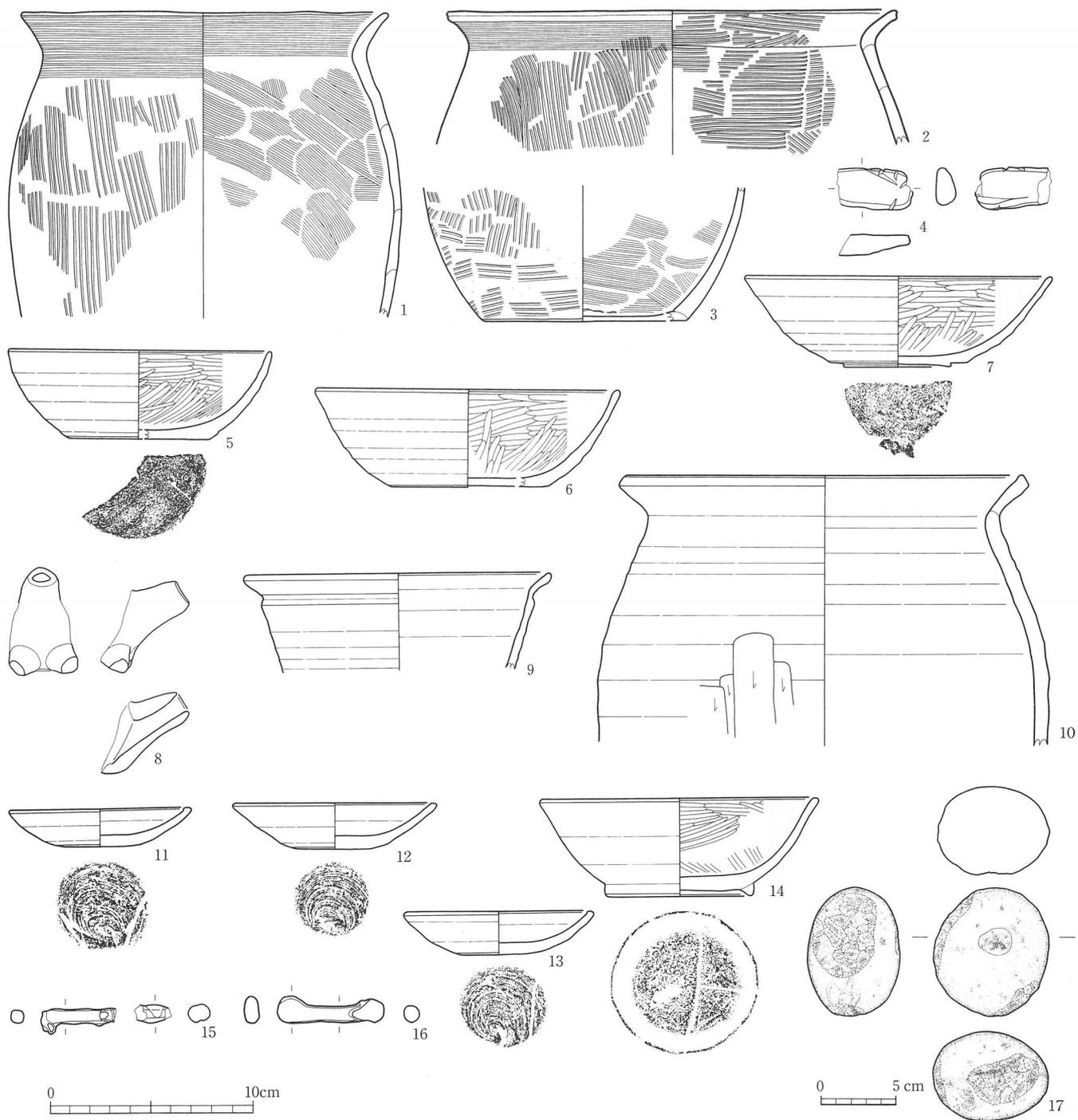
No.	登録番号	種別	器種	地区	遺構	層位	外	内	底	備	考	写真図版
1	5C-15	土師器	甕	5区	SK12	堆積土	ケズリ	ナデ	ナデ			
2	4D-3	土師器	坏	4区	SK15	堆積土	ロクロ・下半部回転ヘラケズリ	ミガキ・黒色処理	■ヘラケズリ			
3	4D-4	土師器	坏	4区	SK15	堆積土	ロクロ	ミガキ・磨滅・黒色処理	磨滅			
4	4C-4	土師器	甕	4区	SK14	堆積土	ケズリ・ナデ	磨滅	ナデ		103-9	
5	4C-6	土師器	甕	4区	SK15	堆積土	ナデ・ハケメ	ナデ	---			
6	4C-7	土師器	甕	4区	SK15	堆積土	ハケメ・口唇部ヨコナデ	ナデ	---			

第75図 土坑出土遺物 (1)



No	登録番号	種別	器種	地区	遺構	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4C-8	土師器	甕	5区	SK15	堆積土	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	---		
2	4D-5	土師器	甕	4区	SK15	堆積土	ロクロ	---	---	剥落部分多い	
3	4C-10	土師器	甕	4区	SK16	堆積土	ハケメ	---	網代痕		
4	4D-6	土師器	坏	4区	SK16	堆積土	ロクロ・ケズリ	---	---		
5	4D-8	土師器	坏	4区	SK17	堆積土	ロクロ・ケズリ	---	---		
6	4C-13-14	土師器	甕	4区	SK17	堆積土	ナデ・ハケメ	---	---		
7	4D-7	土師器	高台付坏	4区	SK21	堆積土	ロクロ	---	---		103-11
9	4C-11	土師器	甕	4区	SK21	堆積土	ナデ・ケズリ・磨減	---	---		103-17
10	4A-5	縄文土器	深鉢	4区	SK17	堆積土	LR縄文・沈線文	---	---		103-10
11	4C-15	土師器	壺	4区	SK23	堆積土	ミガキ	---	---		
12	3D-8	土師器	坏	3区	SK32	堆積土	ロクロ	---	---		
13	4C-12	土師器	甕	4区	SK22	堆積土	ナデ	---	---		
14	3C-3	土師器	甕	3区	SK32	堆積土	ナデ・ケズリ	---	---		
15	4A-4	縄文土器	深鉢	4区	SK22	堆積土	沈線文・刺突文	---	---	内面の下端近くに突起	103-16
16	3D-10	土師器	鉢	3区	SK31	堆積土	ロクロ・ケズリ	---	---		104-6
No	登録番号	地区	遺構	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
8	251	4区	SK17	堆積土	石錘	59.5	50.0	9.0	40.0		106-35

第76図 土坑出土遺物(2)



No.	登録番号	種別	器種	地区	遺構	層位	外 面				内 面		底 部	備 考	写真図版	
1	3C-2	土師器	甕	3区	SK32	堆積土	ナデ・ハケメ				ナデ		—			
2	3C-5	土師器	甕	3区	SK33	堆積土	ナデ・ハケメ				ハケメ		—			
3	3C-6	土師器	甕	3区	SK33	堆積土	ハケメ				ナデ		—			
5	3D-9	土師器	坏	3区	SK34	堆積土	ロクロ				ミガキ・黒色処理		ナデ			
6	3D-5	土師器	坏	3区	SK35	堆積土	ロクロ				ミガキ・黒色処理		回転糸切			
7	3D-4	土師器	坏	3区	SK35	堆積土	ロクロ				ミガキ・黒色処理		回転糸切			
8	3A-2	縄文土器	注口	3区	SK35	堆積土	ミガキ				ナデ		—	104-7		
9	3D-6	土師器	鉢	3区	SK35	堆積土	ロクロ				ロクロ		—			
10	3D-7	土師器	甕	3区	SK35	堆積土	ロクロ・ケズリ				ロクロ		—			
11	2D-2	土師器	かわらけ	2区	SK38	堆積土	ロクロ				ロクロ		回転糸切	103-34		
12	2D-4	土師器	かわらけ	2区	SK38	堆積土	ロクロ				ロクロ		回転糸切			
13	2D-3	土師器	かわらけ	2区	SK38	堆積土	ロクロ				ロクロ		回転糸切	103-35		
14	2D-1	土師器	高台付坏	2区	SK39	堆積土	ロクロ				ロクロ・黒色処理		回転糸切			
No.	登録番号	種別	地区	遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考							写真図版
4	3P-1	不明	3区	SK34	(38.0)	21.0	11.0	7.9								105-32
15	1N-9-1	釘	4区	SK39	52.0	14.0	8.0	8.4								107-3
16	1N-9-2	釘	4区	SK39	55.0	13.0	11.0	5.4								107-4
No.	登録番号	地区	遺構	層位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考						写真図版
17	159	3区	SK 4		礫石器	85.0	75.0	60.0	500.0	敲・凹						106-20

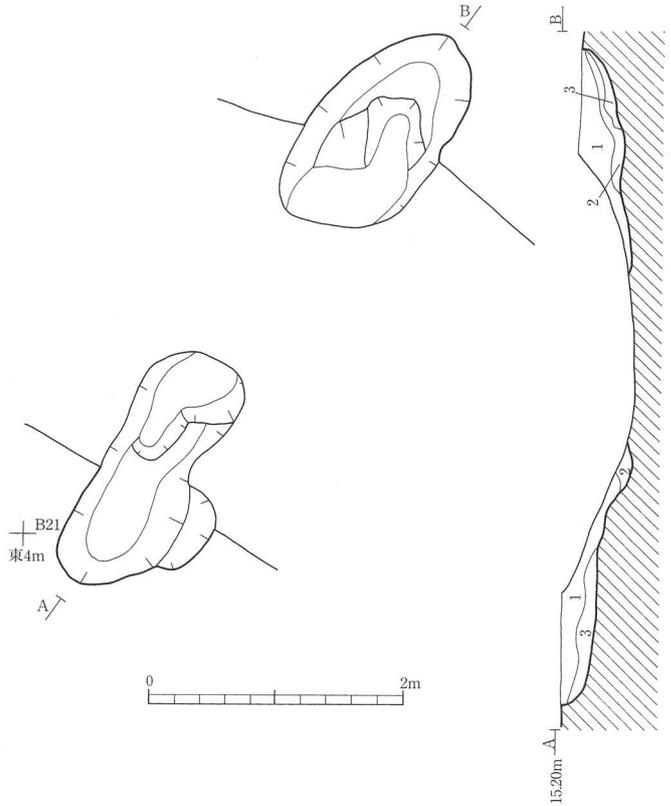
第77図 土坑出土遺物(3)

整な円形で、長軸方向はE-6° -Sである。堆積土は単層である。特に堆積土上部に多量の焼土を混入している。壁面は最も保存の良い南壁で6cmと残存状況は良くない。底面から急角度で立ち上がっているが、緩やかな角度で立ち上がる部分もある。底面はほぼ平坦である。底面レベルは東側が低く、西側が高くなっている。縄文土器が出土した。

性格不明遺構

SX-1 性格不明遺構 (第78図)

5区の中央北寄りB-22グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認されたが、SD-1溝跡の北東側はⅢ層まで削平されており、確認されたのはⅣa層上面であった。SD-1溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られていることから、本遺構が古い。平面形はSD-1溝跡に分断されているため、全体は不明であるが、長軸5.3m、短軸1.05m以上の長楕円形を基調としたものであると考えられ、長軸方向はN-36° -Eである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南西部の南壁で25cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかな角度で立ち上がる部分がある。底面は二段になっており、北東、南西の両端が高く、中央部が低くなっている。比高差は7~10cmである。遺物は出土しなかった。



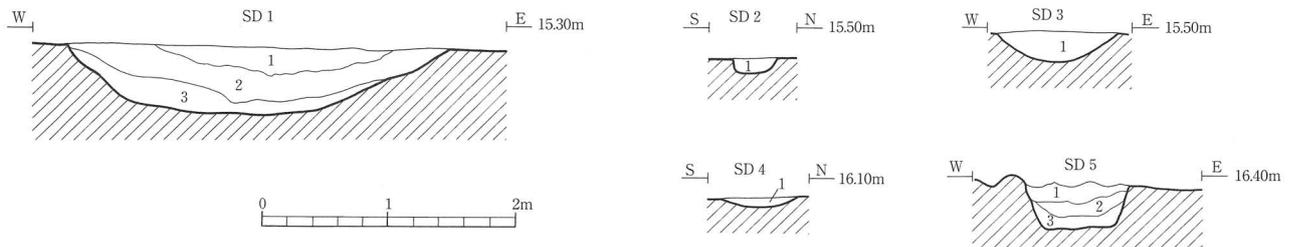
No.	土色	土性	備考
1	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	マンガン、酸化鉄含む。
2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	粘土質シルト	酸化鉄含み、砂っぽい部分有。
3	10YR3/4 暗褐	粘土	マンガン、10YR4/3にぶい黄褐シルトブロックを含む。

第78図 SX1

溝跡

SD-1 溝跡 (第70、79図)

5区の東側A・B-20~23グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。北と南は調査区外に延びている。現代の水路と重複する部分がある。Bライン付近で若干湾曲しているが、ほぼ直線的に延びている。Bライン以北では方向はW-30° -Nで、以南ではW-42° -Nである。確認された長さは約24m、上端幅は2.5~3.5mでBライン北側にやや広がる部分が見られる。下端幅は0.5~1.5mで、上端幅が広い部分では下端幅も広がっている。堆積土は3層に分けられる。特に3層には斑紋状に多量の酸化鉄が含まれ、底面に酸化鉄が厚さ数cmに集積している部分もみられた。壁面は30~60cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、底面のレベルは緩やかに波打っている。土師器、須恵器、瓦、縄文土器、土製品、石器、石製品が出土し、土師器高台付坏1点、甕2点、鉢1点、須恵器甕2点、丸瓦1点、縄文土器7点、剥片石器7点、礫石器4点、



遺構	層位	土色	土性	備考
SD 1	1	10YR2/2 黒褐	粘土	少量の10YR4/2灰黄褐粘土ブロック、10YR4/3にぶい黄褐砂質シルトブロック含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	粘土	部分的に互層になる。微量の10YR3/3暗褐粘土ブロック含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐	砂質シルト	
SD 2	1	10YR3/2 黒褐	粘土	少量の酸化鉄頭を含む。少量の10YR4/3にぶい黄褐粘土ブロック含む。
	2	10YR2/2 黒褐	粘土	
SD 3	1	10YR2/2 黒褐	粘土	少量の10YR5/2灰黄褐粘土ブロック、10YR4/3にぶい黄褐粘土ブロック含む。
	2	10YR3/1 黒褐	シルト	酸化鉄、若干の炭化物粒含む。
	3	10YR4/2 暗褐	シルト	若干の炭化物含む。
SD 4	1	5Y4/2 灰オリーブ	シルト	酸化鉄、若干の炭化物粒含む。
	2	10YR2/3 黒褐	シルト	若干の炭化物含む。
SD 5	1	10YR3/1 黒褐	シルト	若干の炭化物含む。
	2	10YR4/2 暗褐	シルト	若干の炭化物含む。
SD 5	3	10YR4/2 暗褐	粘土質シルト	マンガン、10YR4/3にぶい黄褐シルトブロックを含む。
	4	10YR4/4 褐	粘土質シルト	若干の炭化物、砂粒含む。

第79図 SD1~5 溝跡土層断面図

石製品1点を図示した。

SD-2 溝跡 (第70、79図)

5区の西側A・B-19・20グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。西側は調査区外に延びている。現代の水路と重複する部分がある。20ライン付近で湾曲しているが、他の部分はほぼ直線的に延びている。20ライン以西では方向はW-14°-Nで、以東ではW-34°-Nである。確認された長さは約16m、上端幅は20~40cm、下端幅は15~25cmである。堆積土は単層である。壁面は5~12cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は凸凹しており、底面のレベルは波打っている。土師器が出土した。

SD-3 溝跡 (第70、79図)

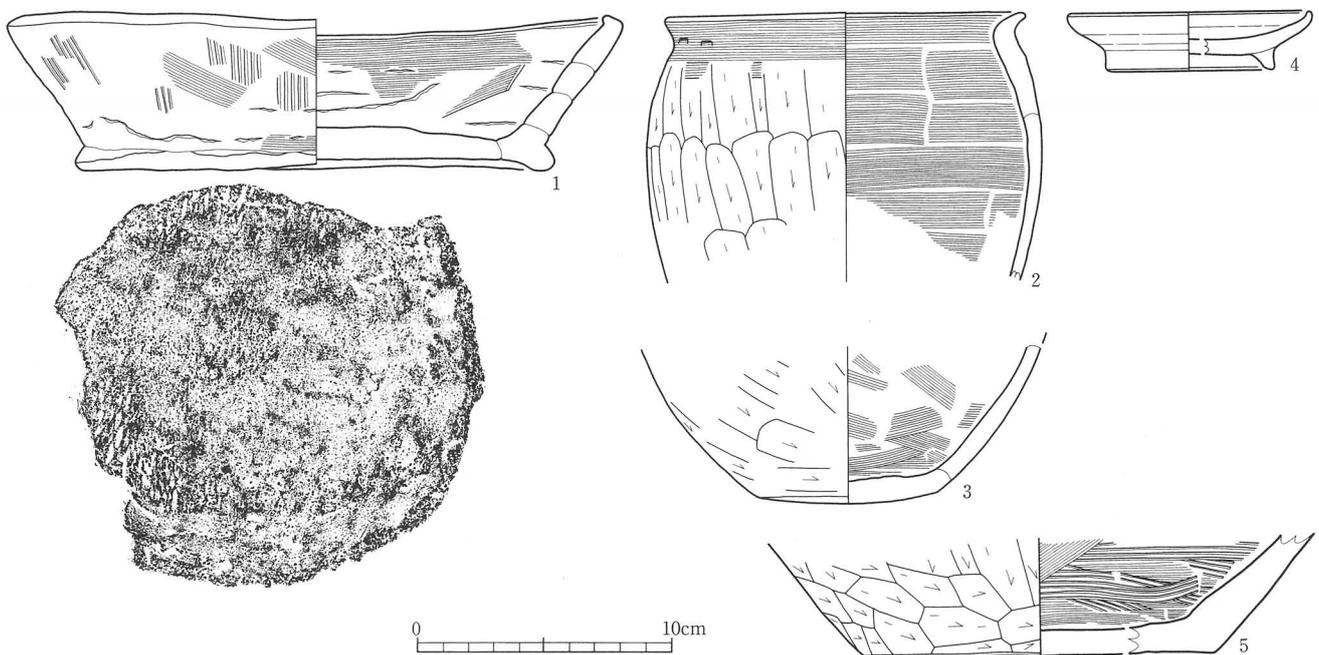
4区の中央東寄りA・B-19・20グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。南と北は調査区外に延びている。遺構の北側は、水田耕作土の犁取りによって上部を削平されている。緩やかな「S」字状に湾曲している。北側の方向はN-0°-E・Wで、中央部ではN-38°-E、南側ではN-18°-Eである。調査区北端近くで枝分かれしており、その方向はN-38°-Eと中央部分の方向と同じである。確認された長さは約16m、上端幅は70~100cm、下端幅は20~40cmである。枝分かれした部分は長さ約2m、上端幅は35~65cm、下端幅は10~30cmと北側ほど狭くなっている。堆積土は単層である。壁面は10~25cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦であるが、底面のレベルは緩やかに波打っている。土師器、須恵器が出土した。

SD-4 溝跡 (第70図)

1区の中央北寄りA-5・6グリットに位置している。SR-1上面で確認された。直線的に延びており、方向はE-1°-Sである。確認された長さは約4m、上端幅は50~70cm、下端幅は25~35cmである。堆積土は単層である。壁面は5~10cmの高さと残存状況は良くない。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは東側が高く、西側へ緩やかに傾斜している。土師器、縄文土器が出土した。

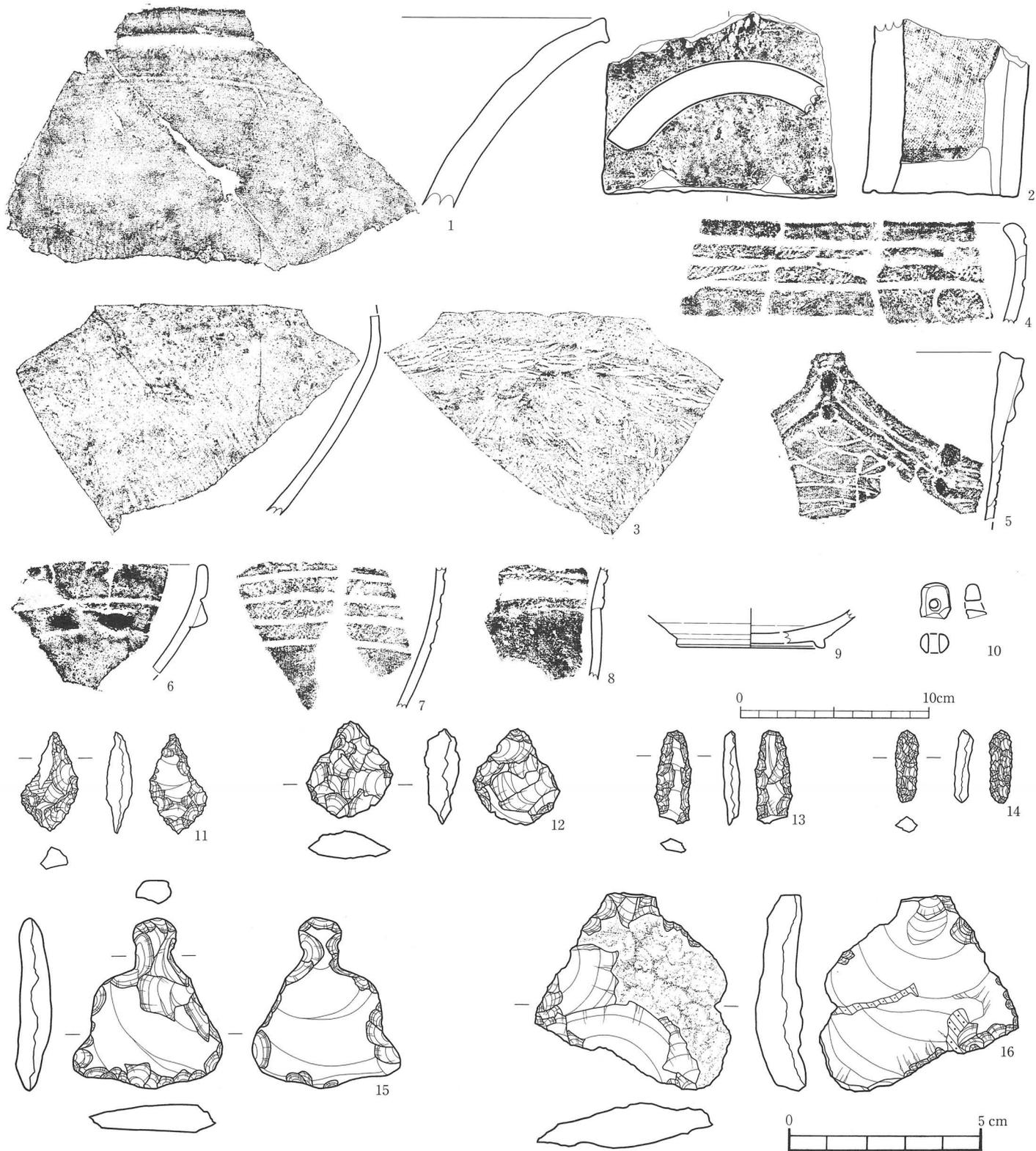
SD-5 溝跡 (第70、79図)

1区の西端寄りA・B-2グリットに位置している。Ⅲ層上面で確認された。遺構の南端は攪乱によって上部が削平されている。南と北は調査区外に延びている。SK-41土坑、ピット6個と重複関係にあり、それぞれに切られていることから、本遺構が最も古い。直線的に延びており、方向はN-5°-Eである。確認された長さは約14.8m、上端幅は0.8~1.2m、下端幅は30~60cmである。堆積土は3層に分けられる。壁面は35~69cmの高さで残存し



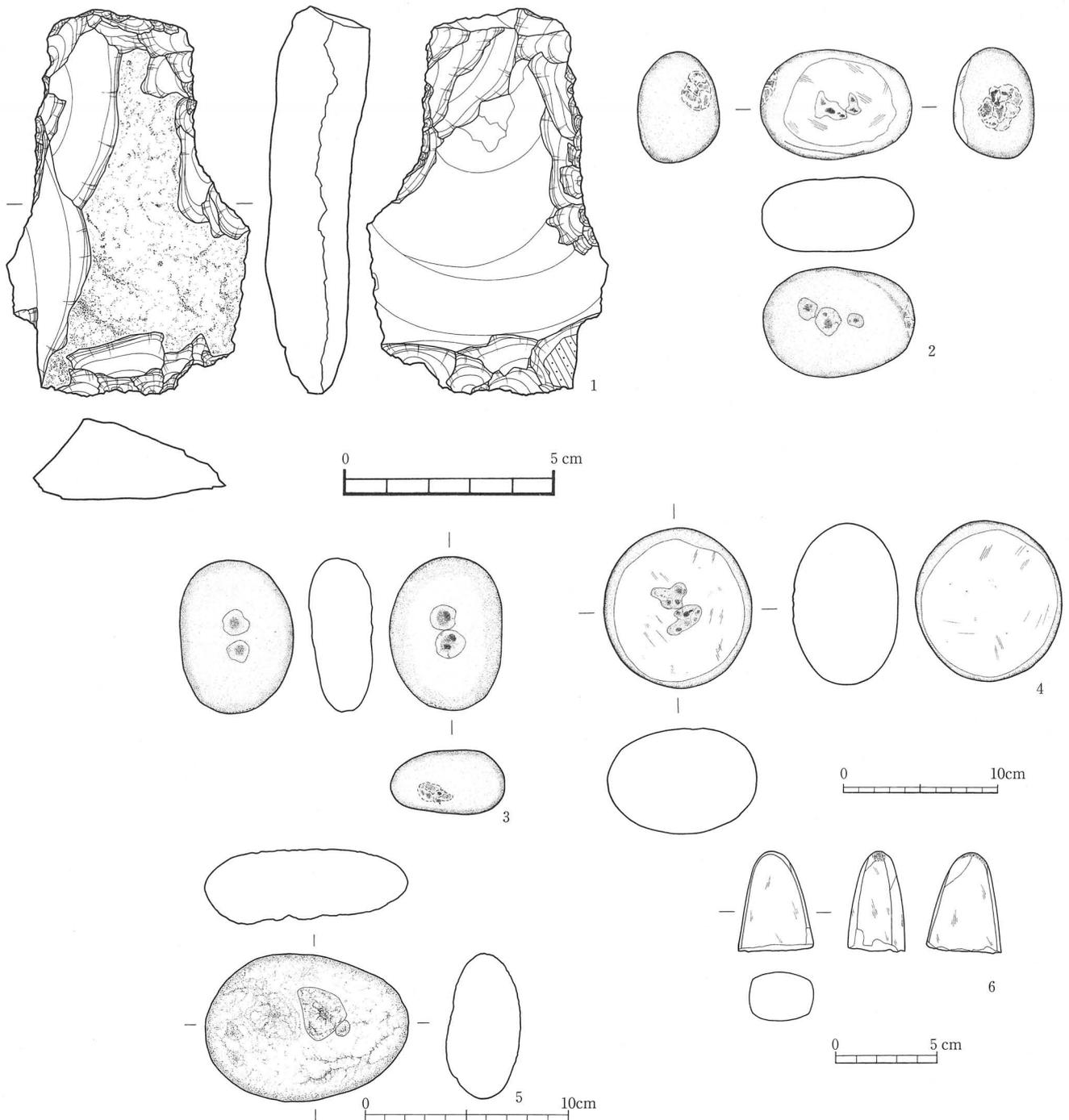
No	登録番号	種別	器種	地区	遺構	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5C-5	土師器	鉢	5区	SD1		ナデ・ハケメ	ナデ	織物痕跡あり		103-13
2	5C-4	土師器	甕	5区	SD1		ナデ・ケズリ	ナデ			103-14
3	5C-3	土師器	甕	5区	SD1		ケズリ	ナデ	ケズリ		
4	5D-2	土師器	高台付坏	5区	SD1		ロクロ	ロクロ	ロクロ		
5	5E-1	須恵器	甕	5区	SD1		ロクロ・ナデ	ロクロ			103-46

第80図 SD1 溝跡出土遺物 (1)



No.	登録番号	種別	器種	地区	遺構	層位	外 面	内 面	底 部	備 考	写真図版
1	5E-1	須恵器	甕	5区	SD1		ロクロ・ナデ	ロクロ・ナデ	---		
3	5E-2	須恵器	甕	5区	SD1		ロクロ・ナデ	当具痕	---		
4	5A-11	縄文土器	深鉢	5区	SD1		RL縄文・沈線文	磨減	---		104-8
5	5A-14	縄文土器	深鉢	5区	SD1		隆線文・沈線文・はりこぶ	磨減	---		104-9
6	5A-15	縄文土器	深鉢	5区	SD1		沈線文・はりこぶ	磨減	---		104-10
7	5A-10	縄文土器	深鉢	5区	SD1		RL縄文・沈線文	ミガキ	---		104-11
8	5A-12	縄文土器	深鉢	5区	SD1		L縄文・沈線文	ミガキ	---		104-12
9	1E-12	須恵器	高台付杯	5区	B-9 SD5		ロクロ	ロクロ	ロクロ	灰釉	
No.	登録番号	種別	器種	地区	遺構	層位	凹 面	凸 面	底 部	備 考	写真図版
2	5F-1	瓦	丸瓦	5区	SD1		布目・側面付近ヘラケズリ	縄叩き・ナデ	---		
No.	登録番号	種別	地区	遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	考		写真図版
10	1P-3	土鈴	1区	SD5	20.0	18.0	11.0	3.2	つまみ部		105-33
No.	登録番号	地区	遺構	層位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
11	619	5区	SD1		石鏃	27.0	14.5	6.2	1.7		105-47
12	621	5区	SD1		石鏃 (スクレイパー)	26.0	23.0	9.1	4.3		105-54
13	622	5区	SD1		石鏃	(25.5)	9.0	4.0	1.0		105-55
14	620	5区	SD1		石鏃	19.5	6.0	4.0	0.6		105-56
15	617	5区	SD1		石匙	46.0	40.0	8.5	6.8		105-64
16	634	5区	SD1		スクレイパー	48.0	51.1	11.5	28.6		105-71

第81図 SD1溝跡出土遺物(2)



No	登録番号	地区	遺構	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	654	5区	SD1		打製石斧	95.0	59.0	22.5	119.2		105-81
2	712	5区	SD1		礫石器	100.0	73.5	53.0	535.1	磨・敲・凹・焼け	
3	709	5区	SD1		礫石器	102.0	75.0	43.0	474.1	敲・凹	
4	716	5区	SD1		礫石器	106.5	97.0	69.0	998.0	磨・凹	
5	711	5区	SD1		礫石器	197.0	146.0	73.0	2600.0	凹	
6	713	5区	SD1		磨製石斧	(49.5)	37.0	26.0	67.1		106-33

第82図 SD1 溝跡出土遺物 (3)

ている。底面から急角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面のレベルは北側が高く、南側へ緩やかに傾斜している。土師器、須恵器、縄文土器、土製品が出土し、須恵器高台付坏1点、土製品1点を図示した。

ピット群

1区から5区にかけてのⅢ層上面でピットが確認された。1区では88個、2区では52個、3区では33個、4区で237個、5区では1個である。後世の圃場整備や水田耕作、水田耕作土の犁取り等によると考えられる削平によってピットの残存状況は良くない。1区の西端部、2区から4区の東寄りにかけての部分に比較的数量多くのピットが検出されている。ピットには柱痕跡が確認できるものはない。ピットの中には埋土、規模、深さ等に共通性のある

1区Ⅲ層ピット土層註記

	土色		土性		備考
A	2.5Y3/2		黒褐	粘土質シルト	
B	10YR3/1		黒褐	砂質シルト	炭化物含む。
C	10YR3/3		暗褐	シルト	
D	10YR4/3		にぶい黄褐	粘土質シルト	
E	2.5Y4/1		黄灰	シルト	

1区ピット (cm)

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26
埋土	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	D
深さ	14	14	20	16	26	18	18	12	18	19	13	8	38	19	19	20	14	9	15	13	17	18	18	35	9	10
No.	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50	P51	P52
埋土	D	C	D	D	D	D	D	D	D	B	B	B	B	C	D	C	C	C	D	D	D	D	D	C	C	C
深さ	21	24	61	25	13	19	16	9	10	11	35	25	13	15	29	11	11	30	17	16	34	17	24	38	14	40
No.	P53	P54	P55	P56	P57	P58	P59	P60	P61	P62	P63	P64	P65	P66	P67	P68	P69	P70	P71	P72	P73	P74	P75	P76	P77	P78
埋土	D	C	B	C	C	B	B	B	E	D	E	D	D	D	C	C	B	B	B	B	B	C	C	B	B	B
深さ	29	46	34	29	19	47	20	24	40	18	30	32	34	13	24	45	48	27	26	10	37	35	27	39	35	27
No.	P79	P80	P81	P82	P83	P84	P85	P86	P87	P88																
埋土	B	B	B	B	B	B	C	B	B	B																
深さ	40	27	29	29	23	34	26	38	43	14																

2区Ⅲ層上面ピット土層註記

	土色		土性		備考
A	10YR3/3		暗褐	粘土	木炭粒少量含む。
B	10YR3/2		黒褐	粘土質シルト	木炭粒少量含む。
C	10YR3/2		黒褐	粘土	
D	10YR4/2		灰黄褐		砂質シルトブロック少量含む。
	10YR3/3		暗褐	粘土質シルト	
	10YR4/2		灰黄褐		砂質シルトブロック少量含む。

2区ピット (cm)

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26
埋土	A	B	C	C	C	B	C	C	C	D	D	B	A	A	B	B	B	A	A	A	A	A	B	B	B	B
深さ	10	18	22	21	21	34	27	23	10	21	19	15	11	25	16	29	21	25	51	15	13	22	8	21	3	25
No.	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50	P51	P52
埋土	C	C	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	B	B	B	A	B	B	B	C	C	D	D	C	C	C
深さ	23	32	26	32	28	14	12	4	15	21	23	32	21	12	17	13	10	22	21	25	26	15	30	13	12	11

3区Ⅲ層上面ピット土層註記

	土色		土性		備考
A	10YR3/2		黒褐	粘土質シルト	
B	10YR4/2		灰黄褐		砂質シルトブロック少量含む。
	10YR4/2		灰黄褐	粘土質シルト	木炭粒・焼土粒少量含む。
C	10YR3/1		黒褐	シルト	
	10YR4/2		灰黄褐		シルトブロック少量・木炭粒少量含む。

3区ピット (cm)

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26
埋土	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	A
深さ	23	40	25	41	45	19	8	12	9	12	50	18	26	18	13	29	29	11	31	27	12	14	11	14	11	42
No.	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33																			
埋土	A	A	A	A	A	B	B																			
深さ	19	22	20	22	28	37	10																			

4区Ⅲ層上面ピット土層註記

	土色		土性		備考
A	10YR3/2		黒褐	粘土	砂質シルトブロック少量含む。
B	10YR4/2		灰黄褐	砂質シルト	木炭粒・焼土粒少量含む。
C	10YR3/1		黒褐	粘土	木炭粒微量含む。

4区ピット (cm)

No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	
埋土	A	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	A	A	A	A	A	A
深さ	19	15	17	25	19	18	11	7	12	11	17	21	23	14	12	23	33	18	22	11	26	15	13	10	11	28	35	9	16	14	36	25	25	13	9	
No.	P36	P37	P38	P39	P40	P41	P42	P43	P44	P45	P46	P47	P48	P49	P50	P51	P52	P53	P54	P55	P56	P57	P58	P59	P60	P61	P62	P63	P64	P65	P66	P67	P68	P69	P70	
埋土	A	A	A	A	C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	B	B	A	A	A	
深さ	19	17	33	28	18	10	3	11	16	18	25	23	16	10	10	21	25	5	7	8	6	3	4	15	8	17	13	31	4	-	-	-	12	16	24	
No.	P71	P72	P73	P74	P75	P76	P77	P78	P79	P80	P81	P82	P83	P84	P85	P86	P87	P88	P89	P90	P91	P92	P93	P94	P95	P96	P97	P98	P99	P100	P101	P102	P103	P104	P105	
埋土	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C	B	C	B	C
深さ	20	40	34	9	11	22	20	14	28	15	14	14	14	11	25	28	37	3	15	9	17	14	34	8	9	30	20	19	13	10	12	7	40	24	28	
No.	P106	P107	P108	P109	P110	P111	P112	P113	P114	P115	P116	P117	P118	P119	P120	P121	P122	P123	P124	P125	P126	P127	P128	P129	P130	P131	P132	P133	P134	P135	P136	P137	P138	P139	P140	
埋土	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
深さ	21	20	40	28	21	3	15	23	27	11	10	8	23	-	26	9	16	24	19	30	11	9	16	28	24	22	14	22	13	12	25	22	14	19		
No.	P141	P142	P143	P144	P145	P146	P147	P148	P149	P150	P151	P152	P153	P154	P155	P156	P157	P158	P159	P160	P161	P162	P163	P164	P165	P166	P167	P168	P169	P170	P171	P172	P173	P174	P175	
埋土	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
深さ	13	18	8	11	19	29	21	19	29	31	16	23	39	26	15	14	21	23	23	11	21	17	16	25	21	16	26	16	42	32	9	36	17	11	19	
No.	P176	P177	P178	P179	P180	P181	P182	P183	P184	P185	P186	P187	P188	P189	P190	P191	P192	P193	P194	P195	P196	P197	P198	P199	P200	P201	P202	P203	P204	P205	P206	P207	P208	P209	P210	
埋土	C	C	C	B	B	B	B	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	B	C	B	B	C	C	C	C	B	B	C	
深さ	17	21	16	24	10	19	18	17	22	16	19	34	13	19	18	28	31	22	10	11	13	13	8	15	12	7	25	8	16	4	19	14	36	9	26	
No.	P211	P212	P213	P214	P215	P216	P217	P218	P219	P220	P221	P222	P223	P224	P225	P226	P227	P228	P229	P230	P231	P232	P233	P234	P235	P236	P237									
埋土	C	B	C	B	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	B	B	B	C	B	C	C	C								
深さ	12	29	10	29	40	17	9	15	16	35	22	17	34	6	13	16	16	6	-	26	6	7	11	19	8	14	25									

ものが見られるが、掘立柱建物跡として組み合う可能性を指摘できるものは1区の西端部で3棟、2区、3区に2棟ずつ、4区に7棟の合計14棟、その他に柱列が3列であるが、更に多数の掘立柱建物跡や柱列が存在していたものと考えられる。ピットからの出土遺物は土師器、須恵器、縄文土器、石器、鉄滓等があり、埋土には焼土や炭化物が混入しているものも多い。このうち土師器坏1点、礫石器1点、石製品1点を図示した。

SB-1 掘立柱建物跡 (第83図)

1区西端部A・B-2グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SD-5溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから本遺構が新しい。また、位置的にSB-2、3掘立柱建物跡、SK-39、40、42、43、44土坑と重複関係にあると考えられるが直接の新旧関係は不明である。東南隅の柱穴は確認できなかったが南北4間、東西1間の南北棟と考えられ、西側に南北1間、東西1間の張り出しが付く。南側柱列は2.8m、東側柱列は8.0m、西側柱列は8.4mで、張り出し部分は東西1.8m、南北1.95mである。北側柱列は2.6mである。方向は西側柱列でN-1°-Eである。P34、50、52、56、73から土師器が出土した。

SB-2 掘立柱建物跡 (第83図)

1区西端部B-2グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SD-5溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから本遺構が新しい。また、位置的にSB-1、3掘立柱建物跡、SK-39、40、42、43、44土坑と重複関係にあると考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西3間以上、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は5.3m以上、東側柱列は2.0m、北側柱列は5.8m以上である。方向は西側柱列でW-15°-Nである。P64、37から土師器が出土した。

SB-3 掘立柱建物跡 (第83図)

1区南西端部B-2グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。位置的にSB-1、2掘立柱建物跡、SK-42、43、44土坑と重複関係にあると考えられるが直接の新旧関係は不明である。北西隅の柱穴は確認できなかったが南北1間以上、東西1間の南北棟と考えられる。東側柱列は4.3m以上、北側柱列は3.4m、西側柱列は4.0m以上である。方向は西側柱列でN-5°-Wである。遺物は出土していない。

SB-4 掘立柱建物跡 (第83図)

2区北側A-10・11グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。埋設管で調査出来なかった部分をまたいでいるために確認できない柱穴もあると考えられる。東南隅の柱穴は確認できなかったが東西2間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は4.8m、東側柱列は1.6m、北側柱列は4.75m、西側柱列では1.6mである。方向は西側柱列でE-1°-Sである。遺物は出土していない。

SB-5 掘立柱建物跡 (第83図)

2区中央南寄りB-11グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。東西1間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は3.25mであるが、更にP4から東側の調査区外へ延び、本掘立柱建物跡に取りつく扉あるいは柵のようなものがあることも考えられ、その場合は南側柱列は14.6m以上となる。東側柱列は1.5m、北側柱列は2.05m、西側柱列は1.75mである。方向は南側柱列でE-37°-Nである。遺物は出土していない。

SB-6 掘立柱建物跡 (第83図)

3区中央北東寄りA・B-13グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りによって削平されているものと考えられる。SK-36土坑と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。また、位置的にSK-31土坑との重複関係も考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西1間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は4.25m、東側柱列は2.75m、北側柱列は4.3m、西側柱列は2.75mである。方向は南側柱列でE-14°-Nである。P14から土師器が出土した。

SB-7 掘立柱建物跡 (第83図)

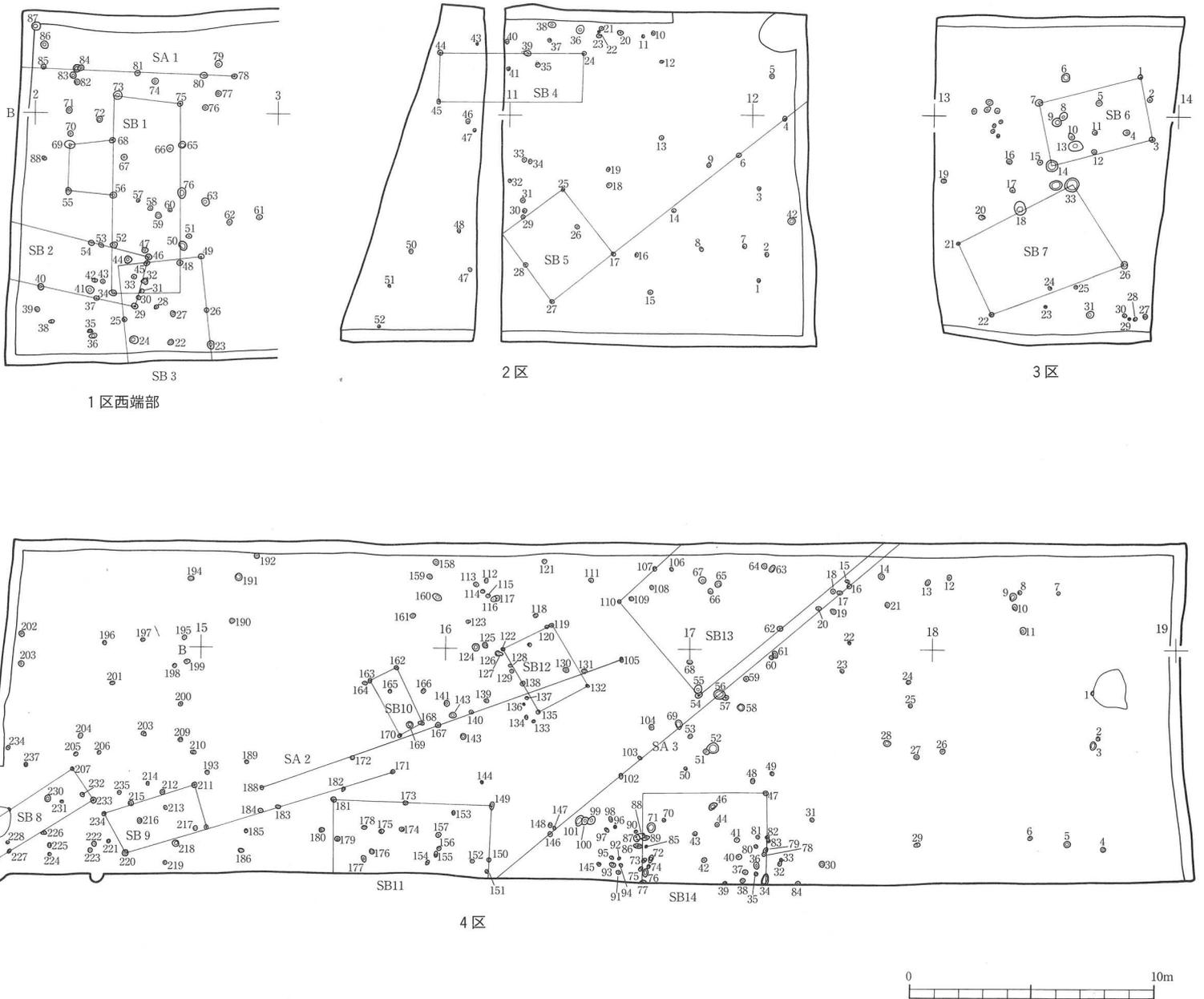
3区中央南寄りB-13グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。位置的にSK-32、33、34土坑との重複関係が考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西2間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は5.9m、東側柱列は4.0m、北側柱列は5.3m、西側柱列は3.25mである。方向は南側柱列でE-20°-Nである。P26から土師器、須恵器、縄文土器が出土した。

SB-8 掘立柱建物跡 (第83図)

4区南西端B-14グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。攪乱によって、一部削平され、西側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。SK-16、17土坑と重複関係にあり、それぞれを切っていることから、本遺構が新しい。また、位置的にSK-15土坑との重複関係も考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西3間以上、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は5.1m以上、東側柱列は1.55m、北側柱列は4.1m以上である。方向は南側柱列でE-31°-Nである。P207から土師器、須恵器、縄文土器が出土した。

SB-9 掘立柱建物跡 (第83図)

4区南西寄りB-14・15グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。SI-2 竪穴住居跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。東西3間、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は3.5mで、更に東のP-171まで延び、本建物跡に取りつく塀あるいは柵のようなものであることも考えられ、その場合は南側柱列は11.6mとなる。東側柱列は1.8m、北側柱列は3.9m、西側柱列は1.8mである。方向は南側柱列でE-16°-Nである。P187、234から土師器、縄文土器が出土した。



第83図 Ⅲ層上面掘立柱建物跡

SB-10掘立柱建物跡 (第83図)

4区中央西寄りB-15グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。東西1間、南北1間の南北棟と考えられる。南側柱列は1.1m、東側柱列は2.5m、北側柱列は1.3m、西側柱列は2.55mである。方向は東側柱列でN-28°-Wである。P168から土師器が出土した。

SB-11掘立柱建物跡 (第83図)

4区中央西寄りB-15グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。南側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。東西2間、南北2間以上の南北棟と考えられる。東側柱列は2.9m以上、北側柱列は6.45m、西側柱列は2.9m以上である。方向は東側柱列でN-2°-Eである。P150から土師器が出土した。

SB-12掘立柱建物跡 (第83図)

4区中央A・B-16グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。位置的にSA-2柱列との重複関係が考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西1間、南北2間の南北棟と考えられる。南側柱列では2.3m、東側柱列は2.9m、北側柱列は2.25m、西側柱列は2.9mである。方向は東側柱列でN-29°-Wである。P135から土師器が出土した。

SB-13掘立柱建物跡 (第83図)

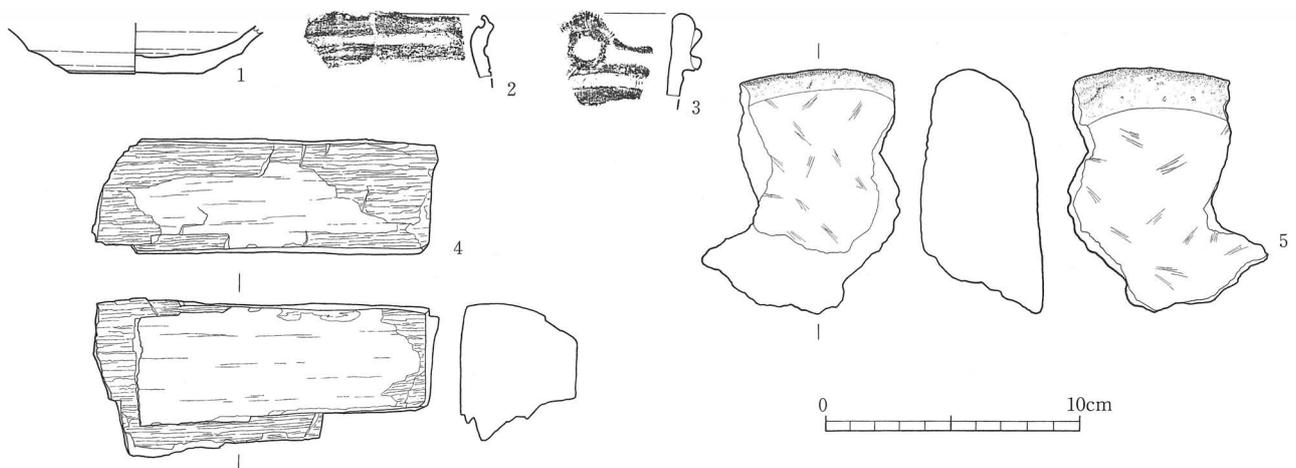
4区中央やや北東寄りA・B-16・17グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。北側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。位置的にSD-3溝跡との重複関係が考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西2間以上、南北1間の東西棟と考えられる。南側柱列は9.5m以上、北側柱列は3.5m以上、西側柱列は5.0mである。方向は南側柱列でE-39°-Nである。P62から土師器が出土した。

SB-14掘立柱建物跡 (第83図)

4区中央東寄り南端B-16・17グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。南側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。位置的にSD-3溝跡と重複関係が考えられるが直接の新旧関係は不明である。東西2間、南北2間以上の南北棟と考えられる。東側柱列は3.7m以上、北側柱列は5.1m、西側柱列は3.7m以上である。方向は東側柱列でN-1°-Eである。P88から土師器が出土した。

SA-1柱列 (第83図)

1区西端A-2グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。西側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明で



No.	登録番号	種別	器種	地区	遺構	外	面	内	面	底部	備考	写真図版
1	4D-2	土師器	坏	4区	P2	ロクロ		ロクロ・黒色処理		回転糸切		
2	4A-3	縄文土器	深鉢	4区	P187	沈線文		沈線文・ミガキ				
3	5A-71	縄文土器	深鉢	5区	P17	隆線文・沈線文		ミガキ				104-13
No.	登録番号	地区	遺構	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考			写真図版
4	40	1区	P63	礫石	136.0	64.0	45.3	510	珪化木			106-38
5	160	3区	P5	礫	(196.0)	(156.0)	(93.0)	(3,115)	磨・焼け			

第84図 ピット出土遺物

ある。SD-5 溝跡と重複関係にあり、本遺構が切っていることから、本遺構が新しい。また、重複するピットがあり、他の施設と重複している可能性がある。東西5間以上と考えられる。確認された長さは8.8mである。方向はE-2°-Sである。P80、81、84から土師器が出土した。

SA-2 柱列 (第83図)

4区中央B-15・16グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。遺構上部は水田耕作土の犁取りによって削平されているものと考えられる。位置的にSB-12掘立柱建物跡と重複関係にあることが考えられるが、直接の新旧関係は不明である。東西5間である。確認された長さは15.7mである。方向はE-20°-Sである。P130から須恵器が出土した。

SA-3 柱列 (第83図)

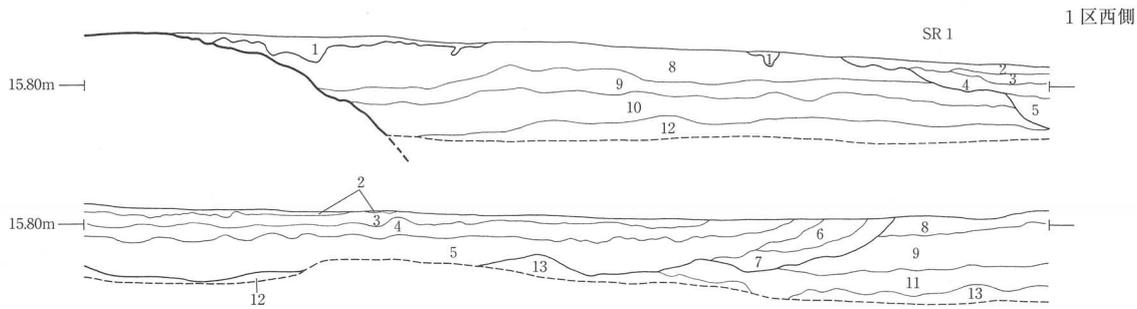
4区中央A・B-16・17グリットに位置し、Ⅲ層上面で確認された。北側及び南側の調査区外に延びており、遺構の全体は不明である。また、遺構北側の上部は水田耕作土の犁取りによって削平されているものと考えられる。位置的にSD-3 溝跡と重複関係にあることが考えられるが、直接の新旧関係は不明である。東西8間以上である。確認された長さは21.5mである。方向はE-40°-Sである。P56から土師器が出土した。

河川跡

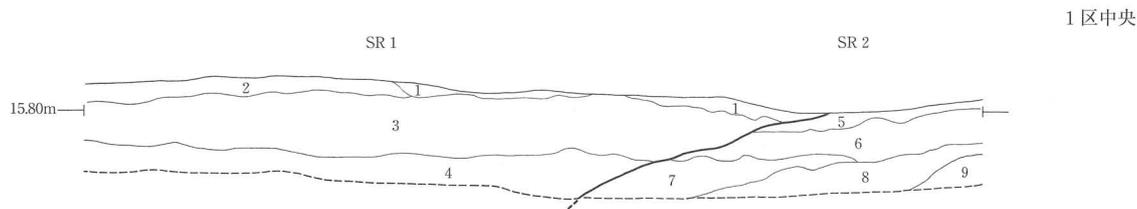


No	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	1C-4	土師器	坏	1区 AB3		ミガキ	ミガキ・黒色処理			
2	1C-5	土師器	蓋	1区 B3		ナデ・ミガキ	ナデ・黒色処理			103-6
3	1C-3	土師器	蓋	1区 AB3		磨滅	ナデ			
4	1C-2	土師器	甕	1区	1, 2層	ナデ・ケズリ	ナデ			
5	1C-6	土師器	甕	1区 B3		ナデ	ナデ・ハケメ			
6	1C-1	土師器	甕	1区 B3	1層	ハケメ	ハケメ	網代痕		
7	1D-11	土師器	坏	1区	1, 2層	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		
8	1D-16	土師器	坏	1区		ロクロ	ヘラミガキ・黒色処理	回転糸切		103-18
9	1D-17	土師器	坏	1区		ロクロ	ミガキ・黒色処理	磨滅		103-19
10	1D-18	土師器	坏	1区 B4		ロクロ・ヘラケズリ	ミガキ・黒色処理	ケズリ		103-20
11	1D-19	土師器	坏	1区 AB3		ロクロ・ナデ	ヘラミガキ	ケズリ		103-21
12	1D-21	土師器	坏	1区 AB4		ロクロ	ミガキ・黒色処理			103-22
13	1D-26	土師器	坏	1区 AB4		ロクロ・ケズリ	ミガキ・黒色処理	回転ヘラ切		
14	1D-36	土師器	坏	1区 B3		ロクロ・ケズリ	ミガキ・黒色処理	ケズリ		

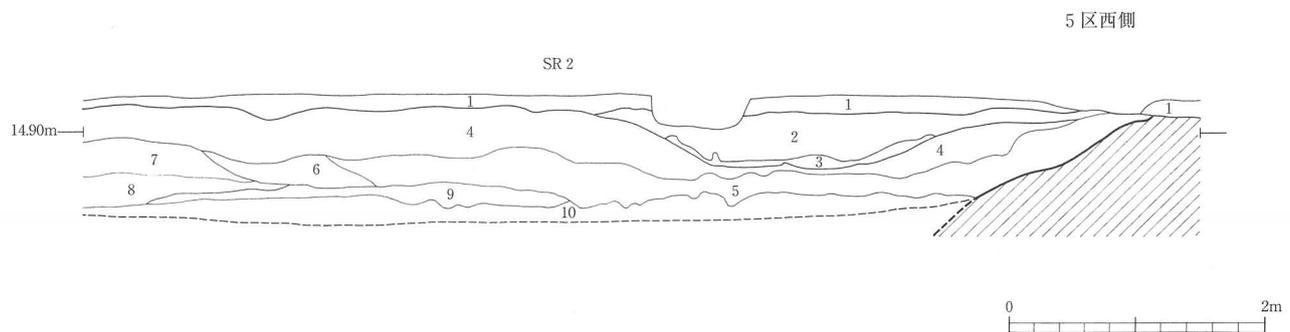
第85図 SR1 河川跡出土遺物 (1)



層位	No.	土色	土性	備考
1	1			基本層Ⅱ層
2	2	5Y3/2 オリーブ黒	シルト	粘性ややあり、酸化鉄を含む。
	3	10YR2/1 黒	粘土質シルト	酸化鉄を含む。
	4	2.5Y6/3 暗灰黄	砂質シルト	粘あり、酸化鉄・マンガン霜降り状を含む。
	5	2.5Y4/3 オリーブ褐	シルト質砂	砂礫含む。
	6	2.5Y4/3 オリーブ褐	シルト	粘性ややあり、下部に灰白火山灰粒斑を含む。
	7	5Y4/1 灰	粘土質シルト	粘性ややあり、上部に灰白火山灰層状を含む。
	8	2.5Y5/1 黄灰	シルト	粘性あり、酸化鉄・マンガン霜降り状を含む。
3	9	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質粘土	粘性あり、酸化鉄・マンガン霜降り状を含む。
	10	2.5Y5/2 暗灰黄	砂質粘土	粘性あり、酸化鉄・マンガン霜降り状を含む、炭化物含む。
	11	5Y4/4 暗オリーブ	砂質シルト	粗砂と互層の部分あり、マンガン・酸化鉄を含む。
	12	2.5Y4/2 暗灰黄	砂質シルト	層No.9よりやや暗い、酸化鉄・マンガン霜降り状を含む、焼土ブロック含む部分あり。
	13	5Y5/2 黄灰	砂礫	

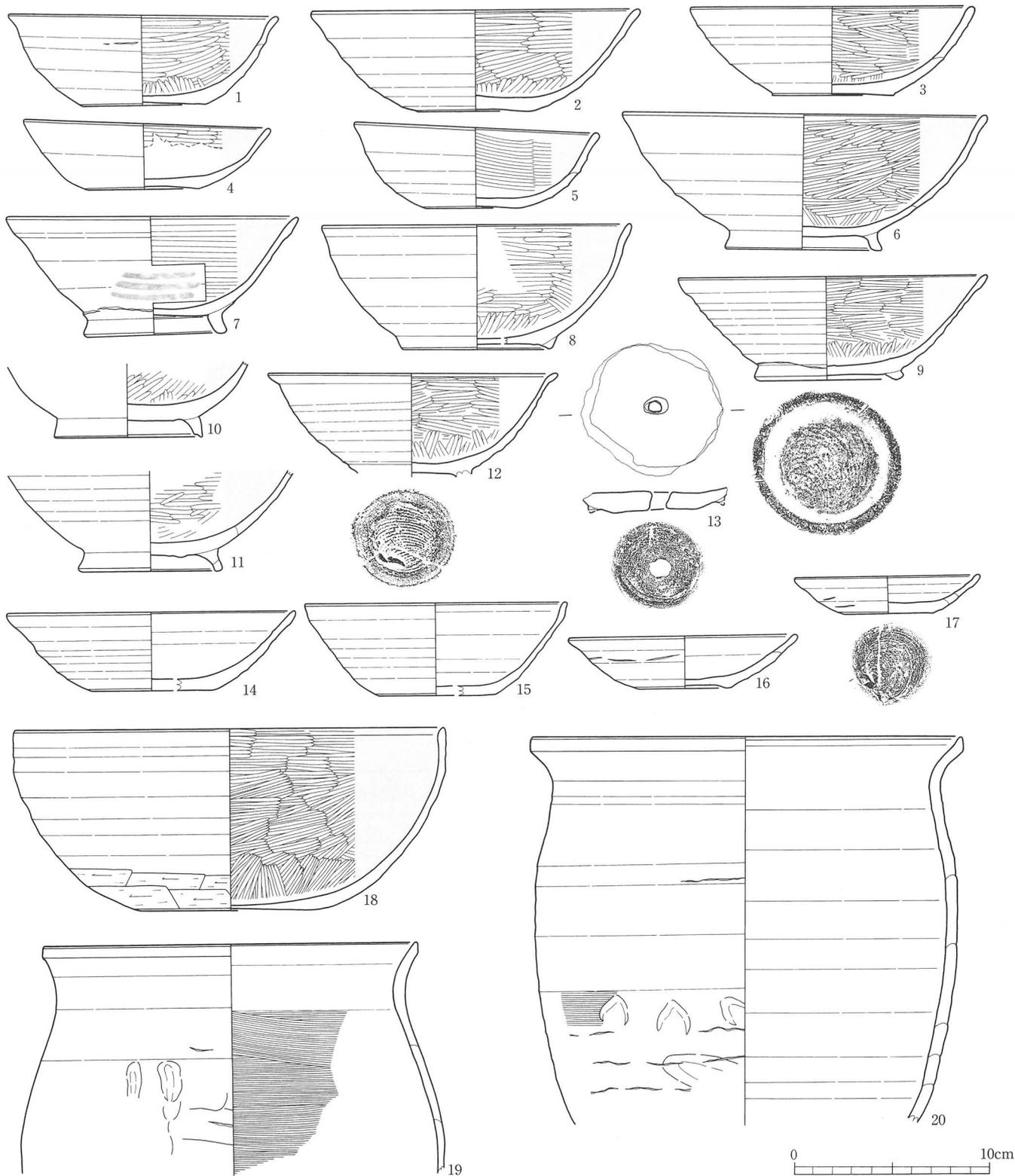


層位	No.	土色	土性	備考
SR 1	1	2.5Y4/2 暗灰黄	シルト	灰白火山灰、10YR2/3 (黒褐) 粘土質シルト斑を含む、酸化鉄を含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐	シルト質砂	マンガン、5Y4/1 (灰) 粘土斑を含む。
	3	2.5Y3/2 黒褐	砂質シルト	粘性ややあり、マンガン、下部に同色砂粒ブロック含む。
	4		砂礫層	7.5YR4/4 (褐) 5Y4/2 (灰オリーブ) 10YR3/3 (暗褐)。
SR 2	5	2.5Y4/2 暗灰褐	砂質シルト	酸化鉄集積部分あり、マンガン・灰白火山灰含む。
	6	2.5Y4/3 オリーブ褐	粗砂~細砂	酸化鉄集積部分あり。
	7	5Y4/3 暗オリーブ	砂礫	酸化鉄集積部分あり。
	8	2.5Y5/2 暗灰黄	シルト	粘性あり、同色細砂ブロック、酸化鉄・マンガンを含む。
	9	7.5YR4/4 褐	砂礫層	酸化鉄集積



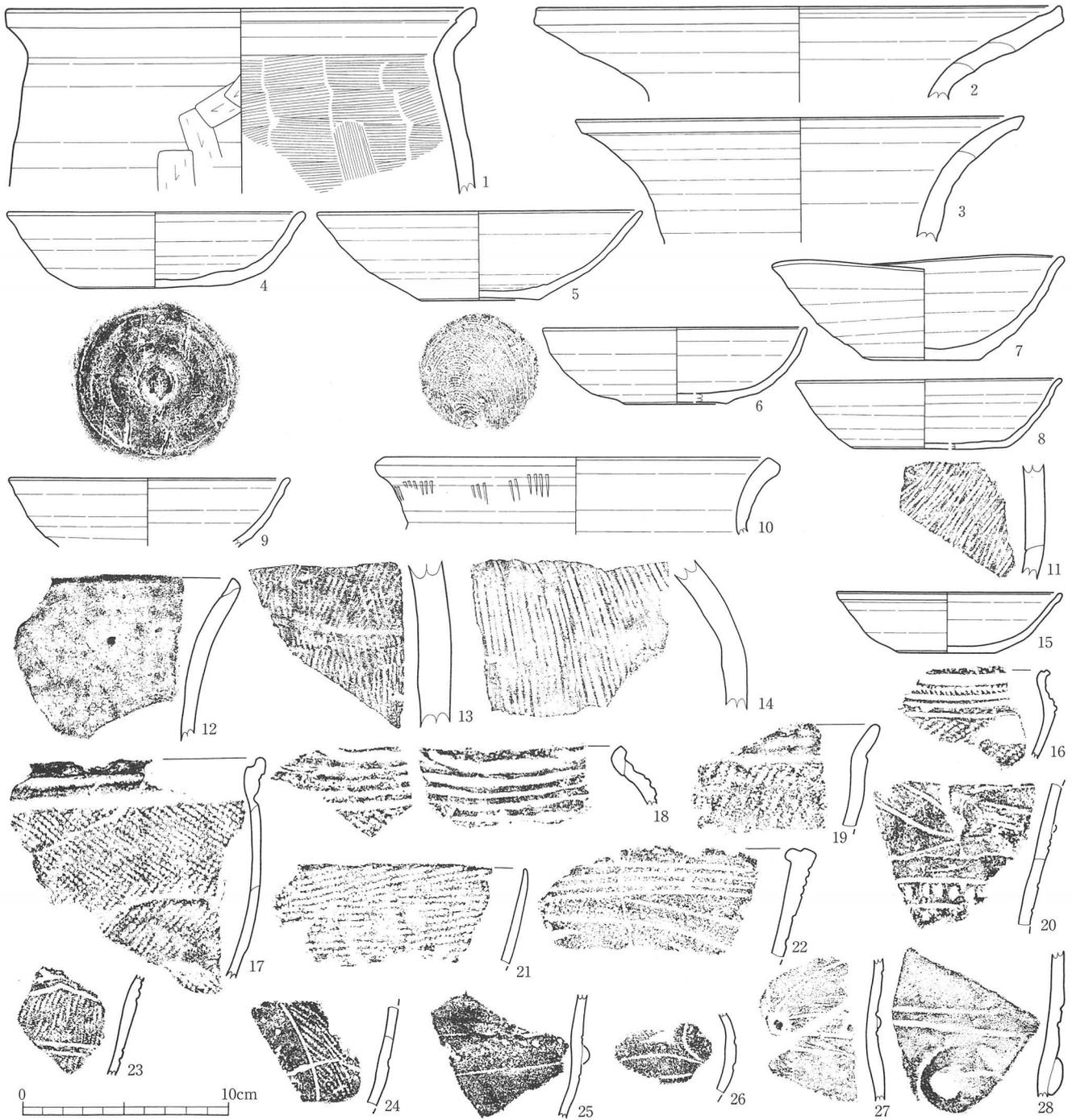
層位	No.	土色	土性	備考
1	1			基本層Ⅲ層
2	2	10YR4/2 灰黄褐	砂質シルト	粘性あり、2.5Y4/2 (暗灰黄) 斑を含む、層下部に灰白火山灰粒斑を含む、マンガンを含む。
	3	10YR7/2 (上部) におい黄褐 10YR6/3 (下部) におい黄褐	シルト	灰白火山灰層、二次堆積のものと思われる。
3	4	10YR4/3 におい黄褐	砂質シルト	粘性ややあり、7.5YR4/2 (灰オリーブ)、10YR4/4 (褐) 細砂部分あり、マンガン・炭化物粒を含む。
	5	10YR3/4 暗褐	細砂	粘性ややあり10YR5/2 (灰黄褐) 細砂~粗砂、2.5Y5/3 (黄褐) が層状、ブロック状に入る、マンガン・炭化物・酸化鉄を含む。
	6	2.5Y4/1 黄灰	細砂	互層状になる、層下部に風化礫片含む。
	7	7.5YR4/3 暗オリーブ	粗砂	
	8	10YR4/2 灰黄褐	粗砂	互層状になる、炭化物・マンガン・酸化鉄を含む。
	9	7.5Y5/1 灰	粗砂	
	10	5Y4/2 灰オリーブ	粗砂	互層状になる、砂利層 (径1~数cm)
	11	2.5Y4/4 オリーブ褐	粗砂	
12	7.5Y5/2 灰オリーブ	砂質シルト	粘性あり、粗砂の部分多い、炭化物・風化礫を含む。	
13	5Y5/2 灰オリーブ	砂質シルト	粘性あり、東岸近くは酸化鉄で赤くなっている、炭化物多く含む。	

第86図 SR 1・2 河川跡土層断面図



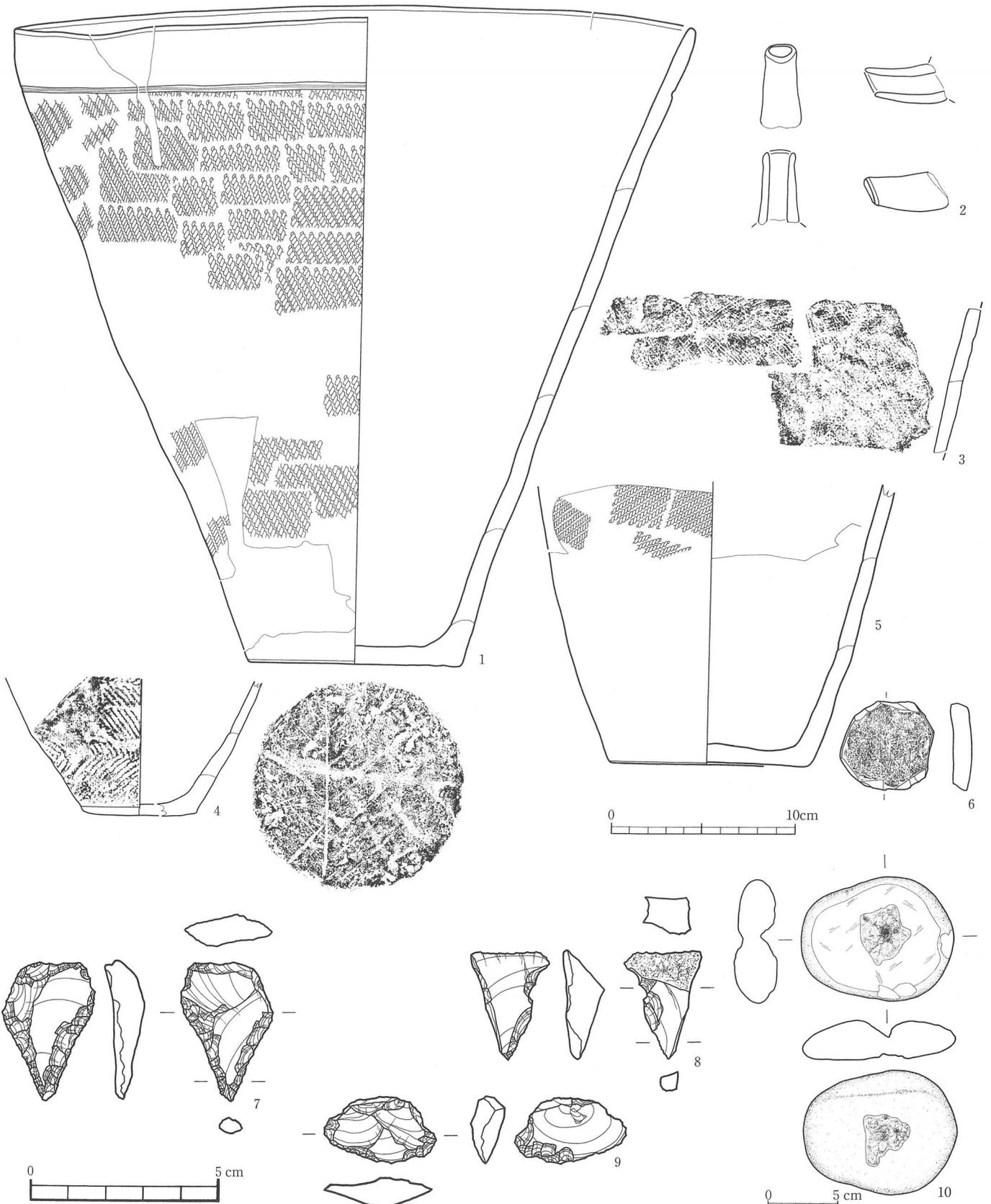
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	1D-24	土師器	坏	1区	AB4	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		
2	1D-25	土師器	坏	1区	AB4	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		
3	1D-35	土師器	坏	1区	B3	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		103-23
4	1D-34	土師器	坏	1区	B3	ロクロ・磨減	ミガキ・黒色処理	回転糸切	粗痕あり、樹脂付着	103-24
5	1D-37	土師器	坏	1区	B3	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		
6	1D-15	土師器	高台付坏	1区	A4	1、2層 ロクロ・磨減	ミガキ・黒色処理	付高台		103-30
7	1D-22	土師器	高台付坏	1区	AB4	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切	付高台、墨書あり	103-31-32
8	1D-40	土師器	高台付坏	1区	B3	ロクロ	ミガキ・黒色処理	ナデ	付高台	
9	1D-45	土師器	高台付坏	1区	B3	ロクロ・ナデ	ミガキ・黒色処理	回転糸切	付高台	
10	1D-14	土師器	高台付坏	1区	A4	1、2層 磨減	ミガキ・黒色処理	回転糸切	付高台	
11	1D-29	土師器	高台付坏	1区	B4	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切	付高台	
12	1D-49	土師器	高台付坏	1区	AB4	ロクロ・ナデ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		103-33
13	1D-52	土師器	高台付坏	1区	B3	ロクロ・磨減	黒色処理・磨減	磨減		
14	1D-20	土師器	坏	1区	AB3	ロクロ	ロクロ	回転糸切		
15	1D-27	土師器	坏	1区	AB4	ロクロ	ロクロ	回転糸切		
16	1D-42	かわらけ	坏	1区	B3	ロクロ	ロクロ	回転糸切	輪積痕あり	103-25
17	1D-51	かわらけ	坏	1区	B3	ロクロ	ロクロ	回転糸切		
18	1D-23	土師器	鉢	1区	AB4	ロクロ・ケズリ	ミガキ・黒色処理	磨減	輪積痕あり	103-26
19	1D-12	土師器	甕	1区	1、2層	ロクロ・ナデ	ロクロ・ナデ	—	輪積痕あり	
20	1D-9	土師器	甕	1区	1、2層	ロクロ・ナデ	ロクロ	—	輪積痕あり	

第87図 SR1 河川跡出土遺物 (2)



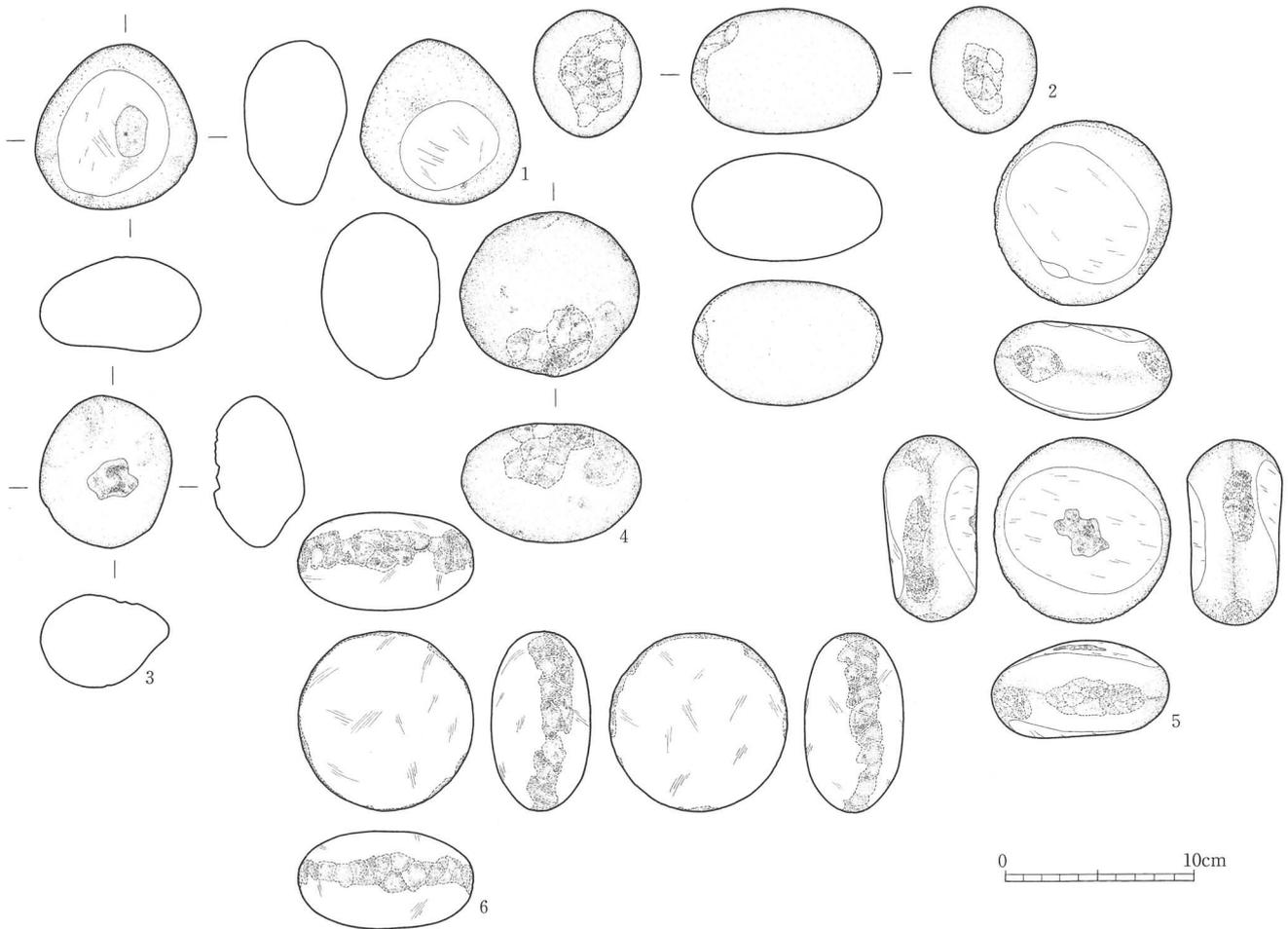
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	1D-47	土師器	甕	1区	B3	ロクロ	ロクロ・ナデ	---		
2	1D-28	土師器	壺	1区	AB4	ロクロ	ロクロ	---		
3	1D-46	土師器	甕	1区	B3	ロクロ	ロクロ	---		
4	1E-5	須恵器	坏	1区	B3	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切		103-36
5	1E-2	須恵器	坏	1区	B9	ロクロ	ロクロ	回転糸切		
6	1E-11	須恵器	坏	1区	B3	ロクロ	ロクロ	回転糸切		
7	1E-7	須恵器	坏	1区	B4	ロクロ	ロクロ	回転糸切		103-37
8	1E-8	須恵器	坏	1区	B4	ロクロ	ロクロ	ナデ		103-38
9	1E-9	須恵器	坏	1区	B3	ロクロ	ロクロ	---		
10	1E-10	須恵器	甕	1区	B3	ロクロ・タタキ	ロクロ	---		
11	1E-3	土師器	かわらけ	1区	1、2層	ロクロ	ロクロ	回転糸切		
12	1E-4	須恵器	甕	1区	AB4	ケズリ・ナデ	ナデ	---		104-1
13	1E-2	須恵器	甕	1区	B4	タタキ	ナデ	---	あて具痕	104-2
14	1E-5	須恵器	甕	1区	B3	タタキ	ナデ	---	あて具痕	104-3
15	1D-3	須恵器	甕	1区	B4	ハケメ	ナデ	---		104-4
16	1A-21	縄文土器	深鉢	1区	B4	LR縄文・沈線文・刻目文	ミガキ	---		104-14
17	1A-1	縄文土器	深鉢	1区	1層	RL縄文・沈線文	沈線文・ナデ	---		104-15
18	1A-18	縄文土器	深鉢	1区	AB3	RL縄文・沈線文	ミガキ	---		104-16
19	1A-17	縄文土器	深鉢	1区	AB3	LR縄文	ミガキ	---		
20	1A-23	縄文土器	深鉢	1区	B3	沈線文・刺突文・貼瘤	ミガキ	---		104-17
21	1A-14	縄文土器	深鉢	1区	B5	LR縄文	ナデ	---		104-18
22	1A-16	縄文土器	深鉢	1区	B4	沈線文・口唇部刻目文	ミガキ	---		104-19
23	1A-15	縄文土器	深鉢	1区	B4	LR縄文・沈線文	ナデ	---		104-20
24	1A-20	縄文土器	深鉢	1区	B4	RL縄文・沈線文	ミガキ	---		
25	1A-12	縄文土器	深鉢	1区	B5	沈線文・刺突文・貼瘤	ナデ	---		104-21
26	5A-25	縄文土器	深鉢	5区	3層	LR縄文・沈線文	ミガキ	---		104-22
27	5A-24	縄文土器	深鉢	5区		沈線文・貼瘤	ミガキ	---		104-22
28	5A-22	縄文土器	深鉢	5区		沈線文・隆線文	ミガキ	---		104-23

第88図 SR1 河川跡出土遺物 (3)



No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版	
1	1A-3	縄文土器	深鉢	1区	A3	RL縄文	ナデ	木葉痕		104-24	
2	1A-2	縄文土器	注口	1区	AB3			-			
3	1A-9	縄文土器	深鉢	1区	B8	ミガキ	ミガキ				
4	1A-4	縄文土器	深鉢	1区	AB4	RL・LR縄文	ケズリ・ナデ	-		105-5	
5	1A-5	縄文土器	深鉢	1区		LR縄文・ミガキ	ミガキ				
No.	登録番号	種別	遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考			写真図版
6	1P-2	土製円盤	SR-1	49.0	51.0	10.0	28.7				105-36
No.	登録番号	地区	遺構	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
7	43	1区	B4	SR1	石錐	38.0	24.0	7.7	6.7		105-57
8	44	1区	B3	SR1	石錐	29.0	20.5	9.9	4.2		105-58
9	57	1区	B3	SR1	スクレイパー	18.5	30.0	8.3	4.3		105-72
10	70	1区	B5	SR1	礫石器	110.0	92.0	31.0	222.6	磨・凹	105-21

第89図 SR1 河川跡出土遺物(4)



No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	80	1区 B3 中央トレンチ		礫石器	90.0	86.0	55.5	550.0	磨・凹	
2	73	1区 B3		礫石器	101.0	69.0	58.0	558.0	敲・火	
3	78	1区 B3 SR1中央深掘り		礫石器	83.0	71.0	48.5	350.0	凹	
4	81	1区 B3 SR1中央トレンチ		礫石器	96.0	90.0	67.0	756.2	敲	
5	72	1区 B3 SR 1		礫石器	94.0	101.0	50.0	730.0	磨・敲・凹	106-22
6	74	1区 B3 SR 1		礫石器	98.0	95.0	53.0	717.3	磨・敲	106-23

第90図 SR 1 河川跡出土遺物 (5)

SR-1 河川跡 (第70、86図)

〔遺構の確認〕 1区の中央部の西寄りA・B-3～5グリットに位置している。河川跡西岸はA・B-3グリットのⅢ層上面で確認されたが、東岸は更に古いSR-2河川跡と重複している。検出面では堆積土の境が区別しにくい状況であることと、掘り込み面であるⅢ層が削平されており、調査区南側のA-5グリットでは明確ではないがSR-2河川跡との境が認められた。北側のB-5グリットではSR-1河川跡東岸としてのプランは確認できなかった。

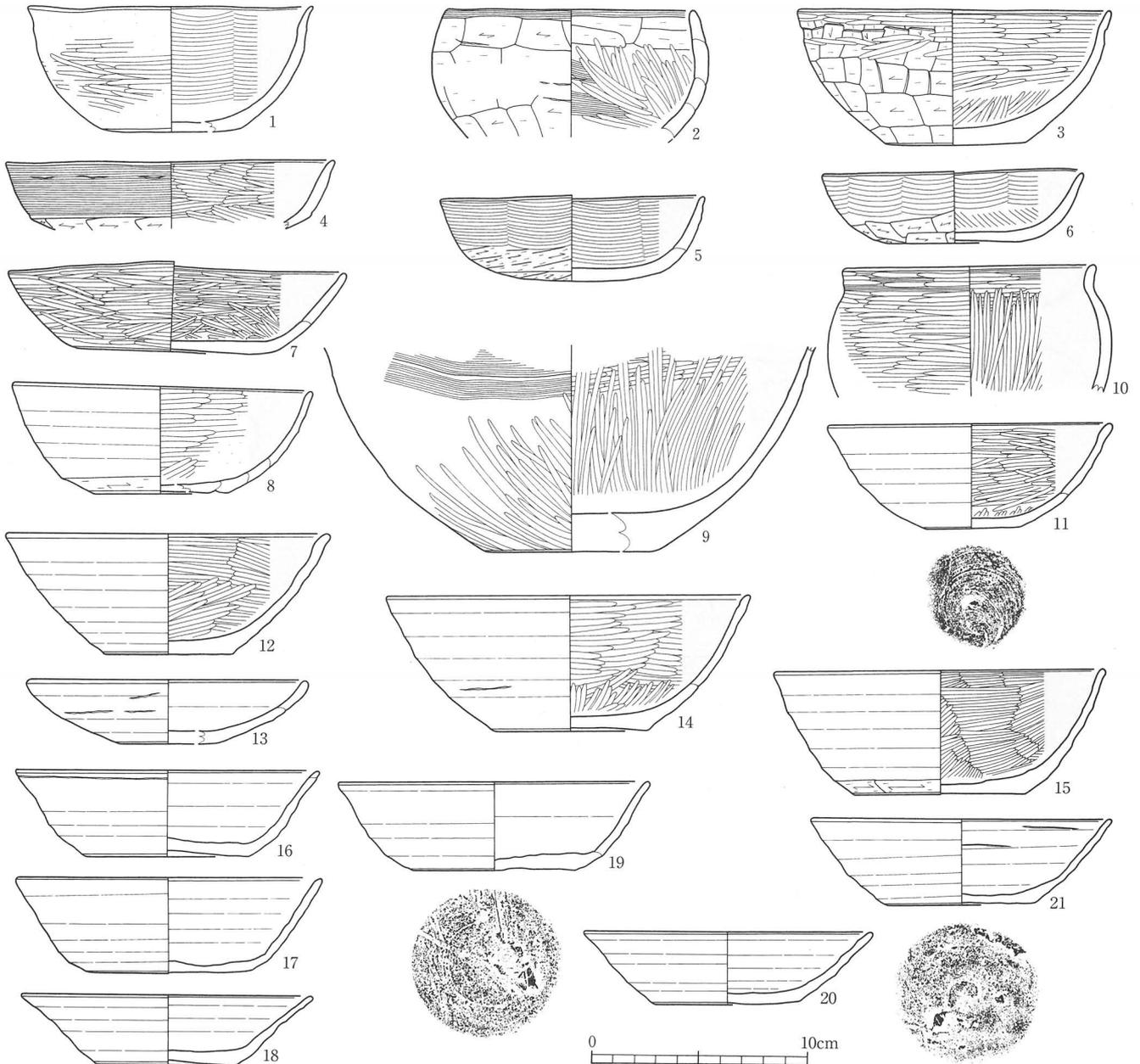
〔堆積土〕 底面まで掘り下げていないため不明な部分が多いが粗砂及び砂利層の互層で、酸化鉄の集積部分が多くみられ、灰白色火山灰を含む層もみられる。

〔壁面・底面〕 壁面は底面が検出されていないため、底面からの立ち上がりは不明であるが、検出面近くでは緩やかな角度である。

〔出土遺物〕 堆積土中から土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器、石製品等が出土している。特に堆積土上部から完形品や大型の破片が多量に出土しているが、その出土状況は全て混在した状況であり、層位的なまとまりや、規則性はみられなかった。このうち土師器坏15点、高台付坏8点、甕6点、壺1点、鉢1点、蓋2点、須恵器坏6点、甕5点、かわらけ3点、縄文土器20点、土製品1点、剥片石器3点、礫石器7点を図示した。

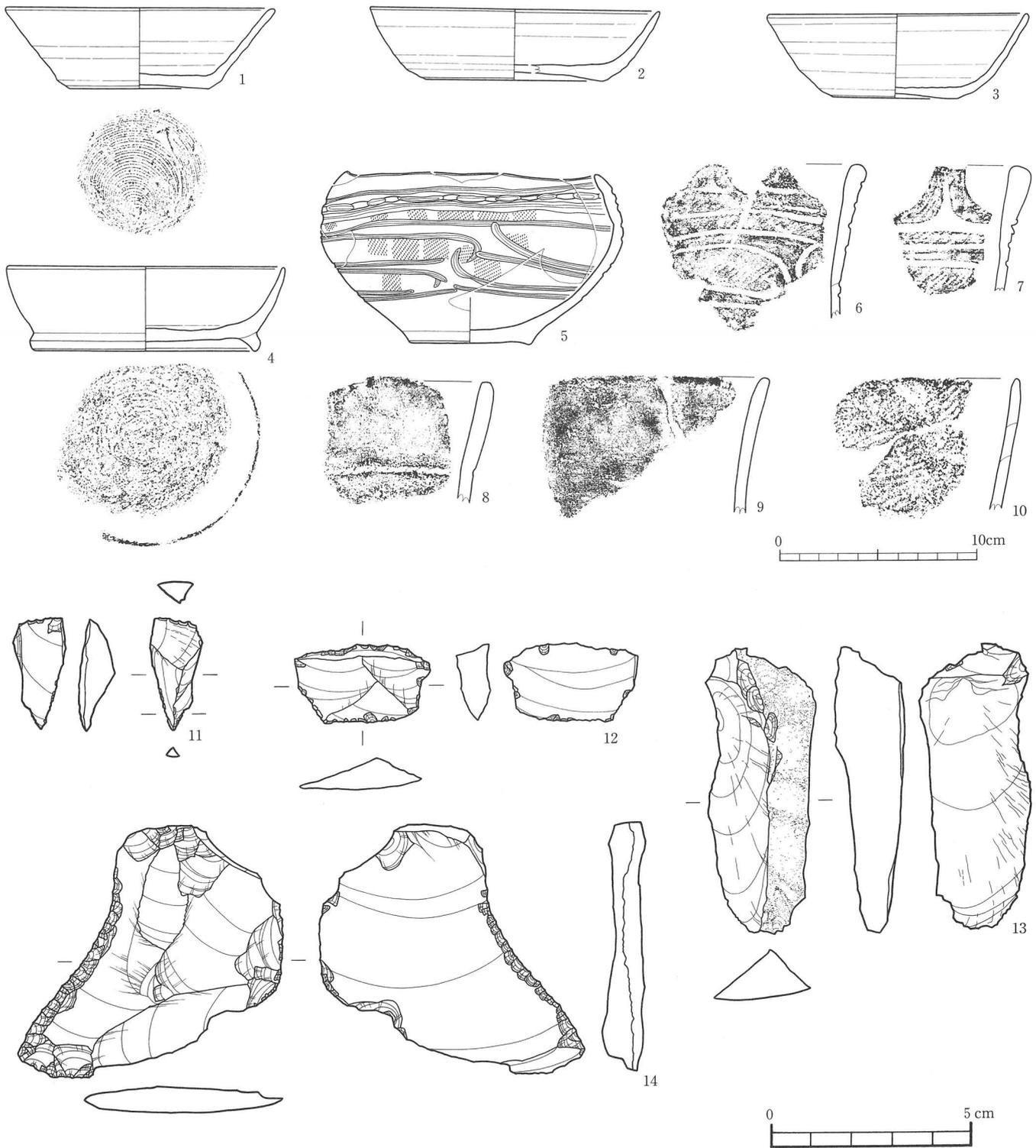
SR-2 河川跡 (第70、86図)

〔遺構の確認〕 1区の中央部A・B-5グリットから2区の西側A・B-10・11グリット、更に3区北東隅から4区の北西隅、北東部A-15グリットからA・B-17グリット、5区A・B-20グリットに位置し蛇行している。河川跡東岸はA・B-20グリットのIVa層上面で確認されたが、西側では1区のA・B-5グリットで、SR-1河川跡と重



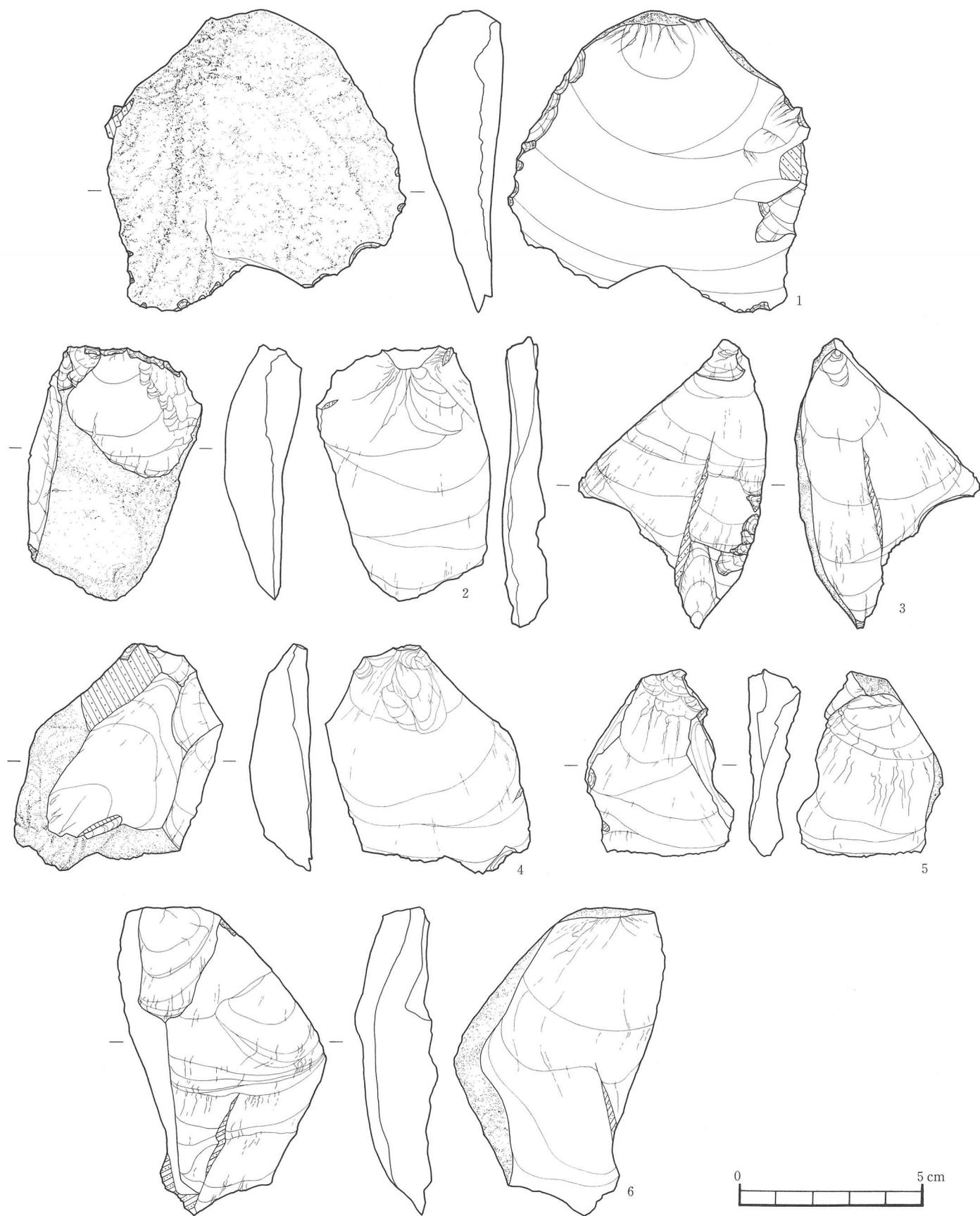
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5C-11	土師器	坏	5区	B20	ミガキ・磨減	ミガキ・磨減・黒色処理	—		
2	5C-13	土師器	坏	5区	B20	ケズリ・ナデ・磨減	ナデ・ケズリ・ミガキ	—		
3	5C-6	土師器	坏	5区	B20	ケズリ・ミガキ	ケズリ	ケズリ		103-1
4	5C-14	土師器	坏	5区		ケズリ・ナデ	ミガキ・黒色処理	—		
5	5C-9	土師器	坏	5区	B20	ケズリ・ミガキ	ミガキ・黒色処理	—		103-2
6	5C-8	土師器	坏	5区	B20	ミガキ・ケズリ・磨減	ミガキ・黒色処理・磨減	ケズリ		103-3
7	5C-10	土師器	坏	5区	B20	ミガキ	ミガキ・黒色処理	ミガキ		103-4
8	1D-7	土師器	坏	1区	B9	ロクロ・ケズリ	ミガキ・黒色処理	—		103-27
9	5C-12	土師器	鉢	5区	B20	ナデ・ミガキ	ミガキ・黒色処理	—	白色針状物質含む	
10	5C-7	土師器	鉢	5区	B20	ナデ・ミガキ	ナデ・ミガキ・黒色処理	—		
11	5D-5	土師器	坏	5区	B21	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		
12	1D-6	土師器	坏	1区	B9	ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		103-28
13	1D-8	土師器	坏	1区		ロクロ	ロクロ	回転糸切		
14	1D-5	土師器	坏	1区		ロクロ	ミガキ・黒色処理	回転糸切		
15	5D-4	土師器	坏	5区		ロクロ	ミガキ・黒色処理	ケズリ		
16	5E-2	須恵器	坏	5区		ロクロ	ロクロ	ナデ	墨書あり	103-47
17	5E-3	須恵器	坏	5区		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切		103-39
18	5E-7	須恵器	坏	5区		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切		
19	5E-4	須恵器	坏	5区		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切		103-40
20	5E-10	須恵器	坏	5区		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切		103-41
21	5E-8	須恵器	坏	5区		ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切	墨書あり	103-42

第91図 SR2 河川跡出土遺物 (1)



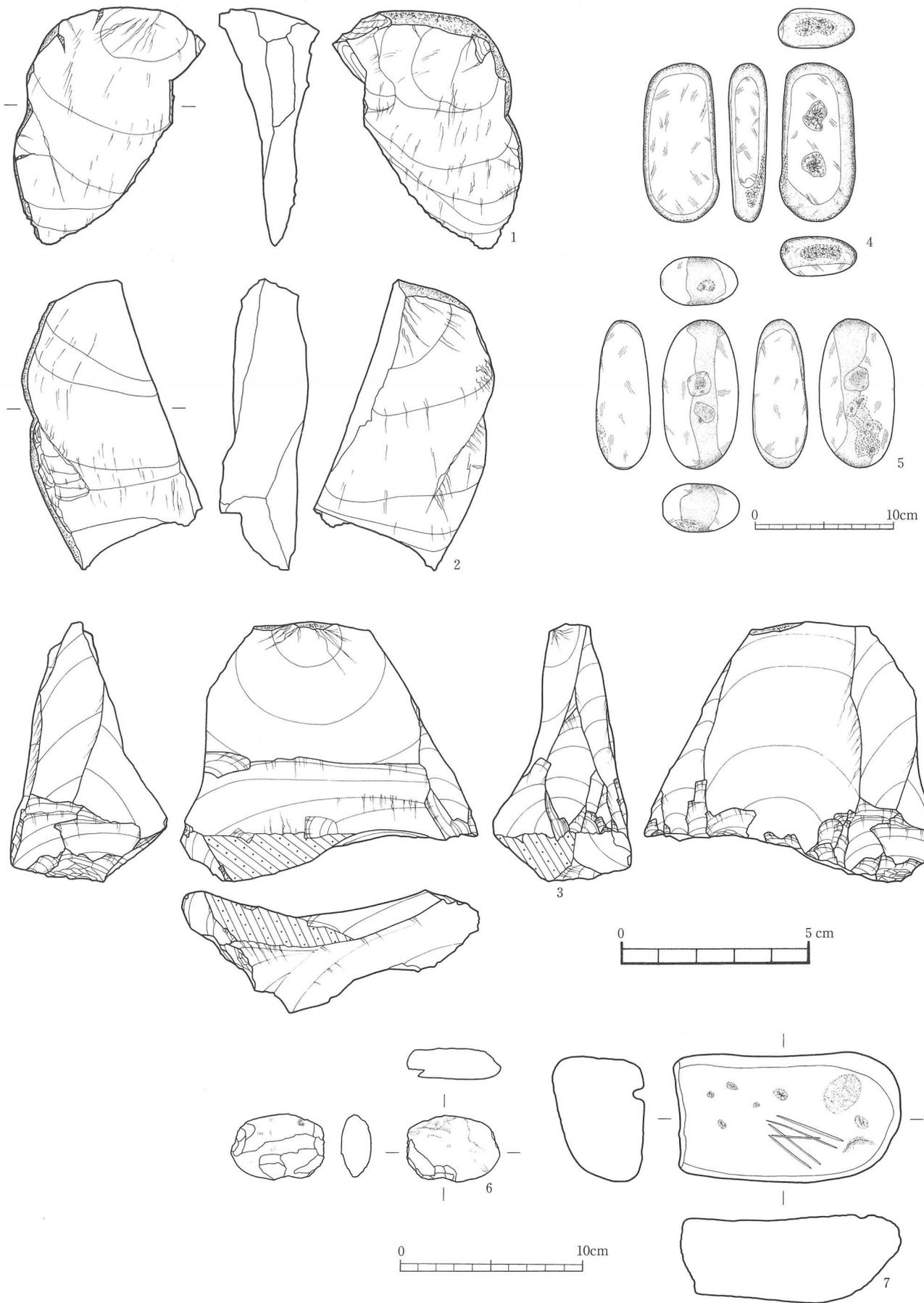
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外	面	内	面	底部	備考	写真図版
1	5E-11	須恵器	坏	5区	A20	ロクロ		ロクロ		回転糸切	墨書あり	103-43
2	5E-5	須恵器	坏	5区	B20	ロクロ		ロクロ		静止糸切		
3	5E-6	須恵器	坏	5区	B20	ロクロ		ロクロ		回転糸切	墨書あり	103-44
4	5E-3	須恵器	高台付坏	5区	B20	ロクロ		ロクロ		磨減		
5	5A-7	縄文土器	鉢	5区	A20	LR縄文・横位隆帯・沈線文		ナデ・ミガキ		-	火を受けて黒くなっている	104-25
6	5A-23	縄文土器	深鉢	5区		LR縄文・沈線文		ミガキ		-		104-26
7	5A-43	縄文土器	深鉢	5区	B20	LR縄文・沈線文・刻目文		ミガキ		-		104-27
8	1A-10	縄文土器	深鉢	1区	B9	RL縄文・L燃糸圧痕		ミガキ		-		104-28
9	1A-9	縄文土器	深鉢	1区	B8	ミガキ		ミガキ		-		
10	1A-8	縄文土器	深鉢	1区	B8	縄文(不明)		ミガキ		-		
No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版		
11	726	5区		石錐?	29.0	13.5	8.3	2.2		105-59		
12	733	5区	A20	ピエス・エスキーユ	19.5	34.0	8.2	5.3		105-70		
13	53	1区	B9	剥片	74.0	28.0	27.5	28.2		105-83		
14	45	1区	B9	スクレイパー	60.0	55.0	9.4	32.2		105-73		

第92図 SR2 河川跡出土遺物(2)



No	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	46	1区	B9	剥片	78.0	80.5	22.5	128.3	微細剥離痕	105-84
2	53	1区	B9	剥片	71.3	48.0	17.2	58.0		105-85
3	53	1区	B9	剥片	81.0	52.0	11.5	28.2		105-86
4	53	1区	B9	剥片	63.0	57.0	14.1	56.0		105-87
5	53	1区	B9	剥片	52.0	40.0	12.9	17.2		105-88
6	53	1区	B9	剥片	86.0	58.0	19.5	91.5		105-89

第93図 SR 2 河川跡出土遺物 (3)



No	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	53	1区	B9	剥片	64.0	51.5	26.2	48.4		106-1
2	53	1区	B9	剥片	(78.0)	(49.0)	18.3	74.0		106-2
3	47	1区	B9	石核	69.0	80.0	24.0	117.7		106-3
4	736	5区	B21	礫石器	116.5	55.0	26.5	277.4	磨・敲・凹	
5	266	4区	B17	礫石器	109.0	55.5	39.0	346.3	磨・敲・凹	106-27
6	265	4区	B18 上面	石錐	36.5	51.0	16.5	34.7		106-36
7	66	1区	B9	礫石器	124.0	72.0	49.5	325.7	線条痕あり	

第94図 SR2 河川跡出土遺物(4)

複しており、SR-1河川跡の確認状況と同様に、SR-2河川跡の明確な西側のプランは確認できなかった。

〔堆積土〕底面まで掘り下げていないため不明な部分が多いが粗砂、砂利層の互層で、拳大～人頭大、小児の胴体大の礫を含む層もみられる。また、5区では上部の堆積土を切って幅約3.5m、深さ約50cmに堆積土が溝状に堆積している分部があり、灰白色火山灰が約10cmの厚さに堆積している。河川の最終的な流路の一つであることが考えられる。

〔壁面・底面〕壁面は底面が検出されていないため、底面からの立ち上がりは不明であるが、検出面近くでは緩やかな角度である。

〔出土遺物〕堆積土中から土師器、須恵器、縄文土器、土製品、石器、石製品等が出土している。特に堆積土上部から土師器、須恵器の完形品や大型の破片が多量に出土しているが、その出土状況は全て混在した状況であり、層位的なまとまりや、規則性はみられなかった。このうち土師器坏13点、甕1点、鉢1点、須恵器坏9点、高台付坏1点、縄文土器5点、剥片石器13点、礫石器3点、石製品1点を図示した。

(2) 縄文時代の遺構と出土遺物

炉跡

1号炉（第95図）

〔遺構の確認〕5区の中央北寄りA-21グリットに位置し、V層上面で確認された。礫が円形に巡り、礫の内側に面した部分が火熱を受けて赤変しており、内部に焼土粒や炭化物が認められたため、石組み炉であると判断された。周囲に土坑や掘立柱建物跡が検出されているが、炉に関係するものかどうかは確認できなかった。

〔平面形・規模〕平面形は長軸65cm、短軸60cmの不整な円形で、長軸方向はN-2°-Eである。

〔堆積土〕2層に分けられる。1層には焼土粒、炭化物が混入し、下層は焼土層である。

〔壁面・底面〕壁は礫の最も高い北側で20cmの高さで残存している。炉の上部にはすき間無く礫が並べられ、炉の内側の面が火熱を受けて赤変している。礫の下部の壁面は上部の礫同様に赤変している。底面は火熱を受けて赤変しているが、硬く焼け締まっている状態ではなかった。底面は平坦である。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。

〔掘り方〕掘り方は長軸75cm、短軸75cmの隅丸の三角形に近い不整な円形である。長軸方向は石組みと同じである。壁は13cmの高さで、底面から緩やかな角度で立ち上がる。

〔出土遺物〕堆積土中及び掘り方埋土中から石器が出土し、石組みに礫石器が転用されていた。このうち剥片石器1点、礫石器1点を図示した。

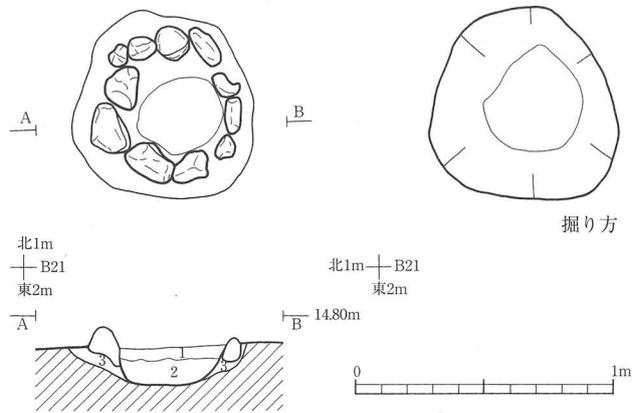
2号炉（第96図）

〔遺構の確認〕4区の中央南東寄りB-17グリットに位置し、V層上面で確認された。礫が円形に巡り、礫の内側に面した部分が火熱を受けて赤変しており、内部に焼土粒や炭化物が認められたため、石組み炉であると判断された。炉の周囲には東側0.5mから南側0.5mにかけて多数の焼け面と散乱する焼土がみられた。北側0.5mから東側1.2mにはSR-2河川跡が曲流し、幼児の胴体大の礫が散乱し、土坑が1基確認されたが、ピットや周溝などは確認できなかった。

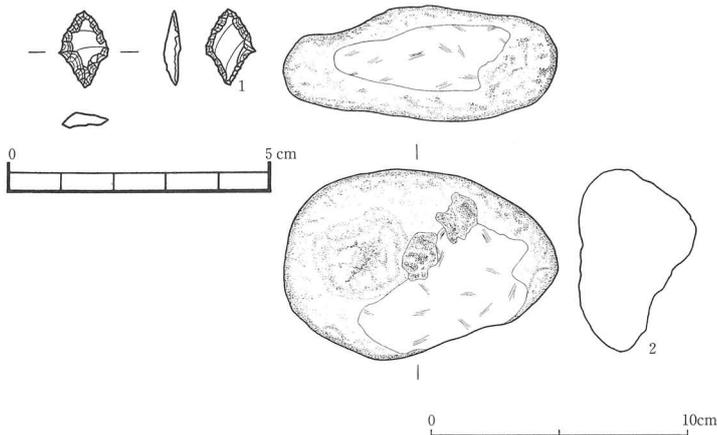
〔平面形・規模〕平面形は長軸75cm、短軸70cmの不整な円形である。長軸方向はE-5°-Sである。

〔堆積土〕2層に分けられる。1層に焼土粒、炭化物、2層には多量の焼土粒及び少量の焼土塊が混入している。

〔壁面・底面〕壁は礫の最も高い南西部分で17cmの高さで残存している。炉の壁面にはすき間無く礫が立て並べられ、礫の内側の面が火熱を受けて赤変している。底面も火熱を受けて赤変しているが、硬く焼け締まっている

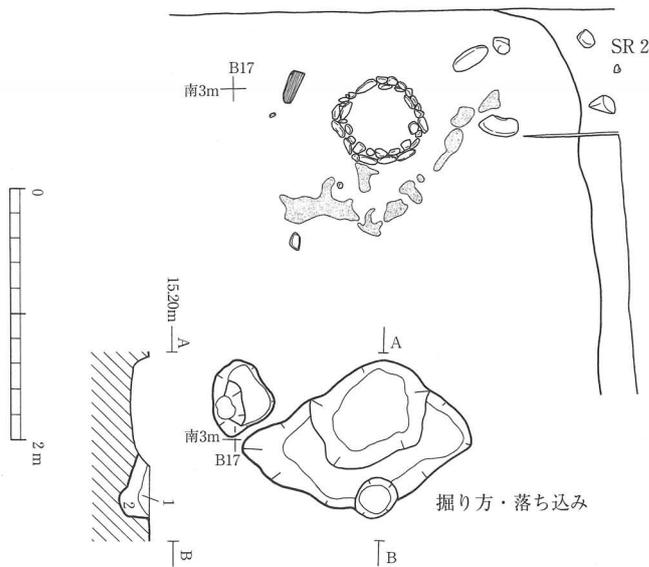


遺構	No.	土色	土性	備考
1号炉	1	7.5YR3/4	暗褐シルト	炭化物、焼土若干含む。
	2	5YR4/6	赤褐砂質シルト	焼土層。7.5YR3/3暗褐シルトブロック含む。
掘り方	3	10YR3/4	暗褐砂質シルト	10YR4/4褐シルト質砂斑を含む。



No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	595	5区	1号炉	石鏃	15.0	9.0	2.4	0.3		105-48
2	609	5区	1号炉	礫石器	213.0	152.0	91.0	3,150.0	磨・凹・焼け	

第95図 1号炉・出土遺物



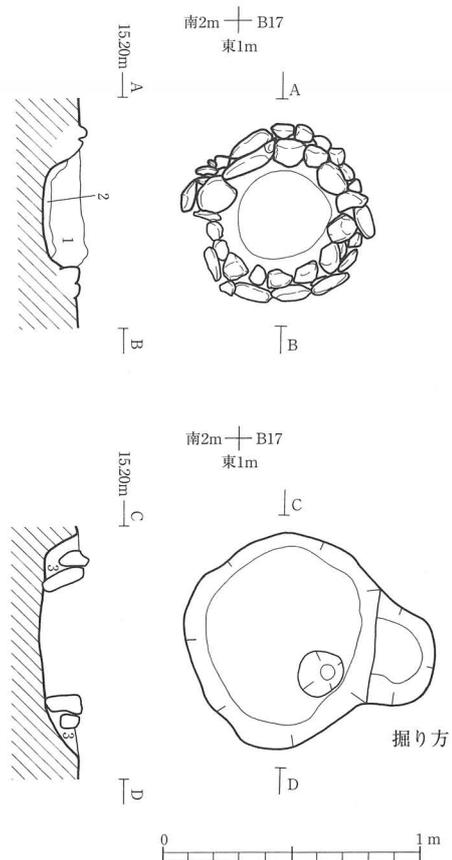
遺構	No.	土色	土性	備考
2号炉	1	7.5YR2/2	黒褐粘土質シルト	少量の焼土、炭化物に含む。
	2	7.5YR4/4	褐砂質シルト	少量の焼土塊含む。
2号炉掘り方	3	7.5YR3/3	暗褐砂質シルト	若干の炭化物粒含む。
2号炉落ち込み	1	10YR4/3	にぶい黄褐シルト	焼土粒、炭化物含む。
	2	10YR4/2	灰黄褐砂質シルト	炭化物、10YR4/6褐シルト粒含む。

状態ではなかった。底面は凸凹はなく平坦である。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。

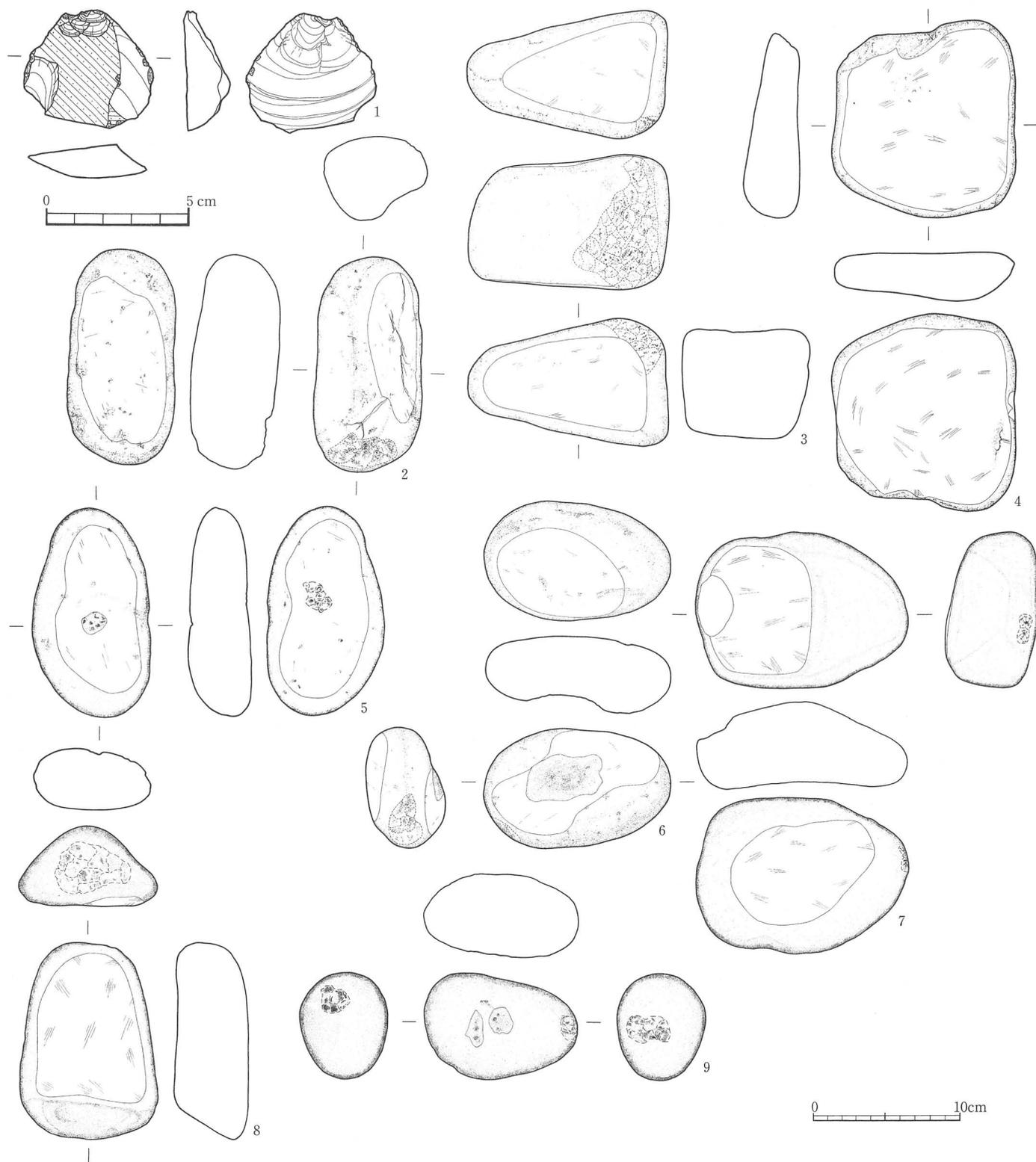
〔掘り方〕掘り方は長軸85cm、短軸75cmの不整な楕円形である。長軸方向はN-15°-Eである。東側に長さ45cm、幅20cmの張出部分がある。壁は10cm~13cmのさで、底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、直径15cm、深さ4cmの不整な円形のピット状の落ち込みがある。東側の張出部分の壁は5cm~8cmの高さで、緩やかな角度で立ち上がる。

掘り方の外側に長軸1.75m、2号炉の掘り方を含めた短軸1.25mの隅丸の菱形の落ち込みが検出された。堆積土は2層に分けられ、壁は9cm~15cmの高さで残存し、底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は小さな凸凹がみられる。南側の壁面から底面にかけて、直径35cm、深さ10cmのピットが検出された。

〔土坑〕炉の掘り方外側の落ち込みの北西



第96図 2号炉



No	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	230	4区	2号炉	剥片	31.0	34.0	11.0	10.6	微細剥離痕周辺焼土内	106-4
2	250	4区	2号炉	礫石器	153.0	76.0	60.0	980.0	磨2ヶ所・敲	106-24
3	248	4区	2号炉	礫石器	139.0	90.5	96.0	1,760.0	磨・敲・焼け	
4	249	4区	2号炉	礫石器	126.5	140.5	39.0	955.7	磨・焼け	
5	232	4区	2号炉石組	礫石器	149.0	83.0	43.5	750.0	磨・凹	
6	241	4区	2号炉石組	礫石器	130.0	85.5	53.5	845.0	磨・敲・凹・焼け	
7	240	4区	2号炉石組	礫石器	148.5	111.0	58.0	1,200.0	磨・敲・焼けはじけ	
8	235	4区	2号炉石組	礫石器	140.0	97.0	54.0	1,033.7	磨・敲・焼け	106-25
9	246	4区	2号炉周辺	礫石器	107.5	76.0	58.0	548.8	敲・凹	

第97図 2号炉出土遺物

に位置している。長軸60cm、単軸45cmの不整な隅丸長方形で、長軸方向はN-25°-Eである。壁は西壁で13cmの高さで残存しており、底面から緩やかに立ち上がる。底面は二段になっており、西側が低くなっている。
 [出土遺物] 堆積土中及び掘り方埋土、周辺の焼土中から縄文土器片、石器が出土し、石組みに礫石器が転用されていた。このうち剥片1点、礫石器8点を図示した。

3号炉 (第98図)

[遺構の確認] 4区の中央北寄りB-15・16グリットに位置している。グリットラインに沿ったトレンチを掘り下げ中、IVc層上面で炭化物がまとまって確認された。内部に焼土と焼け面が認められたため、炉であると判断された。検出部分は炉の南半部であり、北東部はSR-2によって削平されている。トレンチの北側に広がっていたものと考えられるが、SR-2河川跡による削平を受けているものと思われ、遺構の全体は不明である。トレンチの南側を拡張して炉を中心とする遺構の検出に努めたがピットや周溝等の遺構は確認されなかった。

[平面形・規模] 平面形は直径約1.5mの不整な円形を基調としたものであると考えられる。

[堆積土] 2層に分けられる。1層には焼土粒、炭化物が混入し、2層には多量の炭化物が混入している。

[壁面・底面] 壁は最も保存の良い南側で9cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は火熱を受けて赤変し、硬く焼け締まっている部分も見られた。底面は平坦である。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。

[出土遺物] 堆積土中から縄文土器が出土した。

4号炉 (第98図)

[遺構の確認] 2区の中央B-12グリットに位置している。グリットラインに沿ったトレンチを掘り下げ中、IVd層上面で焼土と焼け面が認められたため、炉であると判断された。検出部分は炉の北半部で、トレンチの南側に広がっているものと考えられたため、トレンチの南側を拡張して炉を中心とする遺構の検出に努めたが、炉以外のピットや周溝等の遺構は確認されなかった。

[平面形・規模] 平面形は長軸60cm、単軸50cmの不整な楕円形である。長軸方向はN-45°-Eである。

[堆積土] 4層に分けられる。2層は焼土層で、3層の上面が機能面と思われる。他の層には多量の焼土、炭化物が混入している。

[壁面・底面] 壁は機能面から2cmの高さで残存している。機能面は平坦で硬く焼け締まった部分も見られた。

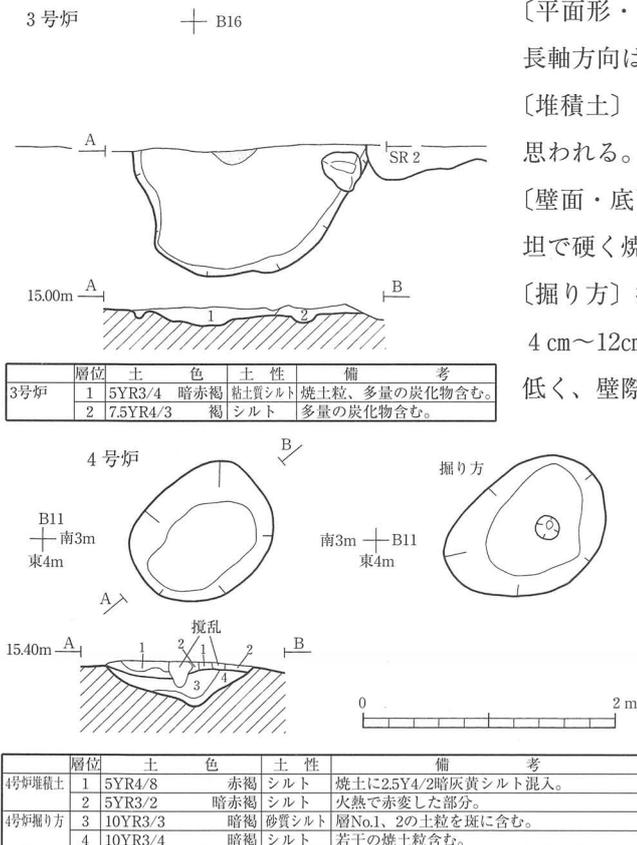
[掘り方] 掘り方は長軸65cm、単軸50cmの不整な楕円形である。深さは4cm~12cmで、壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面レベルは中央が低く、壁際が高くなっている。中央に直径10cm、深さ8cmのピットが検出された。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

土坑

SK-19土坑 (第99図)

5区の南東寄りB-22グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.0m、単軸0.9mの不整な楕円形で、長軸方向はE-2°-Nである。堆積土は6層に分けら



第98図 3号炉・4号炉

れる。壁面は最も保存の良い南壁で81cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる。東壁には上端から60cmの位置に段が付いている。底面は中央が凹む丸底状になっている。遺物は出土していない。

SK-20土坑 (第99図)

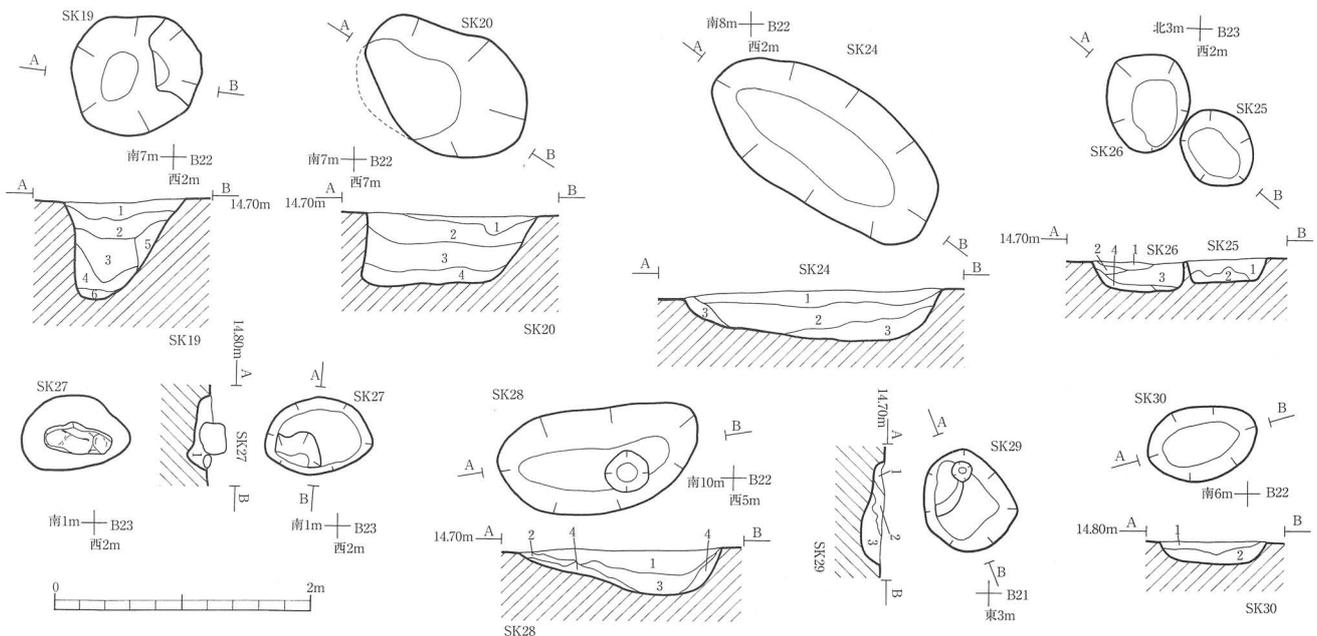
5区の中央南寄りB-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.4m、単軸1.0mの不整な楕円形で、長軸方向はW-36°-Nである。堆積土は4層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で59cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかな角度で立ち上がる部分がある。西壁はオーバーハングしている。底面は平坦である。底面レベルは西側が低く、東側が高くなっている。縄文土器、礫石器が出土し、礫石器1点を図示した。

SK-24土坑 (第99図)

5区の中央南寄りB-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸2.0m、単軸1.0mの不整な楕円形で、長軸方向はW-37°-Nである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で37cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは東側が低く、西側が高くなっている。縄文土器、礫石器が出土し、縄文土器1点を図示した。

SK-25土坑 (第99図)

5区の北東寄りA-22グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.65m、単軸0.55mの楕円形で、長軸方向はN-28°-Wである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い南西壁で19cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかな角度で立ち上がる部分がある。底面は平坦である。底面レベルは南側が低く、北側が高くなっている。遺物は出土していない。



遺構	No.	土色	土性	備考
SK19	1	10YR3/4	暗褐 砂質シルト	炭化物、マンガン、10YR4/4褐シルト質砂ブロック含む。
	2	10YR2/3	黒褐 砂質シルト	炭化物、10YR4/4褐シルト質砂ブロック含む。
	3	10YR3/1	黒褐 砂質シルト	多量の炭化物、10YR4/4褐シルト質砂斑を含む。
	4	10YR3/3	暗褐 シルト質砂	炭化物含む。
	5	10YR4/4	褐 砂質シルト	炭化物、7.5YR4/6褐細砂ブロック含む。
	6	2.5Y4/4	オリーブ褐 砂質シルト	若干の炭化物含む。
SK20	1	10YR3/1	暗褐 シルト	10YR4/4褐シルト斑を含む。
	2	10YR4/4	褐 シルト	粘性強い。炭化物、マンガン含む。
	3	10YR4/2	灰黄褐 粘土質シルト	粘性強い。炭化物、マンガン、10YR4/4褐シルト質砂ブロック含む。
	4	10YR4/3	にぶい黄褐 砂質シルト	10YR3/4暗褐シルト質砂斑を含む。
SK24	1	10YR3/3	暗褐 シルト	炭化物含む。
	2	2.5YR4/3	オリーブ褐 粘土質シルト	粘性強い。10YR4/3にぶい黄褐シルト斑を含む。
	3	10YR3/4	暗褐 シルト	粘り強い。炭化物、2.5Y4/4粘土質シルト斑を含む。
SK25	1	7.5YR3/3	暗褐 シルト	少量の炭化物、10YR4/3にぶい黄褐砂質シルト斑を含む。人為的堆積か？
	2	10YR4/3	にぶい黄褐 砂質シルト	人為的堆積か？

遺構	No.	土色	土性	備考
SK26	1	7.5YR3/4	暗褐 シルト	炭化物含む。
	2	10YR4/3	にぶい黄褐 砂質シルト	
	3	10YR3/2	黒褐 粘土質シルト	粘性強い。炭化物含む。
	4	10YR4/2	灰黄褐 シルト	
	5	10YR4/3	にぶい黄褐 砂質シルト	
SK27	1	10YR3/4	暗褐 砂質シルト	炭化物、10YR4/4褐シルト質砂ブロック含む。
	2	10YR3/2	暗褐 砂質シルト	少量の炭化物、10YR4/4褐少量シルト斑を含む。
SK28	1	10YR4/3	褐 シルト	少量の炭化物、砂粒含む。
	2	10YR3/4	暗褐 シルト質砂	砂粒含む。
	3	10YR3/3	暗褐 シルト質砂	炭化物、少量の砂粒含む。
	4	10YR4/2	灰黄褐 シルト質砂	
SK29	1	10YR3/4	暗褐 砂質シルト	砂粒含む。
	2	10YR4/6	褐 シルト質砂	砂粒含む。
	3	10YR3/4	暗褐 シルト質砂	
SK30	1	10YR4/4	褐 細砂	炭化物、砂粒含む。
	2	10YR3/2	黒褐 砂質シルト	10YR3/3暗褐少量シルト斑を含む。
				少量の炭化物含む。

第99図 SK19・20・24~30土坑

SK-26土坑 (第99図)

5区の北東寄りA-22グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.8m、単軸0.65mの楕円形で、長軸方向はN-1° -Wである。堆積土は5層に分けられる。壁面は最も保存の良い南壁で29cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる部分と緩やかな角度で立ち上がる部分がある。底面は平坦である。底面レベルは南側が低く、北側が高くなっている。縄文土器、礫石器が出土し、縄文土器1点、礫石器1点を図示した。

SK-27土坑 (第99図)

5区の東寄りB-22グリットに位置し、V層上面で確認された。遺構上面に長さ50cm、幅25cm、厚さ20cmと長さ18cm、幅10cm、厚さ6cmの礫2個が並んで検出された。平面形は長軸0.85m、単軸0.6mの不整な楕円形で、長軸方向はE-3° -Nである。堆積土は単層である。壁面は最も保存の良い南西壁で17cmの高さで残存している。底面から急角度で立ち上がる。底面は二段になっており、南西部分が約5cm下がっている。礫石器が出土した。

SK-28土坑 (第99図)

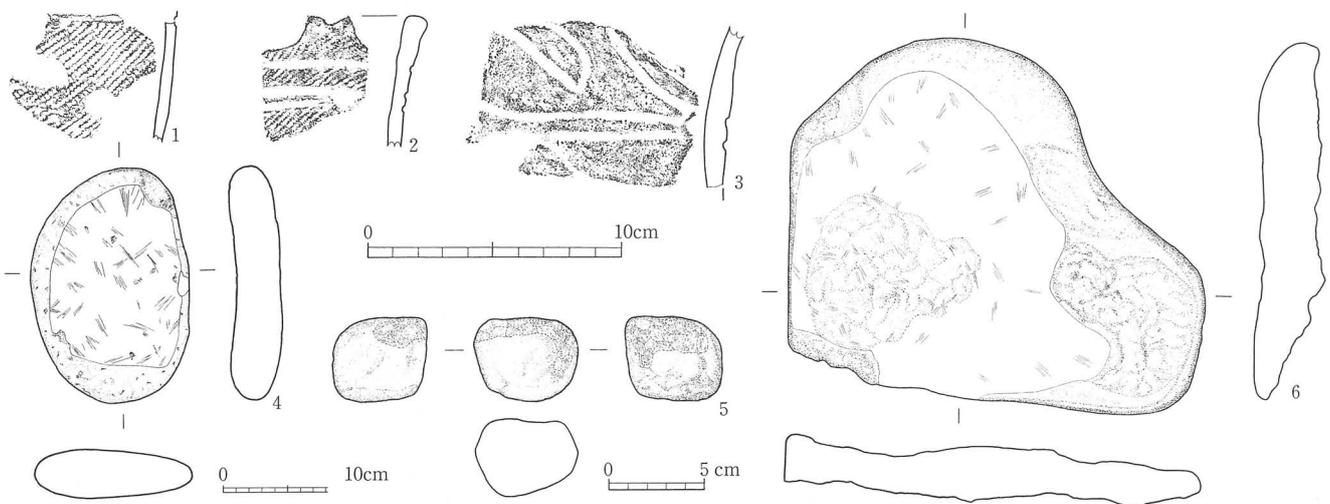
5区の中央B-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸1.6m、単軸0.8mの不整な楕円形で、長軸方向はE-12° -Nである。堆積土は4層に分けられる。壁面は最も保存の良い南東壁で35cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面の南東壁際に直径35cm、深さ28cmのピットが検出された。底面レベルは東側が低く、西側が高くなっている。遺物は出土していない。

SK-29土坑 (第99図)

5区の中央北寄りA-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.8m、単軸0.7mの不整な楕円形で、長軸方向はN-12° -Wである。堆積土は3層に分けられる。壁面は最も保存の良い南西壁で17cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は二段になっており、北西部分が約5cm高い。また、北壁際に直径15cm、深さ11cmのピットが検出された。礫石器が出土し、1点を図示した。

SK-30土坑 (第99図)

5区の中央北側A-21グリットに位置し、V層上面で確認された。平面形は長軸0.85m、単軸0.6mの楕円形で、長軸方向はE-18° -Nである。堆積土は2層に分けられる。壁面は最も保存の良い北東壁で27cmの高さで残存している。底面から緩やかな角度で立ち上がる。底面は平坦である。底面レベルは北東部が低く、南西部が高くなっている。遺物は出土していない。



No.	登録番号	種別	器種	地区	遺構	層位	外 面	内 面	底 部	備 考	写真図版
1	4A-6	縄文土器	深鉢	5区	SK23	堆積土	LR縄文・沈線文	ナデ	-		
2	5A-73	縄文土器	深鉢	5区	SK26	堆積土	LR縄文・沈線文・刻目文	ミガキ	-		104-29
3	5A-72	縄文土器	深鉢	5区	SK24	堆積土	沈線文	ミガキ	-		104-30
No.	登録番号	地区	遺構	層位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
4	611	5区	SK20	堆積土	礫石器	18.8	123.5	39.0	1,300.0	磨・焼け	
5	614	5区	SK26	堆積土	礫石器	44.5	55.0	44.0	151.9	敲・焼け	
6	610	5区	SK29	堆積土	礫石器	299.5	326.0	54.0	5,350.0	磨	

第100図 土坑出土遺物

ピット群

5区のV層上面で39個のピットが検出された。柱痕跡が確認されるものはない。埋土に共通性のあるもの、規模、深さに共通性のみられるものもある。掘立柱建物として組み合わせ可能性の考えられるものは、A-21グリットの1棟のみであり、他には掘立柱建物として組み合わせ可能性の考えられるものを確認することはできなかった。ピットの堆積土中には焼土、炭化物が混入しているものもある。出土遺物は縄文土器、石器がある。

SB-15掘立柱建物跡 (第70図)

5区の中央北側A-21グリットに位置し、V層上面で確認された。位置的に1号炉、SK-29土坑との重複関係が考えられ、1号炉に関係する柱穴の可能性も考えられるが、直接の関係は不明である。東西1間、南北1間の建物跡である。南側柱列は2.2m、東側柱列は1.2m、北側柱列は2.1m、西側柱列は1.4mとやや歪んでいる。方向は南側柱列でE-6°-Sである。遺物は出土していない。

5区V層ピット土層註記

	土色	土性	備考
A	10YR3/2 黒褐 10YR4/3 にぶい黄褐	シルト質砂	炭化物少量含む。
B	10YR3/3 暗褐	シルト	炭化物少量含む。
C	10YR4/3 にぶい黄褐	砂質シルト	
D	10YR3/3 暗褐 10YR4/4 褐	シルト	炭化物少量含む。
E	10YR3/2 黒褐	シルト質砂	

5区 V層ピット (cm)

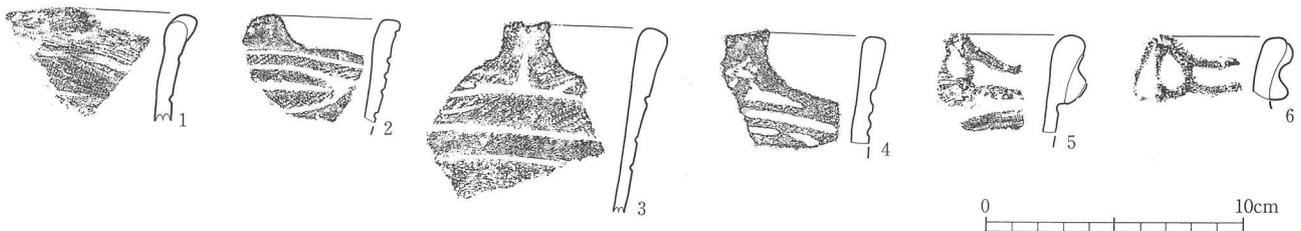
No.	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20	P21	P22
埋土	A	B	B	B	B	B	C	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	D	C	B
深さ	18	20	14	23	31	20	23	20	21	27	27	18	17	13	41	22	37	23	32	11	36
No.	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	P40			
埋土	B	B	B	C	B	B	B	B	E	B	B	C	B	B	B	C	B	B			
深さ	9	12	22	26	16	20	19	16	16	26	29	13	44	30	38	13	19	49			

遺物包含層

5区のA・B-21~23グリットにかけてのIVb層には特に他の地区、層よりも多量に遺物が混入していたことから、遺物包含層として扱った。5区の西寄りに位置するSR-2河川跡によって西側が削平され、南北及び東側は調査区外に拡がっており、遺物包含層としての範囲は不明である。SD-1溝跡によって削平された部分がある。A・B-21~23グリットの各10mグリットを各々更に北西から南東に向かって、1~25までの2mグリットに細分して精査を行い、遺物を取り上げた。縄文土器、土製品、剥片石器、礫石器、石製品が出土している。出土遺物の時期は縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけてのものがあるが、各時期のものが混在しており、出土状況から時期的な変遷を追えるものではなかった。

遺構外出土遺物

5区以外のIV層から出土した遺物および、各区のI~III層の遺構に属さない基本層出土遺物のうち、おもなものを図示する。各層検出の倒木痕から出土した遺物もここに掲載した。



No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5A-24	縄文土器	深鉢	5区 B21-1・6	IVb層	沈線文・条線文	ミガキ	-		
2	5A-29	縄文土器	深鉢	5区 B21-3・8	IVb層	LR縄文・沈線文・刻目文	ミガキ	-		
3	5A-38	縄文土器	深鉢	5区 A23-21	IVb層	LR縄文・沈線文	ミガキ	-		104-31
4	5A-48	縄文土器	深鉢	5区 A21-21	IVb層	LR縄文・沈線文	ミガキ	-		104-32
5	5A-58	縄文土器	深鉢	5区 B22-4	IVb層	隆線文・沈線文・刺突文	ミガキ	-		104-33
6	5A-66	縄文土器	深鉢	5区 A22-4	IVb層	隆線文・沈線文	磨滅	-		104-34

第101図 包含層出土遺物 (1)



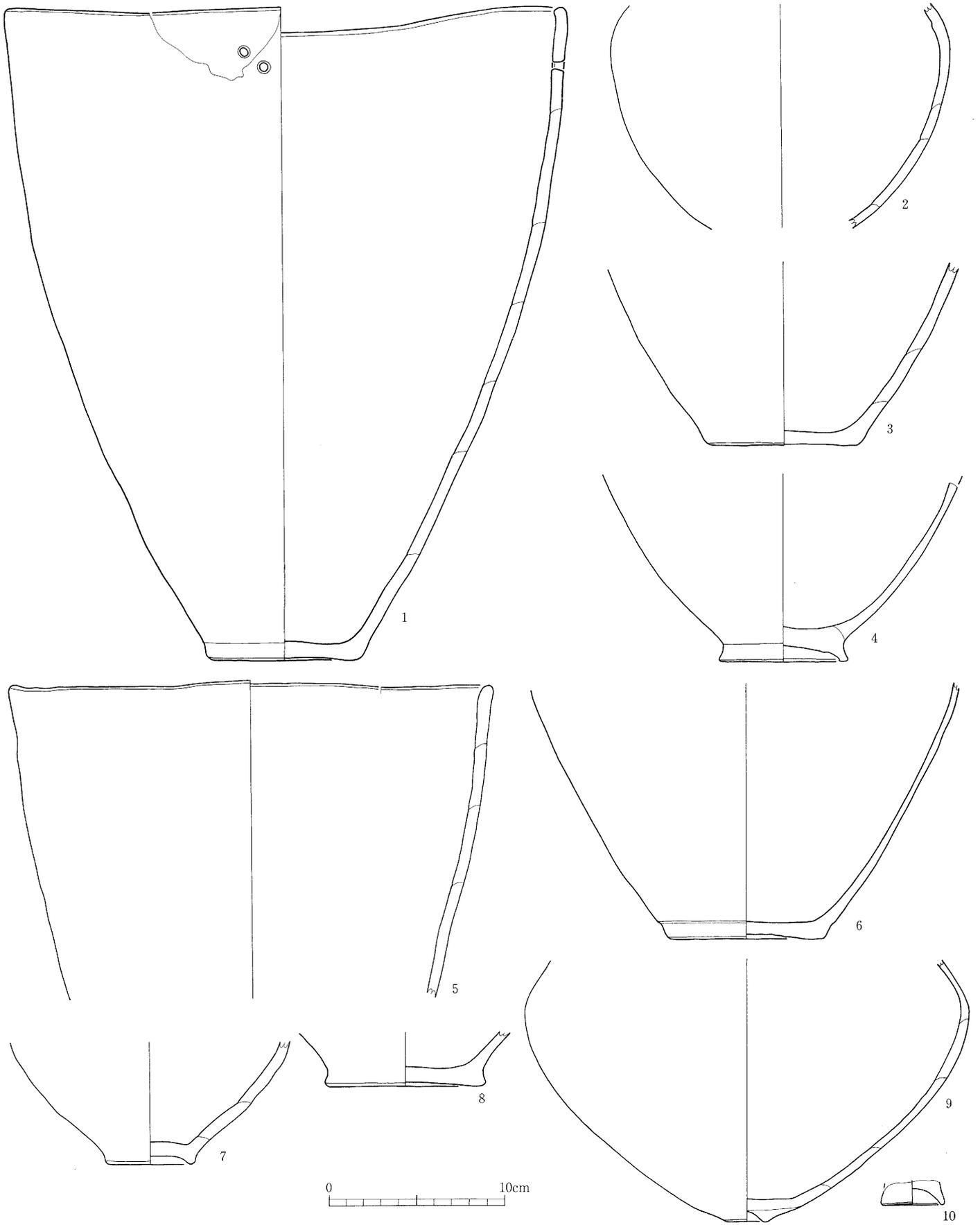
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5A-1	縄文土器	深鉢	5区 B21-1・2	IVb層	LR縄文・沈線文・刺突文	ケズリ・ミガキ	—	—	104-35
2	5A-32	縄文土器	深鉢	5区	IVb層	LR縄文・沈線文・刻目文	磨滅	—	—	104-36
3	5A-33	縄文土器	深鉢	5区 A21-20	IVb層	LR縄文・沈線文	ミガキ	—	—	104-37
4	5A-19	縄文土器	深鉢	5区 B22-2・7	IVb層	RL縄文・沈線文・刻目文	磨滅	—	—	104-38
5	5A-44	縄文土器	深鉢	5区 A22-17	IVb層	LR縄文・沈線文	ミガキ	—	玉抱き三叉文	104-39
6	5A-52	縄文土器	深鉢	5区 A27-19	IVb層	RL縄文・沈線文	ミガキ	—	—	104-40
7	5A-31	縄文土器	深鉢	5区 B21-3・8	IVb層	沈線文	ミガキ	—	—	104-41
8	5A-60	縄文土器	深鉢	5区 A22-24	IVb層	沈線文・刻目文・貼瘤	ミガキ	—	—	104-42
9	5A-16	縄文土器	深鉢	5区 B21-1・2	IVb層	RL縄文・沈線文・口唇部刻目文	ミガキ	—	—	104-43
10	5A-55	縄文土器	深鉢	5区 B21-20	IVb層	LR縄文・沈線文・口唇部刻目文	ミガキ	—	—	104-44
11	5A-59	縄文土器	深鉢	5区 B22-4	IVb層	LR縄文・沈線文・刺突文	ミガキ	—	—	104-45
12	5A-69	縄文土器	深鉢	5区 B21-13	IVb層	LR縄文・沈線文	ミガキ	—	—	104-46
13	5A-2	縄文土器	深鉢	5区 B21-16	IVb層	LR縄文・沈線文・貼瘤	ナデ	—	—	104-48
14	5A-62	縄文土器	深鉢	5区 B21-18	IVb層	LR縄文・沈線文・刻目文	ミガキ	—	—	104-47
15	5A-63	縄文土器	深鉢	5区 B21-18	IVb層	沈線文・貼瘤	ミガキ	—	—	104-49
16	5A-45	縄文土器	深鉢	5区 A22-17	IVb層	隆線文・沈線文・貼瘤	ミガキ	—	—	104-50
17	5A-61	縄文土器	深鉢	5区 A22-24	IVb層	LR縄文・沈線文・刻目文	ミガキ	—	—	104-51
18	5A-17	縄文土器	深鉢	5区 B21-1・2	IVb層	LR縄文・沈線文・貼瘤	ミガキ	—	—	104-52
19	5A-49	縄文土器	深鉢	5区 B22-17	IVb層	隆線文・沈線文	ミガキ	—	—	104-53
20	5A-8	縄文土器	深鉢	5区	IVb層	隆線文・沈線文	磨滅	—	—	104-54
21	5A-39	縄文土器	深鉢	5区 A21-25	IVb層	縄文(不明)・沈線文	ミガキ	—	—	104-55
22	5A-35	縄文土器	深鉢	5区 A21-20	IVb層	LR縄文・沈線文・刺突文	ミガキ	—	—	104-56
23	5A-51	縄文土器	深鉢	5区 A27-19	IVb層	LR縄文・隆線文・沈線文・貼瘤	ミガキ	—	—	104-57
24	5A-41	縄文土器	深鉢	5区 A21-22	IVb層	LR縄文・隆線文・沈線文	ミガキ	—	—	104-58
25	5A-30	縄文土器	深鉢	5区 B21-3・8	IVb層	LR縄文・沈線文・貼瘤	ナデ	—	—	104-57
26	5A-34	縄文土器	深鉢	5区 A21-20	IVb層	LR縄文・隆線文・沈線文	ミガキ	—	—	104-58
27	5A-42	縄文土器	深鉢	5区 A22-16	IVb層	LR縄文・沈線文	ミガキ	—	—	104-58

第102図 包含層出土遺物 (2)



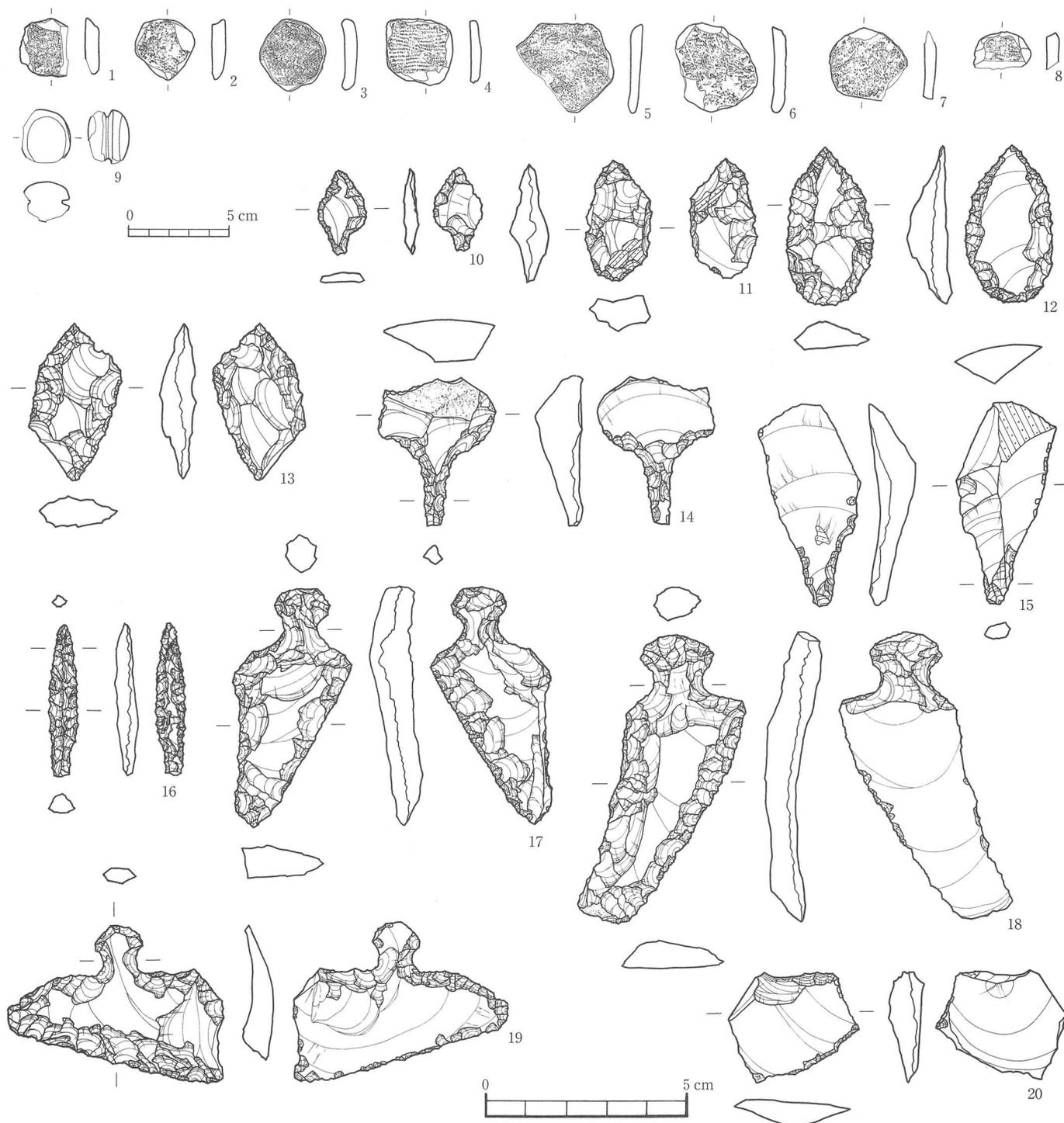
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5A-50	縄文土器	深鉢	5区 A27-19	IVb層	R縄文・沈線文	ミガキ	-	丹塗	
2	5A-53	縄文土器	深鉢	5区 A27-19	IVb層	縄文(不明)・隆線文・沈線文	ミガキ	-		104-59
3	5A-54	縄文土器	深鉢	5区 A27-19	IVb層	RL縄文・沈線文・貼瘤	ミガキ	-		104-60
4	5A-56	縄文土器	深鉢	5区 B22-4	IVb層	LR縄文・沈線文・刺突文	ナデ	-		
5	5A-57	縄文土器	深鉢	5区 B22-4	IVb層	隆線文・沈線文・刺突文	ミガキ	-		104-61
6	5A-64	縄文土器	深鉢	5区 B22-20	IVb層	LR縄文・沈線文・刺突文	ナデ	-		
7	5A-65	縄文土器	深鉢	5区 B21-8	IVb層	沈線文・貼瘤	ナデ	-		104-63
8	5A-70	縄文土器	深鉢	5区 B21-13	IVb層	LR縄文・沈線文	ミガキ	-		104-64
9	5A-67	縄文土器	深鉢	5区 B21-13	IVb層	沈線文	ミガキ	-		104-65
10	5A-47	縄文土器	深鉢	5区 A22-18	IVb層	沈線文	ミガキ	-		104-66
11	5A-36	縄文土器	深鉢	5区 B21-2・7	IVb層	沈線文	ナデ	-		104-67
12	5A-46	縄文土器	深鉢	5区 B21-24	IVb層	ミガキ	ミガキ	-		
13	5A-68	縄文土器	深鉢	5区 B21-13	IVb層	櫛歯状線文	ミガキ	-		104-68
14	5A-5	縄文土器	深鉢	5区 B21-9	IVb層	LR縄文	ミガキ・ナデ	-		104-69
15	5A-13	縄文土器	深鉢	5区 B22-16	IVb層	ミガキ	ケズリ・ミガキ	-		104-70
16	5A-11	縄文土器	壺	5区 B21-22	IVb層	ミガキ	ミガキ	-		
17	5A-19	縄文土器	壺	5区 B21-13	IVb層	沈線・ミガキ・貼瘤	ミガキ	-		104-71

第103図 包含層出土遺物(3)



No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	5A-2	縄文土器	深鉢	5区 A21	IVb層	ミガキ・ナデ	ケズリ・ナデ	-	補修孔	104-72
2	5A-8	縄文土器	壺	5区 B21-9	IVb層	ミガキ	ナデ	-	-	-
3	5A-15	縄文土器	深鉢	5区 A21-22	IVb層	ミガキ	ミガキ	網代痕	-	-
4	5A-12	縄文土器	台付鉢	5区 A21-23	IVb層	ミガキ	ナデ	-	-	104-73
5	5A-14	縄文土器	深鉢	5区 B22-16	IVb層	ミガキ・ナデ	ケズリ・ミガキ・ナデ	-	-	104-74
6	5A-17	縄文土器	鉢	5区 A21-16	IVb層	ミガキ	磨滅	網代痕	-	-
7	5A-16	縄文土器	鉢	5区 B21-14	IVb層	ミガキ	ナデ	網代痕	-	-
8	5A-18	縄文土器	鉢	5区 A27-19	IVb層	ミガキ	ナデ	-	-	-
9	5A-20	縄文土器	鉢	5区 B21-13	IVb層	ミガキ	ナデ	-	-	-
10	5A-21	縄文土器	ミニチュア	5区 B21-20	IVb層	磨滅	磨滅	-	-	104-75

第104図 包含層出土遺物(4)

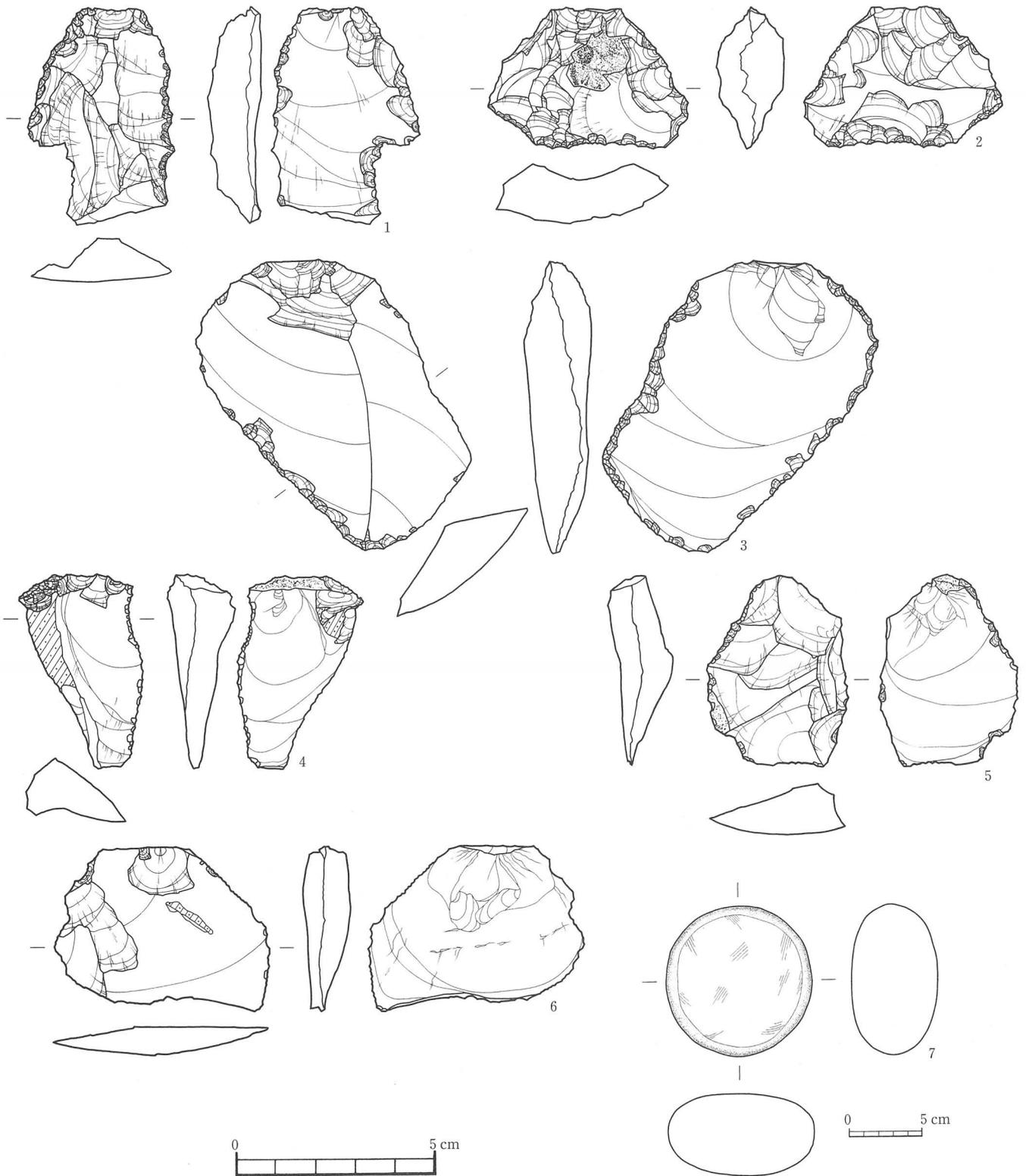


No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	写真図版
1	5P-4	土製円盤	IVb層	30.0	(25.0)	8.0	6.5	105-37
2	5P-5	土製円盤	IVb層	31.0	30.0	7.0	6.6	105-38
3	5P-8	土製円盤	IVb層	37.0	33.0	6.0	8.0	105-39
4	5P-9	土製円盤	IVb層	33.0	34.0	5.0	7.7	105-40
5	5P-10	土製円盤	IVb層	46.0	(49.0)	5.5	13.1	105-41

No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	写真図版
6	5P-11	土製円盤	IV層	46.0	(42.0)	6.0	14.4	105-42
7	5P-12	土製円盤	IV層	36.0	39.0	6.0	9.0	105-43
8	5P-3	土製円盤	IV層	(19.0)	29.0	6.0	3.9	105-44
9	5P-13	土鏃	IV層	(28.0)	(25.0)	21.0	(13.8)	103-34

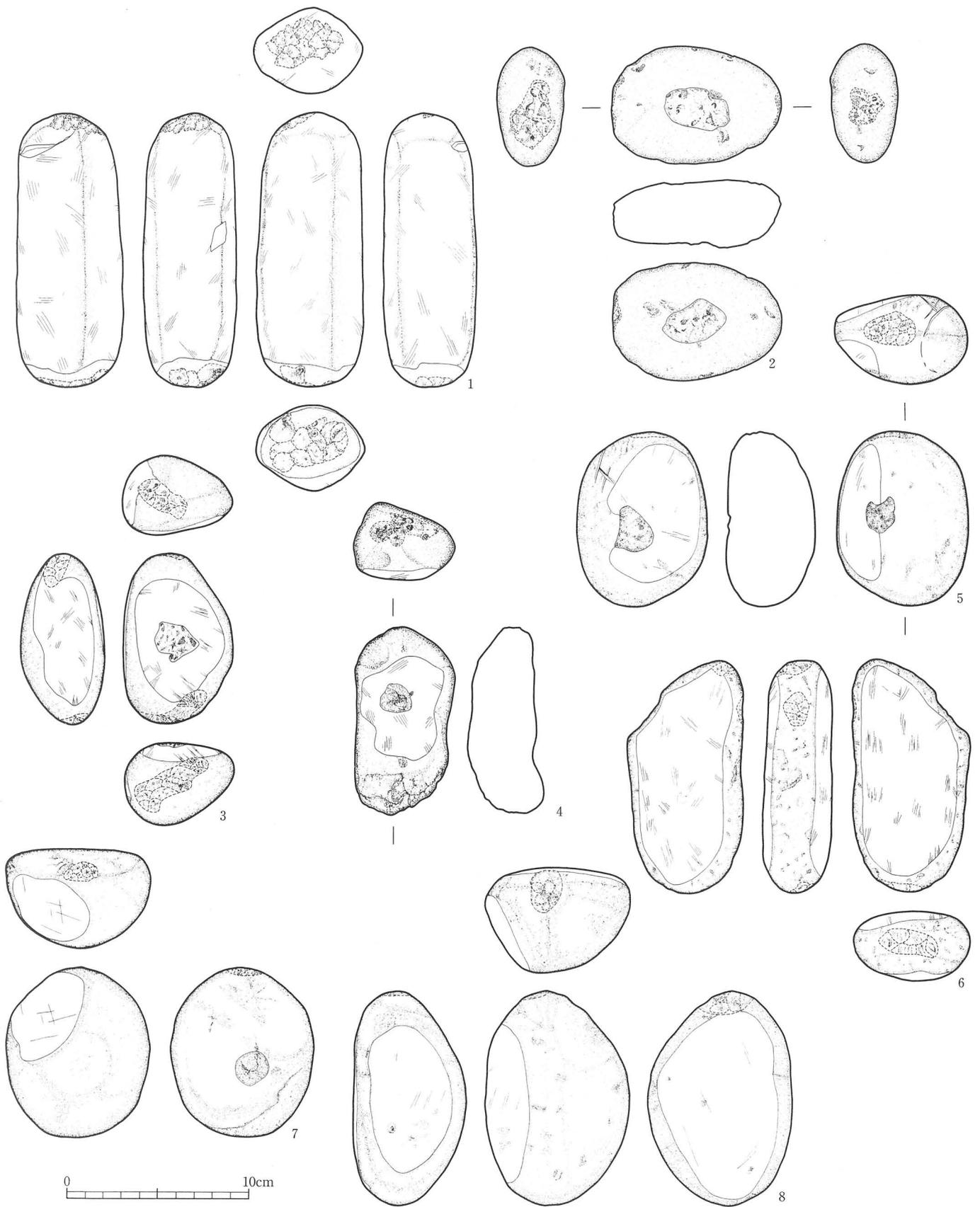
No.	登録番号	地	区	層位	種	類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備	考	写真図版
10	304	5区	B21-12	IVb層	石鏃		22.0	12.0	2.8	0.7			105-49
11	305	5区	A21-25	IVb層	石鏃		30.0	17.0	8.5	2.6			105-50
12	307	5区	B21-1	IVb層	石鏃		40.0	22.0	9.7	7.3			105-51
13	306	5区	A21-25	IVb層	石鏃		39.5	20.0	8.5	5.7			105-52
14	766	5区	B21-22	IVb層	石鏃		(37.5)	30.0	11.0	7.2			105-60
15	308	5区	B21-13	IVb層	石鏃		51.0	22.0	9.8	7.5			105-61
16	134	3区	B13-8	IVb層上	石鏃		(38.5)	7.5	5.0	1.3			105-62
17	309	5区	A21-25	IVb層	石匙		63.0	30.0	10.0	14.4			105-65
18	750	5区	B21-3-8	IVb層	石匙		73.0	30.0	9.5	20.4			105-66
19	751	5区	A21-21	IVb層	石匙		40.0	(55.0)	8.0	14.2			105-67
20	318	5区	B21-1・6	IVb層	スクレイパー		27.0	32.0	6.3	4.5			105-75

第105図 包含層出土遺物(5)



No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	312	5区	A21-20	スクレイパー	56.0	37.5	13.0	24.8		105-74
2	420	5区	B21-12	スクレイパー	26.5	51.5	15.0	26.2		105-76
3	313	5区	B21-3・8	スクレイパー	79.5	51.0	14.5	63.5		105-77
4	406	5区	B21-7	剥片	50.0	32.0	17.0	16.0	微細剥離痕	106-5
5	405	5区	B21-7	剥片	49.5	36.0	13.5	19.6	微細剥離痕	106-6
6	373	5区	A21-22	剥片	43.0	56.0	9.2	19.4	微細剥離痕	106-7
7	452	5区	B21-3・8	礫石器	106.0	100.0	58.0	889.6	磨	

第106図 包含層出土遺物 (6)



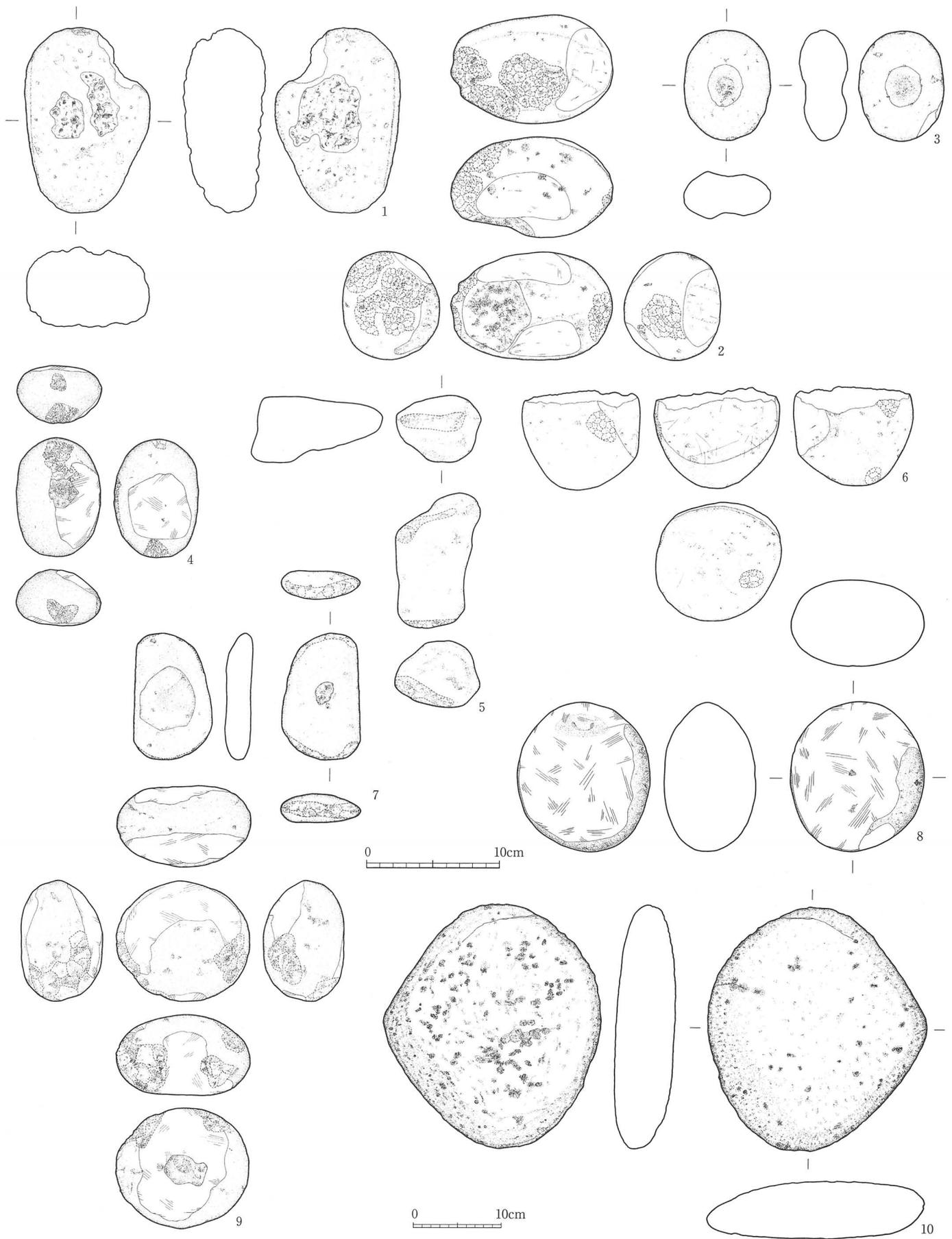
No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	440	5区	B22-4	礫石器	115.4	60.0	48.5	722.1	敲・磨	
2	441	5区	B21-1・2	礫石器	94.0	66.5	34.0	299.6	敲・凹	
3	459	5区	B21-2・7	礫石器	95.0	60.0	45.0	318.2	敲・凹・磨	
4	486	5区	B21-1	礫石器	106.0	57.0	43.0	336.5	敲・凹・磨	
5	448	5区	B21-16	礫石器	98.5	73.0	50.8	450.0	敲・凹・磨	
6	463	5区	A21-25	礫石器	131.0	64.5	37.0	422.7	敲・磨	
7	468	5区	A22-21	礫石器	96.0	80.0	58.5	600.0	敲・凹・磨・焼け全面	
8	471	5区	A22-16	礫石器	120.0	80.5	58.0	715.0	敲・磨	

第107図 包含層出土遺物 (7)



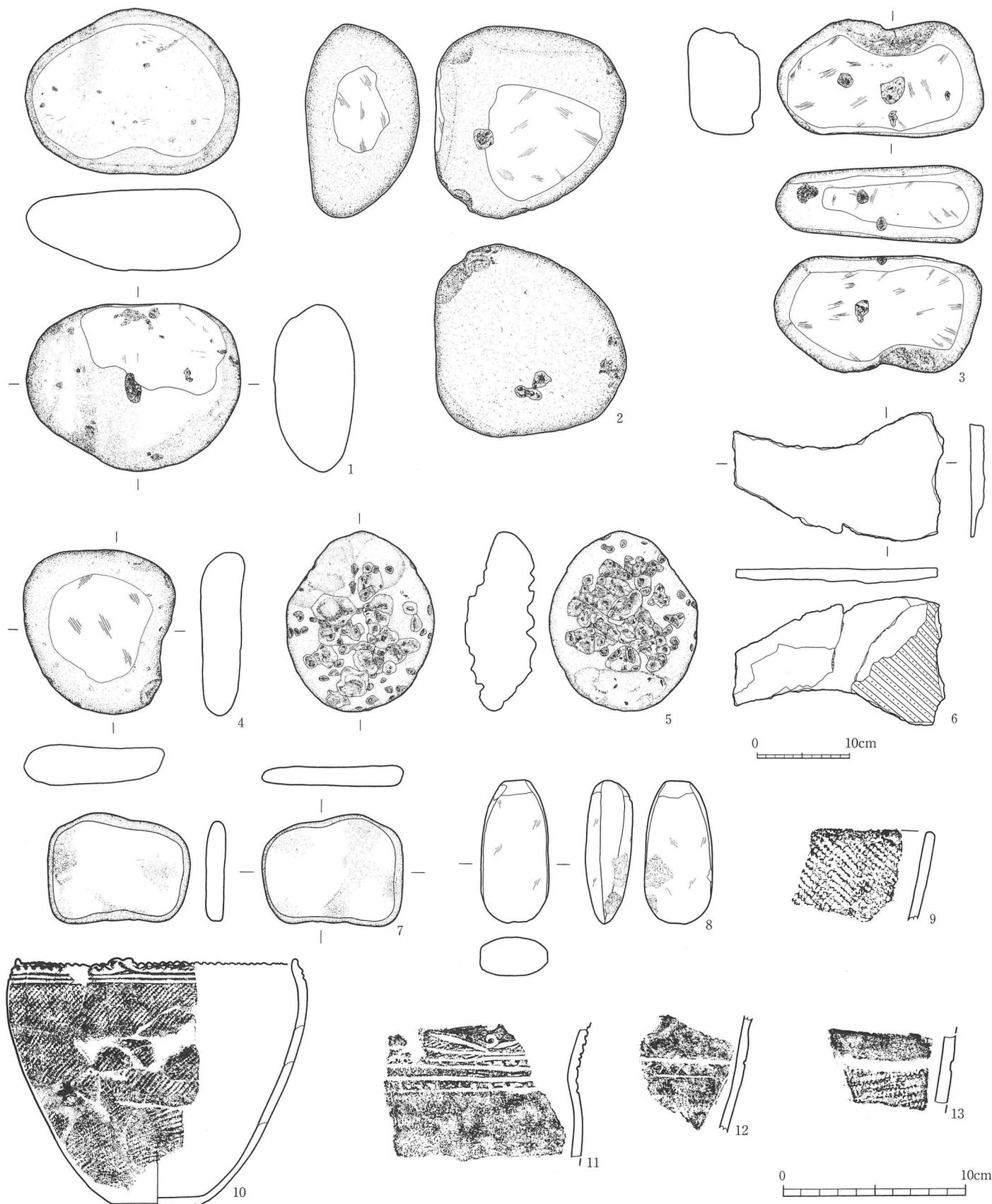
No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	476	5区	A22-17	礫石器	(85.5)	66.0	53.0	(349.8)	磨・凹	
2	489	5区	A21-22	礫石器	89.0	91.0	67.5	740.0	磨・焼け	
3	485	5区	B21-1	礫石器	111.0	81.0	43.0	529.8	凹・焼け	
4	501	5区	A21-21	礫石器	110.0	100.0	63.0	545.0	磨・凹	
5	507	5区	B22-22	礫石器	173.0	135.0	41.0	1,310.0	磨・敲	
6	510	5区	A21-16	礫石器	95.0	79.0	64.0	674.1	磨・焼け	
7	526	5区	B22-15	礫石器	119.0	88.5	64.0	762.8	敲・凹	
8	529	5区	B21-19	礫石器	223.0	45.5	74.0	1,035.0	磨・敲	
9	540	5区	B21-13	礫石器	107.5	72.5	39.0	179.2	磨・線条痕	

第108図 包含層出土遺物(8)



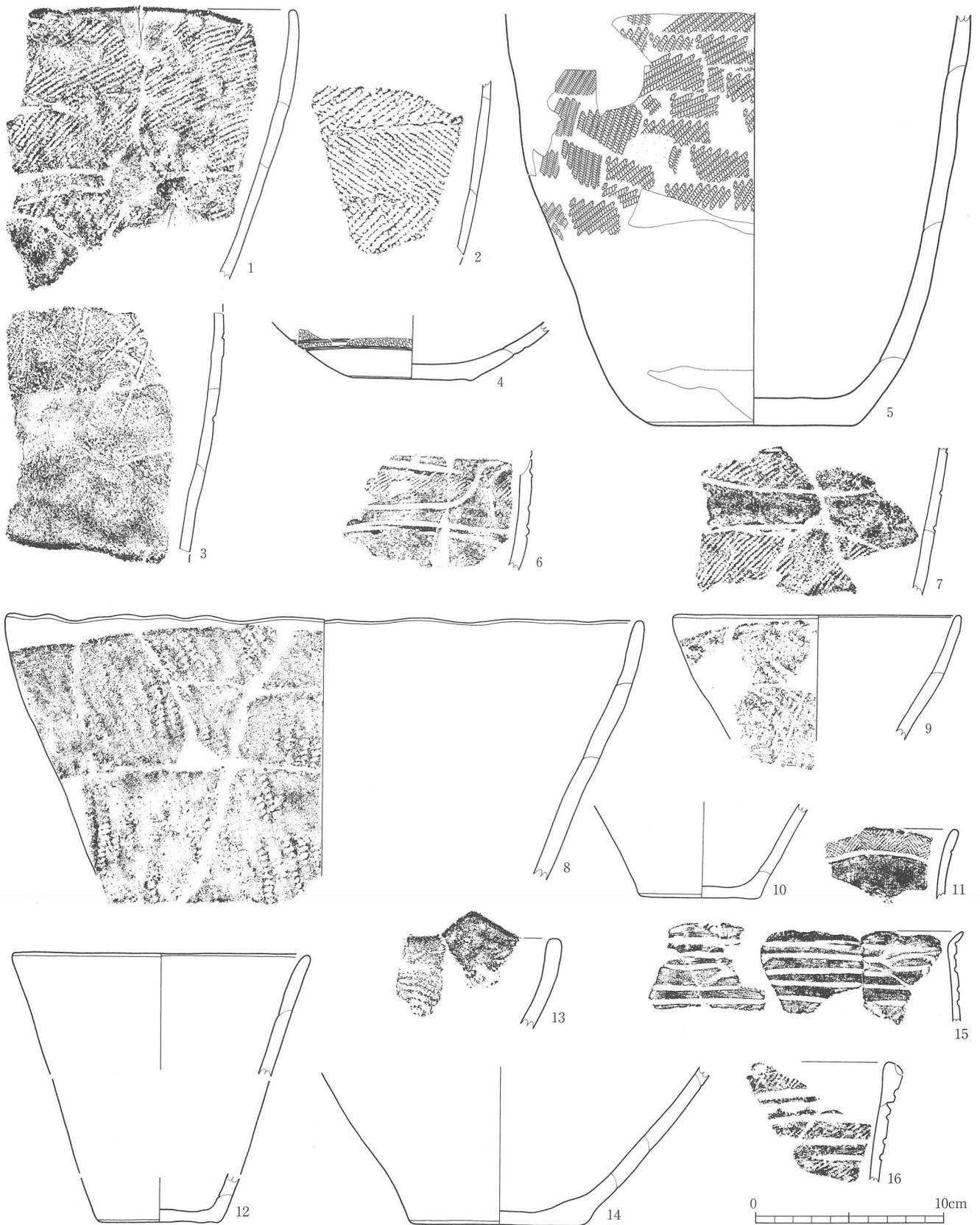
No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	534	5区	B21-9	IVb層 礫石器	143.5	95.0	62.0	879.1	凹	
2	535	5区	B21-8	IVb層 礫石器	123.0	84.0	74.5	1,104.5	磨・蔽・凹	
3	543	5区	B21-13	IVb層 礫石器	86.0	65.5	37.0	234.8	凹	
4	537	5区	B21-14	IVb層 礫石器	92.0	65.0	44.0	378.5	磨・蔽・凹	
5	542	5区	B21-13	IVb層 礫石器	140.0	63.5	52.0	399.6	蔽	
6	565	5区	B21-12	IVb層 礫石器	(77.5)	94.5	91.0	(922.4)	磨・蔽・焼け	
7	554	5区	B21-22	IVb層 礫石器	98.0	60.0	23.0	184.0	蔽・凹	
8	594	5区	B21-3・8	IVb層 礫石器	116.0	102.5	71.0	1,179.5	磨・焼け	
9	579	5区	B22-5	IVb層 礫石器	102.0	93.0	63.0	845.1	磨・蔽・凹	
10	511	5区	B21-22	IVb層 石皿	287.0	250.0	67.0	5,500.0		

第109図 包含層出土遺物(9)



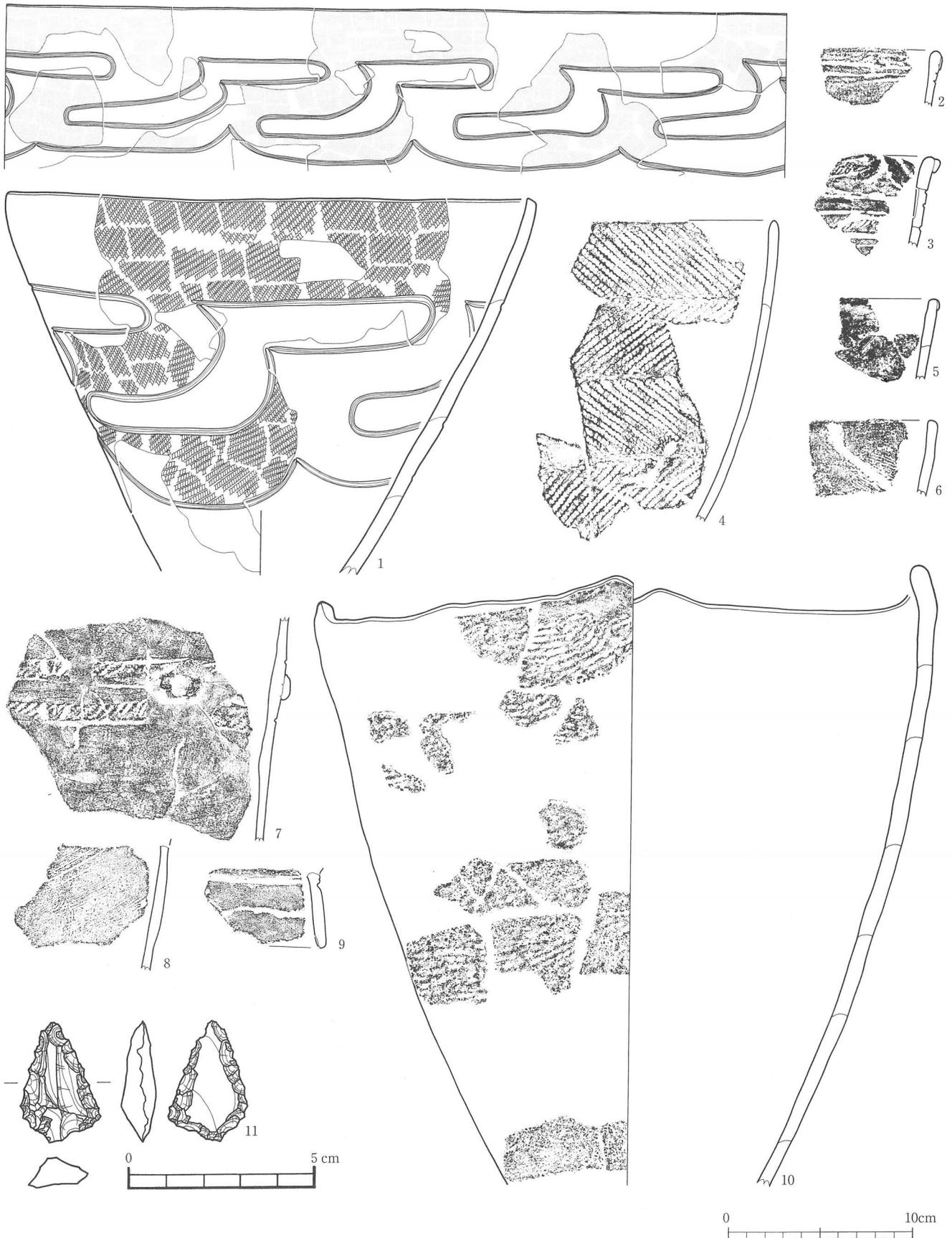
No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考	写真図版
1	473	5区	B21-4	礫石器	238.0	188.5	90.5	5,650.0	磨・凹	
2	494	5区	B22-17	礫石器	212.0	217.0	124.0	8,000.0	磨・凹	
3	539	5区	B21-13	礫石器	228.0	133.0	86.0	4,100.0	磨・敲・凹	
4	482	5区	B21-2	礫石器	186.0	167.5	48.0	2,223.0	磨	
5	530	5区	B22-3	礫石器	204.0	164.0	73.0	1,880.0	凹	
6	515	5区	B22-3	石皿	(233.0)	(144.0)	(19.0)	(673.0)	磨片面	
7	544	5区	B21-13	石錘	62.5	78.5	12.5	75.3		106-37
8	437	5区	A21-17・18	磨製石斧	80.5	38.0	24.0	120.1		106-34
No.	登録番号	種 別	器 種	地 区	層 位	外 面	内 面	底 部	備 考	写真図版
9	1A-27	縄文土器	深鉢	1区	B2-24	IV層	RL縄文	-	ナデ・ミガキ	
10	1A-1	縄文土器	深鉢	1区		IV層	RL縄文・沈線文・刺突文・口唇部刻目文	-	ミガキ	104-76
11	1A-26	縄文土器	深鉢	1区	A2-25	IV層	沈線文・刺突文	-	ナデ・ミガキ	104-77
12	1A-30	縄文土器	深鉢	1区	A2-21	IV層下	沈線文	-	ミガキ	
13	1A-32	縄文土器	深鉢	1区	B2-9・10	IV層下	LR縄文・沈線文	-	ミガキ	

第110図 包含層(10)他地区IV層出土遺物(1)



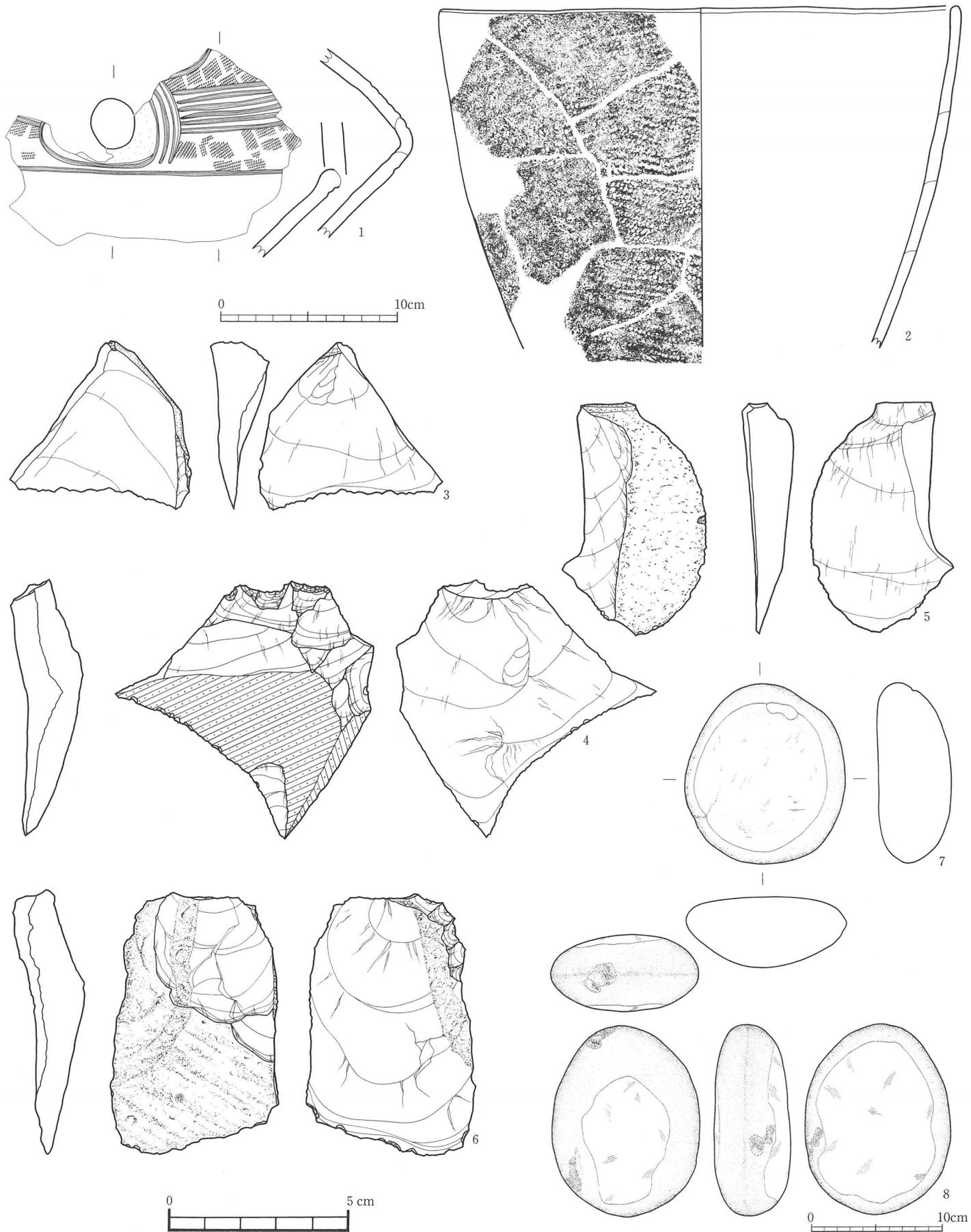
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	1A-29	縄文土器	深鉢	1区	IV層下	LR縄文・綾絡文	ミガキ	-		
2	1A-28	縄文土器	深鉢	1区	IV層	LR、RL縄文	ミガキ	-		104-78
3	1A-31	縄文土器	深鉢	1区	IV層下	沈線文	ミガキ	-		
4	1A-6	縄文土器	鉢	1区	IV層	RL縄文・沈線文	ナデ	-		
5	1A-8	縄文土器	深鉢	1区	IV層	LR縄文・ケズリ・ミガキ	ケズリ・ミガキ	-		104-79
6	2A-7	縄文土器	深鉢	2区	IV層	LR縄文・沈線文	ミガキ	-		104-80
7	2A-8	縄文土器	深鉢	2区	IV層	LR縄文・沈線文	磨滅	-		
8	2A-6	縄文土器	深鉢	2区	IV層	LR縄文	ケズリ・ミガキ	-		104-81
9	2A-5	縄文土器	深鉢	2区	IV層	RL縄文	ケズリ・ミガキ	-		
10	2A-4	縄文土器	深鉢	2区	IV層上	ナデ	ナデ	-		
11	3A-4	縄文土器	深鉢	3区	IV層	RL縄文・沈線文	ミガキ	-		104-82
12	3A-7	縄文土器	深鉢	3区	IV層	ケズリ	ケズリ	-		
13	3A-5	縄文土器	深鉢	3区	IV層	LR縄文	磨滅	-		
14	3A-6	縄文土器	深鉢	3区	IV層	ケズリ・ミガキ	ケズリ・ミガキ	-		
15	4A-14	縄文土器	深鉢	4区	IV層	R縄文・沈線文	ミガキ	-		
16	4A-1	縄文土器	深鉢	4区	IV層	LR縄文・刺突文・口唇部刻目文	磨滅	-		104-93

第111図 他地区IV層出土遺物(2)



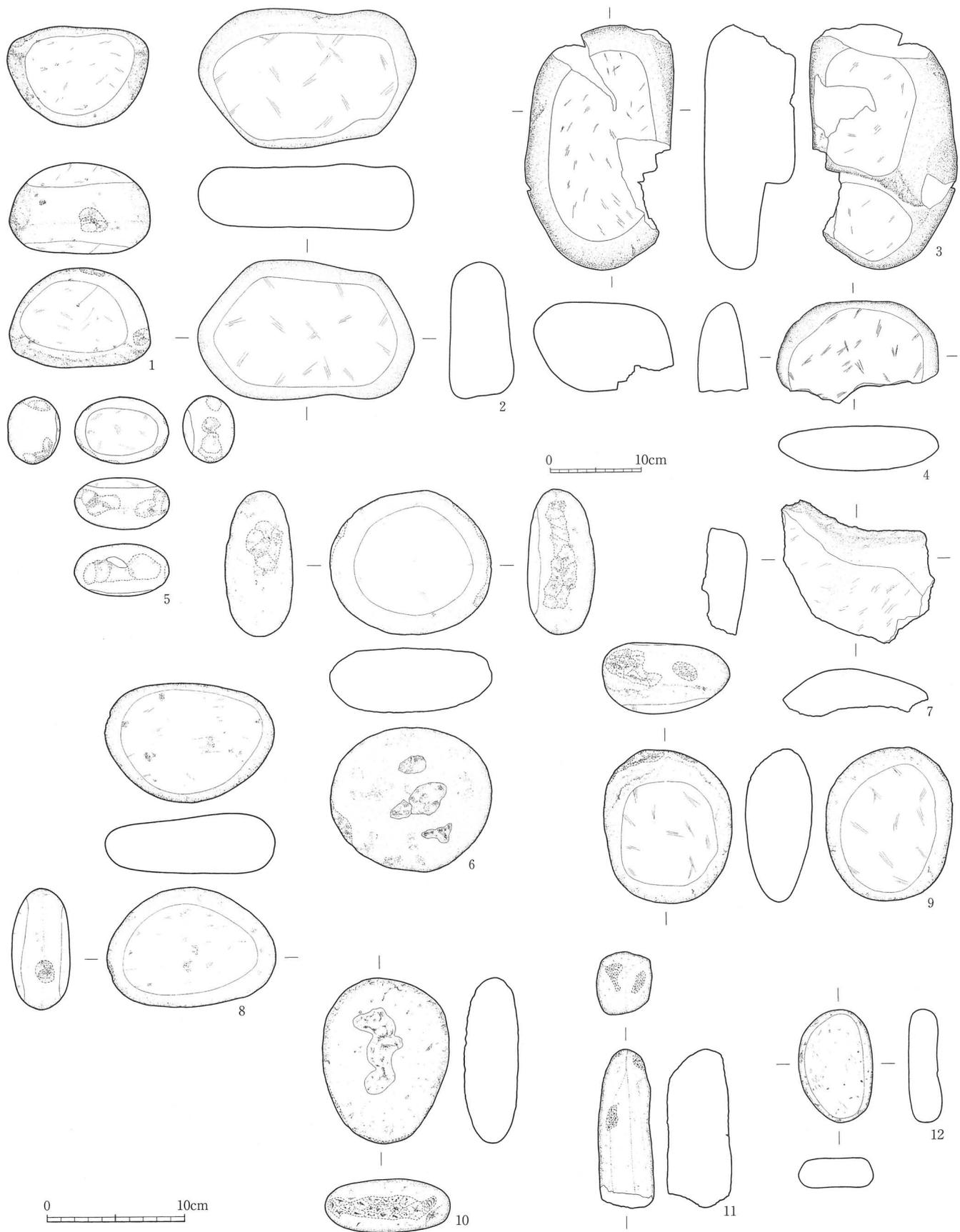
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-4	縄文土器	深鉢	4区 B6	IV層	LR縄文・沈線文・波状沈線文	ミガキ	-		104-84
2	4A-10	縄文土器	深鉢	4区 B15-4・9	IV層	沈線文・貼瘤	ミガキ	-		
3	4A-17	縄文土器	深鉢	4区 B17-6	IV層	LR縄文・隆線文・沈線文	ミガキ	-		104-86
4	4A-16	縄文土器	深鉢	4区 B16-4・9	IV層	LR、RL縄文	ミガキ	-		104-85
5	4A-18	縄文土器	深鉢	4区 B15	IV層	沈線文	ミガキ	-		
6	4A-8	縄文土器	深鉢	4区 B15-5・10	IV層	櫛歯状線文	ミガキ	-		
7	4A-9	縄文土器	深鉢	4区 B15-4・9	IV層	LR縄文・沈線文・刺突文・貼瘤	ミガキ	-		104-88
8	4A-13	縄文土器	深鉢	4区 B16-2・7	IV層	櫛歯状線文	ミガキ	-		104-89
9	4A-11	縄文土器	深鉢	4区 B16-5・10	IV層	沈線文	ナデ	-		104-90
10	4A-1	縄文土器	深鉢	4区 B14-3・8	IV層	LR縄文	ナデ・ケズリ	-		104-91
No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
11	85	2区	B11-8	IV層上部 石鏃	33.0	22.0	9.0	4.9	タール付着	105-53

第112図 他地区IV層出土遺物(3)



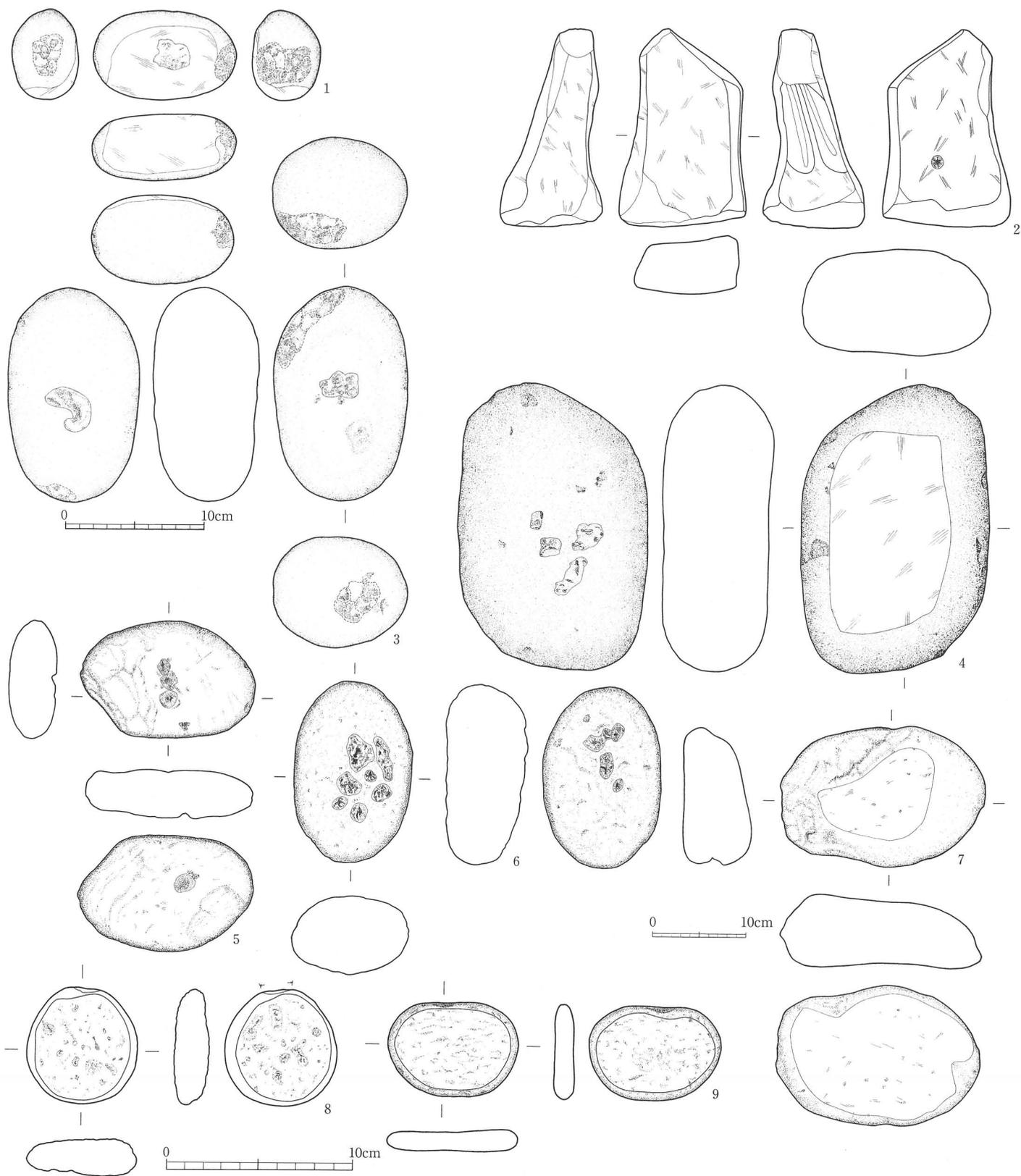
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4A-3	縄文土器	注口土器	4区 B16	IV層	LR縄文・沈線文・ミガキ	ナデ	-		105-1
2	4A-2	縄文土器	深鉢	4区 B15-7	IV層下	LR縄文	ナデ	-		105-2
No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
3	135	3区 B13-22	IV層	剥片	49.0	52.0	16.0	20.2	微細剝離痕	106-8
4	15	1区 B2-9・14	IV層	剥片	73.5	74.0	16.5	58.0	微細剝離痕	106-9
5	14	1区 B2-9・14	IV層	剥片	66.5	40.0	13.2	22.8	微細剝離痕	106-10
6	92	2区 B11-24	IV層	剥片	75.0	48.0	13.5	60.5	微細剝離痕	106-11
7	30	1区 A2-23	IV層下	礫石器	140.5	123.0	56.0	1,300.0	磨	
8	34	1区 A2-22	IV層下	礫石器	148.5	112.0	58.0	1,470.0	磨・敲	

第113図 他地区IV層出土遺物(4)



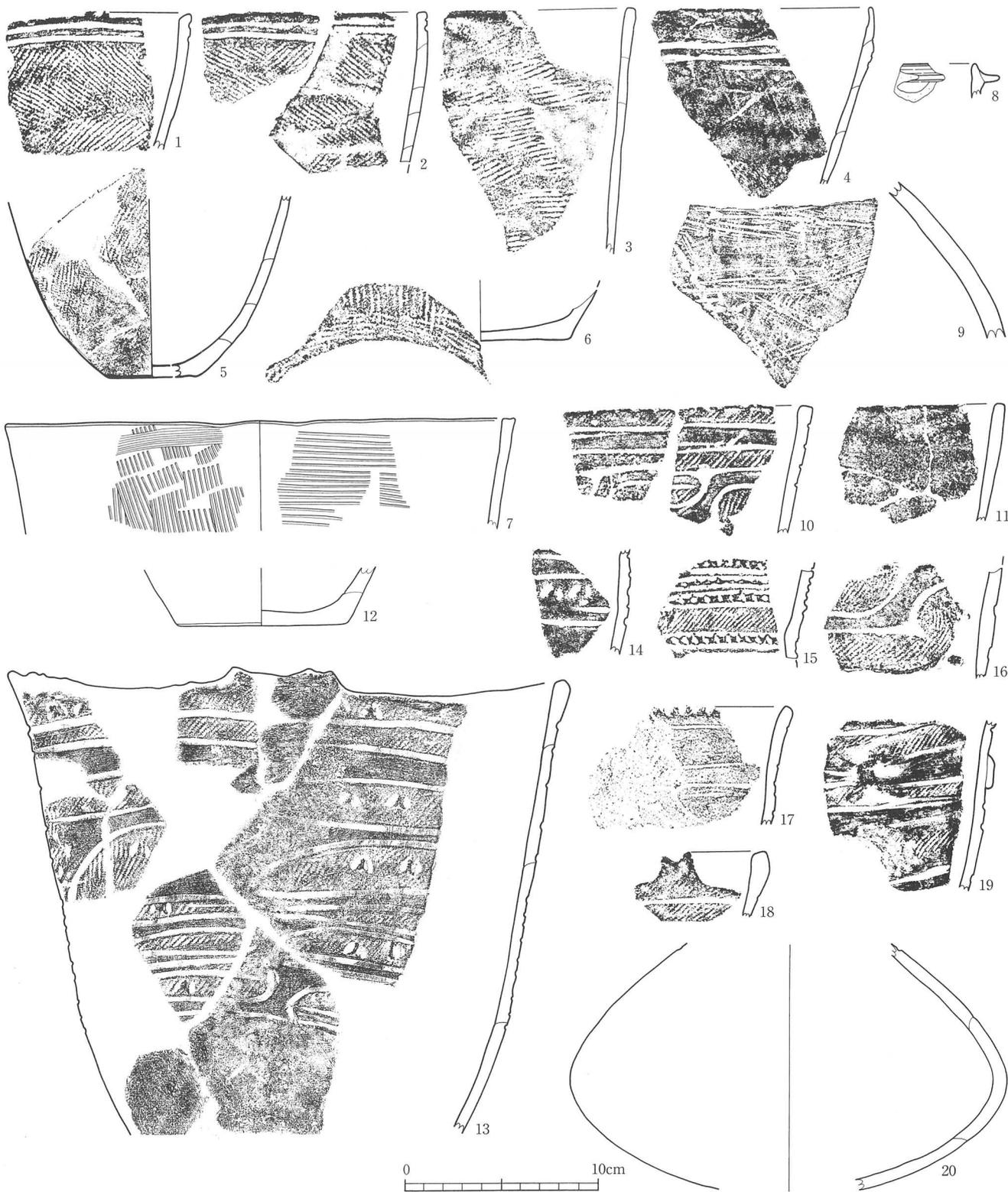
No.	登録番号	地区	層位	種	類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備	考	写真図版
1	31	1区 A2-25下部南	IV層	礫石器		103.5	74.5	68.0	775.0	磨・蔽		
2	104	2区 B11-3・8	IV層	礫石器		158.5	104.5	49.0	1,350.0	磨・焼け		
3	114	2区 B12-2・7	IV層	礫石器		276.0	163.0	101.0	5,900.0	磨		
4	93	2区 B11-8上部	IV層	礫石器		180.5	(114.0)	52.5	1,460.0	磨・焼け		
5	110	2区 B11-21	IV層	礫石器		69.0	50.0	38.0	187.4	磨・蔽		
6	107	2区 B11-5・10	IV層	礫石器		118.0	107.5	48.0	774.2	磨・蔽・凹		
7	97	2区 B11-2・7	IV層	礫石器		(113.0)	(107.5)	(30.5)	(395.0)	磨		
8	142	3区 B13-21	IV層	礫石器		125.0	89.5	44.8	750.0	磨・蔽		
9	143	3区 B13-21	IV層	礫石器		114.0	93.0	49.5	717.5	磨・蔽		
10	153	3区 B31-4・9	IV層	礫石器		122.5	91.0	38.0	634.8	蔽・凹		
11	179	4区 B14-4・9	IV層	礫石器		(118.0)	40.5	46.0	319.9	蔽		
12	192	4区 B16-4・9	IV層	礫石器		83.0	54.0	24.5	165.0	磨		

第114図 他地区IV層出土遺物 (5)



No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	210	4区	B15	IV層 礫石器	104.0	66.0	47.0	424.4	磨・敲・凹	
2	217	4区	B16 中央トレンチ	IV層 砥石	220.0	136.0	105.0	3,250.0	磨・凹	107-1
3	182	4区	B15-5・10	IV層 礫石器	157.0	96.0	78.0	1,750.0	敲・凹	
4	222	4区	B15	IV層 礫石器	317.0	203.0	118.0	1,150.0	磨・凹	
5	221	4区	B16 中央トレンチ	IV層 礫石器	191.5	129.0	52.5	1,160.0	凹	
6	189	4区	B16-2・7	IV層 礫石器	210.0	127.5	89.0	2,955.0	凹	106-26
7	213	4区	B15	IV層 礫石器	222.5	154.5	83.5	4,188.0	磨	
8	218	4区	B16 中央トレンチ	IV層 石錘	64.0	60.5	19.5	94.0		106-28
9	181	4区	B15-5・10	IV層 石錘	52.0	71.0	11.8	71.0		106-29

第115図 他地区IV層出土遺物 (6)



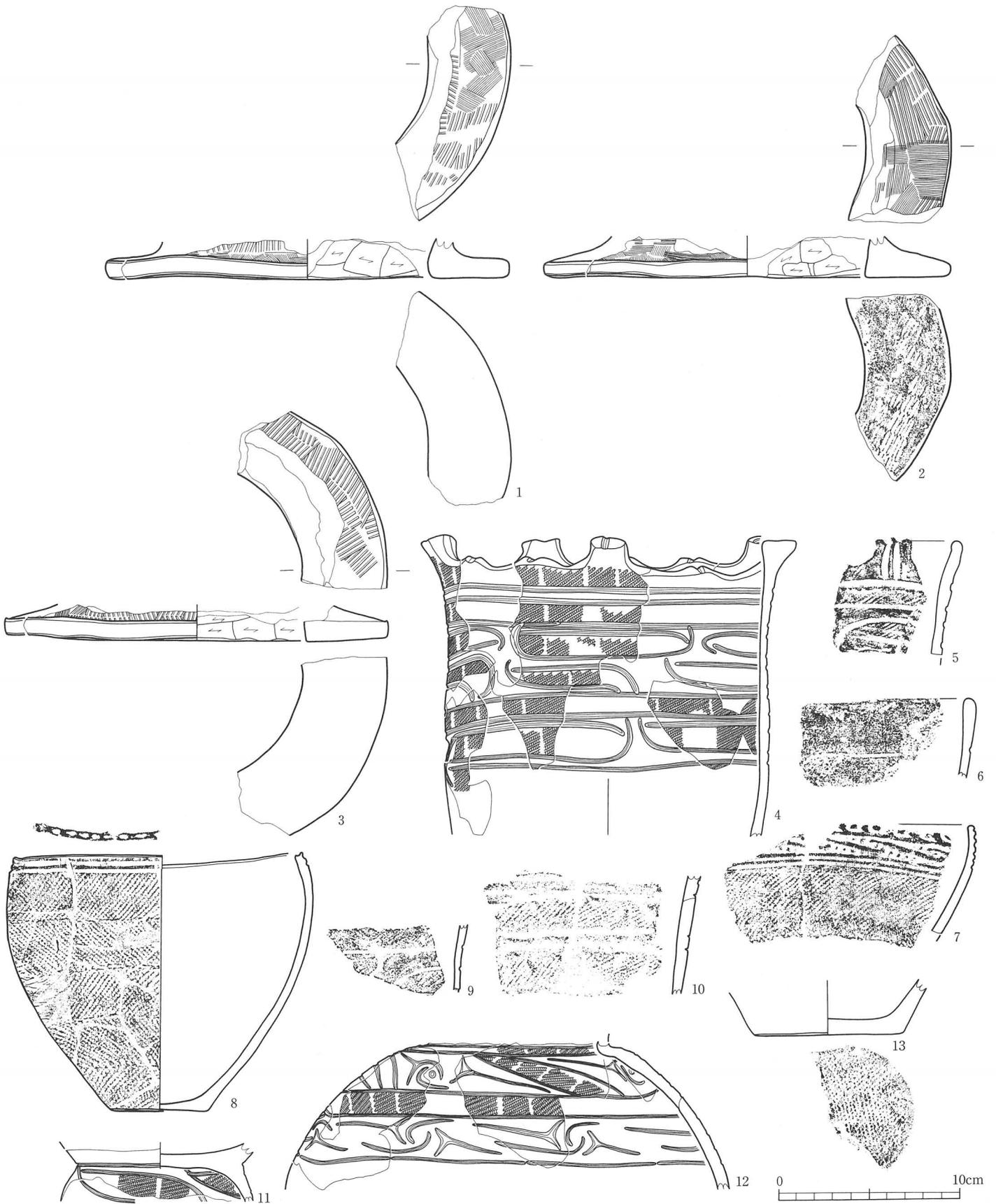
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	1A-6	縄文土器	深鉢	1区		RL、LR縄文・沈線文	ミガキ	-		105-3
2	1A-24	縄文土器	深鉢	1区	B2	LR縄文・沈線文	ミガキ	-		
3	1A-2	縄文土器	深鉢	1区		L縄文	ミガキ	-		105-4
4	1A-11	縄文土器	深鉢	1区	B5	I層 LR縄文・沈線文	ミガキ	-		
5	1A-7	縄文土器	深鉢	1区	III層	LR縄文・ケズリ	ケズリ・ナデ	-		
6	1A-5	縄文土器	深鉢	1区	I層	LR縄文	ナデ	-		
7	1C-1	土師器	鉢	1区	I層	ハケメ	ハケメ	-		
8	1D-2	土師器	羽釜	1区	I層	ロクロ	ロクロ	-		
9	1E-1	須恵器	深鉢	1区		ハケメ	ナデ	-		104-5
10	2A-2	縄文土器	深鉢	2区	I層	LR縄文・沈線文・口唇部刻目文	ミガキ	-		105-6
11	2A-1	縄文土器	深鉢	2区	I層	ミガキ	ミガキ	-		105-7
12	2A-1	縄文土器	深鉢	2区	I層	ミガキ	ケズリ・ミガキ	網代痕		
13	2A-2	縄文土器	深鉢	2区	III層	LR縄文・沈線文・刺突文	ミガキ	-		105-8
14	2A-6	縄文土器	深鉢	2区	III層	沈線文・刺突文	ナデ	-		105-9
15	2A-5	縄文土器	深鉢	2区	I層	LR縄文・沈線文・刺突文	ミガキ	-		105-10
16	2A-4	縄文土器	深鉢	2区	I層	LR縄文・沈線文	ナデ	-		105-11
17	3A-2	縄文土器	深鉢	3区	III層	沈線文・口唇部刻目文	ミガキ	-		
18	3A-1	縄文土器	深鉢	3区	I層	LR縄文・沈線文・刻目文	ミガキ	-		105-13
19	3A-3	縄文土器	深鉢	3区	III層	LR縄文・隆線文・沈線文	ミガキ	-		105-12
20	3A-5	縄文土器	壺	3区	III層	ミガキ	ケズリ・ナデ	-	白色針状物質含む	105-14

第116図 遺構外出土遺物 (1)



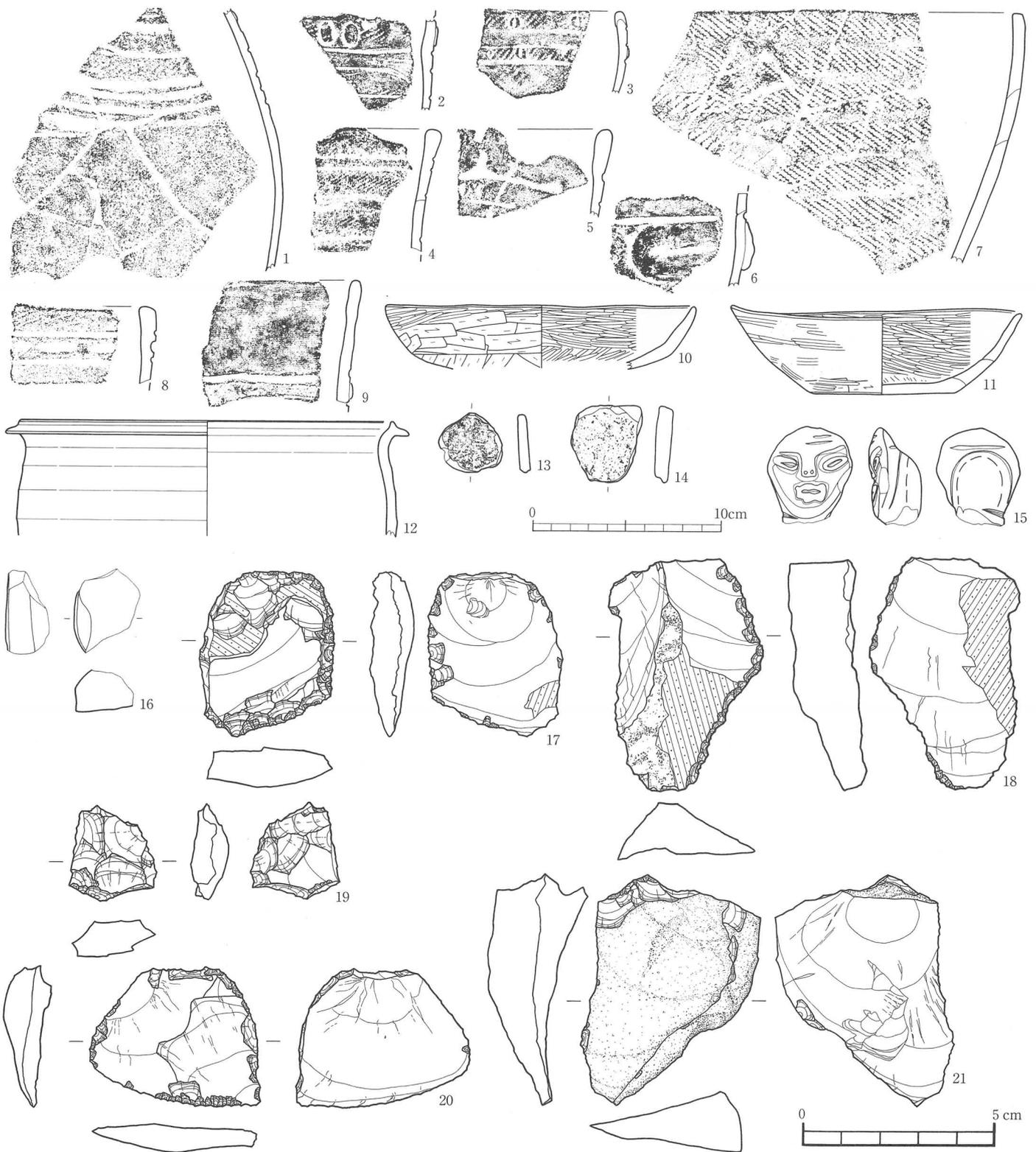
No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	2A-3	縄文土器	深鉢	2区	Ⅲ層	ケズリ・ミガキ	ナデ・ミガキ	-		
2	3A-1	縄文土器	深鉢	3区		ミガキ	ミガキ	ミガキ		
3	3A-3	縄文土器	深鉢	3区	カクラン	ミガキ	ケズリ・ミガキ	ミガキ	白色針状物質含む	
4	3A-4	縄文土器	深鉢	3区	Ⅲ層	LR縄文・ミガキ	ミガキ	網代痕		
5	3C-1	土師器	甕	3区	I層	ハケメ・突起部分ナデ	ハケメ			
6	3D-3	土師器	甕	3区	カクラン	ロクロ・底部近くにケズリ	沈線・ミガキ・黒色処理	ヘラケズリ	白色針状物質含む	103-15 103-29
7	3D-2	土師器	甕	3区	I層	ロクロ	ミガキ	-		
8	3D-1	土師器	甕	3区	Ⅲ層上	ロクロ・ケズリ	ロクロ・ナデ	-		
9	4A-2	縄文土器	深鉢	4区	カクラン	LR縄文	ナデ・磨減	-		
10	4A-7	縄文土器	深鉢	4区	Ⅲ層	L縄文	ミガキ	-		
11	4C-16	土師器	甕	4区	Ⅲ層	ハケメ・ナデ	ミガキ・黒色処理	-		103-12
12	4D-1	土師器	甕	4区	I層	ロクロ	ミガキ	能ハケズリ		
13	4E-1	須恵器	甕	4区		ロクロ	ロクロ	回転糸切		
14	2C-1	土師器	甕	4区	Ⅲ層	ハケメ	ナデ	網代痕		

第117図 遺構外出土遺物 (2)

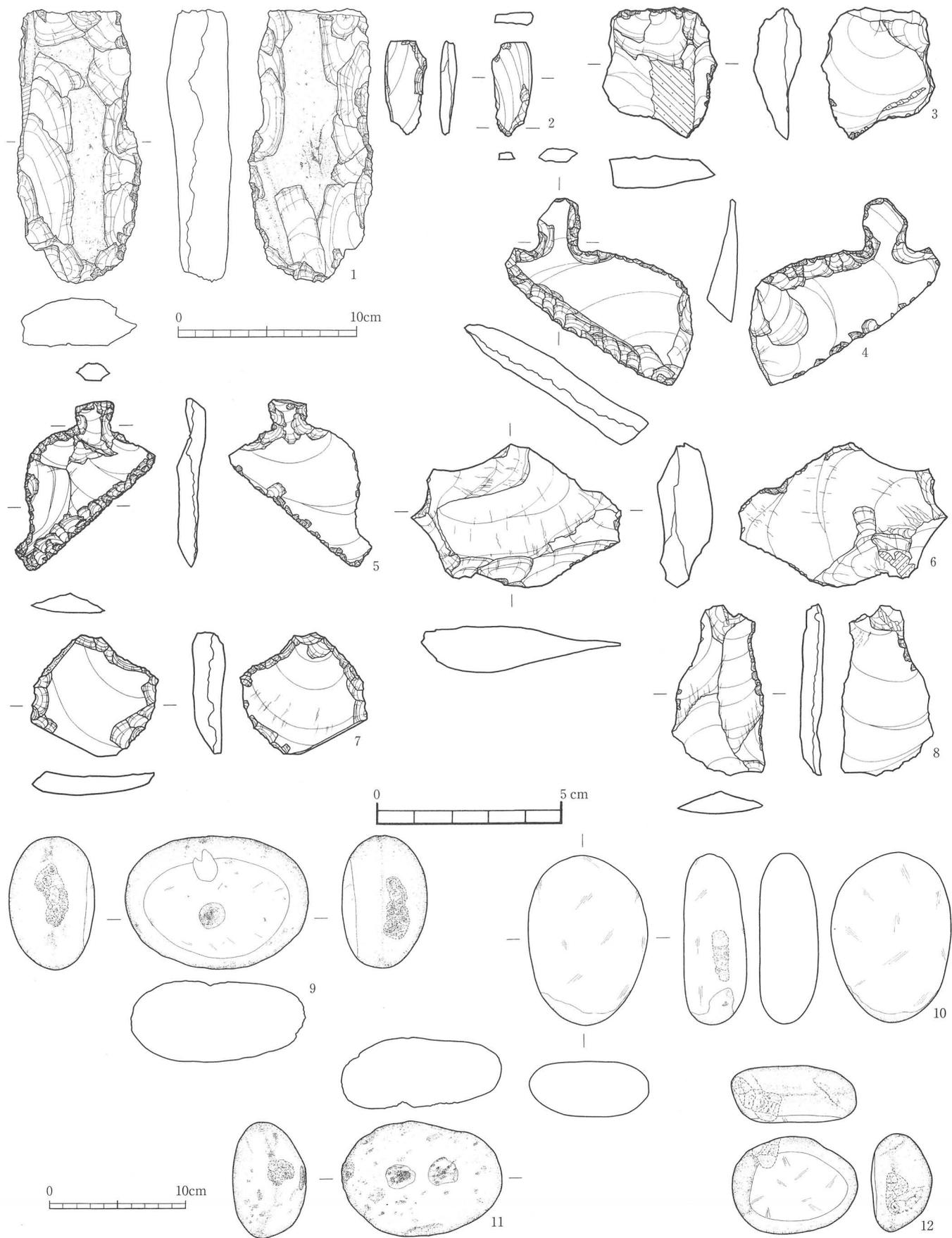


No.	登録番号	種別	器種	地区	層位	外面	内面	底部	備考	写真図版
1	4C-2	土師器?	不明	4区	I層	ハケメ・ナデ	ケズリ	-		
2	4C-9	土師器?	不明	4区	B14	ハケメ・ナデ	ケズリ	-		
3	4C-1	土師器?	不明	4区	I層	ハケメ	ケズリ	-		
4	5A-10	縄文土器	深鉢	5区	IVa層	LR縄文・沈線文	ナデ	-	105-15	
5	5A-40	縄文土器	深鉢	5区	IVa層	LR縄文・沈線文・刻目文	ミガキ	-	105-16	
6	5A-37	縄文土器	深鉢	5区	IVa層	沈線文	ミガキ	-	105-17	
7	5A-25	縄文土器	深鉢	5区	IVa層	LR縄文・沈線文・刺突文・口唇部刻目文	ミガキ	-	105-18	
8	5A-4	縄文土器	深鉢	5区	IVa層	LR、RL縄文	ミガキ・ナデ	-	105-19	
9	5A-21	縄文土器	深鉢	5区	IVa層	LR縄文・沈線文	ミガキ	-	105-20	
10	5A-26	縄文土器	深鉢	5区	IVa層	LR縄文・沈線文	ミガキ	-	105-21	
11	5A-6	縄文土器	台付鉢	5区	IVa層	LR縄文・沈線文	ナデ	-	105-22	
12	5A-9	縄文土器	壺	5区	IVa層	LR縄文・玉抱三叉文	ナデ	-	注口土器?	105-23
13	5A-3	縄文土器	深鉢	5区	IVa層	ナデ	ナデ	網代痕		

第118図 遺構外出土遺物 (3)

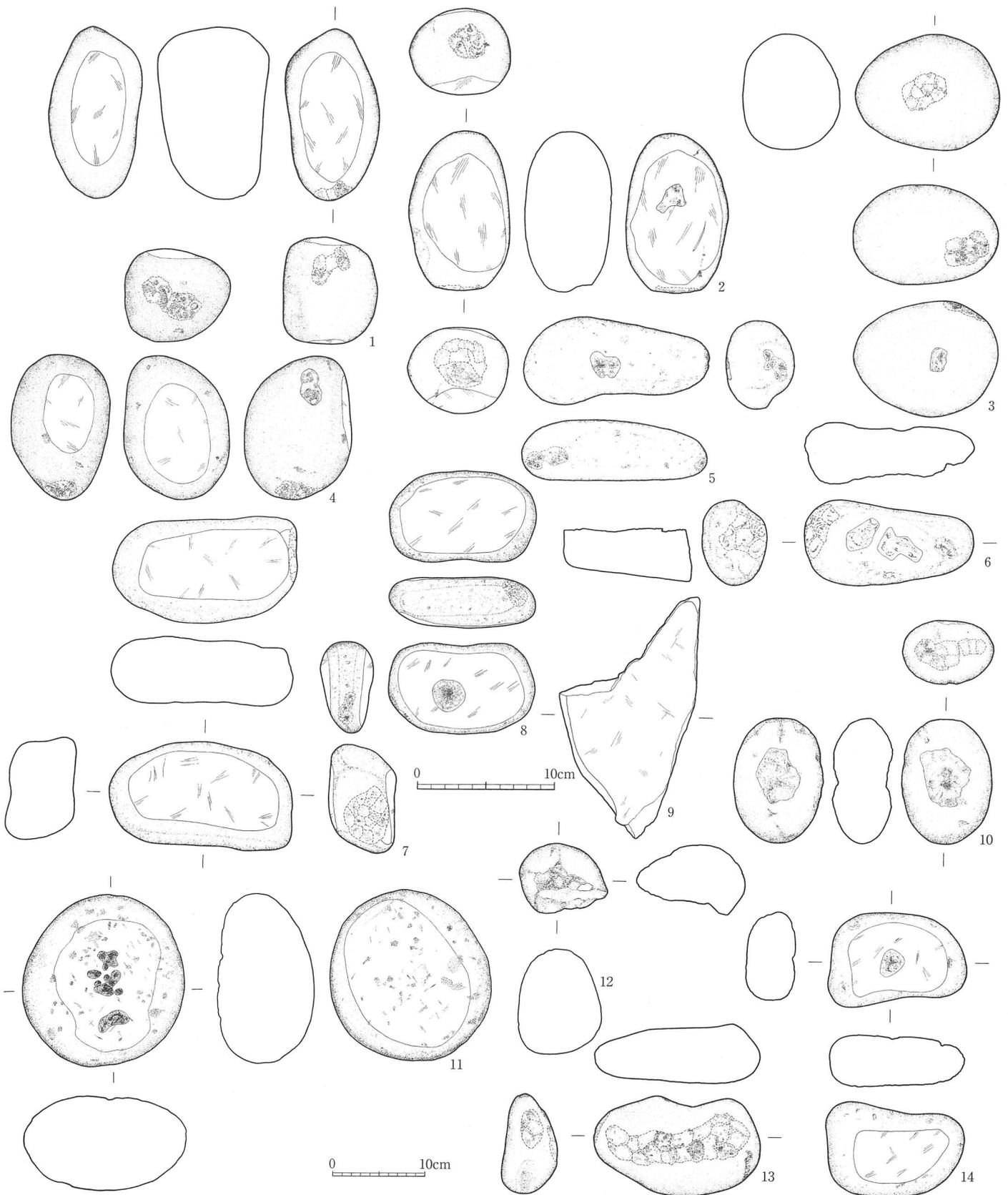


No.	登録番号	種別	器種	地区	遺構	外 面	内 面	底 部	備 考	写真図版	
1	5A-27	縄文土器	深鉢	5区	Ⅲ層	隆線文・沈線文・貼瘤	ミガキ	-	丹塗	105-24	
2	5A-20	縄文土器	深鉢	5区	Ⅲ層	LR縄文・隆線文・沈線文	ミガキ	-		105-25	
3	5A-7	縄文土器	深鉢	5区	I層	LR縄文・沈線文・刻目のある貼瘤	-	-		105-26	
4	5A-4	縄文土器	深鉢	5区	I層	RL縄文・沈線文	ミガキ	-		105-27	
5	5A-6	縄文土器	深鉢	5区	I層	沈線文・刻目文・刺突文	ミガキ	-		105-28	
6	5A-5	縄文土器	深鉢	5区	I層	隆線文・沈線文	ミガキ	-		105-31	
7	5A-1	縄文土器	深鉢	5区	I層	RL縄文	ナデ	-		105-29	
8	5A-3	縄文土器	深鉢	5区		沈線文・L燃糸文	ミガキ	-		105-30	
9	5A-9	縄文土器	深鉢	5区	壁	沈線文・貼瘤	ミガキ	-		105-5	
10	5C-1	土師器	坏	5区	I層	ミガキ・ケズリ	ミガキ・黒色処理	-			
11	5C-2	土師器	坏	5区	表土下	ミガキ・ケズリ	ミガキ・黒色処理	-			
12	5D-1	土師器	羽釜	5区	I層	ロクロ	磨滅	-			
No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考			写真図版
13	5P-6	土製円盤	IVa層	32.0	34.0		7.3				105-45
14	5P-1	土製円盤	IVa層	42.0	38.0		15.7				105-46
15	5P-2	土偶	IVa層	(53.0)	45.0	28.0	49.9				105-35
16	4P-1	不明		カクラン (45.0)	(35.0)	(23.0)	24.7				
No.	登録番号	地 区	層 位	種 類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備 考		写真図版
17	36	1区	B9	I層	スクレイパー	24.0	35.5	12.0	20.2		105-78
18	1	1区		I層	スクレイパー	62.5	41.0	17.5	36.2		105-79
19	84	2区	B11-8	Ⅲ層	剥片	26.0	23.5	10.1	5.6	微細剥離痕	106-12
20	83	2区		Ⅲ層	剥片	37.5	45.5	10.4	16.4	微細剥離痕	106-13
21	118	3区		I層	剥片	62.0	43.0	23.5	46.8		106-14



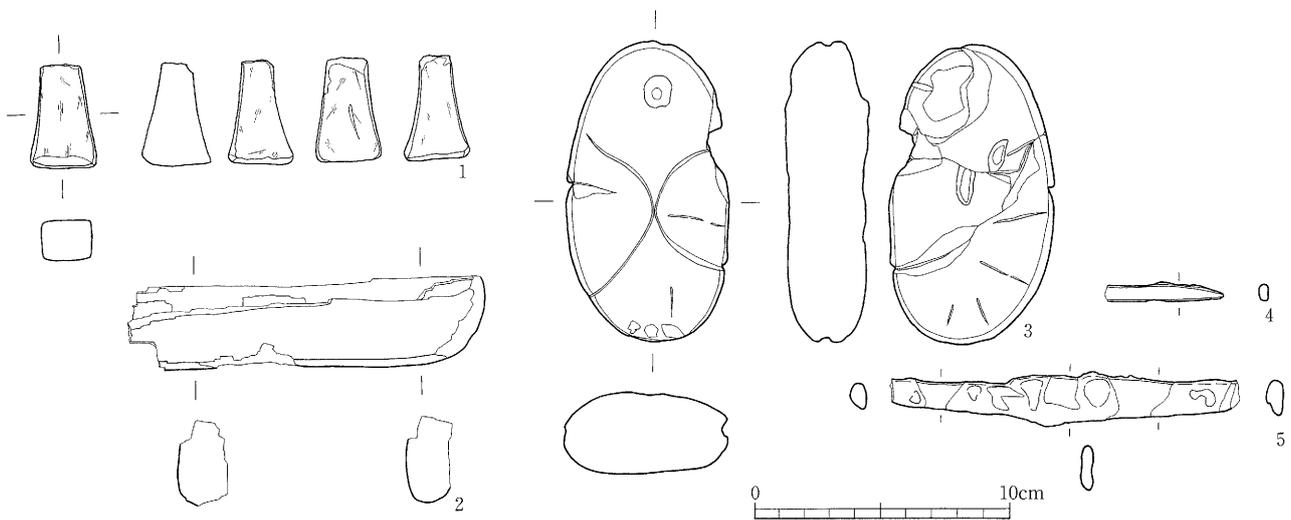
No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	122	3区	B13-27	Ⅲ層 石斧	115.0	51.5	24.7	201.7		105-82
2	163	4区		Ⅰ層 石錐	26.0	11.0	3.2	1.5		105-63
3	167	4区		Ⅲ層 剥片	36.5	31.5	1.2	11.8	微細剥離痕	106-19
4	582	5区		Ⅳ層 石匙	52.5	28.0	8.5	16.6		105-68
5	271	5区	A21	Ⅳ層 石匙	51.0	28.0	6.5	7.4		105-69
6	276	5区	B21	Ⅳ層 剥片	40.0	58.0	13.7	26.8	微細剥離痕	106-15
7	588	5区		Ⅳ層 スクレイパー	33.0	35.5	6.5	8.4		105-80
8	275	5区	B21	Ⅳ層 剥片	47.5	24.0	6.2	6.0	微細剥離痕	106-16
9	12	1区	B 8	Ⅰ・Ⅱ層 礫石器	136.0	100.0	62.5	980.0	磨・敲・凹	
10	42	1区	4号倒木	礫石器	128.5	89.5	45.0	743.6	磨・敲	
11	41	1区	4号倒木	礫石器	118.0	87.0	52.5	710.0	敲・凹	
12	115	2区		Ⅳ層 礫石器	92.0	73.0	42.0	386.1	磨・敲	

第120図 遺構外出土遺物(5)



No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	125	3区	B13-21	礫石器	128.0	69.0	67.0	1,114.1	磨・敲	
2	132	3区	B13-3・8	礫石器	119.0	74.0	63.0	771.4	磨・敲・凹	
3	157	3区		礫石器	106.0	86.5	73.0	982.4	敲・凹	
4	124	3区	B13-21	礫石器	108.0	78.0	73.0	849.5	磨・敲・凹	
5	129	3区	B13-4・9	礫石器	134.5	66.0	45.0	540.0	敲・凹	
6	169	4区		礫石器	124.0	63.0	46.0	354.3	敲・凹	
7	288	5区	A20	礫石器	135.0	80.0	51.0	835.4	磨・敲・焼	106-30
8	303	5区	B21	礫石器	107.0	68.0	32.0	388.2	磨・敲・凹	106-31
9	293	5区	B21	礫石器	(180.0)	(101.0)	38.8	700.0	磨	
10	269	5区		礫石器	93.0	66.0	42.0	298.6	敲・凹	106-32
11	270	5区		礫石器	192.0	177.0	105.0	4,980.0	磨・凹	
12	295	5区	B21	IVa層 礫石器	52.5	65.5	76.0	276.1	敲	
13	302	5区	B21	IVa層 礫石器	121.0	74.5	43.0	531.5	敲	
14	299	5区	B21	IVa層 礫石器	102.0	71.0	38.0	348.4	磨・凹	

第121図 遺構外出土遺物 (6)



No.	登録番号	地区	層位	種類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版
1	743	4区	AB14 Ⅲ層上	砥石	(42.0)	(26.0)	(23.0)	(27.8)		106-39
2	164	4区	I層	石製品	(140.0)	(36.0)	(19.0)	(137.6)		106-40
3	283	5区	B21 IVa層	線刻碟	120.0	64.0	35.0	122.1		107-2
No.	登録番号	種別	層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	写真図版	
4	1N-10	鉄鍔	Ⅲ層	(47.0)	8.0	4.0	2.6		107-5	
5	5N-8	刀子	IV層	(137.0)	20.0	7.0	29.9		107-6	

第122図 遺構外出土遺物 (7)

[3] まとめ

- 鍛冶屋敷前遺跡は鍛冶屋敷A遺跡の東に隣接しており、名取川と筑川に挟まれた沖積地に位置している。標高は15~17mである。
- Ⅲ層上面で竪穴住居跡2軒の他土坑、溝跡、掘立柱建物跡柱、河川跡が検出された。竪穴住居跡2軒は、SI-1 竪穴住居跡は東壁に、SI-2 竪穴住居跡は北壁にカマドが付設されている。前章の鍛冶屋敷A遺跡ではカマドが東壁に付設されたものは平安時代、北壁に付設されたものは奈良時代と考えられたが、本遺跡では出土遺物からもいずれも奈良時代のものであると考えられる。同じⅢ層上面で検出された竪穴住居跡以外の遺構は、出土遺物から奈良時代、平安時代、平安時代以降のものが混在しているものと思われる。中世のものであると考えられる遺物は見られないが、平安時代以降の遺構、特にSD-1 溝跡や掘立柱建物跡については、本遺跡の北方200mに所在する富沢館跡と関連する遺構である可能性がある。また、鍛冶屋敷A遺跡で検出されたような鍛冶に関係すると考えられる遺構は確認されていないが、多量の鉄滓が出土しており、鍛冶屋敷A遺跡と同様の鍛冶関係の遺構が存在していたか、調査区の周辺に存在しているものと考えられる。遺跡周辺の地名が鍛冶屋敷と呼称されていることと全く関係が無いことではないと考えられる。
- IVa層上面で河川跡が検出された。SR-2 河川跡は古代以前のものと考えられるが、5区で灰白色火山灰が堆積する層が検出されており、出土遺物にも平安時代のもものが混入していることから平安時代前半には完全に埋まりきっておらず、一部の流路が残っていたことが考えられる。
- 5区のIVa層から線刻碟や土偶頭部が出土した。何れも晩期中葉のものであると考えられる。5区のIVb層は、遺物包含層を形成しているが、範囲は明らかではない。出土遺物は、縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけてのものが混在している。出土状況にも規則性や一括性が認められない。これらのことから、5区のIVb層は、古代以前に二次的に堆積した遺物包含層であると考えられる。
- 5区の遺物包含層の下部のV層上面及び4区のV層上面、IVc層上面、2区のIVd層上面、1区のV層上面では、炉跡、土坑、ピット、倒木痕が検出されている。炉跡は4基検出され、2基は石組み炉、2基は地床炉である。2基の石組み炉については1号炉では周囲に掘立柱建物跡や土坑が検出されているが直接の関係は不明であり、

2号炉では周囲に焼け面が検出され、焼土が見られたが、それぞれ周溝などの竪穴住居跡の痕跡は確認できなかった。また、地床炉は3号炉はSR-2河川跡によって、北半部が削平されているが礫が検出されており、石組み炉であった可能性もある。3号炉南側、4号炉周辺にピットや周溝などは確認されず、それぞれ竪穴住居跡の痕跡は確認できなかった。

6. 以上のことから、本遺跡と鍛冶屋敷A遺跡は筑川と名取川に挟まれた地域の自然堤防上に立地する他の遺跡と同様に縄文時代から古代あるいは中世まで集落として営まれた遺跡であることが確認された。

引用・参考文献

千葉 仁・工藤 哲司（1986）：「東北電力鉄塔関係遺跡調査報告書」仙台市文化財調査報告書第91集

渡部 紀・吉岡 恭平（1995）：「伊古田遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅲ－」仙台市文化財調査報告書第193集

手塚 均他（1986）：「田柄貝塚」宮城県文化財調査報告書第111集

吉岡 恭平・篠原 信彦他（1996）：「下ノ内浦遺跡－仙台市高速鉄道関係遺跡発掘調査報告書Ⅴ－」仙台市文化財調査報告書第207集

写 真 图 版



写真1 遺跡周辺の航空写真（1947年撮影）



写真2 鍛冶屋敷A遺跡全景（北東→）

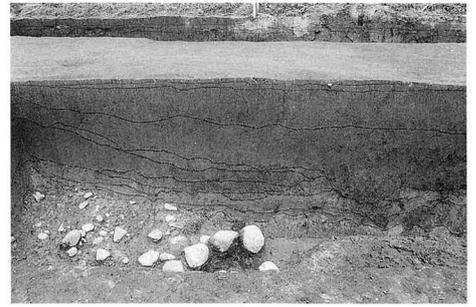


写真3 1区SR1河川跡土層断面

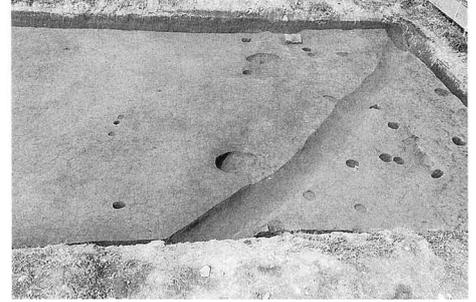


写真4 2区SR1上面全景

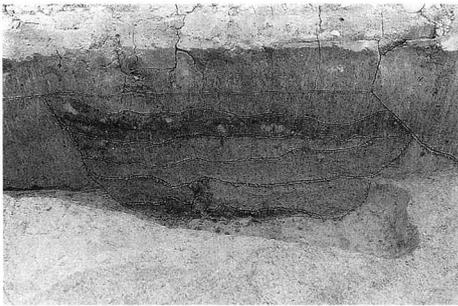


写真5 SK6断面

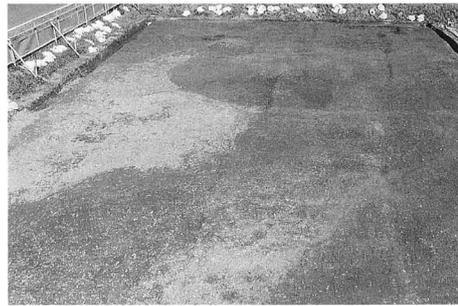


写真6 3区SR1上面全景

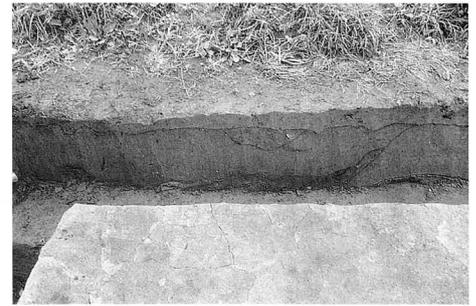


写真7 3区東壁セクション

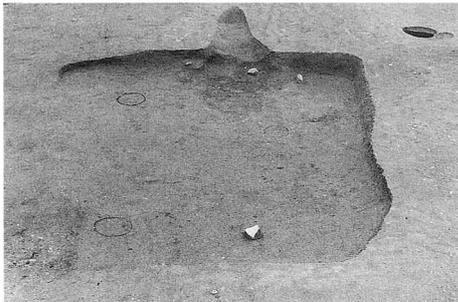


写真8 SI3全景



写真9 SK7遺物出土状況

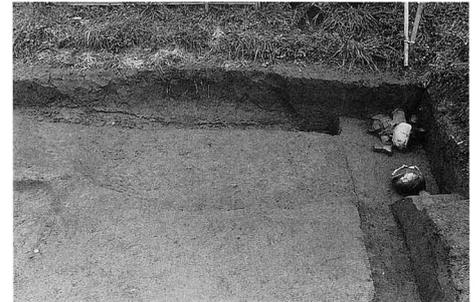


写真10 SX1全景



写真11 SX1カマド全景

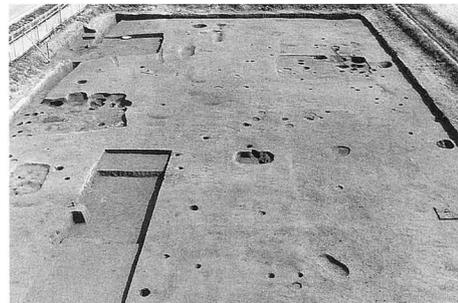


写真12 4区Ⅲ層上面全景

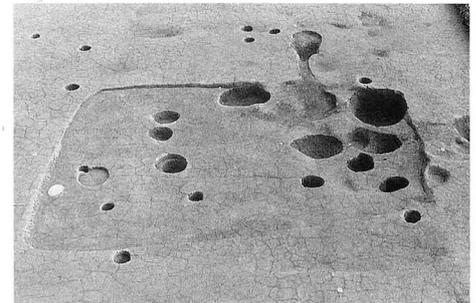


写真13 SI1全景



写真14 SI1貯蔵穴1遺物出土状況

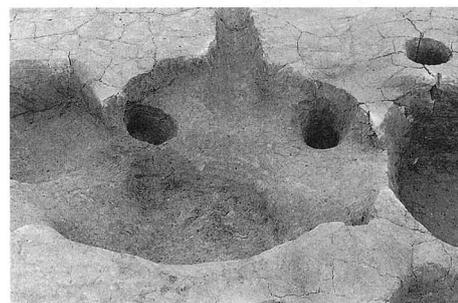


写真15 SI1カマド掘り方全景



写真16 SI2全景



写真17 SI2炉跡



写真18 SI4全景



写真19 SI4カマドソデ石掘り方断面

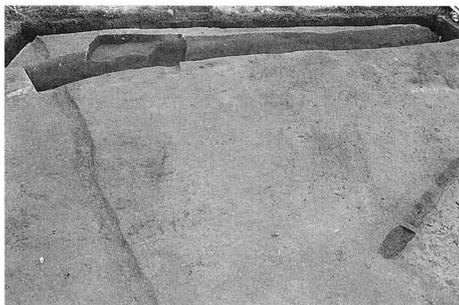


写真20 5区III層上面全景

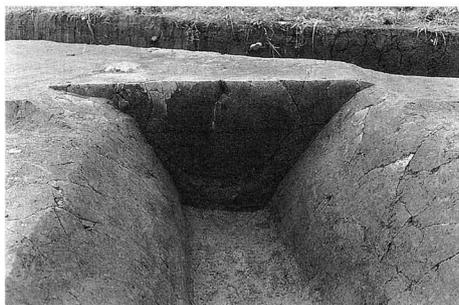


写真21 5区SD1断面

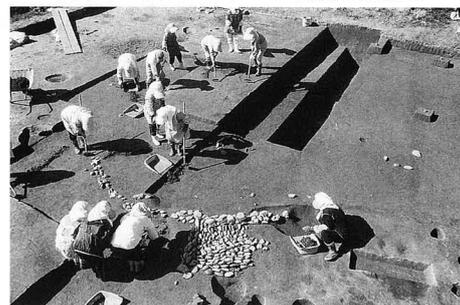


写真22 1号配石検出作業

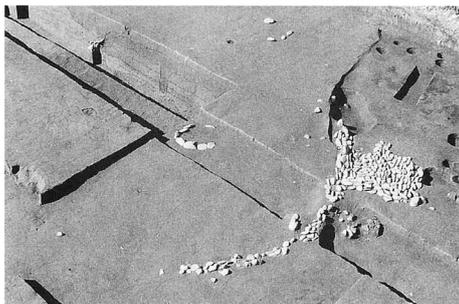


写真23 1号配石全景

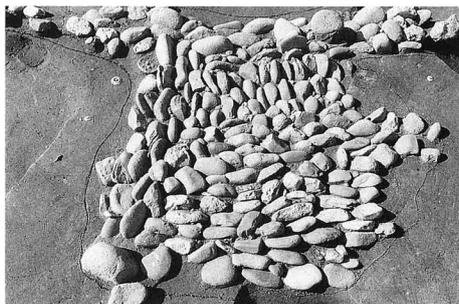


写真24 1号配石、配石部

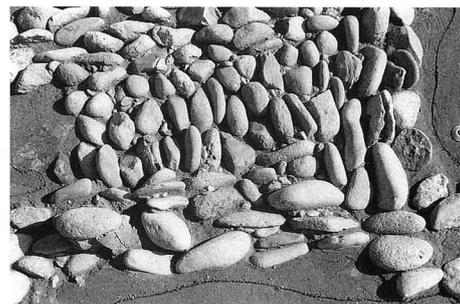


写真25 1号配石、列石部との境



写真26 1号配石断面(南)

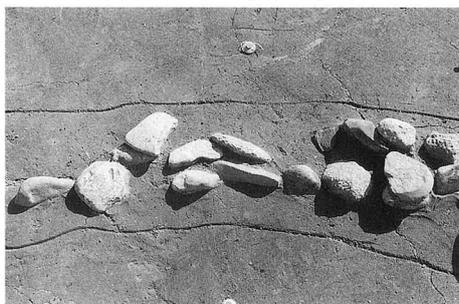


写真27 1号配石、列石部(南)

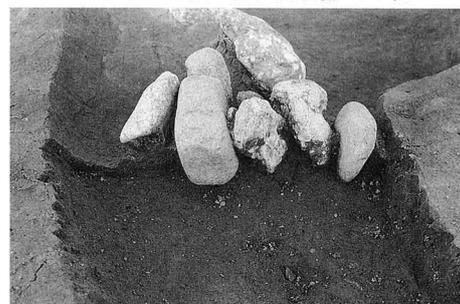


写真28 1号配石列石断面(北)



写真29 1号配石掘り方全景



写真30 1号配石断面(南)

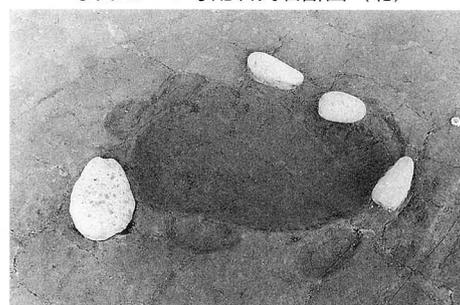


写真31 2号配石全景

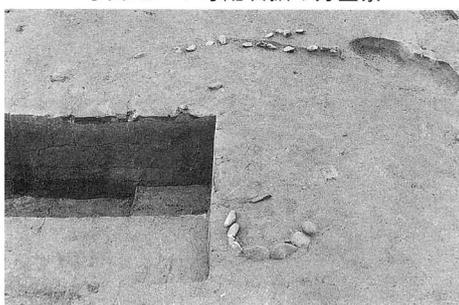


写真32 3号配石全景

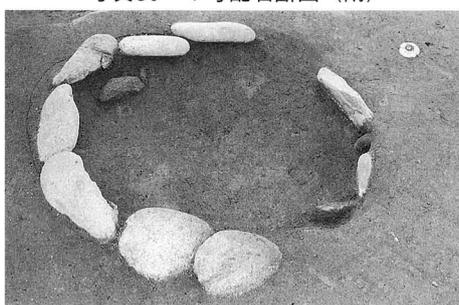


写真33 1号炉全景

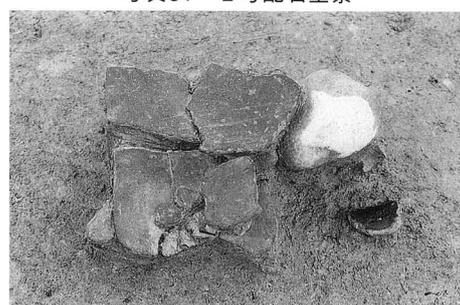


写真34 4区IV層中遺物出土状況

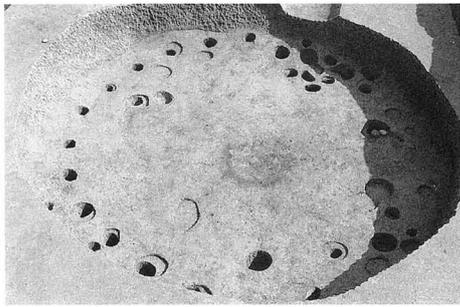


写真35 SI5全景

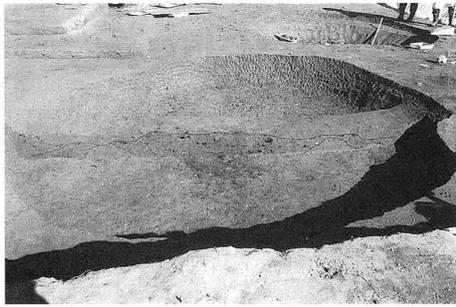


写真36 SI5断面

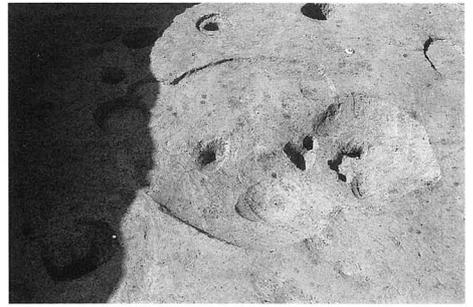


写真37 SI5古い炉全景

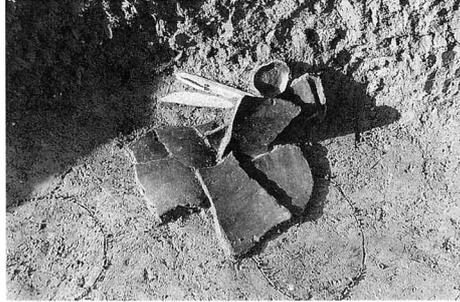


写真38 SI5遺物出土状況

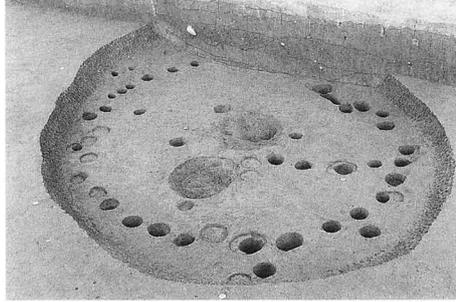


写真39 SI6全景



写真40 SI6断面

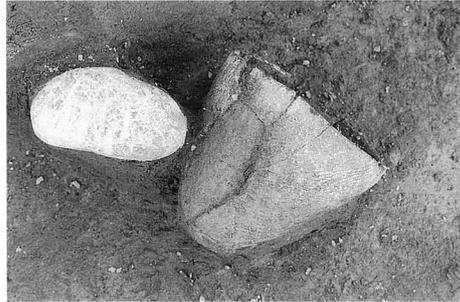


写真41 SI6土器出土状況



写真42 SI6土器出土状況

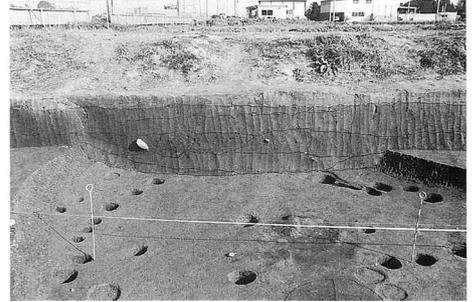


写真43 4区東壁SI6部分

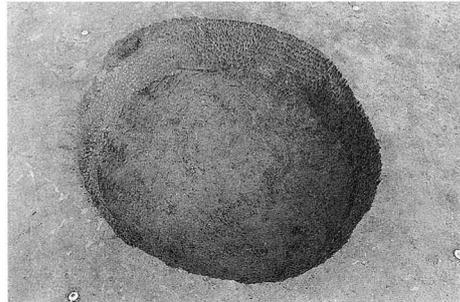


写真44 SK31全景

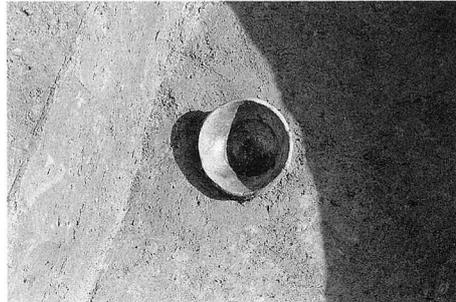


写真45 SK31土器出土状況



写真46 4区5層上面全景

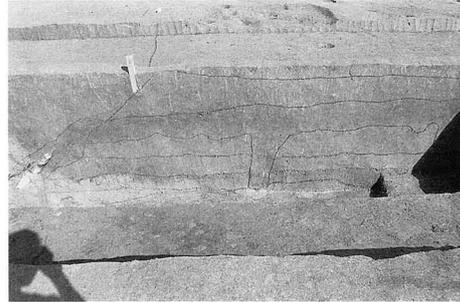


写真47 4区深掘りトレンチ北壁断面



写真48 SX3全景

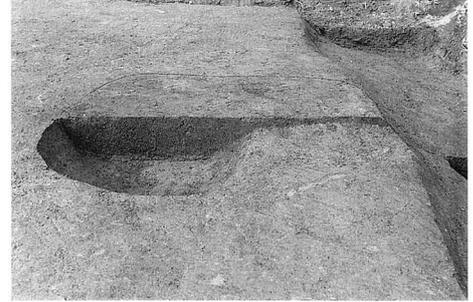


写真49 SK24断面

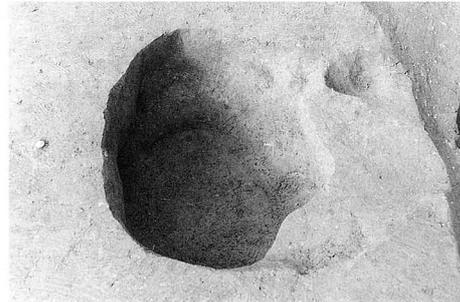


写真50 SK24全景

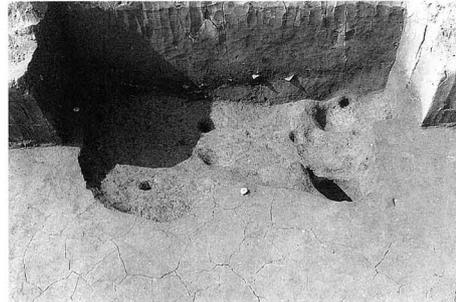


写真51 SK25全景



写真52 SB5建物跡



写真53 鍛冶屋敷A遺跡 出土遺物(1)

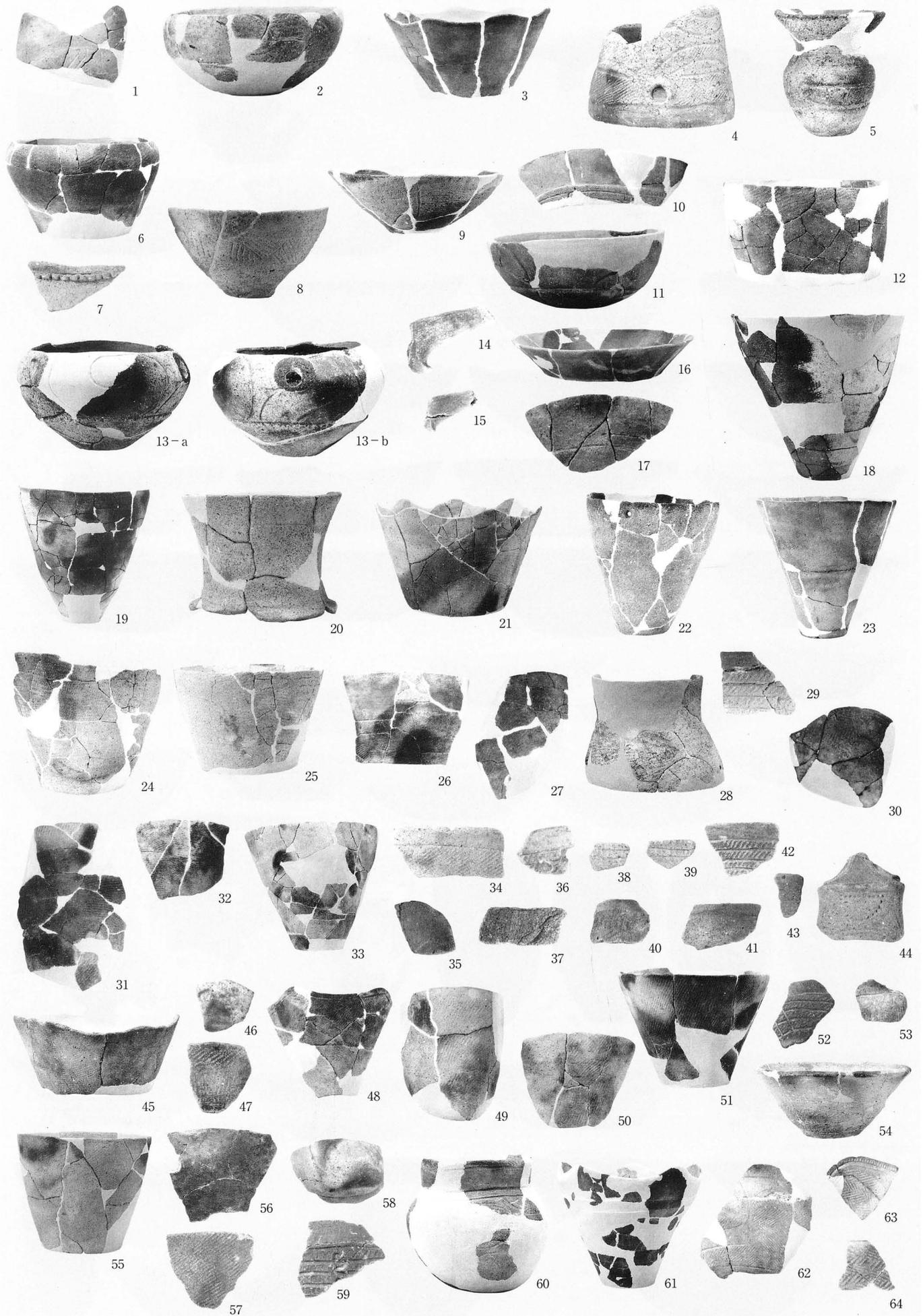


写真54 鍛冶屋敷A遺跡 出土遺物(2)

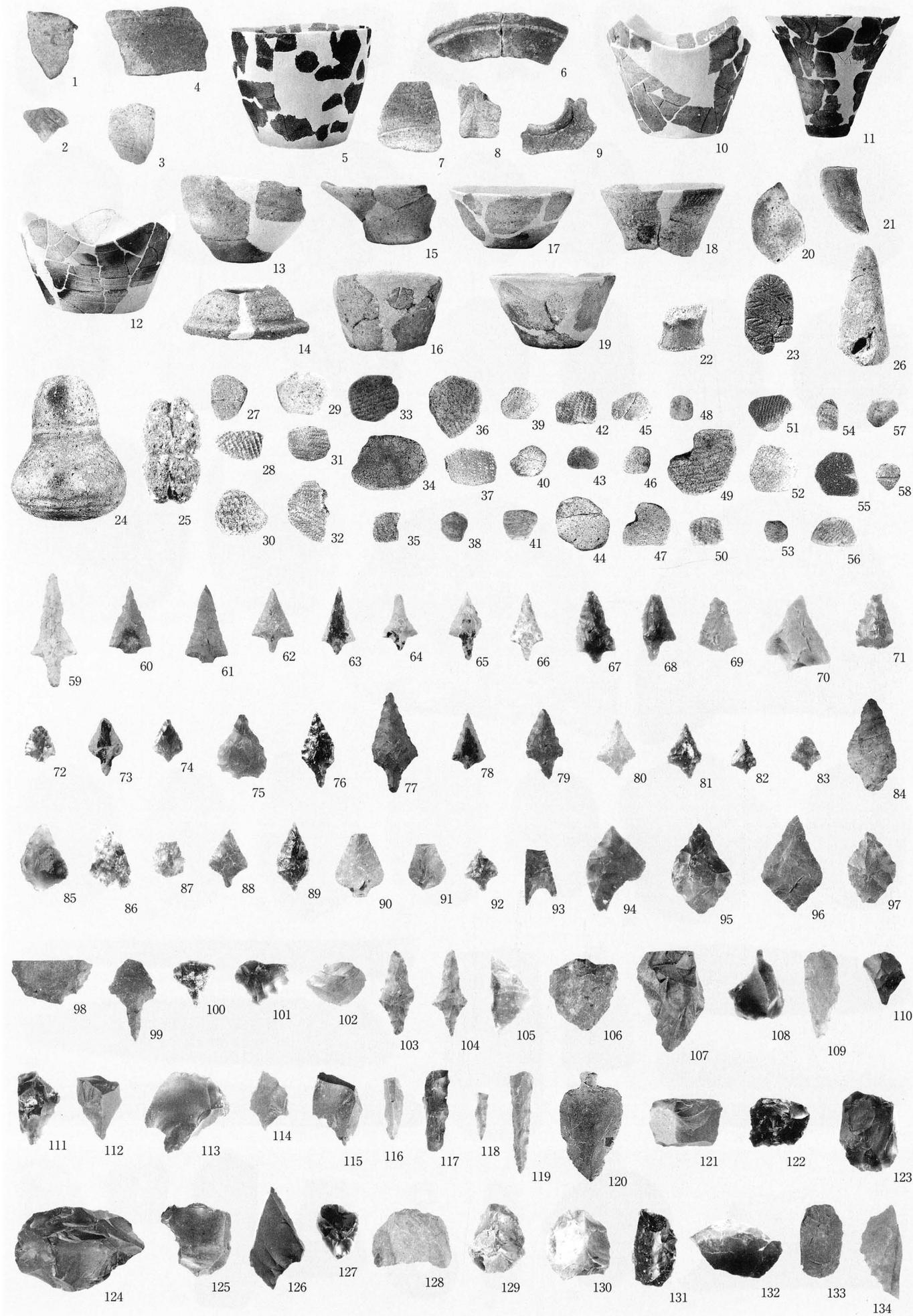


写真55 鍛冶屋敷A遺跡 出土遺物(3)

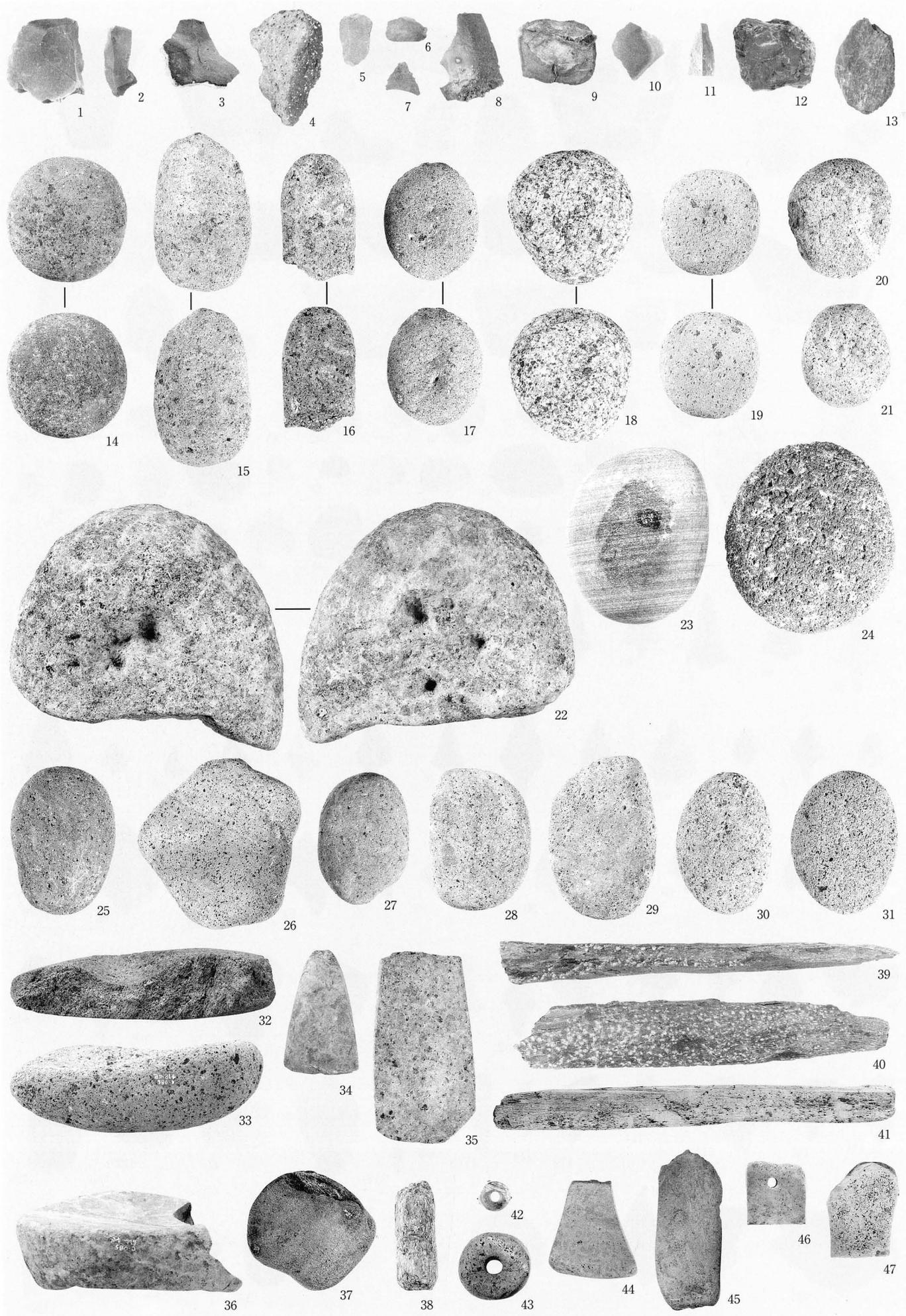


写真56 鍛冶屋敷A遺跡 出土遺物(4)

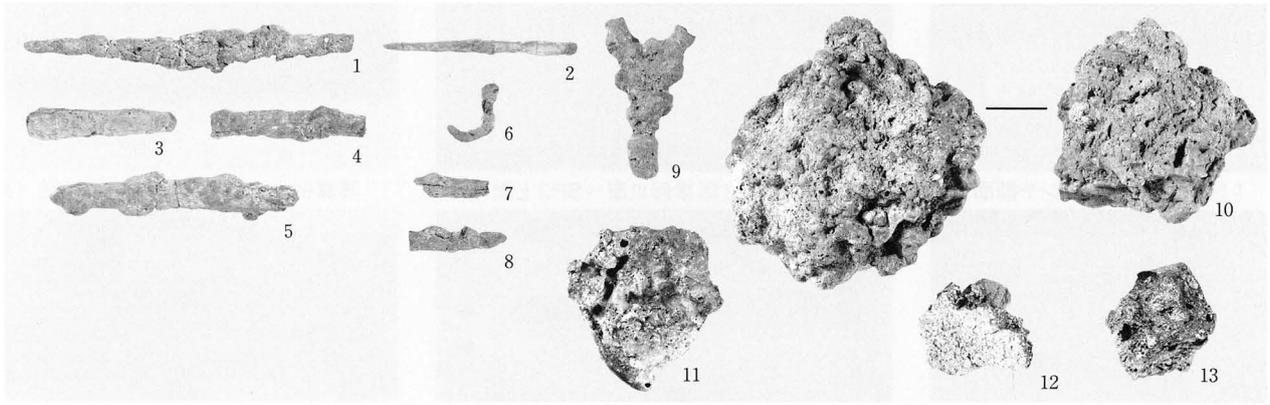


写真57 鍛冶屋敷A遺跡出土遺物(5)



写真58 鍛冶屋敷前遺跡遠景

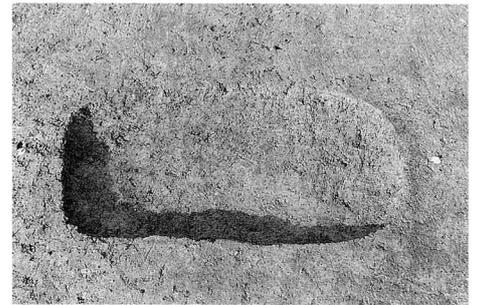


写真59 1区SK40全景

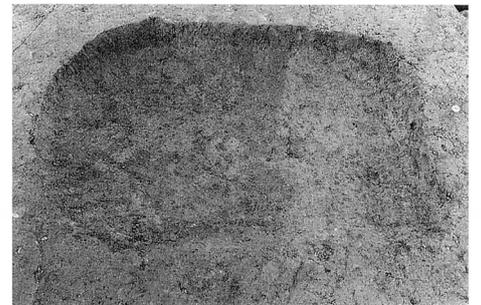


写真60 1区SK41全景



写真61 1区SD5全景

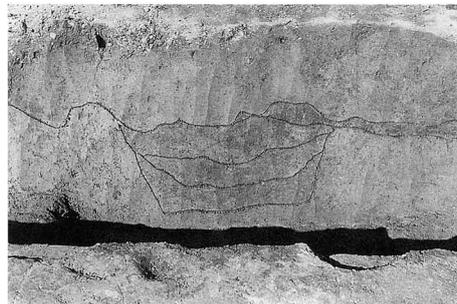


写真62 1区SD5断面



写真63 1区3、4ラインSR1上面



写真64 1区西端部古代面全景

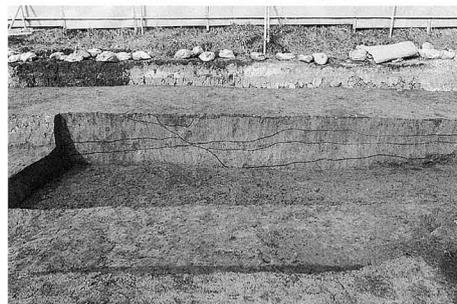


写真65 1区B3区中央トレンチ層断面(西)

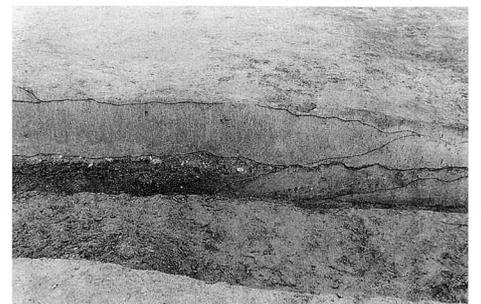


写真66 1区B5深掘トレンチ北壁断面

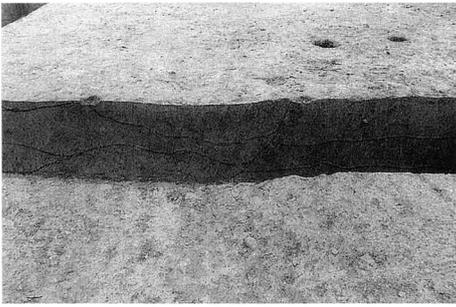


写真67 1区B8区南北トレンチ断面

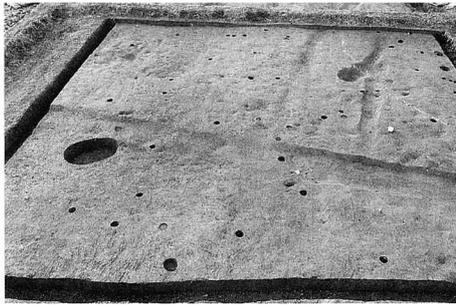


写真68 2区東部III層～SR2上面

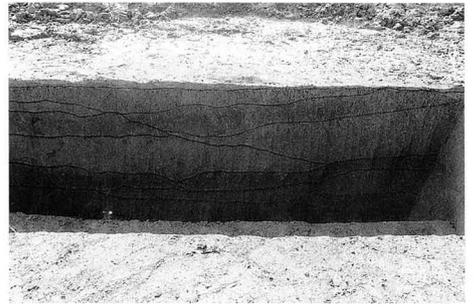


写真69 2区西南トレンチ断面(西)



写真70 3区III層上面全景

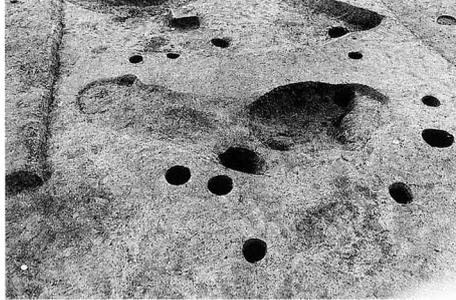


写真71 SK15全景



写真72 SK15焼土断面

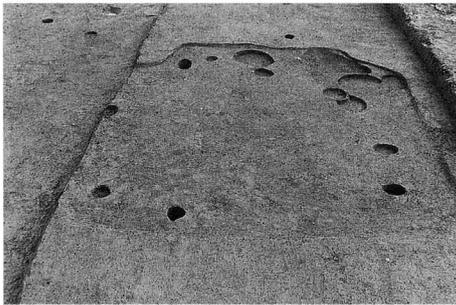


写真73 SI1全景

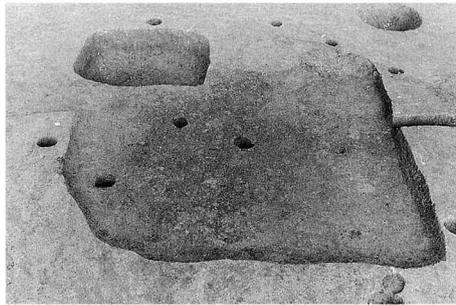


写真74 SI2全景

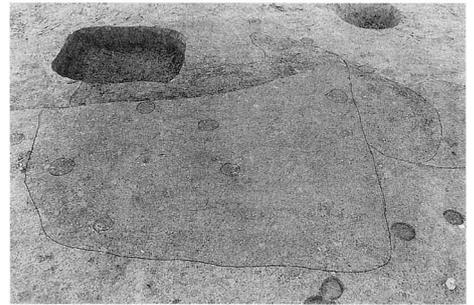


写真75 SI2確認



写真76 SK21全景

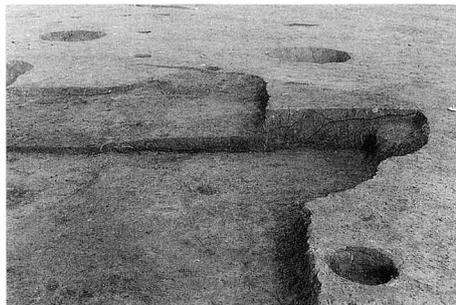


写真77 SK21断面

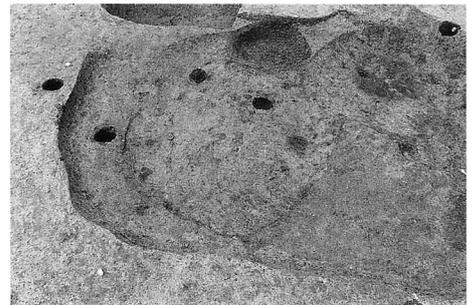


写真78 SK22全景

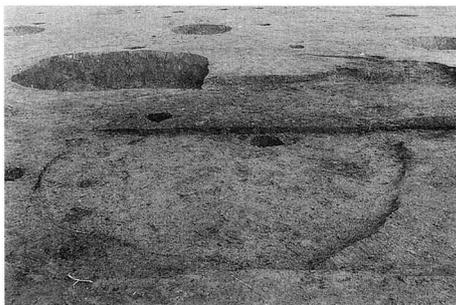


写真79 SK22断面



写真80 SD3全景

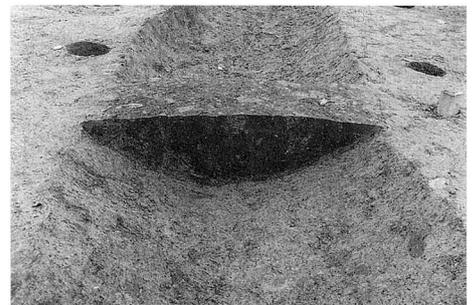


写真81 SD3断面



写真82 4区西部III層～SR1上面全景



写真83 5区SD1全景

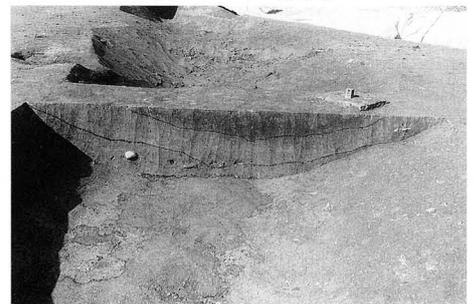


写真84 5区SD1断面



写真85 5区SD2全景



写真86 SX1全景

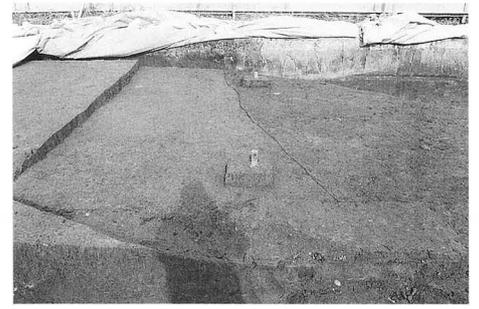


写真87 5区A20・21 SR2検出状況



写真88 5区深掘りトレンチ灰白色火山灰検出状況



写真89 5区SR2断面

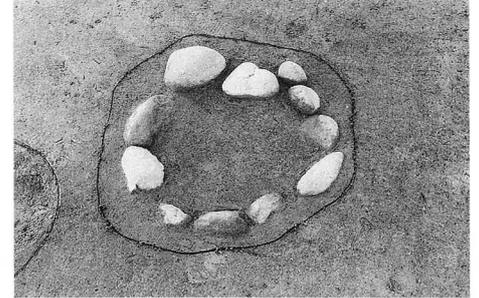


写真90 1号炉検出状況

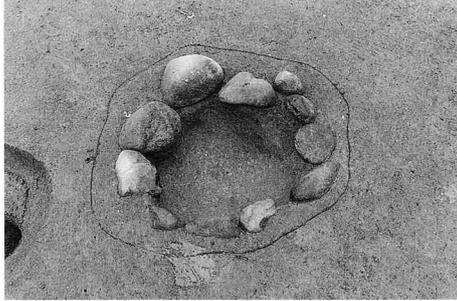


写真91 1号炉全景

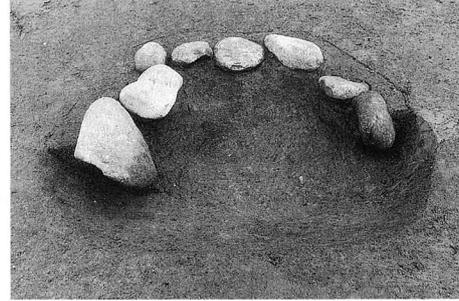


写真92 1号炉掘り方断面



写真93 4区2号炉周辺全景



写真94 2号炉検出状況



写真95 2号炉全景

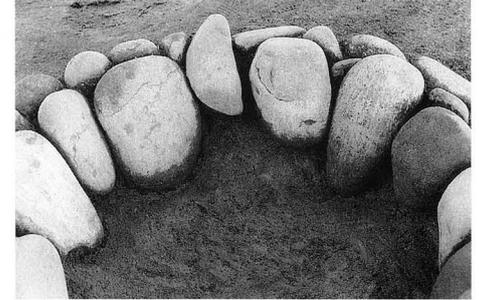


写真96 2号炉石組



写真97 2号炉石組断面



写真98 2号炉周囲落込全景



写真99 4区3号炉全景

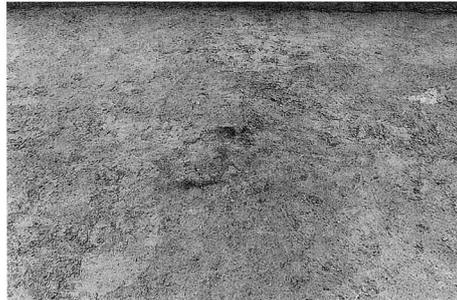


写真100 3区4号炉全景

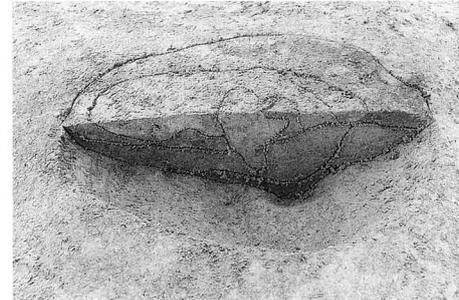


写真101 4号炉断面

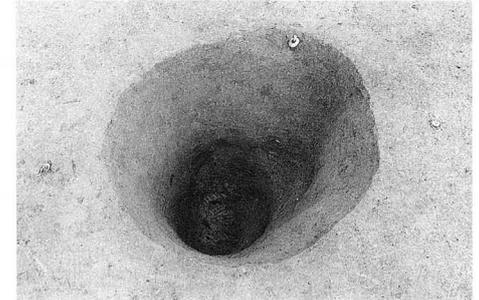


写真102 SK19全景

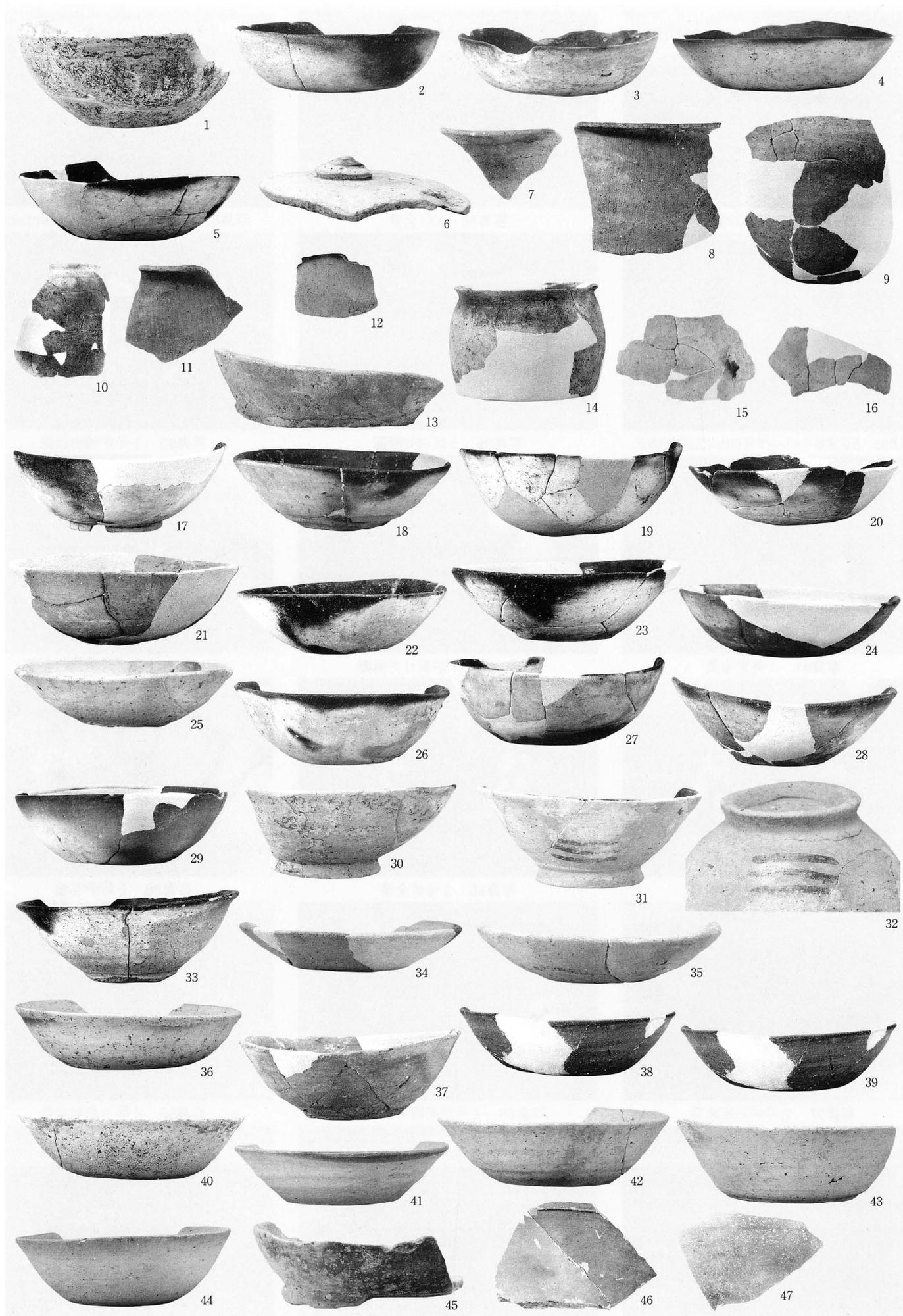


写真103 鍛冶屋敷前遺跡 出土遺物(1)

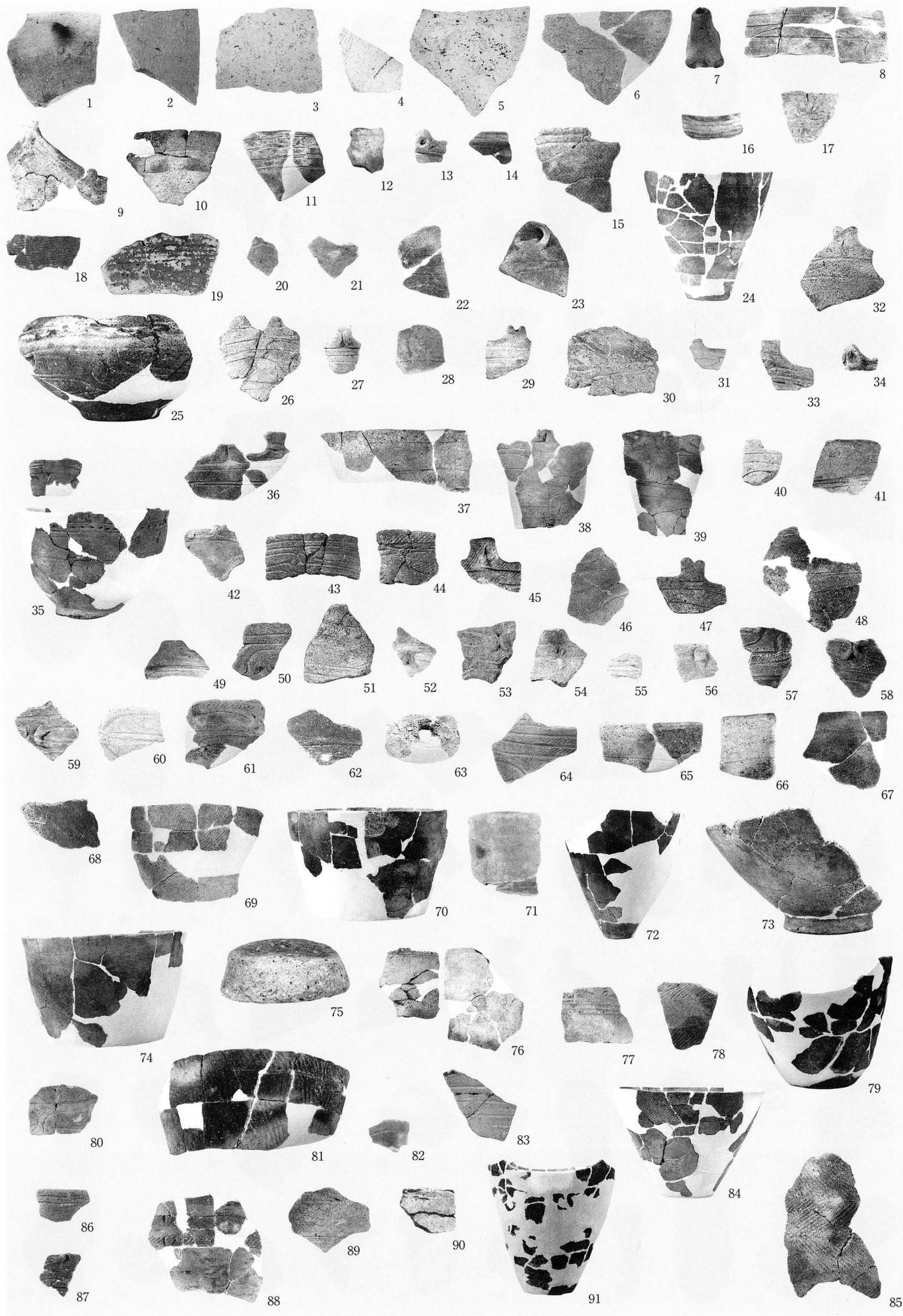


写真104 鍛冶屋敷前遺跡 出土遺物(2)



写真105 鍛冶屋敷前遺跡 出土遺物(3)

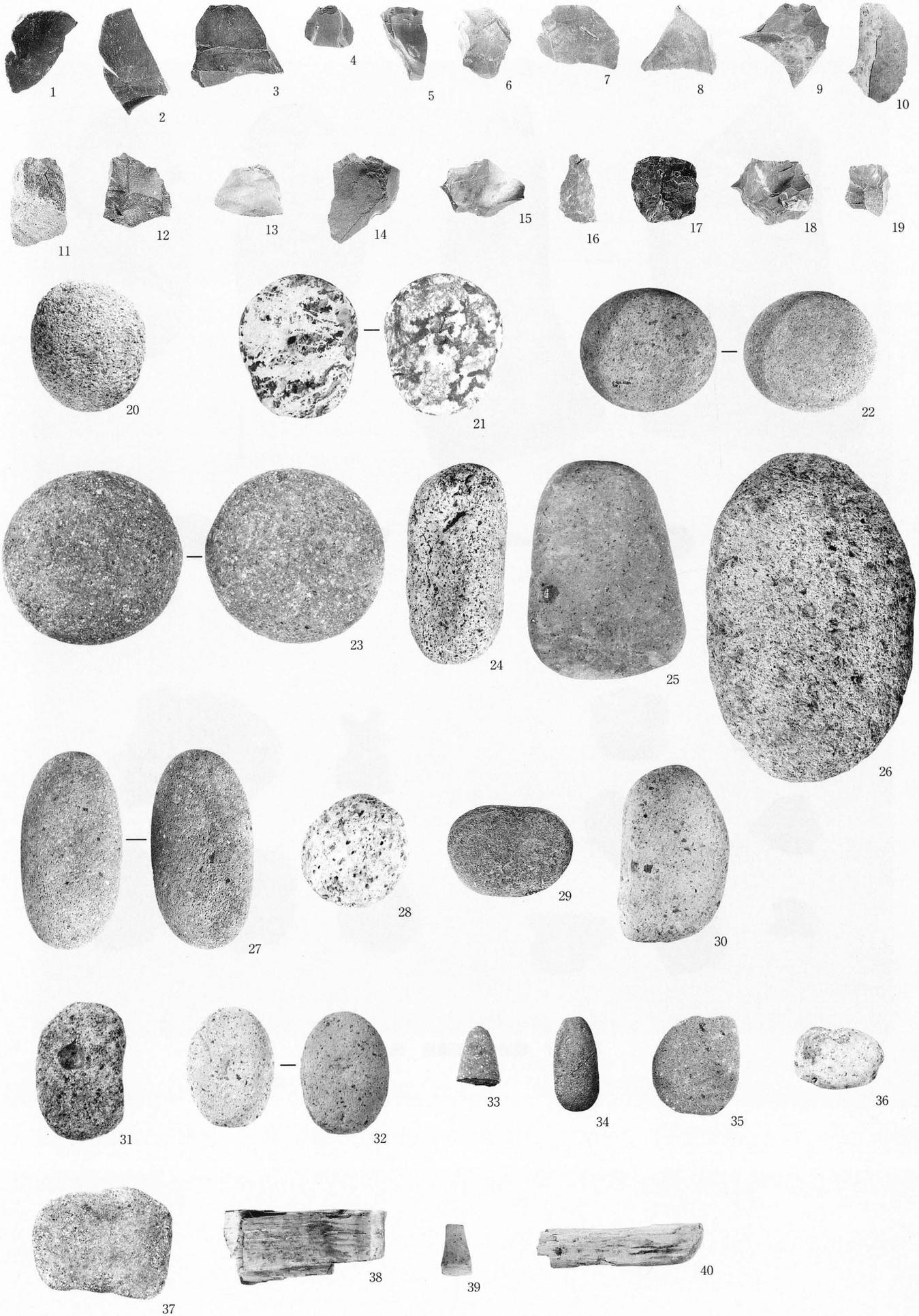


写真106 鍛冶屋敷前遺跡 出土遺物(4)

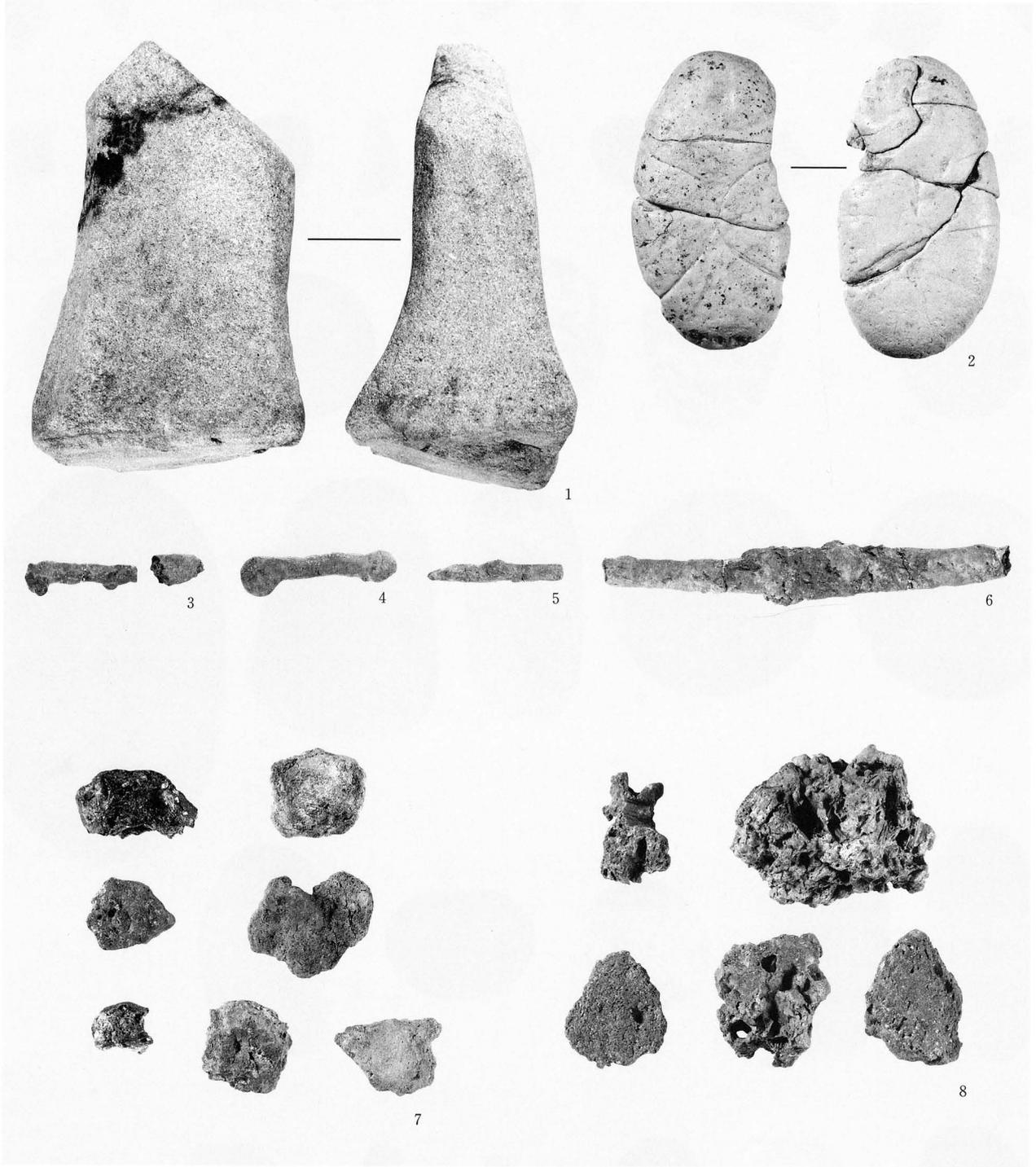


写真107 鍛冶屋敷前遺跡 出土遺物(5)

報告書抄録

ふりがな	かじやしきえーいせき・かじやしきまえいせき							
書名	鍛冶屋敷A遺跡・鍛冶屋敷前遺跡							
副書名	市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第245集							
編著者名	主浜光朗							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区国分町三丁目7番1号 TEL 022-214-8893~8894							
発行年月日	西暦 2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かじやしきえーいせき 鍛冶屋敷A 遺跡	せんだいし 太白区 富田字 きょうのきた 京ノ北他	04100	01085	38° 12' 40"	140° 51' 20"	19970701 ~ 19971112	1,550㎡	道路建設
かじやしきまえいせき 鍛冶屋敷前 遺跡	せんだいし 太白区富沢 字鍛冶屋敷 まへ 前他	04100	01511	38° 12' 40"	140° 51' 42"	19970701 ~ 19980206	2,700㎡	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鍛冶屋敷A 遺跡	集落跡	縄文後期 ・晩期 奈良 平安	竪穴住居跡 土坑 溝跡 掘立柱建物跡 河川跡	縄文土器・土師器 須恵器・瓦 土製品・石器 石製品・鉄製品 鉄滓				
鍛冶屋敷前 遺跡	集落跡	縄文後期 ・晩期 奈良 平安	竪穴住居跡 土坑 溝跡 掘立柱建物跡 河川跡	縄文土器・土師器 須恵器・瓦 土製品・石器 石製品・鉄製品 鉄滓				

仙台市文化財調査報告書第245集

鍛冶屋敷A遺跡・鍛冶屋敷前遺跡

―市道「富田富沢線」関連遺跡発掘調査報告書―

2000年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区国分町三丁目7-1
文化財課 022(214)8893~4

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24 TEL263-1166
